Vol.77通巻896号　平成8年11月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可　ISSN 0912-8182

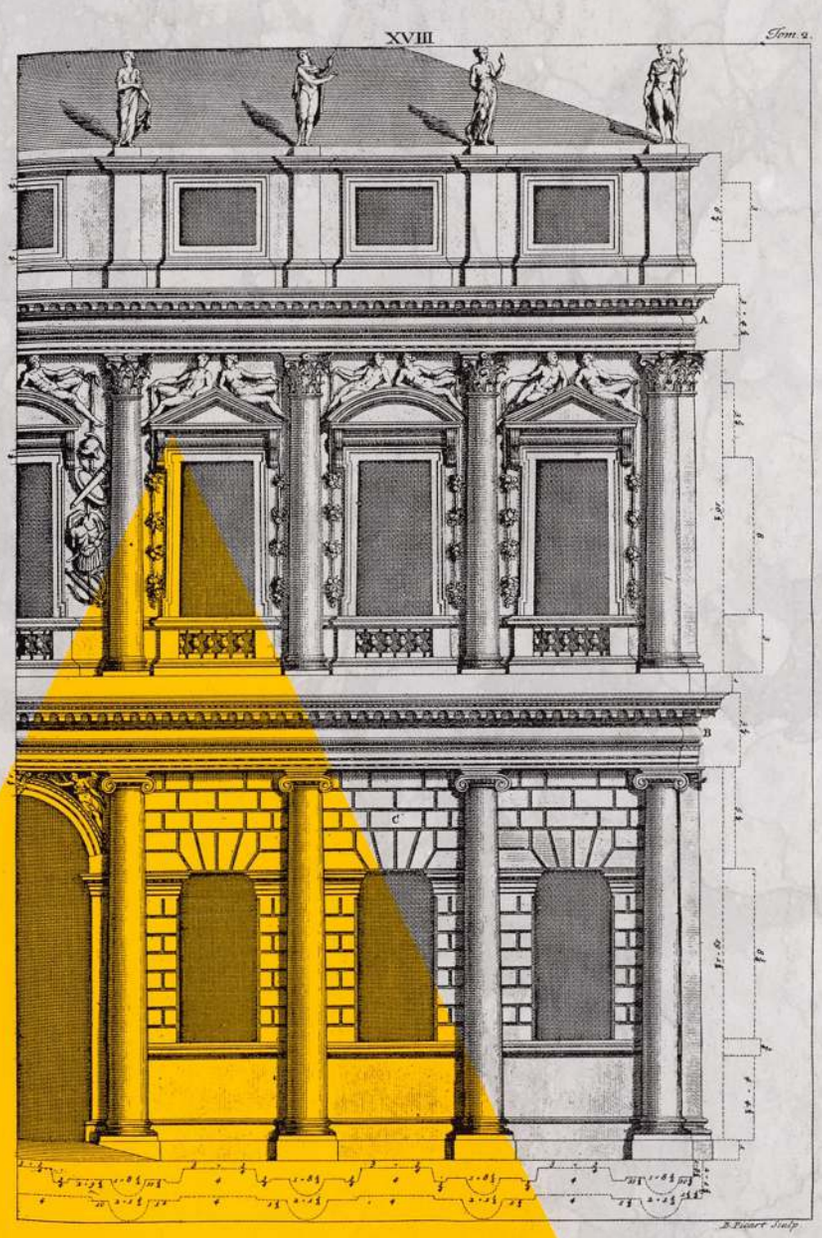
建築と社会

ARCHITECTURE AND SOCIETY

日本建築協会

1996 11 NOVEMBER

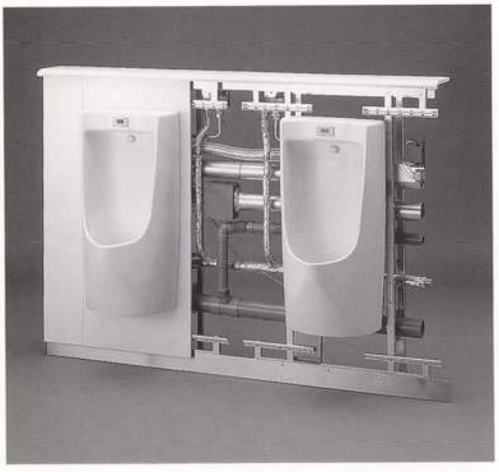
＜特集＞
私の空間作法 '96
九州の元気
りんくうの3作品





トイレのことは全てお任せ下さい！
時代はTOTOライニングユニット

器具だけでなく、トイレ造りに必要な部材を一括してユニット化したシステム工法のトイレ。
工期の短縮、工事管理の省力化、さらに高品質、高性能で在来工法と同等のコストを実現。
大規模建築から中低層建築、リモデルまで最適なトイレ空間を演出。
自立壁システムトイレは独立構造で耐震性も万全。



■ビル寿命50年時代：メンテナンス・改修まで含めて、ライフサイクルコストでは、ライニングユニットが圧倒的に有利です。
■工期の短縮：13職種におよぶ従来工事の設計・工事段階の作業を簡素化、各工程での施工養生期間が大幅に短縮、工事管理の手間も大幅に軽減されます。
■現場の汚れ・騒音の大巾削減：ブロック積みや、躯体工事、現場加工も不要。日中の改修工事も容易です。
■施工の省力化：床上配管方式のユニットを組立てるだけで、手配や段取りの手間を軽減します。
■簡単なメンテナンス：分割・着脱式の前面板(ライニングユニット)など、TOTO独自の構造で点検が容易に行なえます。
■脱臭機能：オゾン脱臭と排気脱臭の2つの方式で、トイレ全体のニオイを追放します。
■清掃性の向上：お手入れのし易い凸凹の少ないデザインです。
■耐震構造のシステムトイレ：自立構造で、建築躯体の層間変位の影響を受けにくく、1Gの耐震強度設計になっています。

カタログをご希望の方は　東陶機器㈱大阪支社までご請求ください。　〒530 大阪市北区曽根崎2-3-7 梅新第一生命ビル東館 ☎06(364)1181

会員の受賞

このたび、下記会員の諸氏は、建設界における多年の功績によって、表彰を受けられました。ここに誌して、その栄誉をお慶び申し上げます。

●勲三等旭日中綬章
内田克己氏（元 住友軽金属工業㈱会長）
加藤　健氏（元 新日本製鐵㈱副社長）

●勲三等瑞宝章
水野哲夫氏（戸田建設㈱取締役相談役）
山田基三氏（元 関西ペイント社長）

●勲四等旭日中綬章
山口　巌氏（元 ㈱フジタ副社長）

●勲四等瑞宝章
遠藤正明氏（㈱ 竹中工務店専務取締役）

●勲五等双光旭日章
宮田禮彰氏（㈱ 宮田組代表取締役）

●藍綬褒章
勝俣孝雄氏（元 新日本製鐵㈱副社長）
新開庸晃氏（東陶機器㈱副会長）
星野聰史氏（㈱関電工社長）
川野凱朗氏（松下電工㈱副社長）

●黄綬褒章
真柄敏郎氏（真柄建設㈱代表取締役社長）
野島育夫氏（㈱野島建設代表取締役）

●大阪府知事表彰
杉谷　一氏（大阪工業技術専門学校副校長）
古川勝久氏（大阪工業技術専門学校教員）

第42回工高生デザインコンクール入選者発表

— 設計課題：工房 —

日本建築協会主催による平成８年度の標記コンクールの入選者が、右記のとおり決定いたしましたので発表します。なお、入選作品は平成９年１月号に掲載いたします。

●応募校数 / 29校
●応募作品数 / 131点

	氏　名	学　校　名	学年
入選・最優秀賞	小　川　久美子	静岡県立静岡工業高等学校	3年
入選　優秀賞	伊　藤　彩　子	群馬県立高崎工業高等学校	3年
入選　優秀賞	松　森　一　行	兵庫県立兵庫工業高等学校	2年
入　選	増　田　江　利	大阪市立工芸高等学校	3年
入　選	荒　山　啓　司	大阪府立今宮工業高等学校	3年
入　選	塚　越　英　彰	東京都立小石川工業高等学校	3年
入　選	高　谷　あづさ	北海道函館工業高等学校	3年
入　選	白　井　芳　典	群馬県立前橋工業高等学校	3年
入　選	有　馬　智　昭	三重県立四日市工業高等学校	3年
入　選	浅　井　幸　紀	三重県立四日市工業高等学校	2年

順不同・敬称略

'96建築関係団体合同忘年懇親会

日　時　平成８年12月13日(金)
　　午後６時～７時30分
会　場　太閤園迎賓館
　　ダイヤモンドホール（ビュッフェ・スタイルのパーティー）
　　大阪市都島区網島町9-10
　　電話 06（356）1111
会　費　10,000円
●申込期間中（11月５日～12月３日）に事務局までお越し下さるか、現金送金にてお願いします。（土曜休務）
●申込者には忘年懇親会参加証をお渡しします。
定　員　400名

お願い
(1) 申込の際に氏名・勤務先をお知らせ下さい。
(2) 申込者で12月３日までに欠席の連絡がない場合は会費のご負担を願います。
(3) 当日は参加証を必ずご持参願います。

'97建築関係14団体合同新年交礼会

日　時　平成９年１月６日(月)
　　午後２時30分～３時30分
会　場　マイドーム大阪・３階
　　大阪市中央区本町橋2-55
会　費　5,000円（申込者で当日欠席されても会費をいただきます）
申　込　12月９日までに会費を添えて最寄り団体にお申込み下さい。
共　催　㈳日本建築協会　㈳大阪府建築士会　㈳日本建築学会近畿支部　㈳日本建築家協会近畿支部　㈳大阪建設業協会　㈳日本建築材料協会　㈳大阪建築士事務所協会　㈳建築業協会関西支部　㈳日本建築構造技術者協会関西支部　㈳日本建築積算協会関西支部　㈳建築設備技術者協会近畿支部　㈳大阪電業協会　㈳大阪空気調和衛生工業協会　㈳大阪建築設備設計事務所協会

戦前長屋等建替モデル提案募集（再掲）

主催
大阪市
協賛
㈳日本建築協会
後援
㈳大阪府建築士会
㈳日本建築家協会近畿支部
㈳大阪建築士事務所協会
㈳日本建築学会近畿支部
都市住宅学会関西支部
住宅金融公庫大阪支店
住宅・都市整備公団関西支社
大阪市住宅供給公社

大阪市では、市内に数多くある戦前長屋や古くなった木造共同住宅など老朽化した民間住宅の建替を促進するため、住戸性能や居住環境面などに優れた建替モデル提案を専門家から公募します。建替の共同化や１団の区域での建替の協調化によって、より良い居住環境の中で引き続き住み続けることができるような計画提案を募集するものです。

●募集内容と応募資格
Ⅰ部：戦前長屋地区等における民間老朽住宅の建替計画提案→建築設計、都市計画などの実務や研究に携わる専門家。学生も可。
Ⅱ部：戦前長屋地区等における民間老朽住宅の構・工法面を含む建替計画提案→建設業法に定める建設業の許可を受けた企業。

●応募図書
Ａ２判（Ⅰ部３枚まで、Ⅱ部４枚まで）、提案趣旨及び具体的なイメージを、図面、パース、イラスト、文章で表現。

●応募方法
①募集要項配布／大阪市都市整備局計画開発部住宅政策課(TEL06-208-9217)、日本建築協会及び後援団体。
②応募図書提出期間／1997年１月27日（月）～31日（金）必着。
③提出先／下記へ郵送または持参。
㈳日本建築協会内「戦前長屋等建替モデル提案募集」窓口（〒530 大阪市北区梅田1-1-3-2100　大阪駅前第３ビル21階、TEL 06-348-0635）

●賞（Ⅰ、Ⅱ部それぞれ）
最優秀作品１点賞金70万円、優秀作品２点賞金20万円、佳作２点賞金10万円。

●審査委員（敬称略）
巽　和夫／小原　誠／菅家克子／高田光雄／鳴海邦碩／間野　博／矢田征二／石綿　賢／隅水顕夫／黒田昭博／北山啓三

●審査結果発表
1997年３月、応募者全員に文書で通知。

●問い合わせ先：大阪市都市整備局計画開発部住宅政策課(TEL06-208-9217)

大阪松竹座見学会

松竹㈱創業百周年記念事業として計画されたこのプロジェクトは、大正末期の創立以来馴れ親しまれてきた松竹座（レビュー、ロードショー館）を、日本の伝統芸能の中でも最も華やかな歌舞伎を中心とした演劇劇場として再生することから始まった。
大阪演芸の中心地・道頓堀で創立から70年余り、多くの人々に愛されてきた大正ロマン―アメリカンルネッサンス様式の外観を保存した上で、約1200名収容の客席と45尺の回り舞台を持つ歌舞伎劇場であると同時に将来的にはミュージカル等にも対応できる劇場を作ることが条件であった。そのような条件を満たすホールを作るには間口も奥行きもとても十分とはいえない敷地条件をクリアーするために、総合設計によって斜線の緩和を受けホールの機能を可能な限り縦積みにすることによって解決している。
デザインの基本的な考え方は、アメリカンルネッサンス様式の既存ファサードと調和のとれた外観のデザインとしており、インテリアは歌舞伎主体とした和のデザインの客席と洋のデザインの外観との中間的役割として劇場パブリック部分をニュートラルなデザインとしている。（山本成人）



●建築概要

所在地	大阪市中央区道頓堀1-9-19
建築主	松竹㈱
設計監理	ユー・アソシエイツ、大林組
施工	大林組・清水建設JV
敷地面積	1,820.73㎡
建築面積	1,545.62㎡
延床面積	11,253.84㎡
構造規模	RC、SRC、S、B2、8F
客席数	1,084席＋車椅子６席
工期	1994年12月～1996年11月
オープン	1997年３月（予定）

日　時　1997年 **1** 月**14**日㈫
13:30―16:00
講　師　山本成人／ユー・アソシエイツ取締役
藤田佳広／大林組設計部課長
井上公一／大林・清水JV副所長
定　員　40人
＊申込者多数の場合は抽選
集　合　現地
参加費　会員1,000円、一般2,000円
申　込　１月７日㈫までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名（大阪松竹座見学会）
②氏名
③個人・団体会員、一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を１月８日㈬に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第３ビル21階 〒530
FAX.348-0634 TEL.348-0633

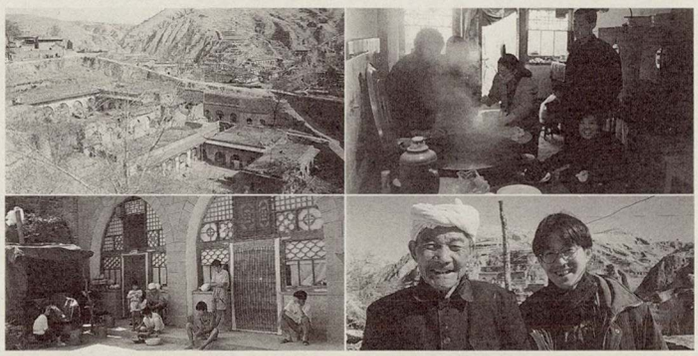
アジア建築文化誌研究会

第8回 中国黄土高原の住まいと暮らし

母なる黄色い大地と窯洞（ヤオトン）

研究会では、１年以上に及ぶフィールド調査をおこなっている研究者を中心に、アジア、住宅、建築に関心を寄せる方がたにご参加いただき、その研究成果を発表、情報交換し、またその情報をひろく発信しアピールすることを目指しています。アジアの多様な住まい、生活慣習、伝統を学び考えることによって、住まいを多角的にとらえる契機になれば、と研究会を公開しています。
お気軽にご参加ください。

日　時　1997年 **1** 月**18**日㈯
15：00―17:30
会　場　学芸ホール
＊学芸出版社3F
発表者　栗原伸治
定　員　30人
参加費　500円
＊資料・飲物代
申　込　１月14日㈫までに、ハガキ、FAX、E-mailでお申込み下さい。（先着順）
①催し名：アジア建築文化誌研究会
②氏名
③職場・学校名
④連絡先：住所、電話番号をお知らせ願います。
申込先　学芸出版社編集部
（担当：藤谷）
京都市下京区木津屋橋通西洞院東入　〒600
FAX:075-342-2605
TEL:075-342-2600
E-mail:gakugei@ mbox.kyoto-inet.or.jp
主　催　アジア建築文化誌研究会
事務局：学芸出版社
後　援　㈳日本建築協会



上：水ぎょうざを作っているところ　下：栗原さん㈲

春先、日本にも飛んでくる黄砂で有名な黄土高原。中国の映画界、音楽界から飛んできたブームにのって、その名はますます知られるようになりました。黄土高原には、この「黄色い大地」と密接な関係をもった、そして映画、音楽の歌詞やプロモーションビデオにも登場した、窯洞（ヤオトン）と呼ばれる穴居の「伝統」的な住まいがあります。穴居といいましても、その言葉からイメージするような「原始」的なものではなく、「洗練」された多様なものです。今から10年ほど前には、約４千万人が住んでいるといわれていました。ところがここ数年、急激な近現代化の波が黄土高原にも押し寄せてきて、特に黄土高原南部では窯洞に住む人の数が激減しています。また、黄土高原北部においても徐々にこの兆しがみうけられます。黄土高原の人々にとって、窯洞とはどのような存在なのでしょうか？近現代化の波によって、それがどう変化しつつあるのでしょうか？「黄色い大地」と密接な関係をもった窯洞の多様性、窯洞が今なお「生きている」陝北（陝西省北部、黄土高原北部）での暮らしについて解説するとともに、それらを考えてみたいと思います。（栗原伸治）

栗原伸治（くりはら　しんじ）
総合研究大学院大学文化科学研究科
地域文化学専攻博士後期課程

● 主な論文他
・「窯洞および房屋の空間構成と場所秩序の比較　中国・黄土高原の窯洞集落における住居の空間構成と場所秩序 その１」
日本建築学会計画系論文報告集454号
1993年12月
・「中国陝北における窯洞建設」
日中建築技術交流会『日中建築』
No.40、1996年３月
・「中国陝北の住まい」
茶谷正洋編『住まいを探る世界旅』
彰国社、1996年７月

今月の表紙

表紙デザイン：立川悦夫

Andrea Palladio著
『建築四書』

ルネッサンス期のパラーディオ（1508～80）は、ヴィラ・カプラやイル・レデントーレ教会など美しい建物を設計した。
挿絵の豊富に入った彼の著書『建築四書』で、パラーディオは自身の建築理論やデザインが古典様式に由来すると述べているが、本書によりパラーディオ様式と呼ばれる独自のスタイルを確立することとなった。

■特集予告

12月号／第43回青年技術者
近畿地方建設局営繕部
1月号／建築のロングライフ化をめざして
2月号／鉄ものがたり

編集委員会（平成8年度）

■副会長　河津　隆之
金多　潔　田ノ畑好幸
薬袋　公明　※西岡　道雄
■編集理事　野口　太郎
荒巻　恭士　桝井　貴廣
井上　豊　松浦　肇
小島　雄　水谷　昇
竹中　練一　村上幸三郎
立野　一郎　横平　光伸
真塚　達夫　★施工材料分科会
松村　慶三　※植田　実
溝神宏至朗　小椎八重猛
山田　修　志水　史典
◎與謝野　久　十倉　毅
■編集顧問　野口　和宏
東　孝光　吉田　茂二
■編集委員　米澤　秀鴨
★計画系分科　★法令分科会
☆計画系　入江田吉仁
伊縫　憲幸　江山　雅己
梅村　宏尚　樫田　攻
小浦　久子　※城戸　史郎
鈴木　克彦　中村　正昭
田中　直人　浜野　幸雄
松川　敏正　■作品作風小委員会
横関　真紀　赤木　隆
※吉嗣　英祐　秋山　茂
☆建築計画系　朝倉　一晃
荒井　博　小笠原絵理
磯村千恵子　川上比奈子
上杉　秀隆　倉澤奈千子
※江副　敏史　杉原　繁
荻窪　伸彦　○富田　昌義
菅野　忠司　中村　文紀
笹村　欽也　藤城　義丈
佐藤不二男　前川　治彦
塚本　史郎　前田　幸宏
刃金　国雄　増田　敬彦
山本　匡　増田　俊哉
☆インテリア・住宅系　松田　善弘
石川　佳子　宮地雄一郎
岡本　昭子　■会員企画小委員会
加藤　力　伊藤　郁郎
※角方　利幸　○稲木　裕子
北浦かほる　大谷由紀子
小梶　吉隆　糠谷　浩史
小島　保人　毛谷村英治
高橋　文吾　小板橋鉄雄
中村　孝之　佐野　洋
畑　康之　高岡　伸一
福田　由利　高田　光雄
山上　恭子　高橋　麗子
渡邊　秀俊　塚口　明洋
★構造分科会　東宮年一郎
太田　寛　増渕　昌利
岸本　一蔵　山嵜　章子
西郷　慈師　■広告企画小委員会
鈴木　勝博　池渕　俊男
※長瀬　正　小幡　義明
平野　富之　加納伸太郎
北條　稔郎　勝　一弘
松本　孝弘　○河原　正雄
宮本　光則　関川　詞之
★設備分科会　菱田信八郎
岡野　均　山下　修司
梶井　宏修

◎委員長　○副委員長　※幹事

印　刷　平成8年11月20日
発　行　平成8年11月25日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　06-348-0635
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本電植株式会社
定　価　1200円〔本体価格1165円〕

建築と社会

1996 11 1917年創刊　第77集／通巻896号

ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

CONTENTS

特集● **私の空間作法'96**—会員作品

S・T・MUANA●田中啓文／アドラー第2ビル●岩本貞幸／Kコート●小南一郎／内本町Oプロジェクト●塚口明洋／N邸●長友理津子／NKMビル●木田耕蔵／若松邸●芝吹千昭／Y'sビルディング●岡﨑善久／周山のアトリエ●安達英俊／新森の家●浅野　裕／総社の家●福田浩明／兵頭邸●早瀬英雄／ようか武道館●上谷重男／RITZ　PLAZA JOTO一高井アークビルー●朝野泰行／K邸●志村公夫／美輝の里シンボルモニュメントー清流の風景ー●村田直人／三室戸寺ーライトスケープー'96春●村上幸三郎　21

特集● **九州の元気**—ひと・自然・まち—

［作品］　明光学園本館／都築教育学園鹿児島第一中学校／麻生医療福祉専門学校北九州校／佐賀市立図書館／長崎市民総合プール／福岡県立スポーツ科学情報センター／今村病院／はこざき公園内科／ケアポート渓和／TNC放送会館／一丁目KFビル／コンフォート博多／弓張の丘ホテル・ガラスの丘美術館／ゆめタウン筑紫野／大野城まどかぴあ／日立九州ビル／北九州テクノセンター／宮崎市葬祭センター　40
九州の元気の源を探る●桂　英昭　76
［総説］　世界に開かれた九州●杉岡洋一　77
［ひと］　岩田屋Zサイドのデザイン●菊畑茂久馬　78
元気・さわやか・笑顔（田村亮子）●園田　勇　79
福岡の「元気」エネルギー事情●脇山真治　80
基盤は森林を守ること●杉谷麗子　82
［自然］　敷地の公開とパブリックアート●永島　潮　83
［まち］　まちづくりのベクトル「海」と「アジア」●鹿野　至　84
地域活性化へのインパクト●津田佳志　85
劇的都市・福岡の秘密●大野　誠　86
第三発展軸（国際軸）の起点・福岡●長谷川裕一　87
［編集後記］　企画を終えて●編集委員　88

特集● **りんくうの3作品**

りんくうタウン　90
りんくうゲートタワービル北棟　91
りんくうエルガビルディング　98
りんくう国際物流センター　103

作品作風　大阪市立大学学術情報総合センター
大阪市老人保健施設・大阪市女性いきいきセンター・喜連西賃貸住宅
奈良県分庁舎　4

会告　会員の受賞．第42回工高生デザインコンクール入選者発表．'96建築関係団体合同忘年懇親会．'97建築関係14団体合同新年交礼会．戦前長屋建替モデル提案募集．大阪松竹座見学会．アジア建築文化誌研究会ー第8回中国黄土高原の住まいと暮らし．　1

gallery　真美ヶ丘の家（寺地洋之）●宮地雄一郎　12

Sketch book　最近竣工した新建築作品8点　14

法令コーナー　神奈川における応急危険度判定制度の取り組み●塚田操六　16
近畿被災建築物危険度判定協議会の設立●加藤　眞　17

GBRCニュース　指定試験機関について　18

ブックステーション　書名紹介8編　19

建築の眼　マルチメディア時代の建築家の仕事(5)ーコンテンツは文化／宗本順三　品質確保・向上と成績評定／春田浩司．陰翳礼讃／北村恭一．違いがわかるー異文化コミュニケーション／谷本　篤　20

構造の頁　粘弾性ダンパーを用いたCFT超高層住宅●黒木安男・森　裕重　108

設備の頁　LAN（Local Area Network）の用語解説●大野博文　109

施工材料の頁　長尺金属屋根●河野重治　110

Report　都市の中のアート～市民との対話の可能性●森山貴之　111

Information　関西パブリックアートフォーラム開催・「震災復興と設計技術」報告会．建築Next Phase研究会セミナー．報告会「欧州の保健医療福祉施設」．シンポジウム「温暖地における高機密・高断熱住宅のあり方」．「色彩建築」展ーINAXギャラリー大阪企画展　大阪まちなみ賞巡回展　スペースデザインゼミ「光と空間」．平成8年度ひろしま街づくりデザイン賞決まる．'97建築・建材展を東京国際展示場「東京ビックサイト」（有明）で．　112

投稿　御堂筋の歴史的景観を守って●柴田正己　113

月間の動き　平成8年9月分　114



作品風作

設計監理■
大阪市都市整備局・日建設計

施工■
竹中工務店・間組・大末建設JV

大阪市立大学
学術情報総合センター

この建物は図書館・情報処理センターの複合施設である。複合することにより、図書300万冊、雑誌１万タイトル、ニューメディア１万種を収蔵し、学内外の情報のアクセスの充実を図り、「図書の館」から「図書と情報の館」に生まれ変わろうとしている。

東西65m南北42mの大きな平面形となっているため、中央部にトップライトを持つアトリウムを設け、施設全体の案内が良く判りやすい構成とした。また地下部分にも閲覧室があるために、南側及び西側にドライエリアを設け、外光を導き入れて地下を感じさせない明るい空間構成とした。

外装は、将来のキャンパス全体計画の中心的な存在となるため、今までのキャンパスの建物のイメージを踏襲するのを避け、現代的な材料である４㎜厚のアルミパネルと省エネルギーを考慮した熱線吸収複層ガラスのカーテンウォールとした。

外観は、人を導き入れる１・２階をベースバンド、３～７階の図書館ゾーンをライブラリーバンド、９・10階の情報処理センター・研究・交流ゾーンをトップバンドとして位置づけ、８階の書庫・計算機室のゾーンを上下のバンドの結節点としてデザインし、内部構成を反映させた三層構成とした。

内部空間については、外観のシャープなイメージに対比させるように、木質内装で柔らかなイメージとし、手に触れる部分は、レバーハンドルも含めて木製の手触りの暖かなものとした。また、３階の東西にある一般閲覧室については２層の吹抜とし、ここで研究する学生を暖く包み込む、天井の高い明るく開放的な空間とした。

（大野一男・八幡健志／日建設計）

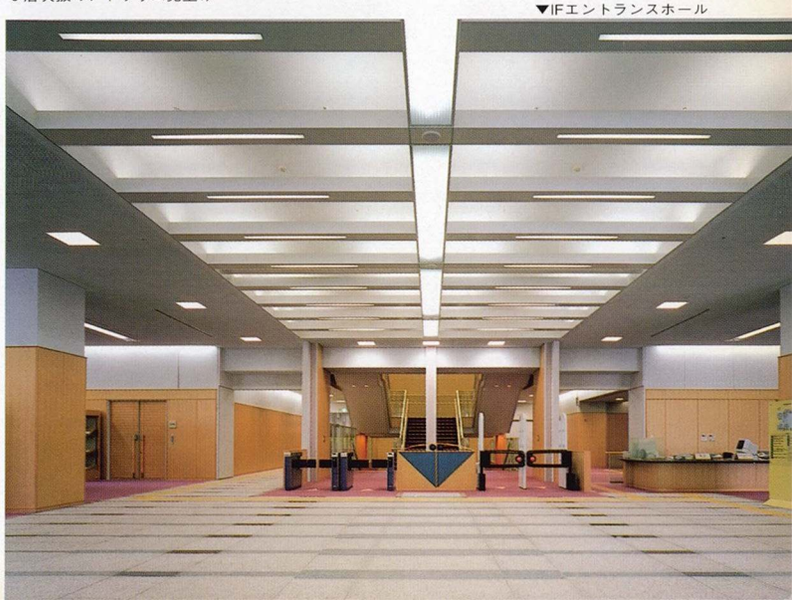
所 在 地 ―― 大阪市住吉区杉本3-3-138
敷地面積 ――53,973.12㎡
建築面積 ―― 2,864.94㎡
延床面積 ――37,434.00㎡
構造規模 ――SRC、RC、S、B4F、10F（一部11F）、P2F
工　　期 ――1993年11月～1996年３月
最 寄 駅 ――JR阪和線・杉本町駅下車徒歩５分
撮　　影 ――伸和

電気設備（その１）九電工・六興電気・三宝電機
電気設備（その２）トーエネック・新生電業・千歳電気工業
空調設備（その１）三機工業・ナミレイ・精研
空調設備（その２）新菱冷熱工業・第一工業・カンダン
衛生設備　朝日工業社・トーヨコ理研・鳳工業
昇降機設備　三菱電機
小型搬送設備　シーメンス
情報通信設備　住友電気工業
自動搬送用機器・音響映像設備　松下電器産業

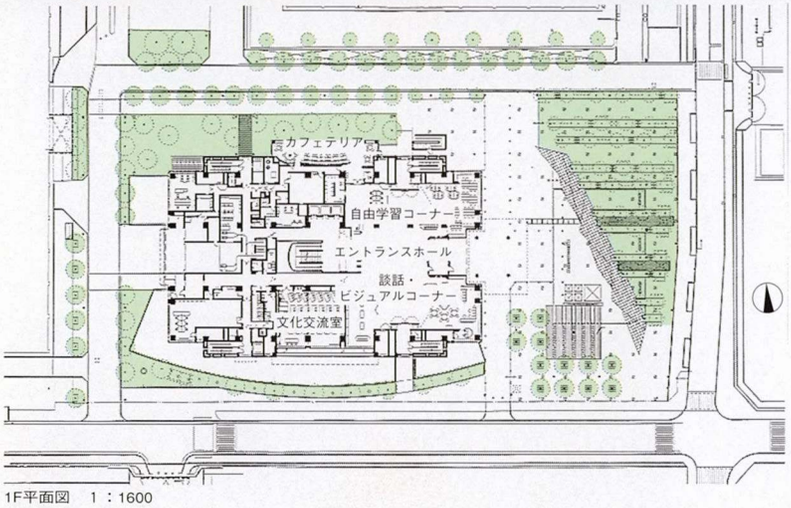

屋上ロトンダ


８層吹抜のアトリウム見上げ

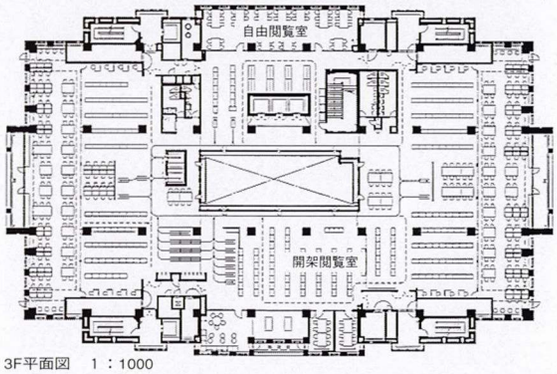
▼IFエントランスホール



3～4 閲覧室・吹抜け



1F平面図　1：1600



3F平面図　1：1000



アトリウムに面した閲覧室回廊



カフェテリア



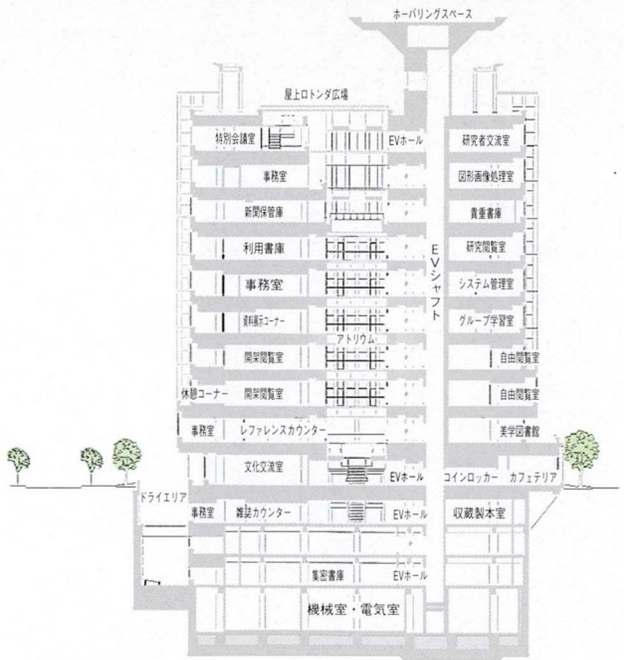
地階雑誌コーナー



閲覧室



メディア室



断面図1：1000

▼夜景



航空写真



外観（女性いきいきセンター）



光庭（老健）

作品
作風

設計監理■
大阪市都市整備局・大阪市住宅供給公社
安井建築設計事務所

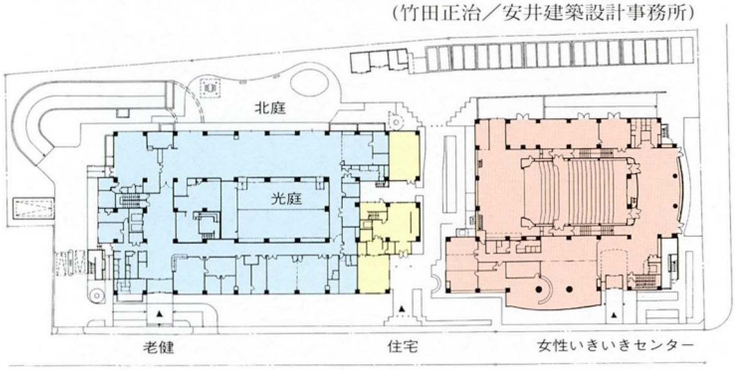
施工■
大日本土木・栗本建設共同企業体

大阪市老人保健施設
（おとしよりすこやかセンター南部館）
大阪市女性いきいきセンター
（クレオ南部館）
喜連西賃貸住宅
（コーシャハイツ喜連西）

敷地は大阪市東南部、地下鉄谷町線喜連瓜破駅の北西徒歩５分の交通至便な地にあるが、東側に阪神高速道路が南北に走るなど、やや喧騒な立地条件である。

施設は東西２棟よりなり、１～３階には老人保健施設（西棟）と女性いきいきセンター（東棟）を、４～７階には市供給公社の賃貸住宅（64戸）を設けた複合施設である。老健施設は建物中心部に大きな光庭を設け、回遊性のある廊下により明快な動線で計画している。内部空間はアットホームな雰囲気をかもしだすことを第一義とし、材料・色調を選択した。女性いきいきセンターは老健施設の家庭的な雰囲気に対し、女性の自立や情報提供をテーマにした施設であるため、全体に元気の出る色調やモダンな空間作りとしている。賃貸住宅は人口の市内定住に寄与すべく計画された、中堅者向け住宅であるが、高齢者に対しても浴槽の高さを低くするなど、人に優しい施設となっている。外観は赤みを帯びたグレー系の磁器タイル、H鋼、ガラスブロックを３施設の共通材とし、アーチのついたリズミカルな形態の屋根やバルコニー、緩やかなカーブを描いたカーテンウォールなどにより景観上の単調さをなくすよう工夫している。また、老健施設はヒーリング・アート（治療効果のある芸術）として、EVホール、光庭、北庭に設置された数点の作品により、一層施設の価値が高まり、利用者に親しまれる施設となっている。

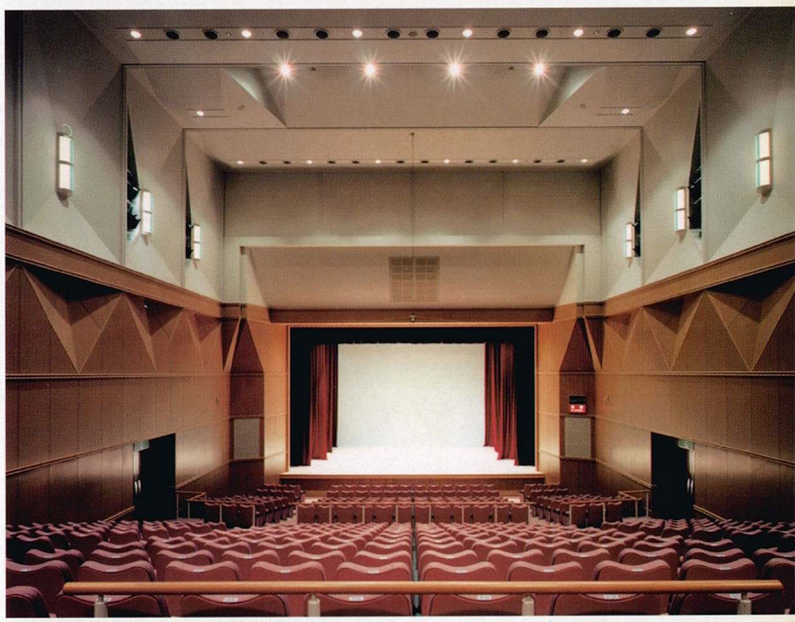
（竹田正治／安井建築設計事務所）



平面図　1：1600

所 在 地 —— 大阪市平野区喜連西6-2-33他
敷地面積 ——　8,395㎡
建築面積 ——　4,039㎡
延床面積 —— 16,377㎡
構造規模 —— SRC、RC、1部S、B1F、7F、P1F
工　　期 —— 1993年12月～1996年１月
最 寄 駅 —— 大阪市営地下鉄谷町線喜連瓜破駅
撮　　影 —— 伸和

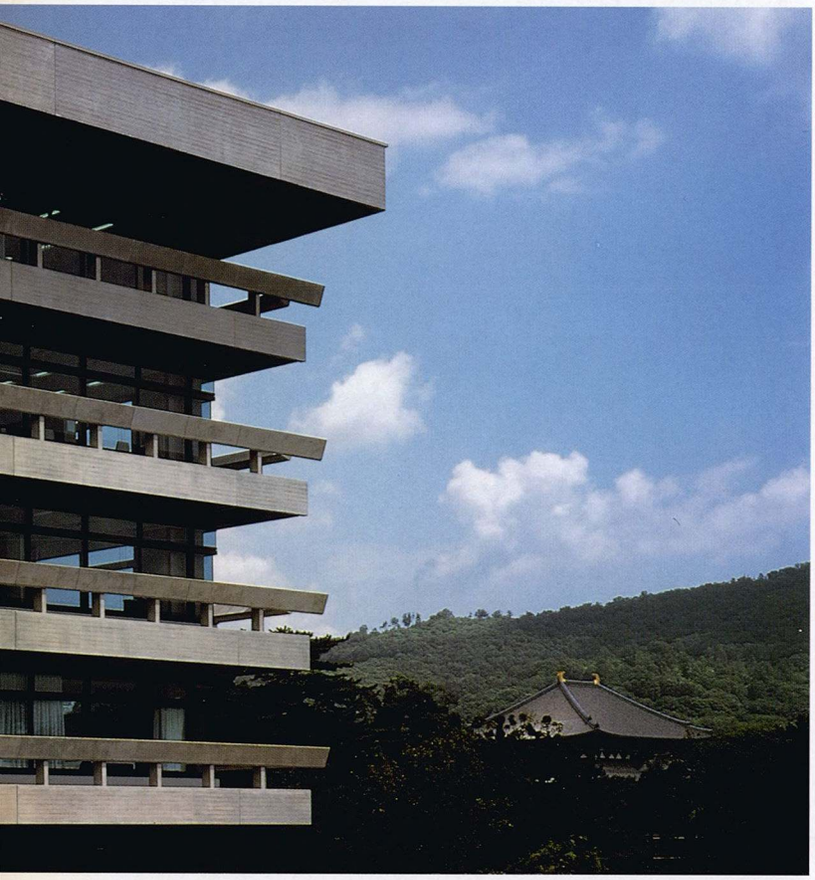

玄関ホール（老健）


ホール舞台（女性いきいきセンター）



アプローチ（住宅）

若草山を背景に西面を見る



東大寺大仏殿を背景に望む



PC製バルコニー越しに興福寺五重塔を望む

作品風作

設計監理■
奈良県総務部管財課分庁舎建設室、日建設計

施工■
奥村組・森本組・森組・浅川組・山中工務店JV

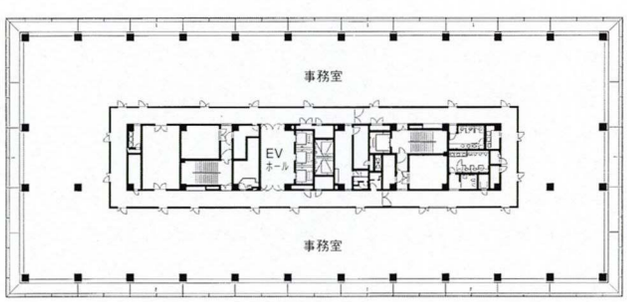


手前 奈良県庁現庁舎、奥右より分庁舎、奈良県立美術館、奈良県文化会館

奈良県分庁舎

奈良県分庁舎は分散・狭隘化した現庁舎の状況を改善し、合わせて県庁舎周辺環境整備を計るために現庁舎に隣接して建設された。
昭和40年竣工の現庁舎は、近畿地建、片山光生氏の設計で、建設当時から景観問題で話題の建物であった。現在、全体的に周辺にとけ込み、しっかりとした存在感のあるたたずまいをかもし出している。この現庁舎に隣接する分庁舎の設計に当たりまず第一に大切にしたことは、あたかもずっと以前からそこに存在していたかのようにありたいということであった。
新しい技術を使った建物でありながら、周辺の状況に違和感なく溶け込み環境になじむ外観をめざした。奈良県古都風致審議会、奈良市都市景観審議会、等の指導を得て外観は現庁舎の表現を継承することとした。
現庁舎の外装は杉小巾板を型枠とした現場打コンクリートの打放し仕上であるが、より高い品質を求めて外装は全てプレストレストPCとし表面は杉板を転写したゴム型枠で木目型を表わした。
奈良県では現庁舎北側を文化会館、美術館も含めた文化行政ゾーンとして外構整備を順次行ってきている。今回の分庁舎完成により周辺整備の全容が窺える状況となり、今後の現庁舎リニューアル工事と併せて、県民サービスの向上が期待されている。

（大泉研二／日建設計）



基準階平面図　1：1000

所 在 地 ――奈良市登大路町17
敷地面積 ――10,001.54㎡
建築面積 ――　3,293.13㎡
延床面積 ――26,693.45㎡
構造規模 ――SRC、B2F、6F
工　　期 ――1994年３月～1996年６月
最 寄 駅 ――近鉄奈良駅下車徒歩10分
撮　　影 ――エスエス大阪、フォトはなおか



正面玄関



エントランスホール

gallery

真美ケ丘の家
佐方邸

設計
寺地洋之

周辺のコンテクスト

五位堂駅から計画地までの間にはかつてこの地が田畑や雑木林に囲まれていた頃の古い民家と古墳があり、いにしえの姿をかいま見させてくれる。
小さな丘の麓に建つ古い民家は、黒と白の漆喰壁と重厚な瓦屋根の主張が強く民家と云うより蔵のイメージに近い。
古墳は前方部の台形の形跡は分かり難いが半円のマウンドははっきりと確認できる遺構を残している。



計画地の特性

計画地は北と西に道路が接する角地で、南西に視野が広がっている。北西角に重厚な壁を設け道路側の喧騒をプロテクトし、南西に大きな開口を開けるのが敷地の欲してる建築のあり方であると感じる。

計画のコンセプト

風土の継承
敷地周辺の古い民家の外壁の色使いと古墳の２つの幾何学が貫入する構成をこの住宅の計画の骨子とし、風土における構築物の構成を継承する。

シンボルコラム
古来日本の住宅では大黒柱を設けた。建築の構造の核になるとともに、家族の精神的絆の象徴でもあった。再びシンボルとしての柱を設定。

田の字形プラン
シンボルコラムを中心に十字形の４枚の壁と大型の引き込み戸を配し単純な田の字形プランを計画。大型引き戸の位置により空間は様々な利用形態を可能としている。田の字プランに角地の曲面の壁を貫入。

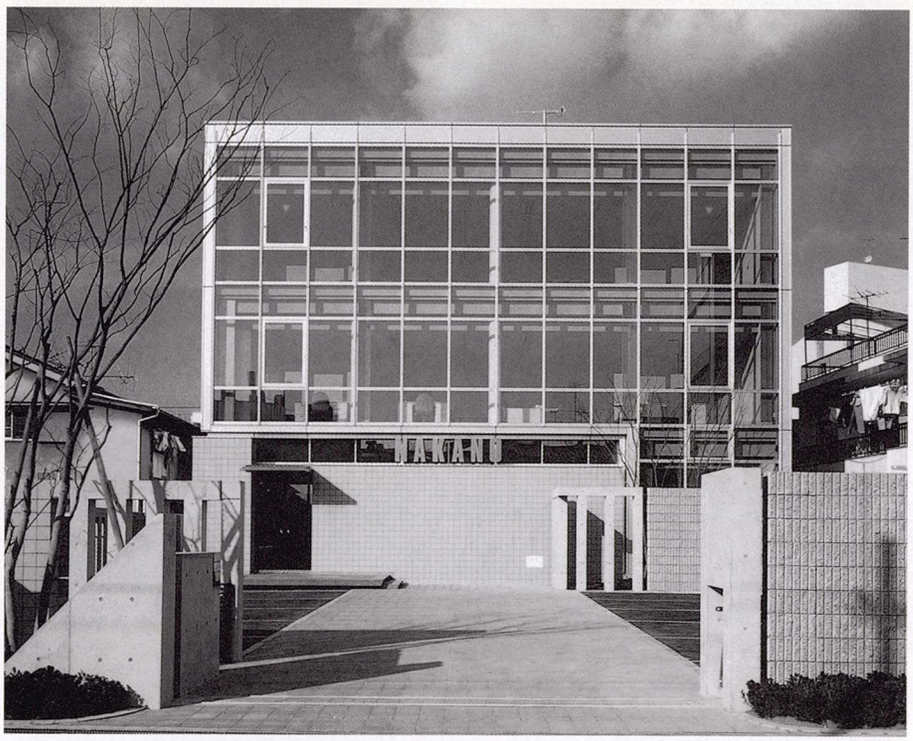
寺地洋之（てらじ ひろゆき）
1995　岐阜県生まれ
1987　大阪工業大学　建築学科卒業
　　内井昭蔵建築設計事務所
1993　大阪工業大学　助手
1994　寺地洋之＋寺地建築設計事務所
　　設立
1996　大阪工業大学　専任講師

撮　　影―松村芳治
企画編集―宮地雄一郎（作品作風小委員会）









2570

2570 中納組社屋新築工事

設　計：フジタ大阪支店
　　一級建築士事務所
施　工：フジタ大阪支店
a．大阪市淀川区新高4-29-4
b．579.80㎡
c．165.21㎡
d．487.09㎡
e．S, 3F
f．平成７年６月～平成７年12月

当社屋は、阪神大震災により損壊した前社屋の建替という経緯のもとで計画された建物である。
外観イメージの基本的な考え方は、アプローチから延びる壁面が、建屋の低層部まで連なり、敷地・建物が全体として一体的な連続性を感じる様にしている。連続する壁面には荒々しい感じの素材と形態を持たせ、建屋上部の軽快な感じの素材感と対比させることでお互いの存在感を強調している。
内部については、１階の共用空間では開口部を絞り、照度を落とした照明とし坪庭の植栽を望ませることで、落着いた空間を計画。対照的に２階・３階の執務空間は明るく、開放的な空間としている。また、室形状も今後のレイアウト変更を考慮に入れシンプルなものとし、家具寸法・動作寸法を考慮したスパンとすることで、使用勝手もより向上したものとなっている。



2571

2571 ホテルノルド小樽

設　計：昭和設計
施　工：鹿島・三井・住友・新日鐵・小松
　　共同企業体
a．北海道小樽市色内1-4-16
b．1,946.03㎡
c．1,245.83㎡
d．6,858.23㎡
e．SRC, RC, S, 6F
f．平成７年3月～平成8年3月

当施設は小樽の特別景観形成地区等指定地区内の運河沿いに位置する。小樽の街並みのノスタルジイやエキゾチックさは石造倉庫群や明治期の様々な様式の建物群の古さと新しさの調和がかもしだしている。計画に際しては、周辺の小樽らしい都市空間・景観形成を図るため、その歴史的環境を継承しつつ新しい空間を都市内に創造することをテーマとした。外観は、コーニスによる三層構成を始めとし連続アーチ・ボールト・ドーム等古典的フォルムと、レリーフ・リンテル・キーストンなどのエレメントにより構成し、低層部の量感あるこぶ出し大理石・高層部の水磨き大理石・キャストアイアン等のハイタッチなマテリアルを採用し、周辺環境との調和を図った。又、客室からの運河や山並みへの眺望を考慮した口の字型配置により設けたパティオの他、パッサージュやボルティコといった小樽にはなかった古典的空間を外部に配した。内部は高い天井高によるゆとりとユニットバスからのトイレ・洗面所の分離によるくつろぎある客室とした他、木・石等の自然素材の使用によるあたたかさ・やさしさとてらいのない上品さの演出を試みた。



2572



2573

2572 西宮市医師会看護専門学校及び
西宮市消防局・西宮市応急診療所

設　計：創造社（消防署）
　　アトリエ・アーバン・アーボア（看護学校）
施　工：新井組
a．西宮市池田町９番地
b．2,513.70㎡
c．1,271.81㎡（総建築面積）
d．6,364㎡（総延床面積）
e．RC、7F（6F）
f．平成７年３月～平成８年３月

2573 守口、土居地区体育館

設　計：双星設計
施　工：協和建設
a．守口市竹町10-1
b．1,164.88㎡
c．　717.25㎡
d．　692.36㎡
e．RC、平屋建
f．平成７年７月～平成８年３月

凡例

a．所在地

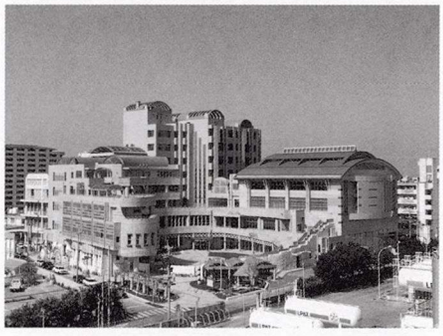
b．敷地面積

c．建築面積

d．延床面積

e．構造規模

f．工期



2574



2575

2574 沖縄県女性総合センター
・三重城合同庁舎

設　計：設計集団閃＋アクト建築計画室
施　工：国場組＋金秀建設＋南洋土建
a．沖縄県那覇市西町3-11-1
b．　6,396㎡
c．　3,537㎡
d．15,823㎡
e．SRC、B1F、8F、PH
f．平成６年７月～平成８年３月

2575 障害福祉センター　ハートフル

設　計：日総建 大阪事務所
施　工：掛谷工務店
a．茨木市片桐町1107-1
b．2,007.71㎡
c．1,029.10㎡
d．4,255.85㎡
e．SR、B1F、4F
f．平成６年９月～平成８年３月



2576



2577

2576 大阪酒販会館

設　計：A・R・I建築事務所
施　工：大日本土木
a．大阪市天王寺区清水谷町11-1
b．1,020.88㎡
c．　480.36㎡
d．3,062.15㎡
e．RC、B1F、9F、P1F
f．平成６年８月～平成８年３月

2577 いきいき長寿村
「あみーシャン大飯」

設　計：昭和設計
施　工：熊谷組・真柄建設共同企業体
　　（本体）、近藤組（外構）
a．福井県大飯郡大飯町本郷
　第82号14番地
b．27,700.00㎡
c．　5,153.27㎡
d．　5,922.24㎡
e．RC、S、B1F、4F
f．平成６年11月～平成８年３月

編集委員会法令分科会

310

神奈川における応急危険度判定制度の取り組み

経過

神奈川県では、かねてから東海地震や神奈川県西部地震の発生により大きな被害を受けることが予測され、これに対処することが急務とされてきた。

このような中、昭和56年度から５カ年間にわたり、建設省総合技術開発プロジェクトとして「震災構造物の復旧技術の開発」が進められ、「建築物の災害復旧の技術マニュアル」がまとめられた。

このマニュアルで提案された応急危険度判定の有効性に着目した本県では、平成元年度に県内の特定行政庁である12の市とともに「神奈川県建築物震後対策推進協議会」を設置し、建設省、学識経験者、建築関係団体等の協力を得て、２カ年にわたり応急危険度判定制度の整備のあり方について調査・研究を行った。

この結果を受け、地震被害が広域にわたることなどから、平成３年に県内の全市町村が参画するよう推進協議会を再組織し、県と市町村との協力により応急危険度判定制度の実施体制の整備を進めてきたところである。

判定士の養成

大規模地震で応急危険度判定を実施するためには多くの判定士が必要であり、このため平成４年度から判定士の養成講習会を実施している。

講習会は、平成７年度まで毎年20回以上、平成８年度は７回、県内の主要都市において実施したが、平成８年10月現在、8,363名の方が登録している。

コーディネーター・マニュアルの作成

一方、応急危険度判定を実施するために、被災地で判定士を指揮監督するコーディネーターが必要となる。このコーディネーターには、災害対策本部等の職員があたるとしているが、これらコーディネーターを対象として判定実施に関する具体的事項の取り扱いをまとめたコーディネーター・マニュアルを作成している。

判定士とのコミュニケーション

神奈川県では、応急危険度判定士の認定期間を５年としており、認定の更新時だけではなく常日頃から協議会と判定士のコミュニケーションを図ることにより、地震発生に即応できるようにする必要がある。

このため協議会では、地震対策に関する最新のニュースや講習会等で判定士の方々から受けた質問等に答える「判定士だより」を、平成５年から毎年１回発行し、判定士へ送付している。

判定士の訓練

判定士の養成講習会ではテキストやスライド等を使い、応急危険度判定の方法等を講習しているが、判定技術の向上を図るため、平成５年度から実際の建物を使った模擬訓練を実施している。その内容は、建て替え予定の木造住宅や鉄筋コンクリート造の住宅に加力することにより損傷状況をつくり、判定士が被災度の判定をするものである。

模擬訓練は、時間的な制約から限られた人数の判定士の参加にとどまっているが、訓練の模様や訓練結果の講評を、「判定士だより」に掲載することにより、判定士全員の参考に供している。

なお、この模擬訓練と合わせて、電話連絡網を使い模擬訓練の集合場所や集合時間を伝達する参集訓練を実施している。

現在の取り組み

阪神・淡路大震災では、建設省からの連絡を受け、他の都道府県などとともに被災自治体の応援をさせていただいたが、実際に応急危険度判定に携わって得た貴重な教訓を生かし、再び大震災が発生したときに、より迅速かつ的確に応急危険度判定が実施できるよう、実施体制の一層の整備を県・市町村の協力のもとに進めている。

(1) 判定士の災害補償

阪神・淡路大震災では、神奈川県建築士会、神奈川県建築士事務所協会、神奈川県建設業協会の協力により民間の判定士を10人派遣したが、応急危険度判定が被災直後に実施されることから、余震等により判定士自身に被害が及ぶことが懸念され、出発前に急遽傷害保険に加入していただいた。

本県で地震が発生した場合には、何千人という民間判定士の協力を得なければならず、発生後の保険加入は事実上不可能なことが想定されることから、あらかじめ必要な人数分の保険を手当てすることとした。

(2) 判定資機材等の整備

応急危険度判定をスムーズに実施するためには、従前に判定調査表や判定標識等の判定備品、さらには判定調査に必要な下げ振りやクラックスケール等の判定資機材を用意することが必要である。

このうちヘルメット、ナップサック、下げ振り等については、協議会で一括購入して、各市町村に配分し、各市町村が備蓄する予定である。

(3) 連絡網等の整備

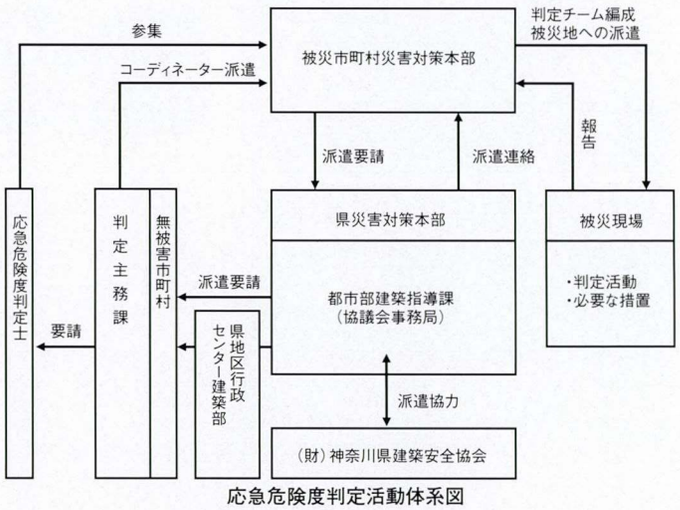
多くの民間判定士に協力を求めるためには、連絡網を整備しておかなければならない。このため、すべての判定士に速やかに連絡が行われるよう市町村を中心に電話連絡網の整備を進めている。

このほかにも課題は山積しているが、大震災のときの被災自治体の不眠不休の活躍を思い起こしながら体制整備を推進していく所存である。

塚田操六 神奈川県都市部建築指導課技幹



阪神・淡路大震災で応急危険度判定する判定士



応急危険度判定活動体系図

311 近畿被災建築物応急危険度判定協議会の設立

応急危険度判定とは

先の阪神・淡路大震災においては、かつてわれわれが経験したことのない、大都市直下で地震が発生したため、多くの建物が被災し、多数の尊い人命が失われた。

震災直後から、余震が頻々として起こり、ただでさえ地震力によりその構造的な耐震性が弱まった被災建築物の倒壊、部材の剥落等による人命などへの二次災害の発生が心配された。

このため、当時、東京大学岡田教授（当時）や神奈川県住宅供給公社の大屋氏（当時）をはじめ、多数の方が大阪府に集結し、判定支援本部を設置し、余震によって生じる危険度の程度を応急的に判定する活動を展開した。

この判定方法は、建設省等で研究され、関東の一部の地方公共団体では取り組みが進んでいたが、全国的にはあまり知られていなかった。

危険度判定とは、あくまでも地震発生後できるだけ早く、若干、余震などの収まりつつある時期に精力的に被災した建築物の当面の危険度を判定し、その建物の居住者等はもちろん、近くを通る人々に傷害を与えないよう関係者へ注意を促すための情報提供と考えることができる。したがって、応急危険度判定と被災建築物の被災度区分判定は、別な次元の内容を伴う。応急危険度判定はその迅速性に真価があり、被災度判定は将来にわたって利用可能か慎重に判定し、場合によっては補強などの要否を提示するところにその意義がある。

体制の整備

貴重な経験と反省を残したあの震災から２ヵ月を経た平成７年３月、危険度判定を行政職員のみで迅速に行うことは限界があるため、国は全国に「応急危険度判定の体制整備」を早急に行うよう通牒を発している。

これを受け、全国の都道府県において民間建築士を対象に講習会が盛んに行われ、大阪府下でも、平成７年度に２回、平成８年度には５回予定しており、年度末までに2300人余りの受講が見込まれている。今後は、これらの民間建築士の災害時の協力等についての意向を確認の上、大阪府の判定士として登録し、万が一の際には、応急危険度判定に活躍していただくことになる。

一方、近畿府県は災害対策基本法の規定により、「近畿２府７県震災時等の相互応援に関する協定」を平成８年２月に締結し、災害時における応援体制について相互確認をしている。

応急危険度判定においても、実際の活動時に近隣各府県等の相互支援が非常に重要な役割を果たす。さらには、民間建築士の養成、登録などについても、その細目を調整すれば重複を避け得るとともに、効率的な運用も可能である。

そのため、応急危険度判定方法の標準化や全国的な相互支援体制の整備等を目的として平成８年４月に設立された「全国被災建築物応急危険度判定協議会」と連携を図りつつ、近畿各府県及び政令指定都市において相互支援体制の調整を行うなど、応急危険度判定の実施体制の整備を推進することを目的として「近畿被災建築物応急危険度判定協議会」を、兵庫県をはじめとする各府県と連携して平成8年8月に設立した。

こうした応急危険度判定に関する協議会は、現在、全国の隣接する複数の府県にまたがる地域・ブロックにおいて、設立の検討が始まっており、近い将来、近畿協議会のような地方組織が全国のあちこちで設立される見通しである。

近畿被災建築物応急危険度判定協議会の概要

(1) 会員（近畿２府７県、３政令指定都市）

•府県／京都府、大阪府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県、三重県、福井県、徳島県

•政令市／京都市、大阪市、神戸市

•オブザーバー（３県）／岐阜県、鳥取県、岡山県

(2) 役員

•会長：兵庫県都市住宅部長

•副会長：大阪府建築部長、京都府土木建築部長

•幹事：滋賀県、奈良県、和歌山県、大阪市の各担当部（局）長

•監事：三重県土木部長

(3) 事業内容

•応急危険度判定に係る府県間の相互支援の体制整備

•近畿２府７県の区域内における相互支援体制の整備

•上記区域外への支援体制の整備

•その他、協議会の目的を達成するために必要な事業

加藤　眞 大阪府建築部建築指導課調整係長

GBRC ニュース
GENERAL BUILDING RESEARCH CORPORATION OF JAPAN

財団法人 日本建築総合試験所
〒565 吹田市藤白台5-8-1
TEL.06-872-0391 FAX.06-872-0784
業務時間 9：00～17：15

指定試験機関、ISO/IECガイド25

指定試験機関について

建設省は、平成６年10月に「建築基準法に基づく防火材料の指定等又は建築基準法において予想されていない特殊の構造方法等の認定に係る試験結果取扱要領」を制定した。この要領は、防火材料等の指定をうける場合に建設大臣に提出する試験データが満たさなければならない条件を定めたもので、建築基準法に係る基準認証制度の国際的調和を図ることを目的としている。これにより当所も改めてこの新制度の下で審査を受け、試験機関指定を受け直すこととなった。

この条件とは、実質的にISO/IECガイド25あるいはJIS Z 9325に準じた品質システムの下で試験を実施するということである。当所においては、平成８年４月１日からガイド25に準じた品質システムを導入し、７月末に建設省建築研究所基準認証研究センターの審査を受けた。その結果、適正であるとの認定をいただき、この10月に指定試験機関に指定された。指定試験範囲は、建設省告示及び通達に基づく次の11種類の試験である。

①不燃材料の基材及び表面試験
②準不燃材料の表面、穿孔、ガス有害性及び模型箱試験
③難燃材料の表面及びガス有害性試験
④準難燃材料の表面試験
⑤耐火構造の耐火性能試験
⑥準耐火構造の耐火性能試験
⑦防火構造の防火性能試験
⑧土塗壁と同等以上の延焼防止の効力を有する構造の防火性能試験
⑨甲種及び乙種防火戸と同等の防火性能を有するものの防火性能試験
⑩耐火構造の外壁に施す外断熱工法の防火性能試験
⑪長屋又は共同住宅の界壁の遮音構造の遮音性能試験

試験所認定制度、ISO/IECガイド25、JIS Z 9325、ISO 9000Sについて

欧米等では、購入者が供給者に対して製品の性能に関する客観的データを要求してきたとき、供給者は試験所の試験データを提示してきた。そのデータの有効性を主張するためには、試験データの信頼性が確かであることが必要であり、そのような事情の下で試験機関への信頼性付与のための試験所認定制度が確立された。一方、我が国においても、基準認証制度の透明性確保のため、国際的に整合のとれた試験所認定制度の確立が不可欠となり、本年10月にこの制度が設立された。

試験所認定制度とは、ガイド25に基づき、権威ある認定機関が試験機関について審査を行い、当該基準を満たす試験機関に対して特定の分野の試験を行う能力を有することを認定する制度である（審査認定機関はJAB（㈶日本適合性認定協会）であり、10月から業務を開始している）。

ガイド25とは、「試験所が特定の試験を実施する能力があるものとして承認を得ようとする場合、試験所が準拠して運営していることを立証しなければならない一般要求事項を規定している規格」である。JIS Z 9325は、内容は全くガイド25と同じである。立証しなければならない一般要求事項は、

- 職務遂行に必要な権限と経営資源（人、物、財）をもった経営スタッフの設置などの「組織と経営」
- 最高責任者による品質方針、目標、実行責任の表明。システムの確立、維持などの「品質システム」
- 内部監査と経営者によるシステムの見直しなどの「監査及び見直し」
- 試験が適切に実施できる施設及び設備の保有と保全管理、試験を行う環境の整備などの「施設及び環境」
- 試験方法の選定、試験指示書の保持などの「試験の方法」
- 正確、明瞭、あいまいさを排除した客観的な報告などの「報告書」

等々である。

この規格の要求事項に適合している試験所は、試験活動に関してISO 9002（JIS Z 9902）に規定されているモデルの要求事項を含んでISO 9000S（JIS Z 9900S）の関連する要求事項に適合していることとなる。

当試験所の取組みについて

近々の国際情勢に鑑み、当所はガイド25に適合した業務を実施することが重要であることを認識し、指定試験機関の認定を契機にして、当所の主要業務の全てにガイド25あるいはZ 9325の導入を急いでいる。来年の４月には、ガイド25に準じた試験品質保証体制の整備を完了させる予定であり、それと同時に新しい業務システムの下で試験を遂行していくことになろう。

（品質保証センター TEL.06-834-7916）

BOOK STATION
ブック・ステーション

子どものための遊び環境
計画・デザイン・運営管理のための全ガイドライン

ロビン・ムーア他　編著
吉田鐵也・中瀬勲　共訳

鹿島出版会
1995.2.25刊
A5判　240頁　4,532円



北米のまちづくり

川合正兼　著

学芸出版社
1996.5.25刊
A5変型判　208頁　2,575円



給排水・衛生設備のメンテナンス
イラストでわかる

中井多喜雄　著

学芸出版社
1996.5.25刊
B5判　208頁　3,090円



ダクト設計入門

内山武夫　著

学芸出版社
1996.2.25刊
A5判　192頁　2,884円



秀作・数寄屋住宅

和風建築社　企画編集

学芸出版社
1996.3.25刊
A4W判　128頁　5,665円



ディスプレイデザイン
SD選書223

魚成祥一郎　監修
高橋信裕・藤井一比古・石渡強治　共著

鹿島出版会
1996.3.30刊
B6判　196頁　1,854円



マンション管理組合テキスト
小さな自治体をめざして

住生活研究所　著

学芸出版社
1996.5.10刊
A5L判　240頁　2,472円



庭の意味論

M.フランシス・R.T.ヘスター　共編
佐々木葉二・吉田鐵也　共訳

鹿島出版会
1996.6.6刊
A5判　301頁　4,738円



マルチメディア時代の建築家の仕事 (5)
——コンテンツは文化

宗本　順三

パソコンのハードウエアが高価な頃は、１セット当りのハードとソフトとコスト差は少なかった。その後、ハードは激しい国際的な競争と技術開発で年々安くなったが、ソフトはそれほど安くならなかったので、相対的にソフトのコストがハードの何倍にもなった。現在のようにソフトも激しい競争の時代になってくると安価になり無料配布も珍しくなくなってきた。この様になると本当に価値があるのはコンテンツである。現在、インターネットのホームページを開いて日本とアメリカの違いを感じさせられるのは、コンテンツの質とレベルが余りにも違い過ぎることである。極端に言えばアメリカのものは受け取る側に欲しいものあるいは興味を示すものが書かれているが、日本のものは自分の発信したいものしか書かれていない。それは文化の問題かも知れないが、受け取る側からすると奇妙を通り越して滑稽である。同じ現象が建築デザインの表現においても見られ、極端に自己否定してしまった没個性か、設計者の自己満足の過剰表現の両極端が日本の現実であろう。最も、マスコミは後者を好むことは言うまでもない。しかし、これからはマスコミの物差しを通さずに直接個人対個人がパブリックな場（インターネット）で情報を選択して受渡するとき、この様なコンテンツの文化の問題が世界的なレベルで問われる時代が到着した。この淘汰にどれだけ耐えられるかが、問われているのである。

京都大学教授　建築家

品質確保・向上と成績評定

春田　浩司

平成８年１月に建設省、農林水産省、運輸省の共同事務局により、「公共工事の品質に関する委員会」の報告が取りまとめられた。その内容についてはここでは割愛するが、５つの基本方針の下に32に及ぶ具体的内容が提言されており、実現可能なものから実施していくこととされている。この中にISO9000シリーズ適当等とともに、公共工事の品質を確保する方策の一つとして「成績評定の積極的活用」が示されている。

工事成績評定は、施工者が請け負った工事の出来映えを発注者が評価するもので、施工体制、管理体制（工程・品質・安全等）について総合的な技術力を判断する重要な物差しとなるはずのものである。しかし、こういった評定は評定者によるばらつきが大きくなることも考えられるので、極力客観的事実に基づいた評定基準とすると共に、いっそう透明性を高めるためにその評定点を施工者に通知し、施工者はその評定内容について説明を求めることができるようになった点が新しい。

建設省では平成８年２月からこの新しい成績評定が実施されているが、いまのところ目に見える成果が顕在化してきているわけではない。しかし近い将来、成績評定を業者選定に直接反映させることで、品質確保・向上のインセンティブとなることを期待したい。

近畿地方建設局営繕部長

陰翳礼讃

北村　恭一

兵庫県小野市にある浄土寺に、秋の好天に誘われて行った。ここの浄土堂は、西に沈む夕陽が堂内に射し込む時、朱に染まることで有名で、朱い寺とも呼ばれている。訪ねた時は、閉門間近で最も美しい一時に違いなかった。堂内の阿弥陀三尊は、朱塗られた四本柱に囲まれて堂の中央に、西を背に静かに佇んでいた。四本柱から張り出す複雑怪奇な迫持や斗拱、梁、更に天井の垂木も全てが朱塗られている。その天竺を思わす朱の空間に、５mを越える本尊と脇侍は陰を表にひっそりと微笑んでいるように見える。数人の参拝者は皆板敷の床に、見入られたように息を凝らして正座し阿弥陀様を見上げている。誠に見事な先人の知恵と本服する。

陰翳礼讃という谷崎潤一郎の本に書かれたごとく、日本人は光と影に敏感な感性を持っていると自負しているが、西洋人も光の使い方は十分心得ていると思う。ロマネスクの寺院はそもそも光に満たされることを目指したし、ルイス・バラガンの修道院礼拝堂も格子越しの光で、赤く染められている。

どこもかしこも明るくしたがる日本の住宅は、いや、住宅にとどまらず、天井照明器具を避けて、上手なスタンドや壁プラケット照明で部屋全体を明と暗に作り分け、部屋に奥行や広がりを演出する欧米住宅に学ぶべきと思う。光と影の演出ひとつで古女房も惚れ直すことができるかも。

大建設計取締技術本部長

違いがわかる
——異文化コミュニケーションのすすめ

谷本　篤

東大寺南大門にしろ、鹿苑寺金閣にしろ、わが国においては歴史的評価の定まっている文化財建造物ではあるが、それらを観光案内で外国人に紹介するときに一再ならず覚えるある種のもどかしさは何に由来するのだろう。もとより、当方が解説する内容の過半は、そこらにある歴史・美術書からの受け売りであることは言わずもがなのこととしても、我々がほとんど無意識に受け入れている伝統的価値観、日本人としての既成観念による評価基準が、果たして精確に伝えられ、理解されているのか、みずからも正されているせいもあるのだろう。

文化なるものは、神（仏）、人間、自然の関係認識を中核に据えてそれぞれ独自の世界観を形づくり、伝承・永続性や規範性を備えるとともに、それ自体が「沈黙のことば」（ホール, E）として、多様なコミュニケーション機能を担っている。その世界観の相違がさまざまな文化を特徴づける基本的要因であり、伝統的価値観も、その精神基盤の歴史的変遷を経て培われてきた。国際化、高度情報化が急速に進展しつつある今日、地球規模の視点から様々な異文化に積極的に接し、その特質と自国文化との違いを一層深く認識すると同時に、既成概念の意義と機能を問い直し、価値判断も客観的に相対化・多元化すべく異文化コミュニケーションを促進させることが、切に求められている。

鴻池組建築本部設計企画部部長

日本建築協会 会員作品特集

私の空間作法 '96

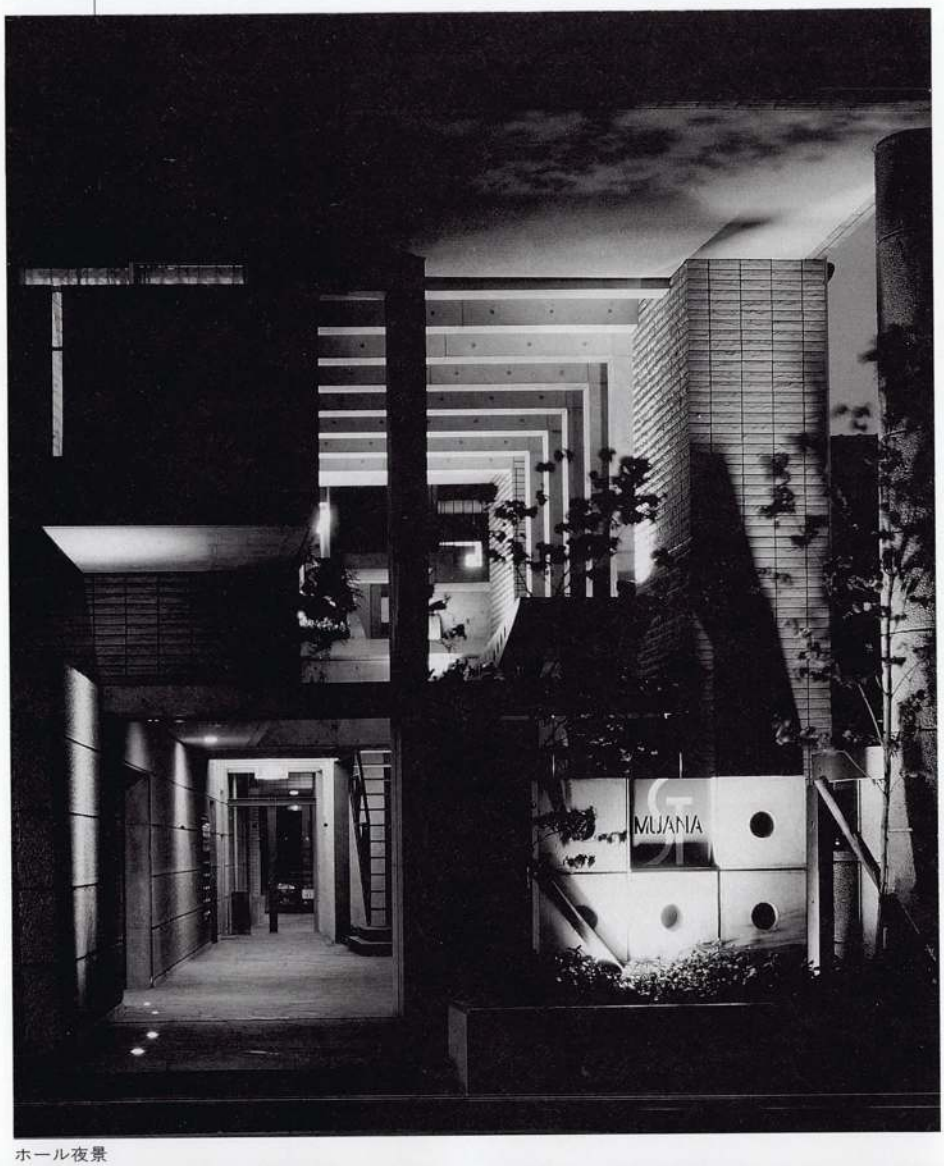
S・T・MUANA	田中　啓文	田中啓文総合建築研究所
アドラー第2ビル	岩本　貞幸	岩本貞幸建築研究所
Kコート	小南　一郎	小南一郎建築研究所
内本町0プロジェクト	塚口　明洋	塚口明洋建築研究室
N邸	長友理津子	長友工務店一級建築士事務所
NKMビル	木田　耕蔵	田渕建築設計事務所
若松邸	芝吹　千昭	フリーハンドCo
Y'sビルディング	岡崎　善久	岡崎善久建築設計事務所
周山のアトリエ	安達　英俊	安達英俊建築研究所
新森の家	浅野　裕	建築計画 A&A 浅野設計室
総社の家	福田　浩明	福田建築工房
兵頭邸	早瀬　英雄	チームアルファー
ようか武道館	上谷　重男	U建築企画室
RITZ　PLAZA　JOTO　高井アークビル	朝野　泰行	YAデザイン一級建築士事務所
K邸	志村　公夫	志村建築設計事務所
美輝の里シンボルモニュメント―清流の風景―	村田　直人	総合企画コンサル・プランナーク
三室戸寺―ライトスケープ―'96春	村上幸三郎	村上デザイン事務所

企画協力　編集委員会作品作風小委員会

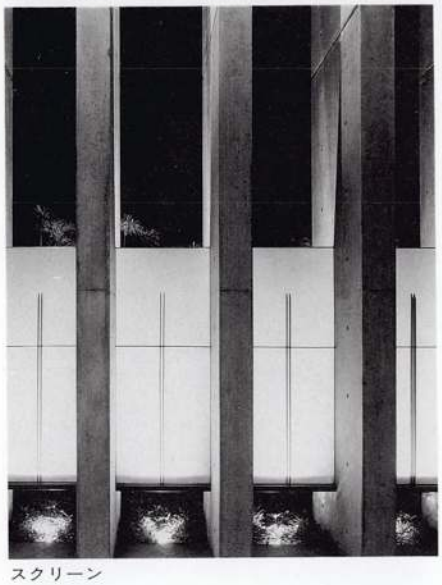
S・T・MUANA

風の抜ける場

田中啓文　田中啓文総合建築研究所



ホール夜景



スクリーン



外観



中庭を見る

この地周辺からは、旧石器、縄文より近世までの多層にわたる遺跡が多く出土している。
古代より連綿とつづく、人の営みの時間の層を内に持つ地に、現代の層を加えるものとして、この集合住宅は計画された。
建物は、敷地形状に合わせ北棟と南棟に分折され、全ての住戸がコーナーとなるよう配した。
雁行する壁面は、変化に富んだ景観を形づくるとともに、生活空間を豊かにし、住戸より距離をおいたELV、階段、廊下、挿入された小さなボイド等の狭間空間を介し、風は内へ外へ、上へ下へと自由に通り抜けていく。
エントランスホールから階段、廊下を経て各住戸へ至る共用空間は、街路の延長として、開放的な扱いとしている。共用廊下のトップライト、ホールの外部と連続した吹抜、葉陰を映すガラススクリーン、可能な限り設けられた植栽等、季節の光、風、緑を日々自然に感じられる様、配慮した。

（田中啓文）

所在地　大阪市平野区長吉出戸３丁目1-51
設計監理　田中啓文総合建築研究所
施　工　辻本工務店
敷地面積　746.45㎡
建築面積　308.18㎡
延床面積　1,639.13㎡
構造規模　RC、7F
工　期　1993年12月～1995年２月
最寄駅　地下鉄谷町線出戸駅
撮　影　中島崇夫

アドラー第2ビル

岩本貞幸　岩本貞幸建築研究所

多用途性を生かしコミュニティ空間に



ファサードからの見上げ

所在地　大阪府寝屋川市池田東町8-11
設計監理　岩本貞幸建築研究所
施　工　リバー産業
敷地面積　661.80㎡
建築面積　439.01㎡
延床面積　1,844.72㎡
構造規模　RC、7F、PI
工　期　1994年7月～1995年8月
最寄駅　京阪本線寝屋川市駅
撮　影　PCS



正面外観



エントランス廻りの夜景

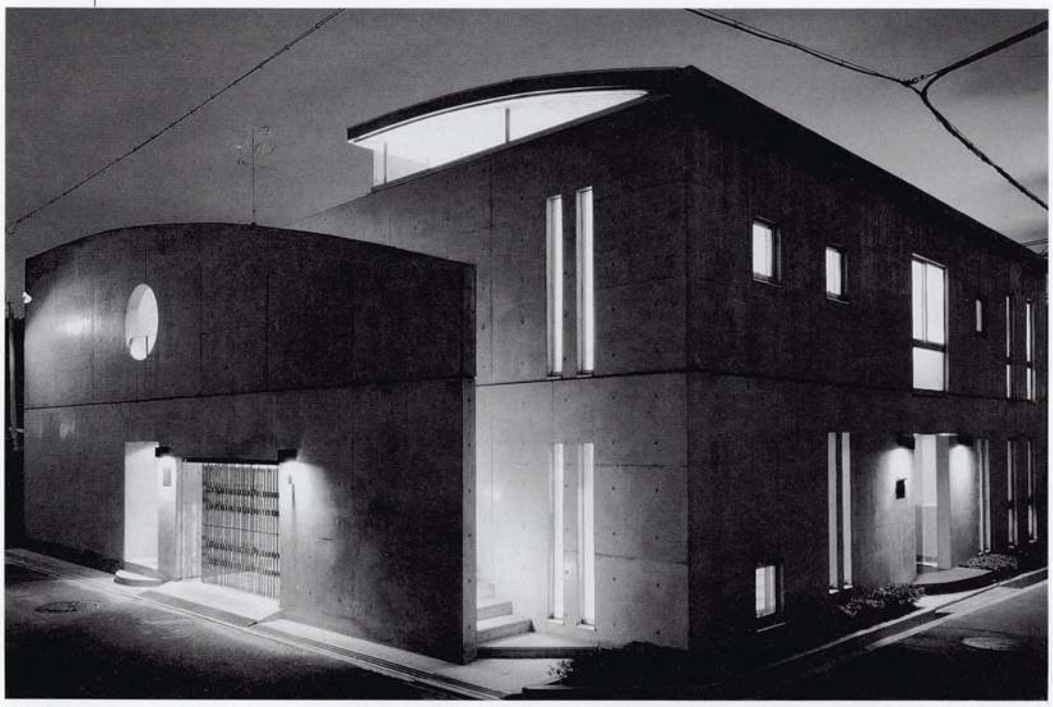
この建物は、寝屋川市のいわゆる下町界隈に位置する大きな三角形の敷地に建っている。
郵便局、3つのクリニック、店舗、事務所、賃貸住宅を含む複合ビルで、これら多くの機能をできるだけ有効に配置するため、その動線計画等、とくに基本設計には多大な時間を要した。
しかし、多くの用途を融合させた建物としては、エントランスホールの大きな吹抜や屋外テラスのあるクリニックや事務所など、快適な業務空間をゆとりある形として実現することができ、また、上層の賃貸住宅階からは、市内が一望できる。
一年余り経った現在では、エントランス廻りのR壁のやわらかい外観や、郵便局、店舗などの集客性から近隣のささやかなコミュニティ空間として成立している。

（岩本貞幸・有田　智）

Kコート

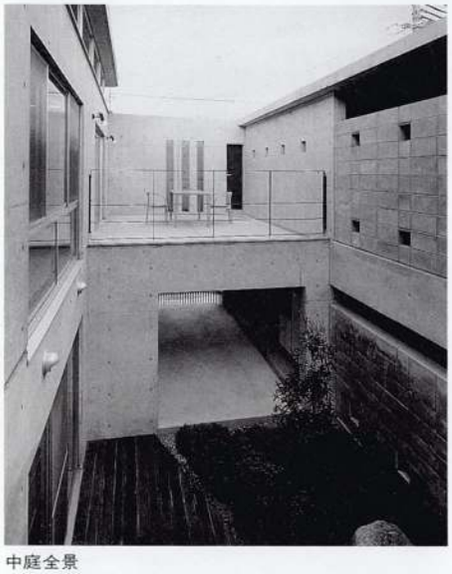
小南一郎　小南一郎建築研究所

四季の移ろいを感じる都市集合住宅

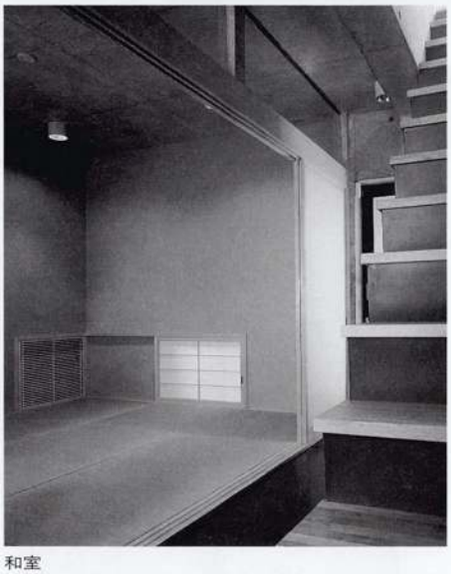


外観夜景

所在地　兵庫県西宮市北昭和町9-17
設計監理　小南一郎建築研究所
施　工　フジミビルサービス
敷地面積　248㎡
建築面積　173㎡
延床面積　324㎡
構造規模　ＲＣ壁式構造、2F
工　期　1995年11月～1996年5月
撮　影　原　定理



中庭全景



和室



自然光の差し込む主玄関ホール

この建物は、２世帯住宅と６戸の賃貸個室群が、中庭を囲む形で一体の建物として構成された小さな集合住宅である。周辺環境は、最寄駅に近いこともあり、古くからの比較的大きな区画の敷地が、駐車場や集合住宅に変わりつつある住宅街である。

この住まいは、これからの周辺環境の変化も考慮に入れ、敷地の北側に２世帯住宅、南側に６戸の個室群を配し、敷地中央を中庭空間とした都市の中の複合的な住まいの型として設計されたものである。

居宅１階の居間からは、そのままの床レベルで出られる広いデッキ空間がしつらえられ、庭の緑を身近に楽しむことができる。また、２階のオープンな居間からは、車庫の上に設けられた屋上テラスに出られ、気軽に屋外空間を取り込んだ日常生活を楽しめる仕掛けとなっている。

これら２つの屋外空間は、レベルを違えながらも空間的に繋がる１つの中庭としてお互いの世帯の気配をさりげなく感じながら、それぞれに落ち着いた住空間を確保できている。また、２階の住まいは中庭写真手前の室を通して右側の個室群へも繋げられる設計となっており、将来的な家族構成の変化、住まい方の変化にも対応できるよう工夫されている。

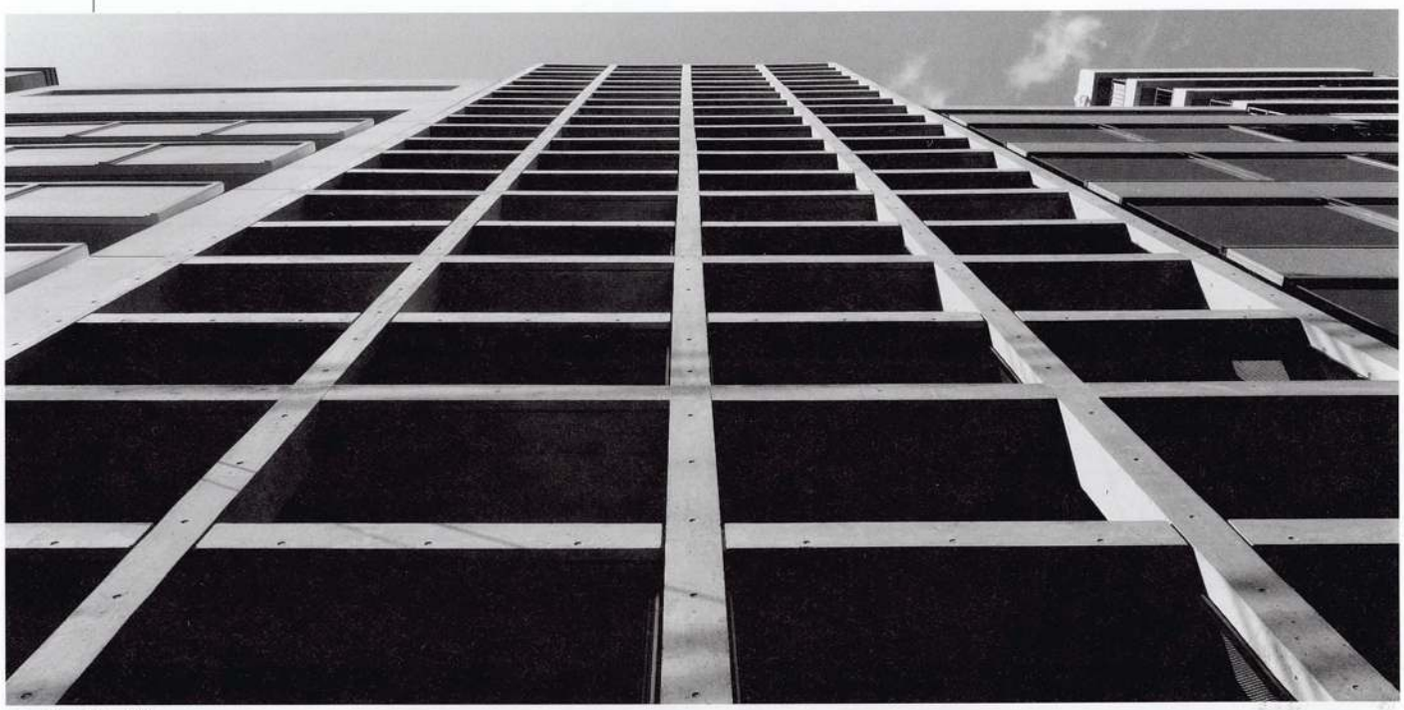
中庭に向かって大きく開かれた各々の住まいは、自然の光と風を十分に取り込み、緑をはぐくんで、都市の中にいながらも四季の移ろいを感じる、ゆとりある住空間を獲得している。

（小南一郎）

内本町Oプロジェクト

塚口明洋　塚口明洋建築研究室

「格子」がつくる、陰影と奥行のあるファサード



ファサード見上げ

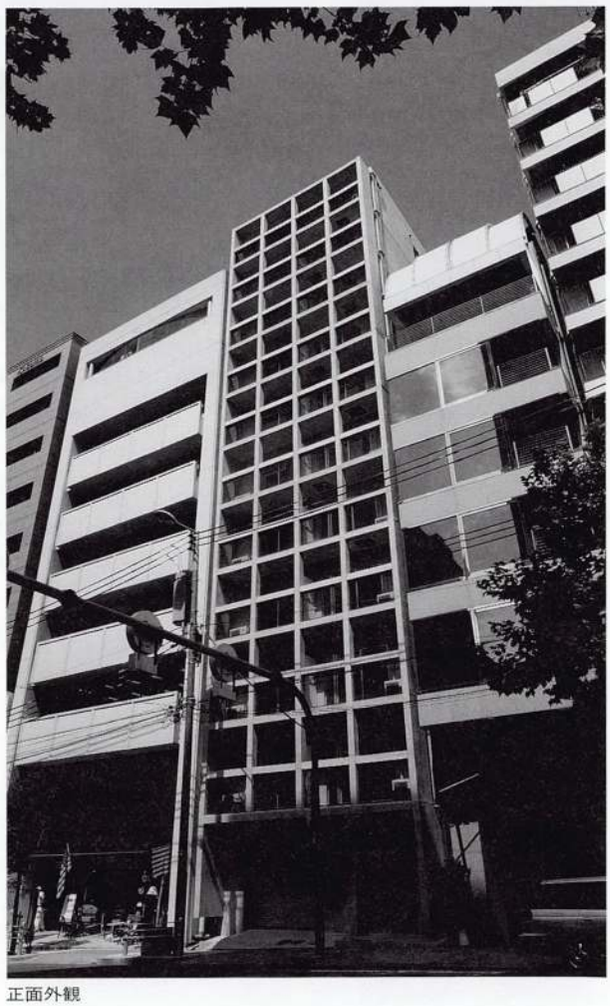
大阪の中心、本町通りに面する11階建ての共同住宅である。

通りに面して、規則正しいリズムをもつ「格子」を設けた。バルコニーの手すりでもある「格子」は、建築に陰影をつくり出し奥行きのあるファサードをつくる。コンクリート打放しの素材との相乗効果で、都市の中での建築のもつ象徴性・存在感を実現している。

また、間口の狭い細長い敷地を生かすために、中央部に光庭を設け、屋外階段・ＥＶホール吹抜けとともに、各住宅のアプローチを自然を感じるものとした。

1階のエントランス部分は、長い空間をつくり出した。壁と開口によるリズム、アイ・ストップの壁、トップライト、光庭と、空間のシークエンスを楽しめる場とした。

（塚口明洋、越智嗣夫）

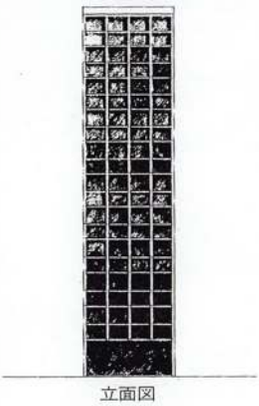


正面外観

所在地　大阪市中央区内本町1丁目43番
設計監理　塚口明洋建築研究室
施　工　昭和工務店
敷地面積　276.45㎡
建築面積　221.39㎡
延床面積　1,936.57㎡
構造規模　SRC、11F
工　期　1995年8月～1996年8月
撮　影　納崎雄二



住戸のリビング

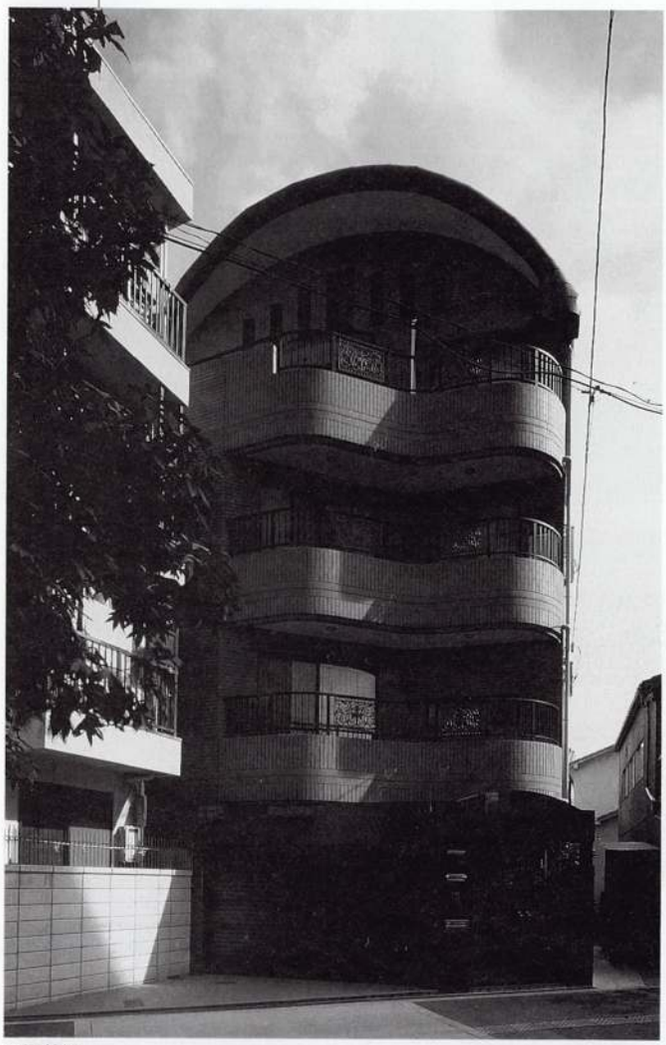


立面図

N邸

長友理津子　長友工務店一級建築士事務所

ベランダがつくる正面性



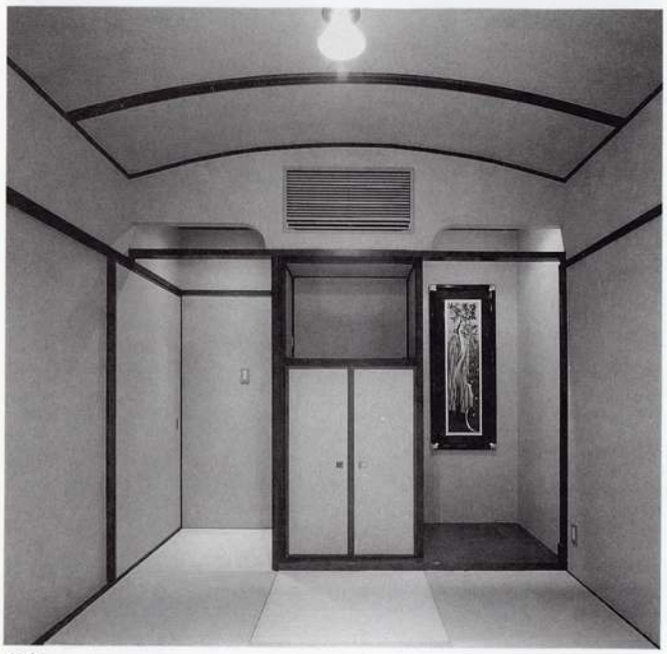
正面外観



多目的スペース



食堂



和室

この建物は桜の名所・桃ケ池公園の西に位置している。目の前には阪神高速、そして地下鉄・ＪＲそれぞれが交差しており、交通の便では最高でありながら、敷地条件の特異性が設計の段階で頭を悩ますところであった。

結果的には、外観はベランダの形状に特徴を持たせる事によって正面性を出す様にした。

内部は４階建の専用住宅であるが、４階の部分を多目的スペースとして広く面積を占めており、お仕事柄毎日お忙しくしていらっしゃるお施主様の一時の休息を楽しめる部屋としてデザインしたが、何分天井高が最高5m近くもあり、空調には充分気を使った。しかし、その後何度かお邪魔させていただいたが、特に不都合はなく安堵している。

奥様も色彩にお詳しく多岐にわたり、ご相談しながら工事を進めていけた事に感謝している。

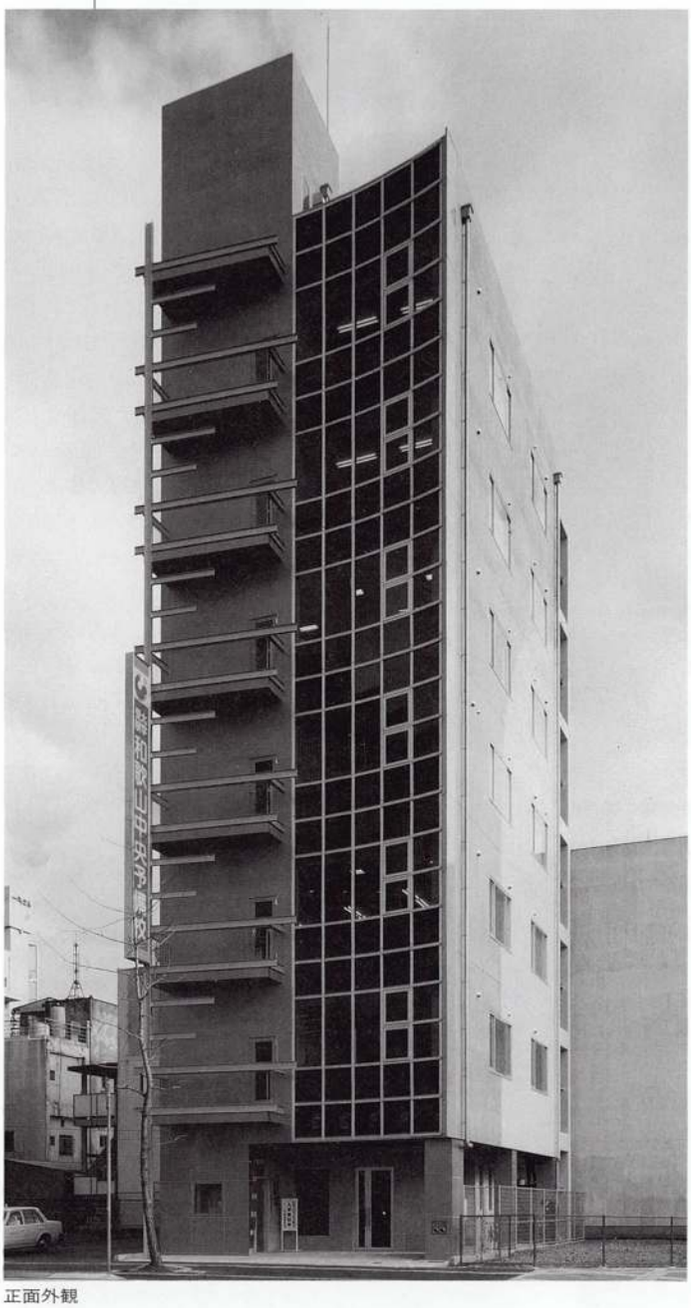
（長友理津子）

所在地　大阪市東住吉区北田辺５丁目
設計監理　長友工務店一級建築士事務所
施　工　長友工務店
敷地面積　115㎡
建築面積　86㎡
延床面積　282㎡
構造規模　S、4F
工　期　1994年４月～1994年11月
最寄駅　地下鉄谷町線田辺駅
撮　影　島　修一

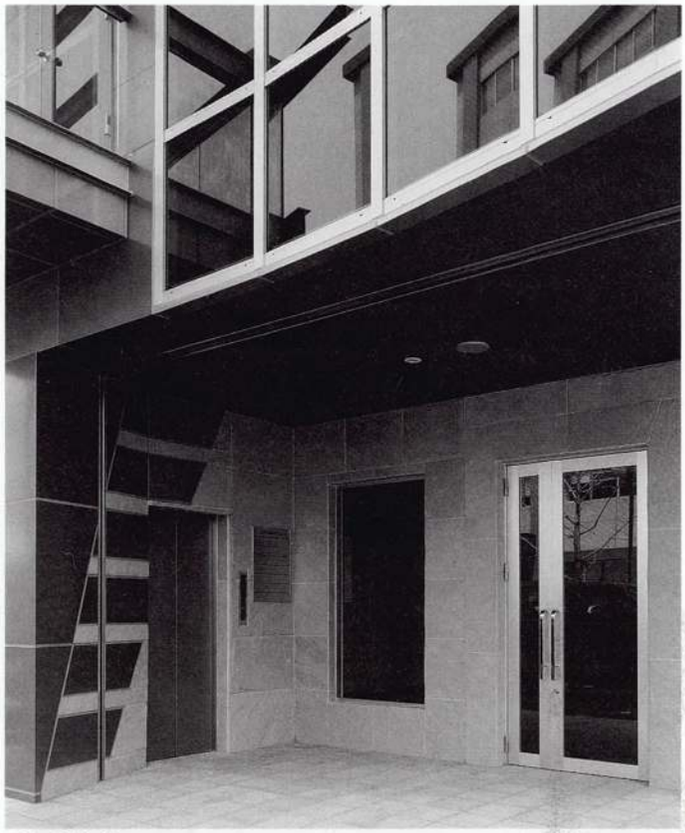
NKMビル

木田耕蔵　田渕建築設計事務所

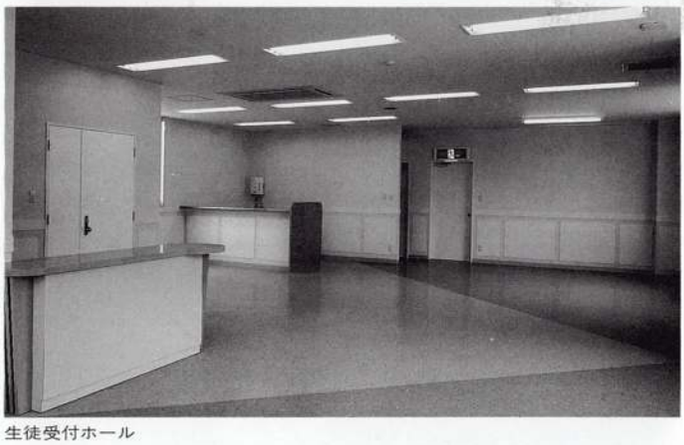
生徒たちの感性に訴えるファサード



正面外観



エントランス



生徒受付ホール

ＪＲ和歌山駅前という県都の表玄関に不思議にポッカリと空いた土地空間の有効活用を図った。

建築主とフロアーの70%を占有するテナントの中央予備校との橋渡しをコンストラクションマネージメントとして果たし、見事に完成した。

人通りの激しい通りに面しながら、予備校に通ってくる生徒達を静かに落着いた雰囲気で迎え入れ、しかも一階部分は店舗として利用するため、ややもすると派手になりがちなのを極力抑え、凹面によって生じる空間に狭いながらも豊かさと広がりを持たせた。

外部に避難用バルコニーを配し、手摺りをＨ鋼シルバー仕上げとし、メカニカルな感じを出し、屋上塔の看板も極力抑えた。

あくまでも生徒達の感性に訴えるハイテクイメージを重視した。

（木田耕蔵）

所在地　和歌山市美園町５丁目2-2
設計監理　田渕建築設計事務所
施　工　浅川組
敷地面積　171.91㎡
建築面積　133.36㎡
延床面積　879.58㎡
構造規模　S、7F
工　期　1995年10月～1996年３月
最寄駅　ＪＲ和歌山駅



事務室

若松邸

芝吹千昭　フリーハンドCo

光の道、風の道

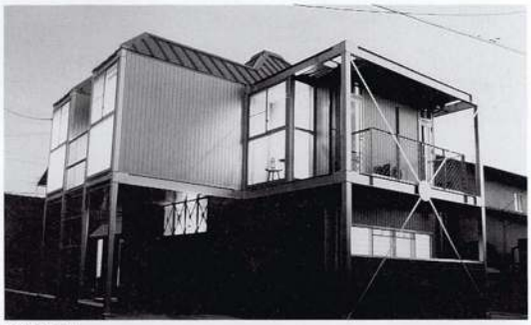


外観見上げ

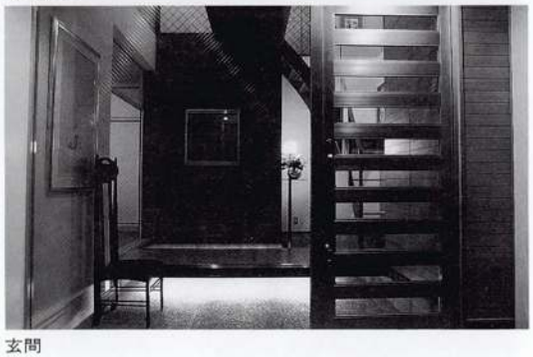
当敷地は、約20年ほど前の列島改造時代の住宅開発地の一角に位置し、周辺は同じ様な建売住宅独特の家屋がコンクリートブロック塀に囲まれて並んでいる。また、アルミのバルコニー屋根までもが同じ様に、新しく軒を連らねている。この環境の中で、外観デザインへの配慮点は、これら材料及び、エレメントの再生活用と同時にシンプル性であり、異種材料による環境との適合性であった。一方、〝今の家は暗い、風が通らない、収納が少ない、使い勝手が悪い、駐車が出来ない、庭がない〟との建築主の声に、トップライトを持つ吹抜けの玄関ホールを中心に全室を配列し、求心性（光の道）、遠心性（風の道）を高めた。また、玄関ホール内外の同一化を図ることにより、空間の曖昧性の中、縁側と庭の関係までも内在化してみた。　（芝吹千昭）



玄関ホール見上げ



外観夜景



玄間

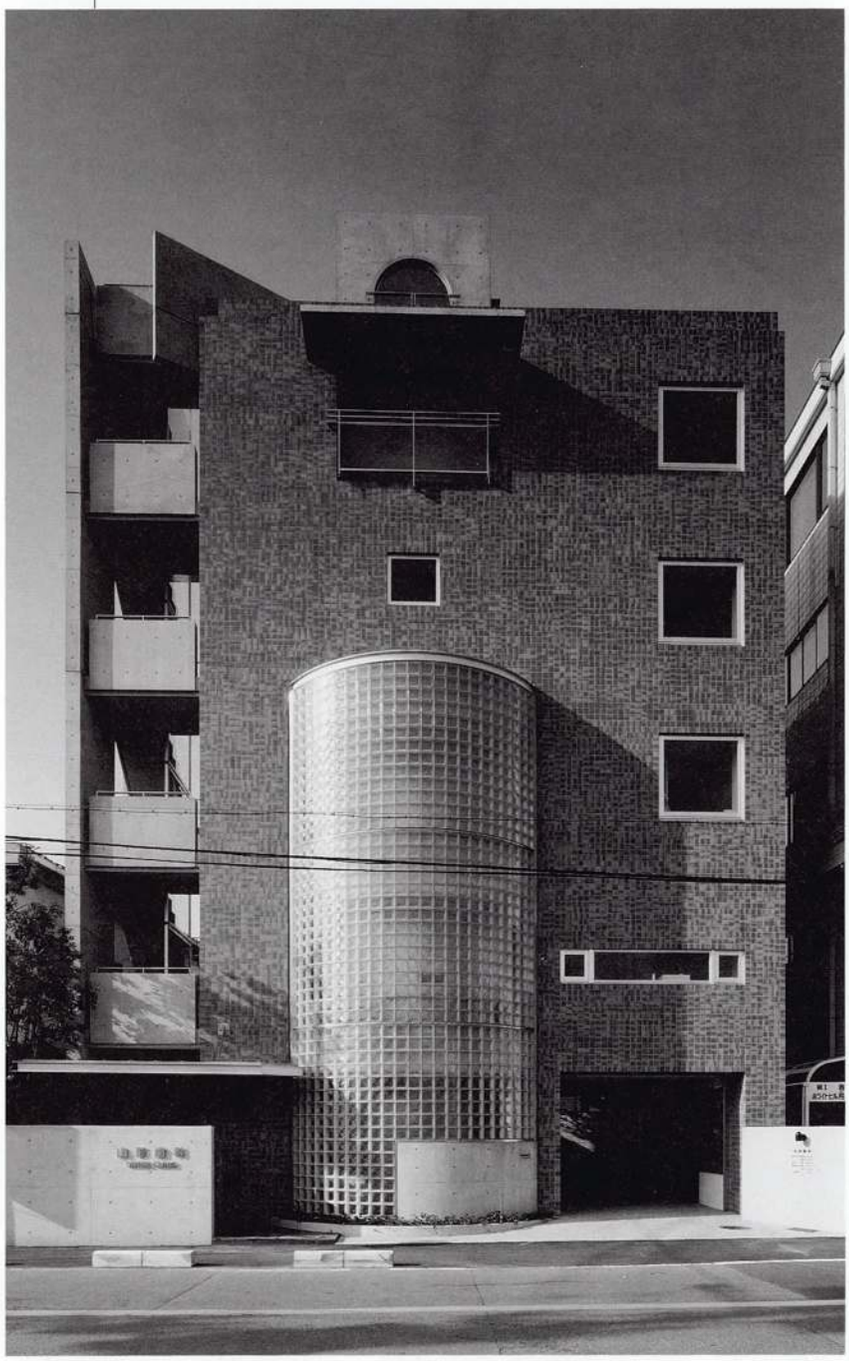
所在地　岡山市西市668-29
設計監理　フリーハンド co.
施　工　難波建設
敷地面積　184.62㎡
建築面積　107.65㎡
延床面積　158.57㎡
構造規模　S、2F
工　期　1993年9月～1994年3月
撮　影　小野竜太郎

私の作品

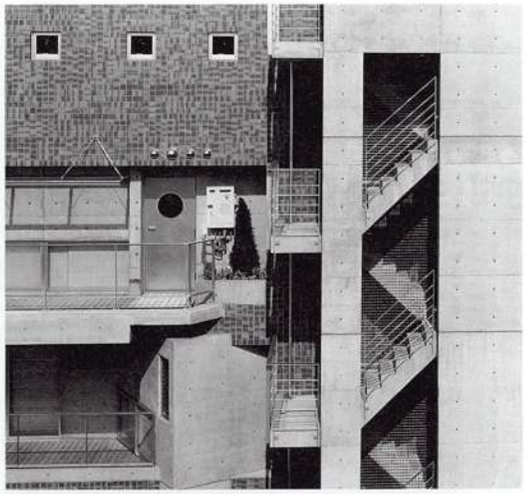
Y'sビルディング

岡﨑善久　岡﨑善久建築設計事務所

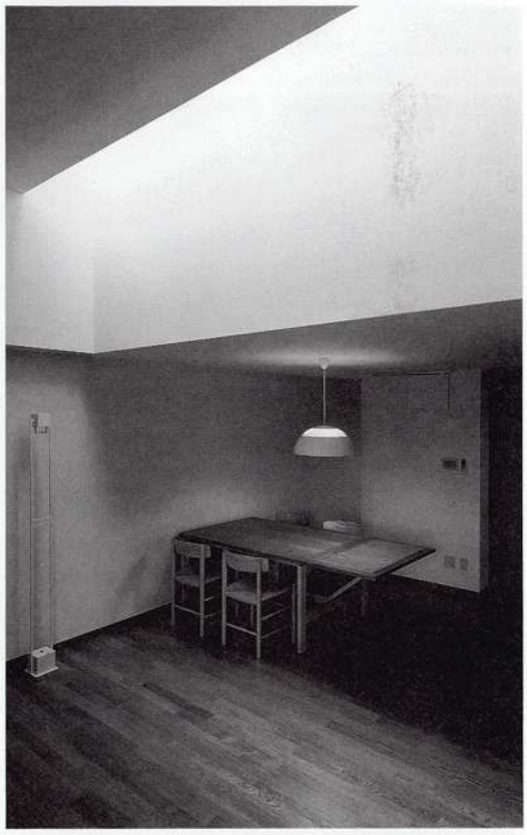
光と影が醸しだす静寂空間



正面外観



打ち放しの屋外階段とベランダ



居間・食堂　トップライトからの光が空間を演出する

住居と歯科医院という異なる性格を兼ね合わせた建物である。

タイルで包まれた箱に、ガラスブロックのシリンダーを配し、さらにコンクリート打ち放しの屋外階段が絡むという構成である。

シリンダーは3層までで、歯科医院のエレベーターホールを内包しており、ブロックを透した柔らかな光が来訪者に開放感や清潔感を感じさせる。

内部空間では、光と影の絡みを意識しており、特に居間・食堂では通風窓以外は壁とし、トップライトから洩れる光のみを採り入れている。

この刻々と変化する光が、白い壁を照らし、部屋全体に浸みわたる様子は、日常生活の騒々しさを忘れさせる静寂な空間を演出する。

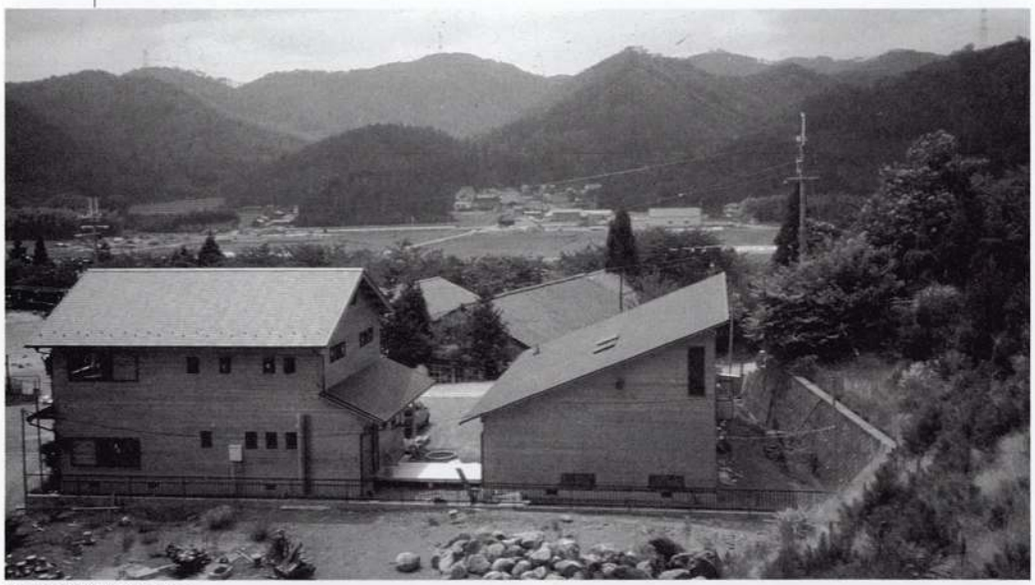
（岡﨑善久）

所在地　大阪府東大阪市鴻池町2丁目4-3
設計監理　岡﨑善久建築設計事務所
施　工　浅井建設
敷地面積　200.65㎡
建築面積　121.76㎡
延床面積　498.57㎡
構造規模　RC、5F
工　期　1995年6月～1996年6月
最寄駅　JR片町線鴻池新田駅
撮　影　松村芳治

周山のアトリエ

安達英俊　安達英俊建築研究所

地場の木材を使い自然の風景と共生



周山の自然の中に建つ



アトリエ内部

そこは京より二つの峠を越えたところにある。京都は奥が深い。周山―文字通り山に囲まれた谷あいの町―に版画家がアトリエを構えた。

その地に育った木々を用い、自然に抱かれた風景との共生を設計の主題とした。

平面計画は、できるだけ単純化し、名産の北山杉を用いた立体的な線による構成。開口部は、日本建築の絵画風（ピクチュアレスク）の手法を用いた。今日、建築は複雑化し、多様化したが、この場に身を置くと単純こそが至福の時を運ぶことに気づく。

空間を構成する木材は、六十余年の歳月を過ごした杉、松、桧である。特に、桧の床のかぐわしき香りは木版画の顔料とあいまって空間に一層の深みを与えている。時が、ゆっくりとしかし確実に流れていく。

（安達英俊）

所在地　京都府北桑田郡京北町下弓削
設計監理　安達英俊建築研究所
施　工　田中工務店
敷地面積　627.00㎡
建築面積　アトリエ　113.40㎡
　　住居　70.00㎡
延床面積　アトリエ　145.20㎡
　　住居　125.00㎡
構造規模　W、2F
工　期　1992年10月～1995年8月
最寄駅　ＪＲバス周山
撮　影　安達英俊



空間を支える木材は地場のもの



木々のかぐわしい香りが空間に深みを与える

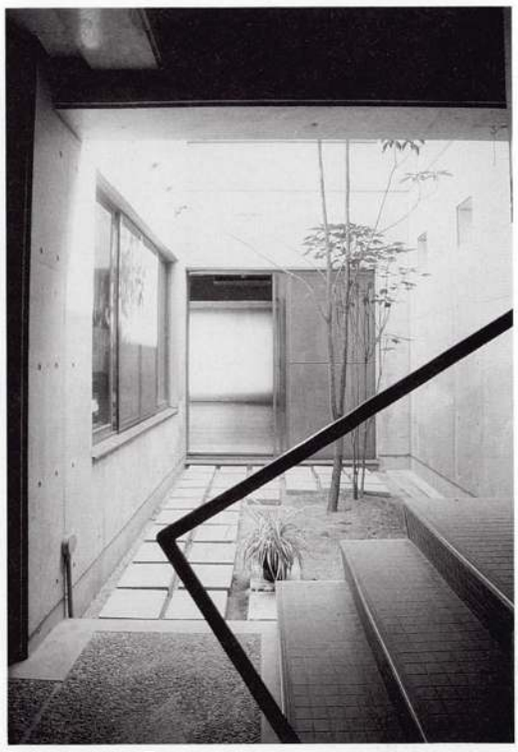
新森の家

浅野　裕　建築計画 A＆A 浅野設計室

ミニホールをもつ都市住宅



外観



階段より光庭を見る



階段より光庭を見下す



居間

新森の家は、1階にミニホールを併設する都市型の住宅である。

敷地は、東側に8m・南側に6mの前面道路を持つ角地である。都市型住宅ではプライバシーの確保と、外部に対しての開放性のバランスが常に問題となる。

新森の家では、開口部を外壁面より控えて設ける事で、プライバシーを確保しつつ、周辺に対しては過度に閉鎖的にならないように配慮した。また、内部に2つの小さな光庭とそれに面した階段を配置することで、空間をダイナミックに演出するとともに、室内に対しては、外部からとは異なった柔らかい光や風を期待できるようにした。

施主の希望で設けた1階のミニホールは「エコハウス」と名付け、定期的に音楽会や講演会を開催している。

（浅野　裕）

所在地　大阪市旭区新森5丁目91番7
設計監理　建築計画 A＆A 浅野設計室
施　工　藪内工務店
敷地面積　186.39㎡
建築面積　126.42㎡
延床面積　381.41㎡
構造規模　RC、3F
工　期　1992年9月～1993年5月
最寄駅　京阪本線森小路駅
撮　影　金田博之（コミニケ）

総社の家

福田浩明　福田建築工房

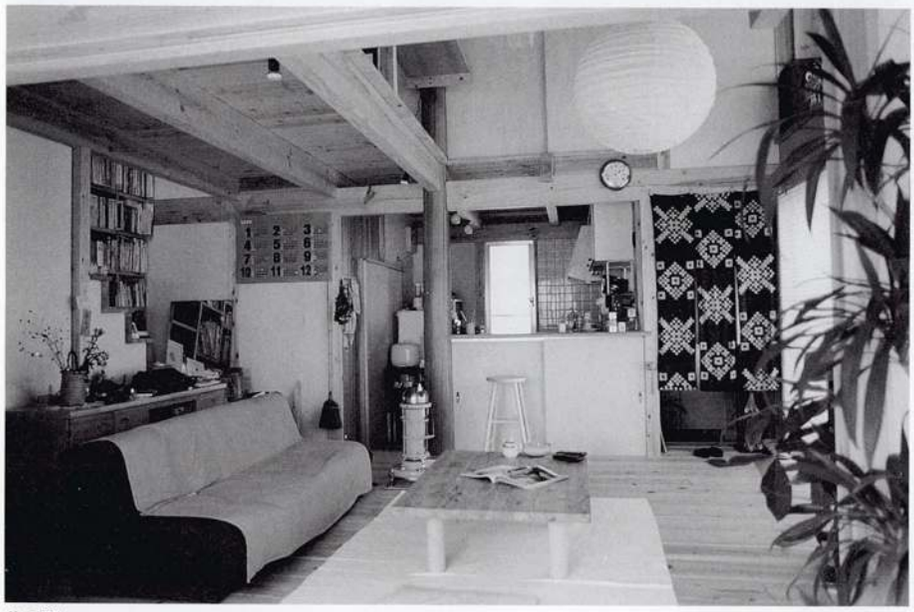
ローコストな住まう箱



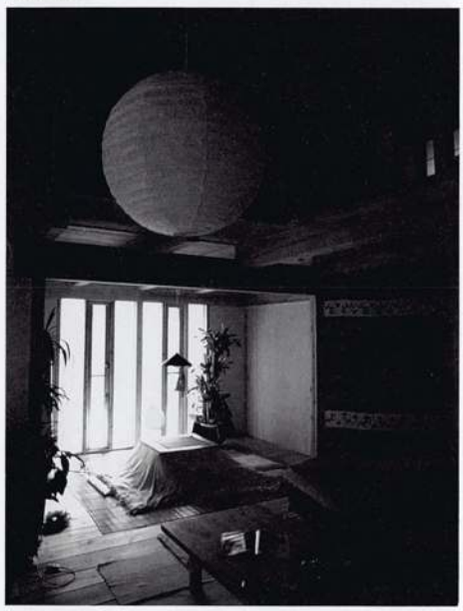
北側前面道路から見る



南側外観



茶の間



奥の間を見る

岡山市と倉敷市に接する盆地の田舎町。周囲には焼杉板と漆喰を施した家並みが今でも建ちならぶ。施主より「ローコストな住まう箱」をと要望をいただき、計画をスタート。構造のシンプルさ、素材の統一でローコストを意識し、この地方の蔵でよく見かける「なかおき」という梁を見せることで、木造の大胆さ、おおらかさを住まいに取り込んでみた。

これらの梁、桁は知り合いの材木屋さんで眠っていた地松。柱は杉の1等材、垂木は桧の1等材、3寸角節だらけの現わし、大黒柱も大工さんの資材置場にころがっていた杉丸太。床・枠・額縁・本棚・外壁の横張り板は全て杉足場板、内壁仕上は漆喰多めの中塗りどめと針葉樹合板素地のまま、外壁は墨入りモルタル木ゴテ摺り、木部塗装は施主と私の協同作業といった力の配分。その他、大工さん、職人さんの献身的な協力、努力に助けられ、遠隔地にもかかわらず分離発注という無謀もなんとかやり遂げた。結果、坪単価48万円、工事費1450万円の住まいが誕生。その後、物置の扉、犬小屋、柵、等々、つぎつぎに施主の手によって作製され、充実した住まいに成長していっている。　（福田浩明）

所在地　岡山県総社市
設計監理　福田建築工房
施　工　逸見周平草庵工房　他
敷地面積　112.99㎡
建築面積　60.47㎡
延床面積　99.27㎡
構造規模　W、2F
工　期　1995年1月～1995年8月
最寄駅　JR吉備線東総社駅
撮　影　福田浩明

兵頭邸

夢の風吹く家

早瀬英雄　チームアルファー

この住宅は阪神大震災からの復興という、通常と違うスタートでした。闇の中で大きな音とともに起こった地震です。

彷徨いながらも、考えていくうちに光が射し、これからの暮らしの夢が描けたとおもいます。

雨上がり、ガラスブロックは太陽に映え、R屋根は虹に向かってたちあがっていくようです。

家が出来上がるにつれ、工事に携わった方々の力の大きさに悦びがわきました。

中庭では今、彷徨う光や風が漂い、植物の薫りが溢れ、新しい生命が活きづこうとしています。

40歳代の夫婦と猫たちが、愛と幸福を楽しめる住まいになることを期待します。

（早瀬英雄）



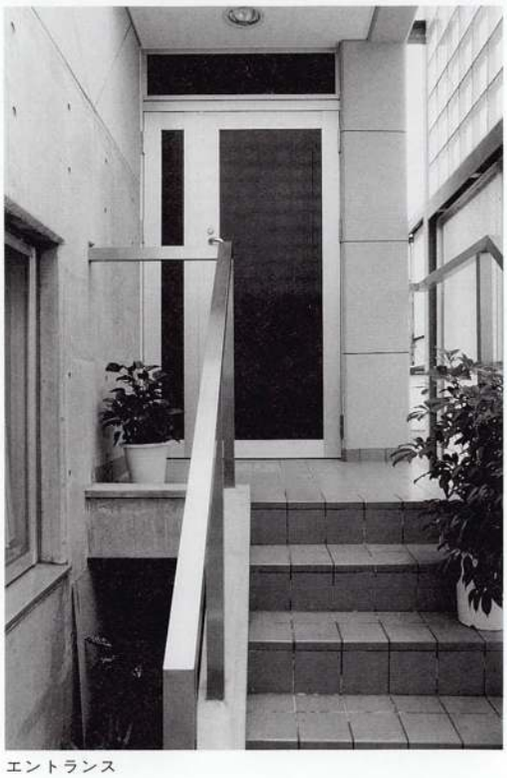
外観

所在地　宝塚市末成町19-48
設計監理　チームアルファー
構造設計　建築力学研究所・工楽舎
施　工　ダイハツ建設
敷地面積　69.68㎡
建築面積　41.37㎡
延床面積　76.66㎡
構造規模　RC、2F
工　期　1995年11月～1996年6月
最寄駅　阪急今津線小林駅
撮　影　チームα早瀬英雄

主な施工協力業者
三共開発／司興業／大吉組／倉柳鉄筋／田中製作所／大官組／山本硝子建材／シーエス／ケイロン産業／森工務店／間野塗装店／インテルナ高橋／小原総合設備／住田建設／土井庭苑　他



模型写真



エントランス



中庭からの見上げ

ようか武道館

上谷重男　U建築企画室

但馬の地域風景への参加



西面外観

所在地　兵庫県養父郡八鹿町八鹿字高場
設計監理　上谷重男＋U建築企画室
施　工　田中工務店・島田組
敷地面積　856.95㎡
建築面積　340.50㎡
延床面積　614.11㎡
構造規模　RC、2F
工　期　1994年6月～1995年5月
最寄駅　JR山陰本線八鹿駅
撮　影　U建築企画室



エントランスホール



階段部分見上げ



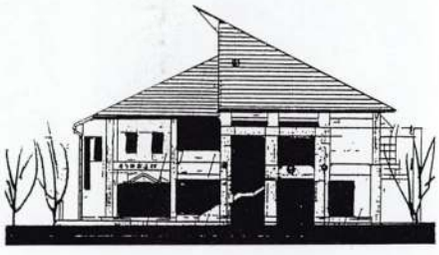
正面外観

建築を設計しながら、町並みや地域づくりを考えているものにとって、未知の地を訪れ、その地で多くの貴重な資産を知り、町づくり、風景づくりに参加できることは非常なよろこびである。

風景、地域を構成する要素のひとつである建築が美しく、人びとの視覚を楽しませることができるならば、その建築は地域風景に参加したことになる。

この建築は但馬地方のシンボルであるコウノトリがふたたびこの地の空を乱舞することへの期待をこめ、また柔道場の天井は集う子供たちへの兜のプレゼントとした。

（上谷重男）



RITZ PLAZA JOTO 高井アークビル

朝野泰行 YAデザイン一級建築士事務所

天を指すフレーム、地を指すガラスブロックをアクセントに



正面外観



エントランスホール



会員制スポーツクラブプール

大阪市の東部、花博道路と大阪内環状線の交差点に計画された本建物は、3つの用途で構成されている。

1階をスーパーマーケット、2階と3階を会員制スポーツクラブ、そして4階から11階までが共同住宅である。

外観デザインは、柱・梁をコンクリート打放し（グレー）、外壁を薄施釉の特注色モザイクタイル（サーモンピンク）で品よくまとめた。

天を指す赤黒塗装の化粧鉄骨フレーム（竪樋内蔵）、地を指すガラスブロックをアクセントとして、近接する花博記念公園との調和にも考慮した。

上階に居住する人はもとより、周辺の住民の方々にも、毎日利用してもらえる施設となるように期待している。

（朝野泰行）

所在地	大阪市城東区古市1-22-20
設計監理	YAデザイン一級建築士事務所
施工	東洋土建
敷地面積	1,438.30㎡
建築面積	860.33㎡
延床面積	3,640.54㎡
構造規模	SRC、RC、一部S、11F
工期	1995年2月～1996年4月
最寄駅	地下鉄鶴見緑地線今福鶴見駅
撮影	広兼勝美（ヒロ・フォート）

K邸

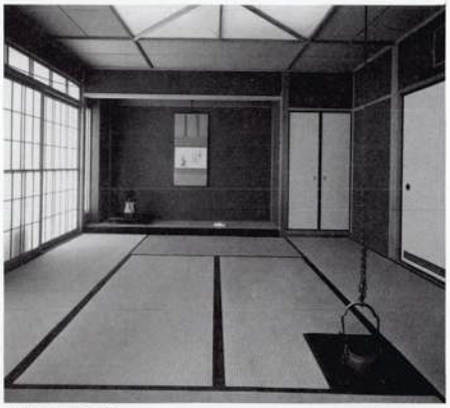
志村公夫　志村建築設計事務所

変化のある空間をつつむクラシックな外観



正面玄関

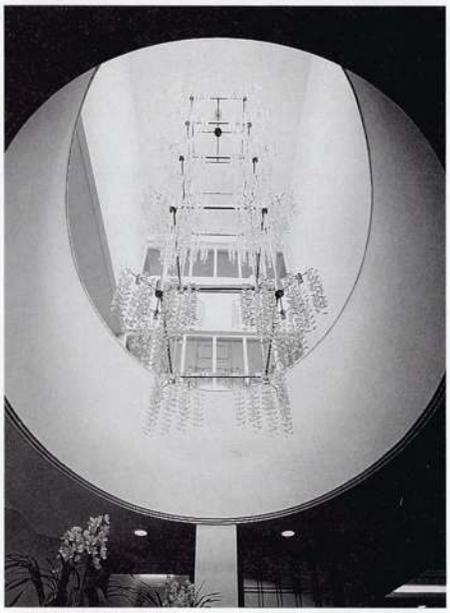
所在地　大阪市阿倍野区
設計監理　志村建築設計事務所
施　工　長棟建設
敷地面積　318.15㎡
建築面積　190.38㎡
延床面積　618.32㎡
構造規模　RC、BIF、3F
工　期　1990年3月～1991年3月
最寄駅　御堂筋線西田辺駅
撮　影　大川　彪



北棟2階和室



1階居間



北棟中央吹抜とシャンデリア

ゲストハウスを兼ねた住宅である。幹線道路から入った静かな住宅地に計画された。施主の仕事の関係で来客が多く、パーティーの出来るホールとゲストルームが要望としてあった。道路側の南棟を2階建てとし、車庫とゲストルームとした。

北棟を地下1階、地上3階建てとし、地下にホール、1階に居間とダイニングキッチン、2階に和室と寝室、3階は子供室とした。

南棟と北棟の間に玄関を設け、玄関の上は屋上テラスと和室のための庭を作った。地下ホールにもドライエリアを設け、すべての居室が南面し採光と通風が得られる。

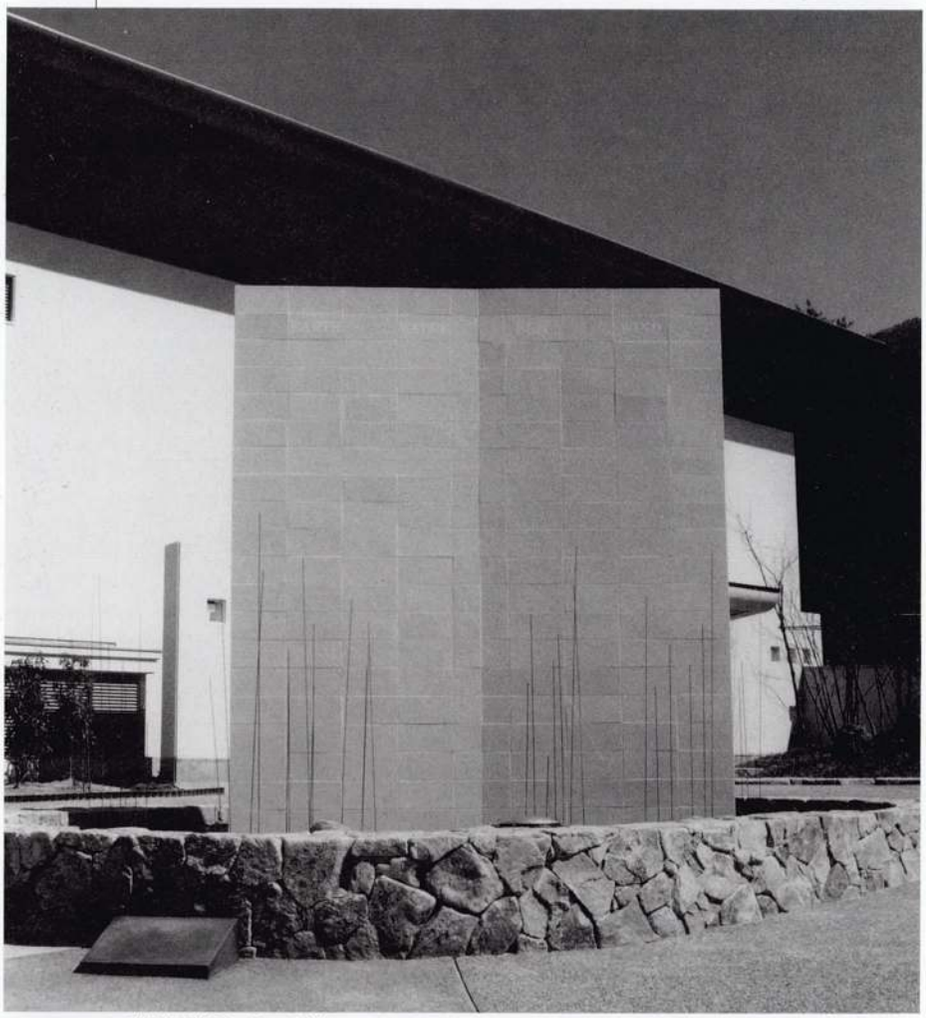
北棟の各室は明るい吹き抜けに面し、シャンデリアが各階を結んでいる。エッシャーの描いた、だまし絵の階段のように各部屋は階段で結ばれ、南棟の屋上まで立体的につながり、変化のある空間となっている。

外観はクラシックな様式を意識しているが、石と建具等のディテールからアレンジして、結果として重厚なものとなった。　（志村公夫）

美輝の里シンボルモニュメント—清流の風景—

村田直人　総合企画コンサル・プランナーク

大地・水・光・風のメッセージ



モニュメント（背景は美輝の里の建物）

岐阜県馬瀬村という南飛騨の山間地域に温泉宿泊施設を兼ねた、村営の温泉浴施設スパー美輝が生まれた。

この旋設のエントランス前庭に設置するシンボルモニュメントの意匠設計競技に最優秀案となったこの作品は、従来の単なるモニュメントとは違い、緑豊かな森や清流馬瀬川といった馬瀬村の自然をテーマにしている。

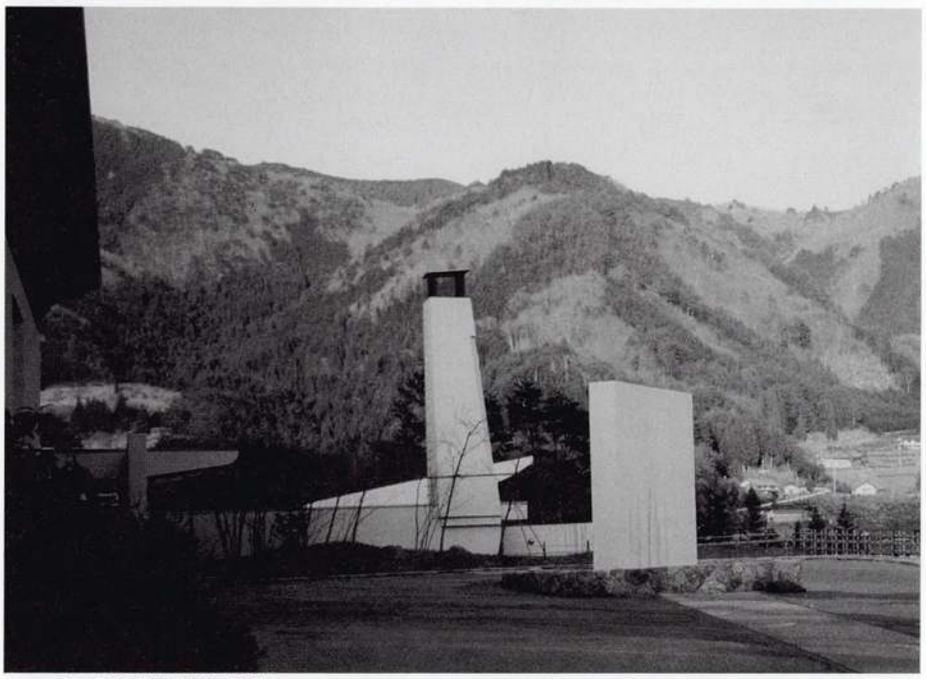
ロータリー広場のデザインは、路面を馬瀬川の清流のせせらぎに見立て、玉砂利の洗い出しによるグラデーションで表現し、その周囲の石畳は正面玄関へ通じる岸辺の小道をイメージしている。

モニュメントは、その素材にボーンチャイナを使い、透明感ある清楚な白い壁は、自然の光が池の水と風に揺らぐ葦のステンレスオブジェに反射することで、光と陰影の緊張とやすらぎの空間をつくり出す。

また、この白い壁は、夜になると内蔵されたライトが点灯し、清流を泳ぐ鮎が光のシルエットとして浮かび上がる。

この作品は設置される環境との共生を第一に考え、修景には茶庭手法の築山と植栽、石畳と洗い出しを施し、白い壁には『大地・水・光・風』のメッセージを刻み込み、自然と人間との共生を願うものである。

（村田直人）



モニュメントを囲む周辺の風景



ロータリー広場

所在地　岐阜県益田郡馬瀬村大字西村1695
総合企画　セラミ・アート／アートデザイン　山本伸樹
設計監理　総合企画コンサル・プランナーク
総合請負　ヨコハマゴム工業品中部販売
土木工事　馬瀬建設協業組合
造園工事　金網造園事務所
敷地面積　161,071㎡
建築面積　約800㎡（ロータリー広場施工面積）
構造規模　RC
工　期　1996年2月～1996年4月
最寄駅　JR高山本線飛騨萩原駅
撮　影　村田直人・山本伸樹

私の作品

三室戸寺—ライトスケープ—'96春

月光・伽藍・咲き誇る花々

村上幸三郎　村上デザイン事務所



本堂を中心とした伽藍部の夜景



1万5千株のつつじ（大植込み）の照明演出



紫陽花（1万株）庭園の照明演出

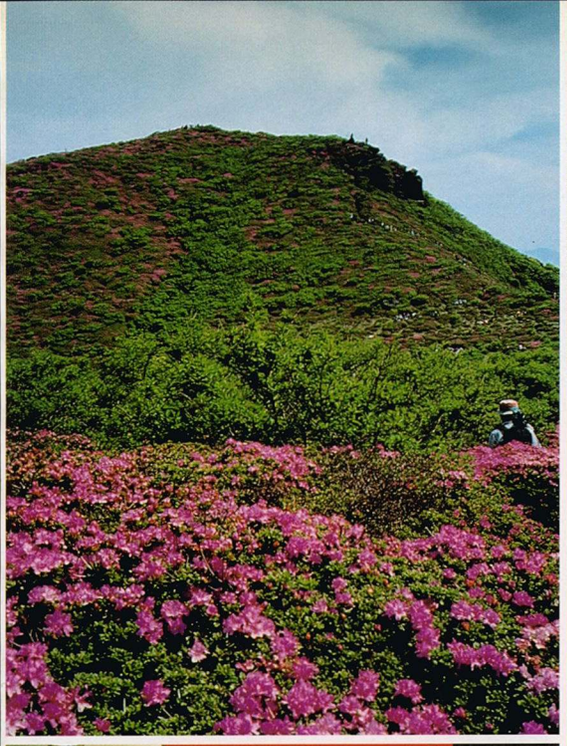
〝街の色研究会・京都〟は京都に新しい夜景を創出させようと、1993年清水寺への提案、高台寺での実験以来、高台寺、永観堂、と寺院での夜間拝観と照明演出における実績を積み重ね、京都の春秋の催事として定着させてきた。

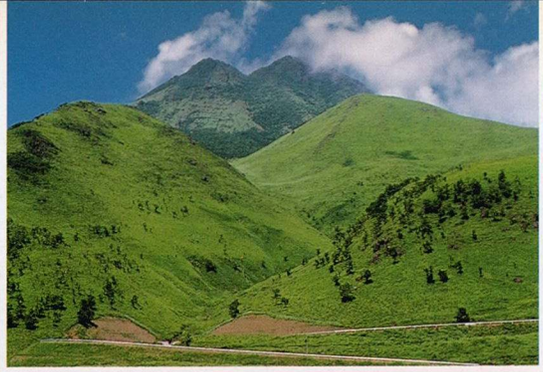
96年春は、西国観音霊場10番の札所として古くから庶民の参詣で賑わってきた三室戸寺夜間拝観における夜景演出を担当した。歴史と景勝の地宇治に在る三室戸寺の境内は、趣深い参道・山門部、本堂や三重塔などの古建築が並ぶ伽藍部、枯山水と池泉の庭園部、ツツジやアジサイなど四季折々の花模様を見せる5千坪もの広庭部で構成されている。

広大な境内の宗教的景観の中で、今日の照明技術を駆使し、爛漫と咲き誇るツツジや風情ひとしおのアジサイの照明演出を試みた。昼と異なった情感溢れる景色を、春の月光を意識した明るさでもって印象的に現出させ、多大な好評を得た。

（村上幸三郎）

所在地	宇治市蓮道滋賀谷21番地
催事期間	＜春光・つつじライトスケープ＞ 1996年4月27日～5月12日　PM5：30～9：30 ＜露光・あじさいライトスケープ＞ 1996年6月14日～7月7日　PM5：30～9：30
催事対象	三室戸寺境内—円
主催	三室戸寺
後援	京都府／宇治市／平安建都1200年記念協会／京都府観光連盟／京都新聞社／NHK京都放送局／歴史街道推進協議会ほか
企画	シー・エム・エー
協力	東芝ライテック／日本電池／松下電工／日本電機商会
ライティングデザイン	街の色研究会・京都（景観照明調査研究委員会）
仮設電気工事	日本電機商会







特集
九州の元気
ひと・自然・まち

作品
最近の建築作品　18

総説
九州の元気の源を探る
桂　英昭

ひと
世界に開かれた九州
杉岡洋一
岩田屋Zサイドのデザイン
菊畑茂久馬
元気・さわやか・笑顔
園田　勇
福岡の「元気」エネルギー事情
脇山真治

自然
基盤は森林を守ること
杉谷麗子

まち
敷地の公開とパブリックアート
永島　潮
まちづくりのベクトル「海」と「アジア」
鹿野　至
地域活性化へのインパクト
津田佳志
劇的都市・福岡の秘密
大野　誠
第三発展軸（国際軸）の起点・福岡
長谷川裕一

扉（写真）九州の元気色
山なみ：室川康男
街の赤：重松雄二
青い海：境　郁生

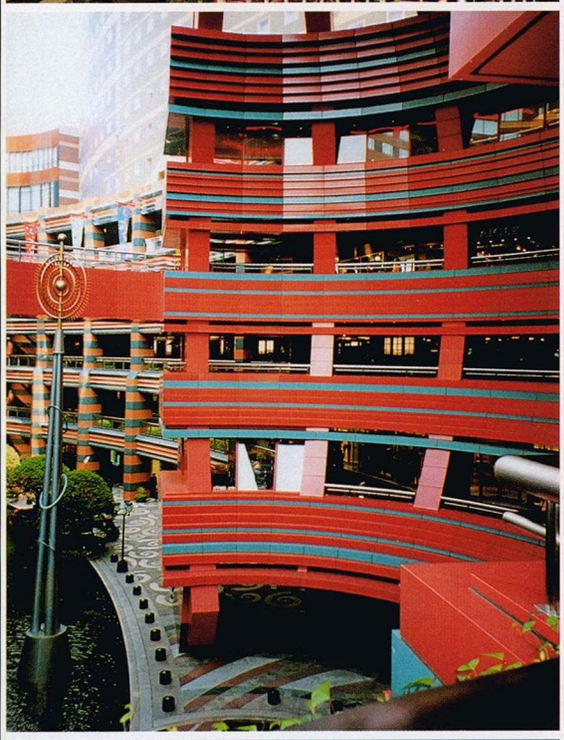
本特集編集企画委員会
桂　英昭（熊本大学工学部講師）
境　郁生（大建設計）
重松雄二（東畑建築事務所）
杉本正顕（竹中工務店）
室川康男（大林組）
森　　薫（日建設計）





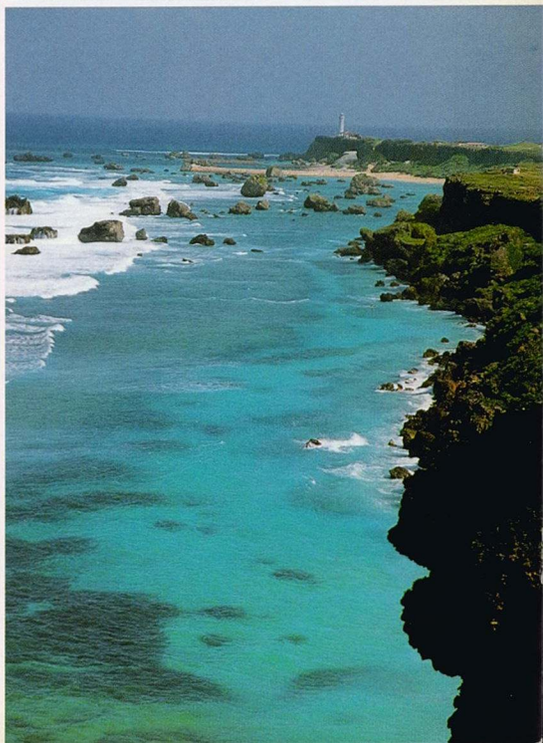














西側より全景



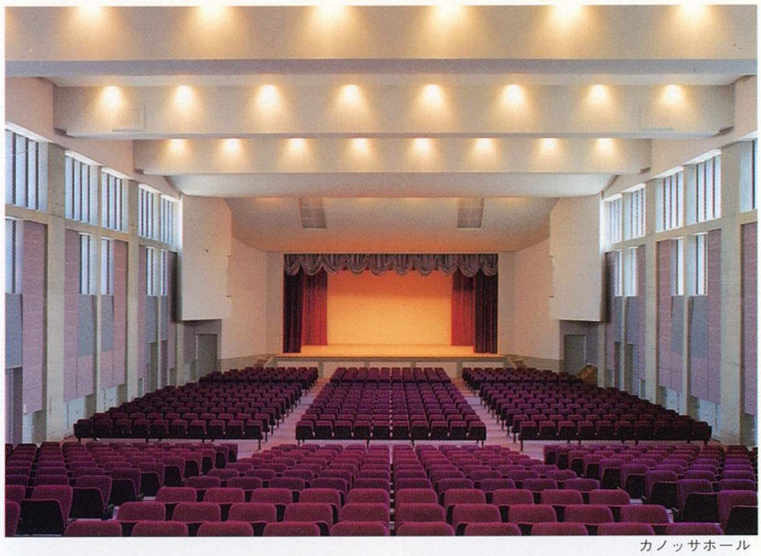
中庭より塔を望む



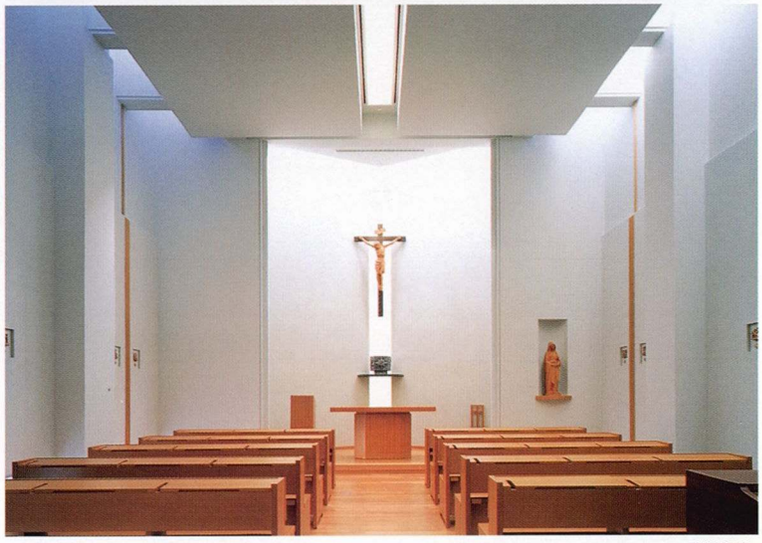
鳥瞰

明光学園本館

設計施工　清水建設九州支店

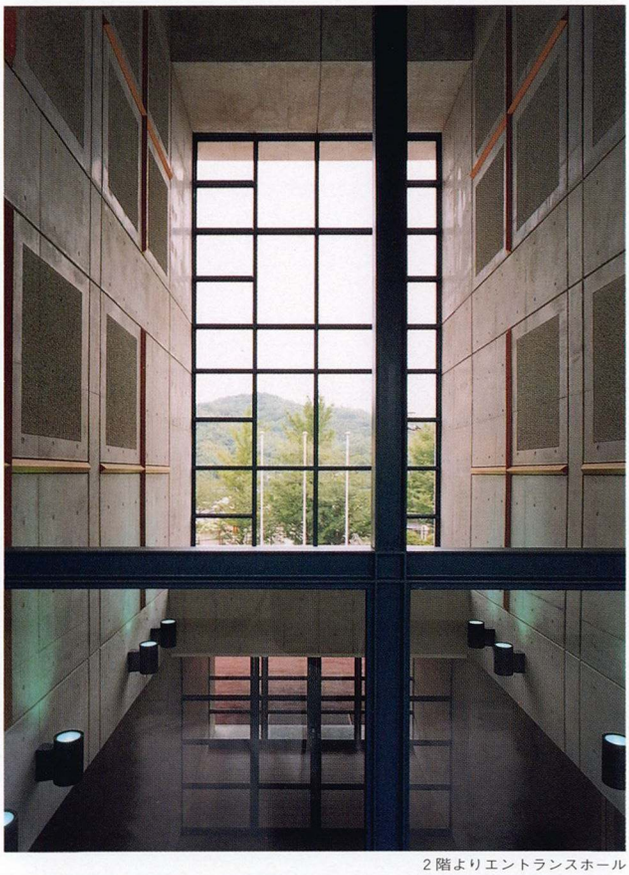


カノッサホール



2階聖堂

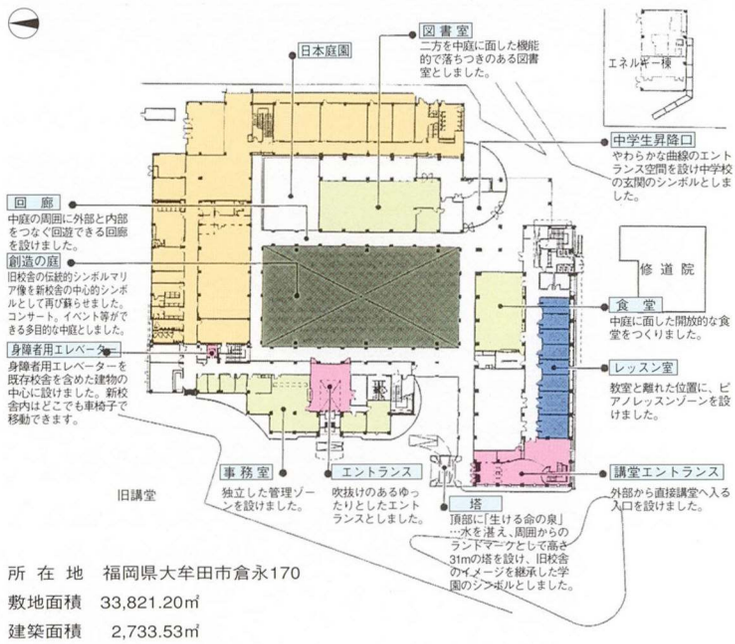
大牟田市の北に位置するカトリック系の女子中高等学校の老朽化した校舎の一部分と修道院の建替計画である。
計画に当たっての設計のコンセプトは、修道院においては、「空間の分離配置」であり、学園は「空間の融合配置」であった。修道院についてはシスター達のプライベートな生活ゾーンと、外部の人々の利用も可能な聖堂等のゾーンを、平面上の「十字形」を成した3層の吹抜アトリウムで明快にゾーニングを分離し、コンパクトな平面でまとめている。平面上の「十字形」はさらに発展させてデザインのモチーフとして建物内外に展開させた。
学園については、既存の校舎を活かしながら、どう新築部分と融合させて新しいキャンパスを造るかを計画の焦点に絞った。
新しい回廊を有する中庭空間を提案することで、意匠的にも機能的にも新旧校舎の一体感を持たせると同時に、教育空間として多様なコミュニティ空間の創生を狙った。
現代建築の中にキリスト教の歴史的特性を活かしたデザインを展開した。　（井上英孝／清水建設）



2階よりエントランスホール

平面計画

1階



所在地　福岡県大牟田市倉永170
敷地面積　33,821.20㎡
建築面積　2,733.53㎡
延床面積　5,317.97㎡
構造規模　RC、3F
工　期　1993年4月～1994年3月
最寄駅　西鉄大牟田線・倉永駅
撮　影　西日本写房福岡



南側全景

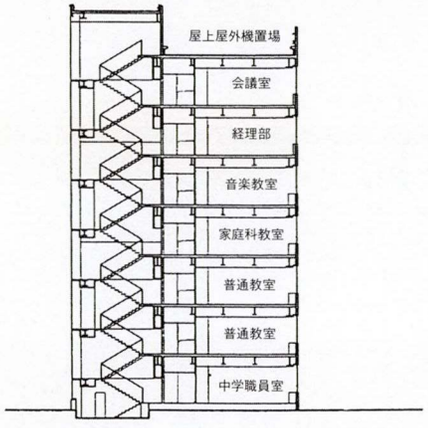
都築教育学園鹿児島第一中学校

設計施工　竹中工務店

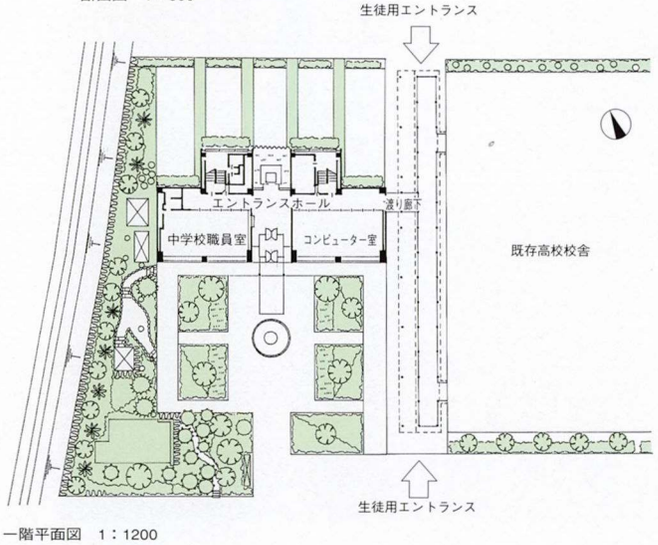
この中学校は、隣接する鹿児島第一高校との中高一貫教育を目指して計画された。内部機能は、１階から５階に中学校の教室、６・７階に学園法人本部の事務室を配置し、明快で機能的なプランニングとなっている。

生徒の心に、故郷の風景と共に学園生活の思い出として末永く記憶される空間を意図した。一つは霧島連山の眺望を生かした階段室のラウンジである。日常動線の中で積極的に演出される眺望と、廊下からの対面コミュニケーションによる憩いの場を計画した。もう一つは高校と中学を繋ぐ渡り廊下であり、３層吹き抜けとなったポルティコはシンボリックな外部空間として学園生活を演出するであろう。

外装のデザインは、グリーンとホワイトにより既設の高校校舎との調和を図り、階段室のカーテンウォールと渡り廊下はファサードのアクセントとして軽やかな表現で構成した。緑豊かな環境の中で、学園生活の心象風景として生徒に記憶されることを期待している。　（丸林　哲／竹中工務店）



断面図　1：600



一階平面図　1：1200

所 在 地　鹿児島県国分市府中字平田191-1
敷地面積　19,214.66㎡
建築面積　944.69㎡
延床面積　4,710.81㎡
構造規模　S、B1F、7F、P1F
工　　期　1995年８月～1996年３月
最 寄 駅　JR日豊本線・国分駅
撮　　影　岡本公二



北側夕景



渡り廊下より霧島連山を望む



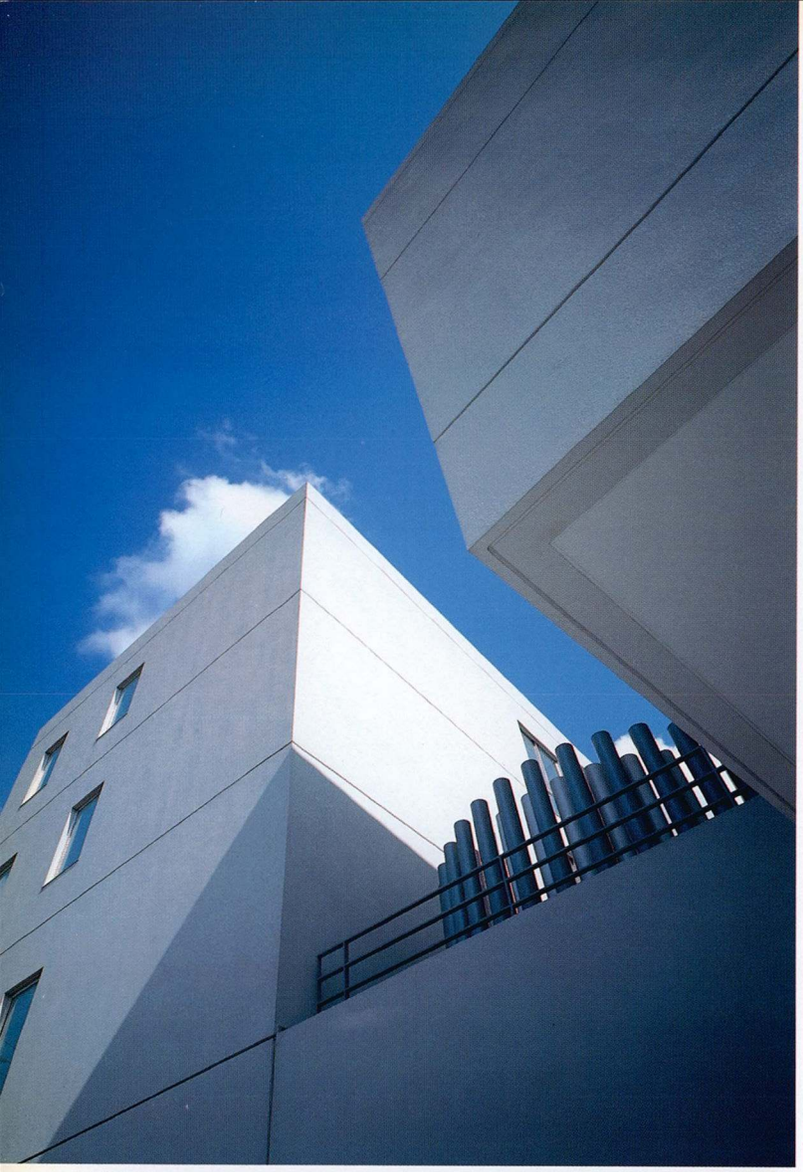
ラウンジ



ラウンジより霧島連山を望む

麻生医療福祉専門学校　北九州校
麻生テクニカルデザインカレッジ
麻生法律専門学校

設計監理　大林組九州支店
施　　工　大林組・松尾建設共同企業体



西側外観

３種類の学科を併設する専門学校（医療福祉、デザイン、公務員養成）である。敷地周辺は戸建住宅が大半を占める住宅地である。クライアントから提示されたコストは非常に厳しく、さらに事業採算性の面から最大限の教室スペースの確保を求められた。

これらの与条件に応えるために、中庭を中心に南北に２棟の建物を配置する構成が導きだされた。それにより、全く性格の異なる３つの学科を、機能的な日常動線は明確に分離しながら、それぞれの学生は中庭を介してお互いに刺激を与え合い一体感が持てることを意図した。また、作品展示スペース、学生ホール（食堂）といった共用部分を中庭に面して配置することで、近隣のプライバシーを尊重しながら、中庭と一体となった開放的なパブリックスペースとして機能させている。

教室部分は、学生のニーズの変化によるクラス編成替えにフレキシブルに対応するため、半スパン単位で天井の設備機器をモジュール化し、間仕切りの変更を容易にできるようにした。

全体的に、学生のアクティビティーを制限する恣意的なデザインは避け、デイテールも過度につくりこまず、単純化してみせている。建築としてここで学ぶ学生が互いに刺激し合いながら自由な発想を広げていくニュートラルな場を用意できればよいと考えた。

（中村　純／大林組）

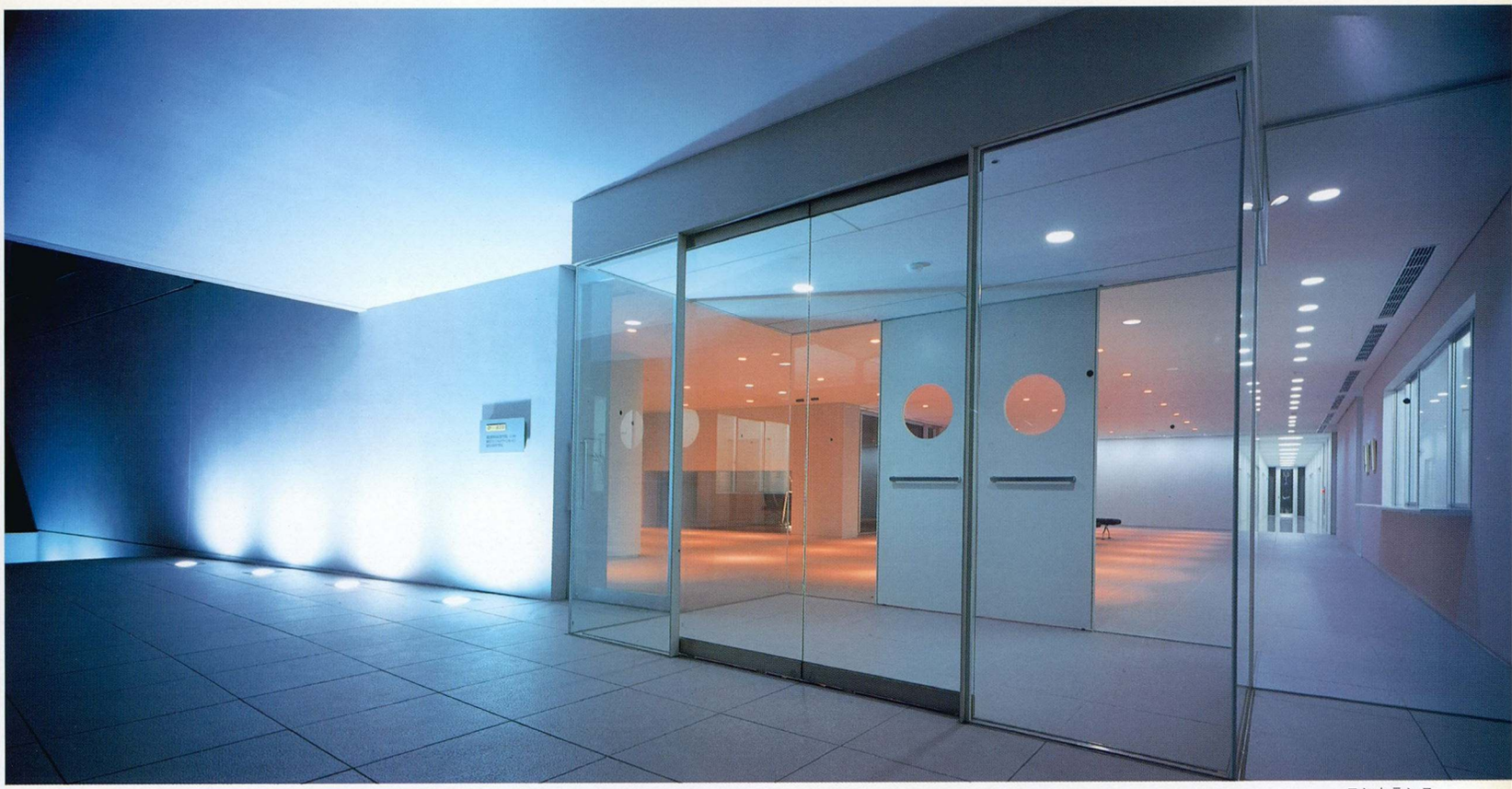


中庭

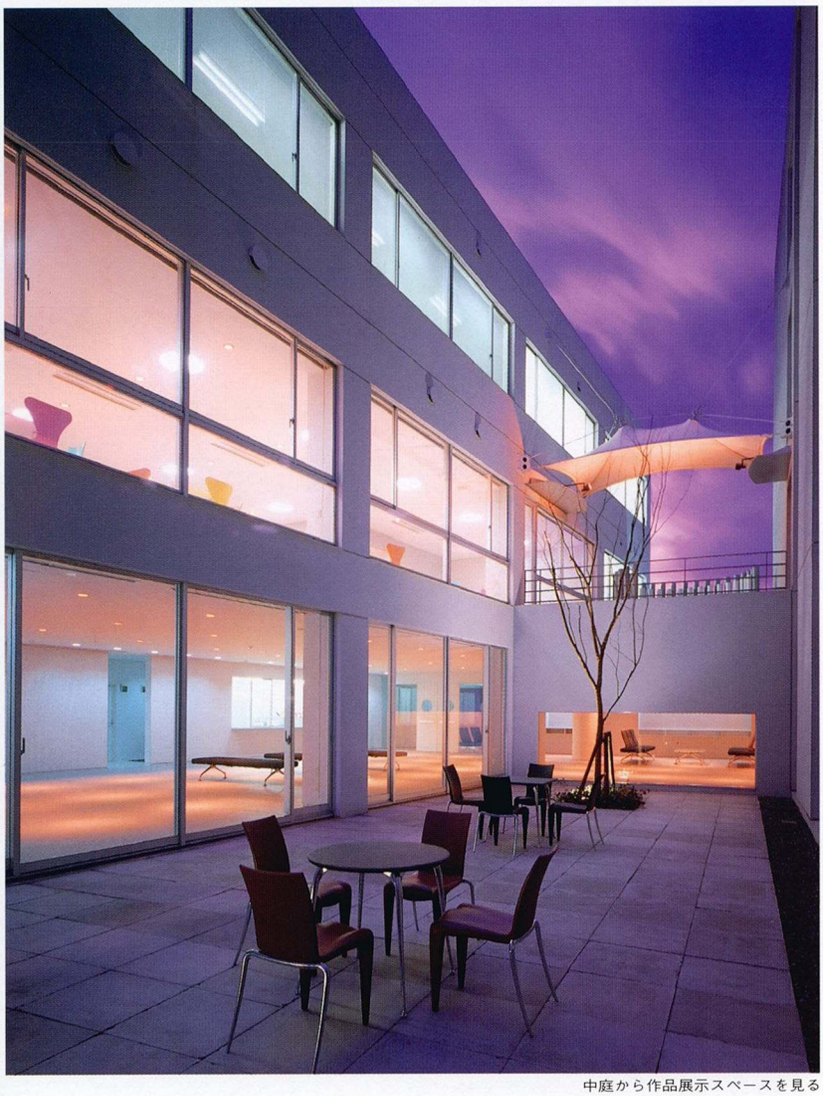


１階平面図　１：800

所 在 地　北九州市戸畑区小芝3-3-1
敷地面積　1,893.60㎡
建築面積　1,221.57㎡
延床面積　4,013.38㎡
構造規模　RC、4F、B1F
工　　期　1995年２月～1995年12月
最 寄 駅　JR線・九州工大前駅
撮　　影　MAJI.ST 松本和生



エントランス



中庭から作品展示スペースを見る



作品展示スペースから中庭を見る



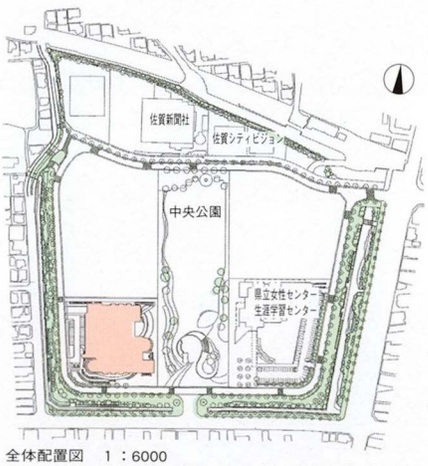
中庭に面する廊下



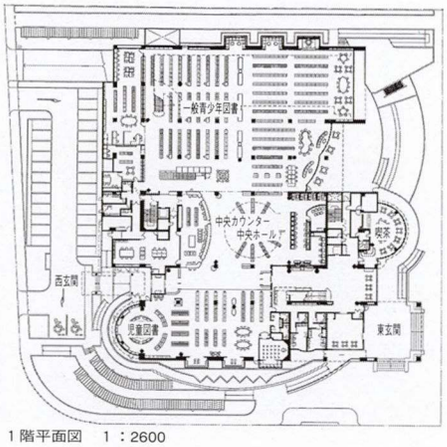
佐賀市立図書館

設計監理　日建設計・石橋建築事務所共同企業体
施　　工　松尾建設・豊栄建設・上滝建設JV


建物夕景



全体配置図　1：6000



1階平面図　1：2600



一般図書開架スペース

JR佐賀駅に近い約10haの「どん^{3}の森」は、佐賀市の都市機能の高度化、活性化を図る目的で開発された。水郷佐賀の原風景でもあるクリークを中心としたプロムナードが外周を巡り、中央には有明海をイメージした芝生広場が広がる緑豊かな景観が創られている。

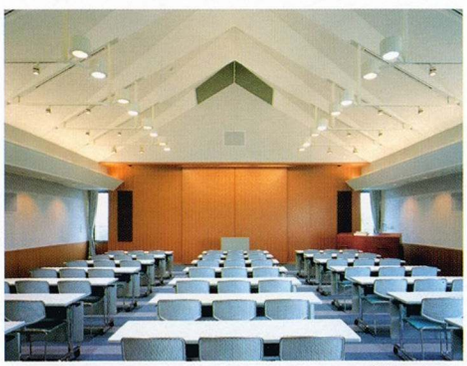
市民待望のこの図書館は、佐賀新聞社、女性センターに続き、生涯学習の一翼を担う施設として「どん^{3}の森」南角の敷地に建設された。

開架スペースはすべて１階に、中央カウンターを中心に児童、AV、青少年、一般成人等の各スペースを配置している。CD-ROMやインターネットも気軽に利用でき、3D、ソフト制作も楽しめる充実したハイビジョン設備を設けている。

市内の分館とのオンライン化、姉妹都市ニューヨーク州グレンズフォール市のクランドール図書館とのネットワーク化も計画され、新しい時代の図書館にふさわしい内容となっている。

（野田泰弘・森田一哉／日建設計）

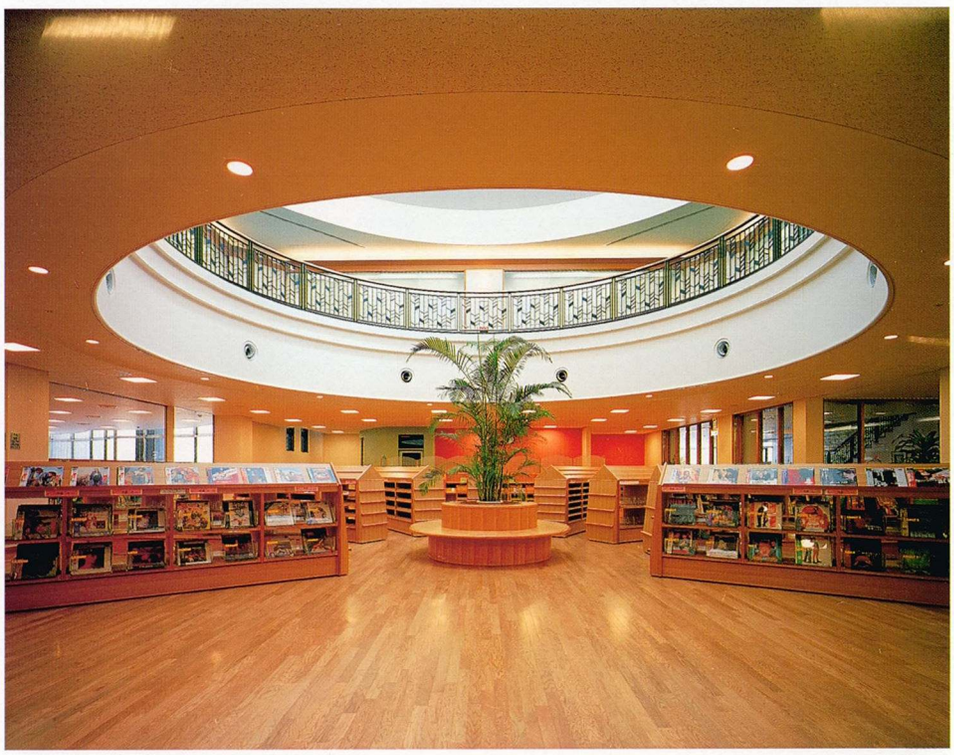
所在地	佐賀市天神3-15-24
敷地面積	7,999.96㎡
建築面積	3,972.80㎡
延床面積	9,758.29㎡
構造規模	SRC、RC、B1F、3F
工期	1994年７月～1996年４月
最寄駅	JR佐賀駅下車徒歩15分
撮影	エスエス九州



多目的ホール



喫茶



中央ホール

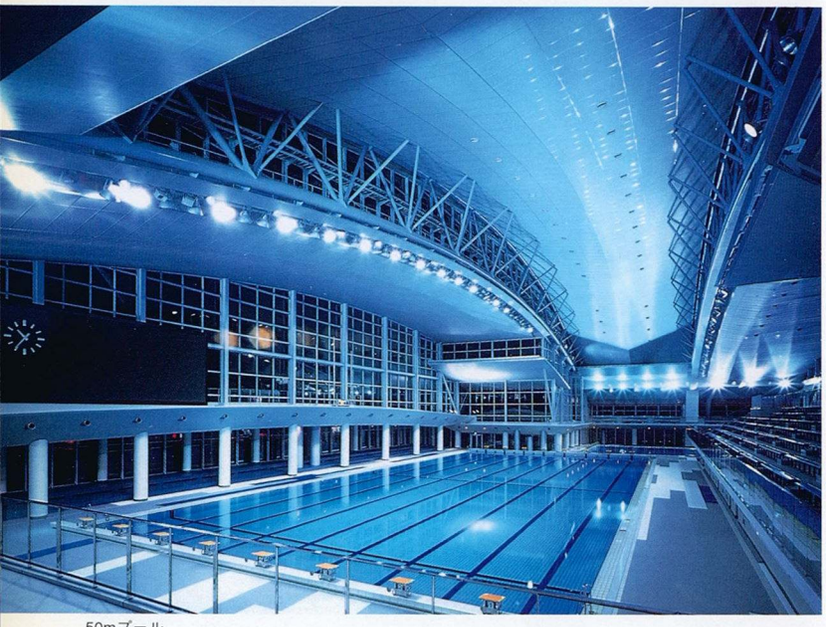
長崎市民総合プール

設計監理　長崎市建築部建築課
　　大建・パドウ設計業務共同企業体

施工　建築　フジタ・金子・親和特定建設工事共同企業体
　　電気　東光・長崎電業・東光電気商会特定建設工事共同企業体
　　空調　日立プラント・誠和・大栄特定建設工事共同企業体
　　衛生　三晃・星野・三昌特定建設工事共同企業体



エントランス夜景



50mプール

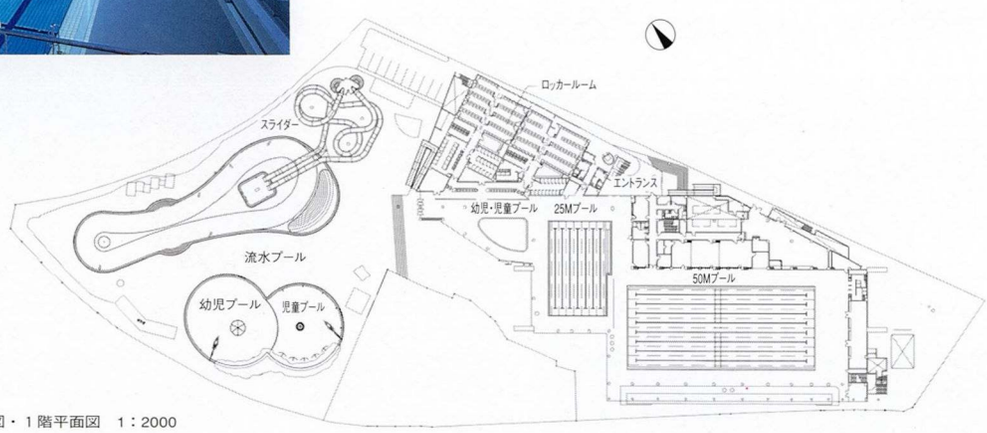
本施設は、長く市民に親しまれて来た市民プールの建替事業であり、既設プールの持っていたレクリエーション、レジャープールの要素を維持しながら、競技用プールとしての機能を付加するという条件の元に設計がスタートした。

本施設は、長崎の山並に調和するよう、なだらかにカーブを描く屋根と全面カーテンウォールによる明るい透明感のある空間が特徴となっている。

スポーツ施設としての躍動感とか、レジャー施設としての楽しさを演出する空間の非日常性という、普通では見られないような大きなスケールで施設を構成するために屋内プールは、両端ピンの２本のキールトラスにより90mの大スパンを実現している。

また、50m公認プールは競泳用として利用する他、シンクロ、水球も行えるよう可動床が採用されており、さらに可動壁を仕切ることによって左右それぞれを25mプールや児童プールとして独立して利用できるものとしている。

通年営業である本施設は、夏場の一時期を除いては暖房、加温の必要な施設であるが、ランニングコストの低減のために、コ・ジェネレーションシステムを採用し、発電機の排熱の利用によりランニングコストの低減を実現している。また、プール室全面に採用されているガラスカーテンウォールにより、積極的に太陽熱を取得するパッシブソーラーの効果が期待出来、さらに明るいプール室内は昼間は照明を必要としない為、照明にかかるランニングコストの低減をも実現している。　（井上久誉／大建設計）



配置図・１階平面図　１：2000

所在地　長崎市松山町２番地
敷地面積　14,600㎡
建築面積　6,704㎡
延床面積　9,826㎡
構造規模　RC、S、B1F、3F
工　期　1995年３月～1996年９月
最寄駅　JR長崎本線・浦上駅
撮　影　MAJI.ST　松本和生

正面夜景



正面全景



浦上川よりの夜景



デッキより

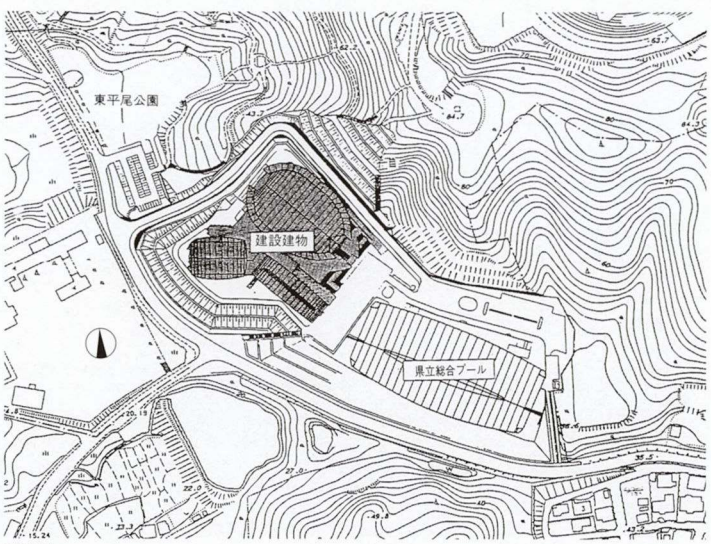
全景

福岡県立スポーツ科学情報センター

設計監理　福岡県建築都市部営繕課
　　大建・野見山・小野設計共同企業体
施　　工　前田・青木・今林・岩崎特定建設工事企業体（第１工区）
　　松村・新井・柿原・前宮特定建設工事企業体（第２工区）



東平尾公園（博多の森）全景



配置図



エントランス

所 在 地　福岡市博多区東平尾公園2-1-4
敷地面積　22,900㎡
建築面積　 8,700㎡
延床面積　23,656㎡
構造規模　RC、一部S、4F
工　　期　1993年３月～1995年５月
最 寄 駅　地下鉄福岡空港駅
撮　　影　エスエス九州、Nスタジオ



エントランスホール

建設地東平尾公園、ここは「博多の森」として県民・市民に親しまれ、陸上競技場、テニスコート、野球場などの運動施設や、春には桜が咲き、秋には紅葉と四季おりおりの自然環境と景観に囲まれ、休日には若者や親子連れで賑わっている。

この自然豊かな一角に1990年博多の森を主会場として開催された「とびうめ国体」、これを記念した県立総合プールの隣接地に生涯スポーツの普及振興と競技力の維持向上をめざす快適な施設構成をと『福岡県立スポーツ科学情報センター』が誕生した。施設はスポーツに関する研修・研究、情報サービス、科学的測定器・コンピューターを使用した健康体力増進の評価・指導および宿泊・研修室をもつ各種アリーナとスポーツを科学し、その情報を利用者へ提供する今までの体育施設とは違うスポーツ情報発信施設として建設された。

スポーツ施設は訪れる人びと、使用する人びとが主役であり、建物は脇役となる。この主役はこの施設へさまざまな色を持ち込む。その色や主役をより主役として引き立てる手段として建物内は白とグレーを基調色とし、主役の邪魔にならない努力をしている。

福岡県立スポーツ科学情報センターが「アクシオン福岡」の愛称で県民に愛され利用されることにより、健康づくりをめざす県民はもちろん、これからの福岡県の競技力を支える施設となるであろう。

（境　郁生／大建設計）



視聴覚室



メインアリーナ

今村病院

設計施工　清水建設九州支店

所 在 地　鹿児島市堀江町17-1
敷地面積　2,485.89㎡
建築面積　1,401.15㎡
延床面積　9,938.31㎡
構造規模　SRC、B1F、8F、P1F
工　　期　1992年10月～1994年5月
最 寄 駅　JR鹿児島本線・鹿児島駅
撮　　影　アイオイプロフォート



南東面全景



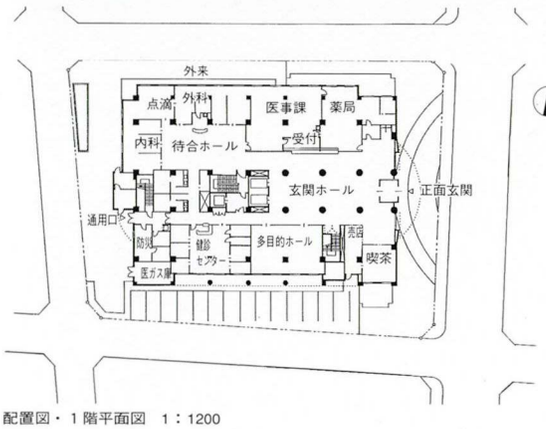
円形吹抜



外来待合ホール



エントランスホール



配置図・1階平面図　1：1200

鹿児島市の中心部に位置する今村病院は、地域の中核病院であると同時に、約1,350床を有する財団法人慈愛会の基幹病院である。計画は、病院の理念である“慈愛”をテーマに、訪れる一人ひとりの患者や見舞客を優しく包み込む —— そんな空間づくりを目指した。建物に足を踏み入れると、全層を貫く円筒形のシンボリックな吹抜空間が人々を迎える。この吹抜空間は、“慈愛”の精神の象徴として計画され、ここを訪れる人々の記憶に残ることを意図した。これは、慈愛会のシンボルとして「予防から福祉まで」のトータルな思想のスパイラルを表現したものだ。天空から降りそそぐ自然光で、刻々と表情を変え、時の流れを院内でも感じとることができる。また、閉鎖的になりがちな病院に視覚的なコミュニケーションの仕掛けとして変化を与えている。今村病院といえば「あの吹き抜けのある病院」と思ってもらえる効果を狙ったものだ。

一人ひとりの患者を中心に据えた空間づくりは、今後の民間病院のあり方を示したものである。

（木村敏夫／清水建設）



外観全景（北面）



外観全景（東面）

はこざき公園内科

設計監理　陽設計事務所・大林組九州支店
施　　工　大林組九州支店



玄関アプローチ（夜景）

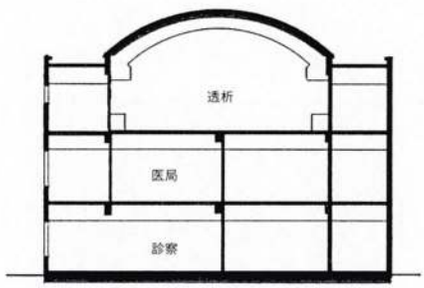
当施設は、南側に川が流れ、北と東は、近々公園が整備される、腎臓透析を主とした郊外型の病院である。
一つの特徴は、デザイン優先ではなく、企画段階の初めに、きびしい予算が提示された。それを原点とし、従来の“つもり上げ”の発想を捨て、“価格は客が決める”の視点の基、仮設計画を含め徹底して、性能とコストバランスを追究した施設である。又、環境問題を考慮し、廃材も最少に押え、ローコスト化を実現した。
第２の特徴は、運用側（病院）の視点ではなく、利用者（患者）の視点で施設構成を計画した。通常であれば、１階が診察、２階透析室、３階医局となるところを、最上階に透析室を配し、鉄骨のヴォールト屋根で無柱空間、高い天井高さ、間接照明を確保した。
一回の透析で４時間以上ベッドの上で過ごす利用者にとって、この空間はバルコニーを透して見える公園と共に開放された、ここちよいものとなっている。又、高次機能化の一つとして院内、院外LANの装備により、院内のどこにいても、患者の状況が把握できると共に、コンピューター通信で患者の情報をやり取りでき、大学病院との連携も考えられている。
将来、２期工事では、入院施設も確保され、透析センターとして利用者の視点に立った、地域医療のありかたにチャレンジする施設である。
（平野善美／大林組）

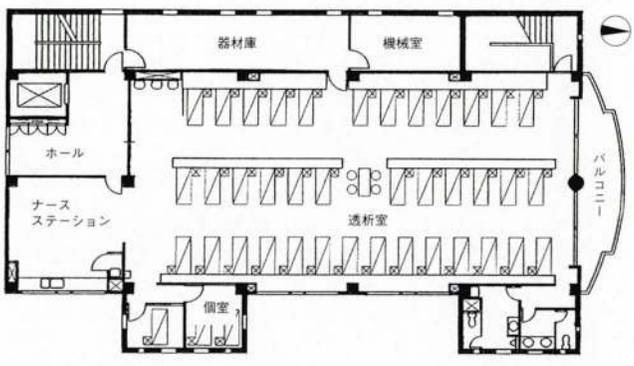


透析室



待合ロビー





3階平面図　1：400

所 在 地　福岡市東区原田4-34-26
敷地面積　1,787.85㎡
建築面積　　537.59㎡
延床面積　1,505.40㎡
構造規模　RC、3F、P1F
工　　期　1995年12月～1996年７月
最 寄 駅　JR線・柚須駅
撮　　影　Nスタジオ

南面全景



ハイサイトライトのある療養室廊下



暖炉のある談話ホール

ケアポート渓和

設計施工　鹿島建設九州支店

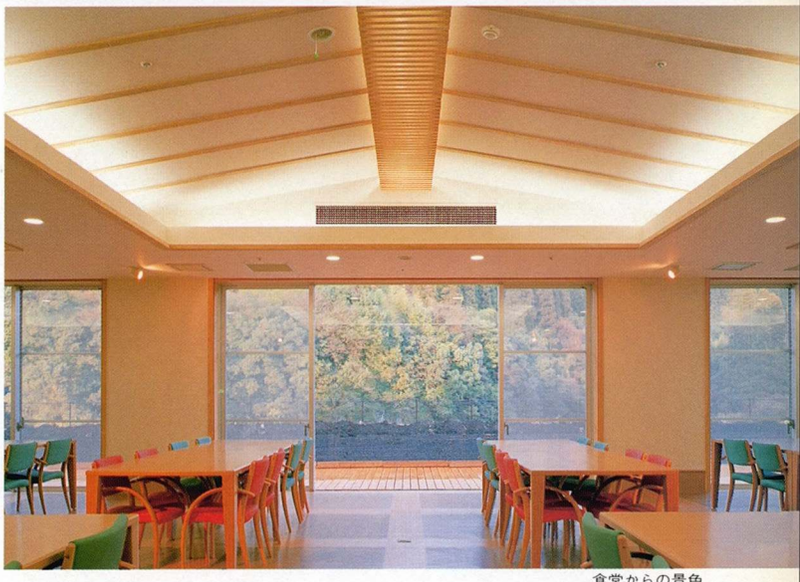


アプローチ通路より南面外観を望む

目で、耳で、香りで四季それぞれの変化を肌で感じられる地、阿蘇の大自然に囲まれた山里、九重町に建つ老人保健施設である。
恵まれた自然環境を生かし、少しでも老人の自立の手助けとなる「生活の場」を提案することを計画のテーマとした。
建物は、囲りの景観と老人の安心感をそこなわないために低層でまとめた。療養室は、二階の北と南に配している。北側は、敷地に沿って流れる玖珠川が望め、南側は、のどかな田園風景が広がり、遠くには久住の山々が望める。廊下は、ハイサイトライトを設け、やわらかい自然光を取り入れた。交歓の場として、一階の談話ホールは、時折音楽会や絵画等の展示ができる大きな吹抜空間になっており、その様子を二階の談話コーナーからもうかがえる。
又ホール中央に、長く厳しい冬場の暖をとるためのいろりをイメージした大きな暖炉を設け、それを取り囲んでの語らいや、歌が楽しめる空間となっている。照明にも、いろりの焚き火のもつ落着いた明かりを取り入れることを考えた。
間接照明とアッパー照明により天井面と壁面を明るくし、視認性を高め、かつ目にやさしい照明計画を行った。仕上げは、現地の素材の木と石を使い、だれにでも、なじめて、飽きのこない、落着いた雰囲気を作ることを心がけた。
自然環境・明り・素材の３つの要素を組合せることより、アットホームな建物にすることができた。　（松本陽一／鹿島建設）



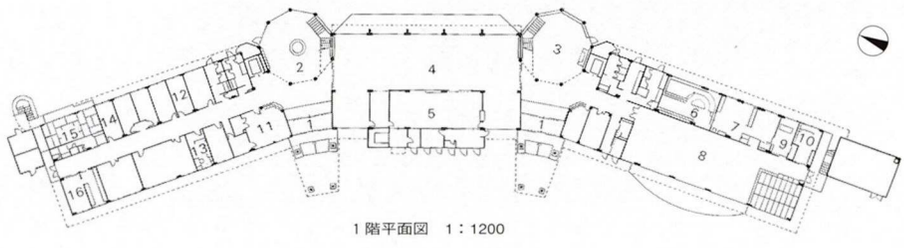
玄関車寄せ



食堂からの景色

所 在 地　大分県玖珠郡九重町大字町田5481-3
敷地面積　9,551.00㎡
建築面積　2,292.72㎡
延床面積　3,876.76㎡
構造規模　RC、2F
工　　期　1994年12月～1995年９月
最 寄 駅　JR九州久大本線・豊後中村駅
撮　　影　西日本写房福岡

1—玄関
2—談話ホール
3—レクリエーションルーム
4—食堂
5—厨房
6—浴室
7—脱衣室・リラックス室
8—機能訓練室・通所者デイルーム
9—特殊浴室
10—理美容室
11—事務室
12—歯科
13—診察室
14—ボランティア室
15—家庭復帰訓練室
16—洗濯室



１階平面図　１：1200


TNC

TNC放送会館

設計施工　竹中工務店



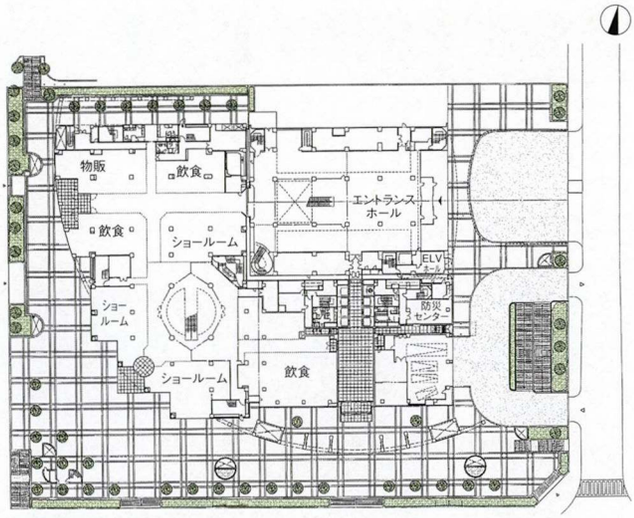
西側

当ビルは、福岡市の新しい顔“シーサイドももち”の中にあり、大きく３つのゾーンで構成されている。
低層部に商業ゾーン、中層部に放送局「テレビ西日本（TNC）」、高層部にオフィスゾーンを配し、それぞれのブロックを格子状のフレームで視覚的に囲み、複合施設をひとつのミニタウンとして形づくっている。
商業ゾーンには、４層の吹抜空間を設け、１階から３階までの店舗群からさらに４階のTNC公開ロビーまで空間に連続性をもたせている。
建物周囲の外部空間には、隣接する緑道公園、福岡タワー広場、歩道などとの一体化を図り、町並み景観に配慮して緑豊かなオープンスペースを設け、憩いの場あるいはイベント広場として市民に提供している。
白い壁面とハーフミラーガラスによる端正な外観を基調に、緑の広場の中には変化に富んだ壁面デザインを施し、さらに夜間の環境演出も加えて、福岡市の新しい風景を生み出そうとしている。

（井上誠一／竹中工務店）



全体鳥瞰



配置図・１階平面図　１：2000



商業ゾーン吹抜

所 在 地　福岡市早良区百道浜2-3-2
敷地面積　11,844.68㎡
建築面積　 4,353.73㎡
延床面積　53,232.96㎡
構造規模　S、SRC、RC、B2F、21F、P2F
工　　期　1993年12月～1996年３月
最 寄 駅　西鉄バス・福岡タワー南口（TNC放送会館前）
　　地下鉄１号線・西新駅
撮　　影　イトープロフォート



▶ホール棟エントランス

一丁目KFビル

設計監理　日建設計
施　　工　鹿島建設



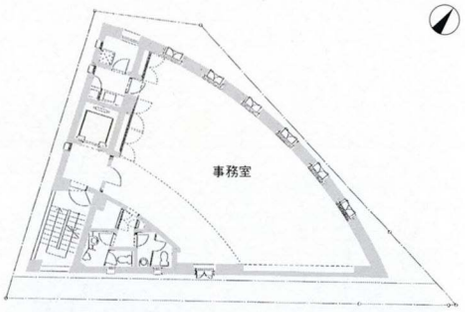
福岡市街を代表する幅員50mのメインストリート、渡辺通りの南の端に位置するこの敷地は、建物や看板が乱立している地域である。この度、市が地下鉄３号線及び都市計画道路の拡幅で買収に入り、これを機に計画は始まった。

小規模ではあるが、南へ西へと道路拡幅のために建替えされる道路沿いの街並み形成に重要なファクターをもつことにもなり、多角の敷地を印象づけるフォルムとして街角一杯に曲面でファサードをつくった。

交通量の多い交差点に面しての計画であるため、振動騒音に配慮して窓面を小さく扱い、質量のある厚い壁柱を並べ、縦線を強調した外観をデザインした。

また屋外看板については、建物と一体となるように心掛け、市景観室と綿密な協議を重ね、ネオンの色、形態の指導を受けている。

（鮫野宜美／日建設計）



1階平面図　1：400



所 在 地　福岡市中央区高砂1-1-29
敷地面積　182.15㎡
建築面積　140.13㎡
延床面積　1,078.80㎡
構造規模　SRC、RC、B1F、8F、P1F
工　　期　1995年２月～1996年５月
最 寄 駅　西日本鉄道大牟田線・薬院駅下車徒歩３分
撮　　影　エスエス九州



エントランス


エレベーターホール


基準階事務室

コンフォート博多

設計監理　大成建設設計本部
　　大成建設九州支店設計部
施　　工　大成建設九州支店

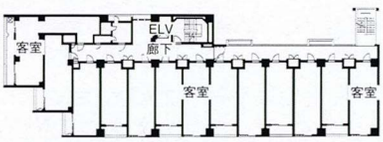


外観西面

この建物は、福岡市博多区にあり「JR博多駅」「地下鉄祇園駅」から徒歩５分、出来町公園の緑に面して建ち「コンフォートシリーズ」として、全国展開されている施設の第８番館となります。この「コンフォートシリーズ」は、①単身赴任コストの大幅節減　②電化製品・家具類一式の設置　③専属調理人が朝、夕食を用意　④フロントでの日常の雑務をサポート　⑤24時間の安全管理体制を備えた単身赴任者専用の宿泊施設です。

宿泊者のニーズに答えるべく、客室内環境の充実、食事サービスの充実、パブリックスペースの充実を計り「シリーズ」ならではの利点を生かしたきめ細い付加価値サービスを提供しています。

当建物は、交通量が多い道路に面しているため、パブリックスペースの良好な環境を維持すべく「緩衝壁」を設けており、これがデザインのポイントともなっています。　（小沼博文／大成建設）

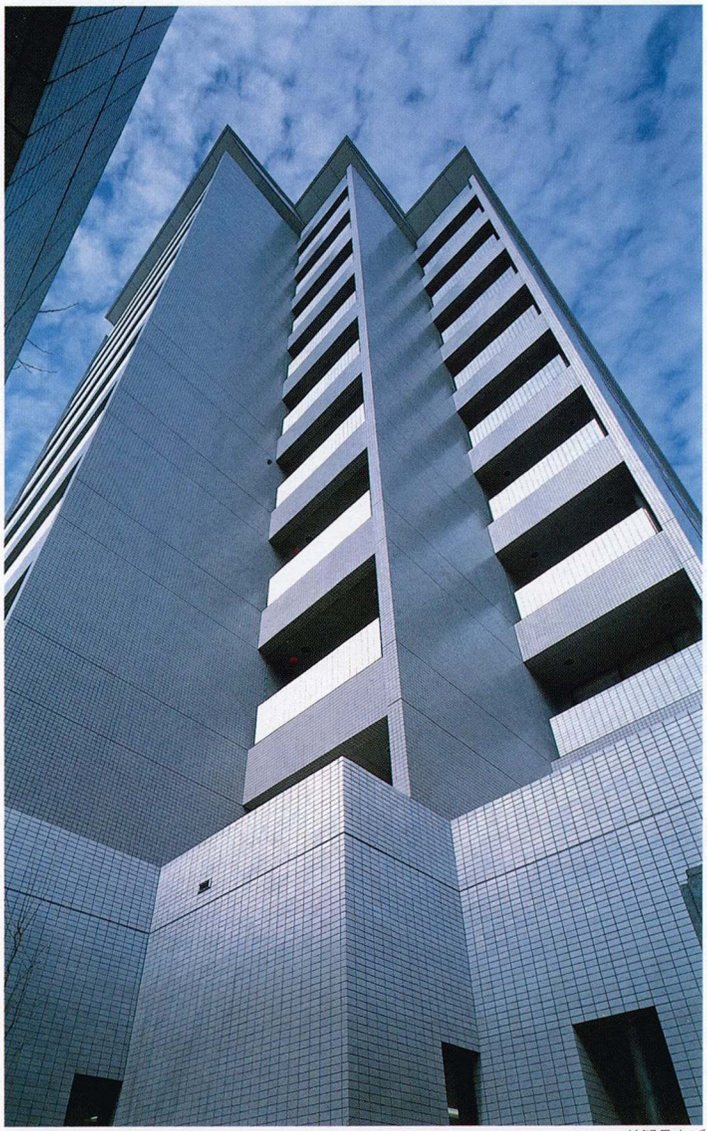


基準階平面図1：800



1階平面図1：800

所在地　福岡市博多区博多駅前1-28
敷地面積　1,054.79㎡
建築面積　721.86㎡
延床面積　5,176.67㎡
構造規模　RC、12F
工　　期　1994年１月～1996年２月
最寄駅　JR博多駅、地下鉄祇園駅
撮　　影　エスエス九州



外観見上げ



フロント



客室



アプローチ夜



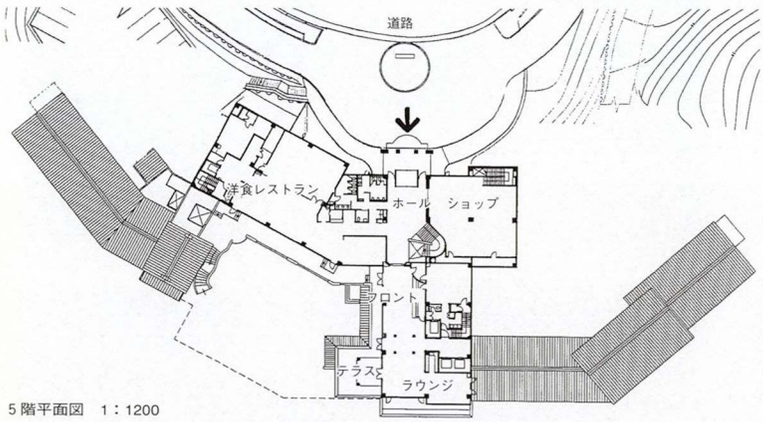
客室



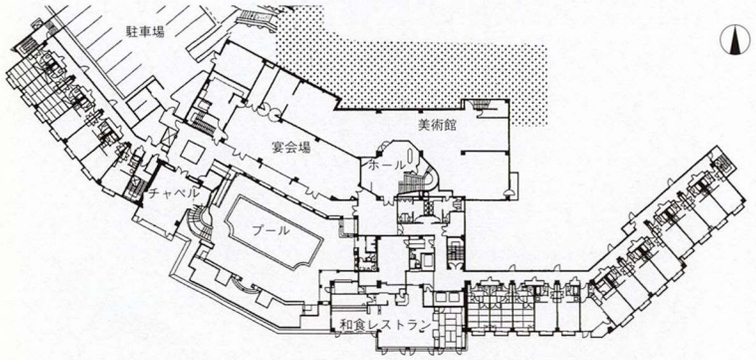
エントランス夜景

ミュゼアリゾート佐世保
弓張の丘ホテル・ガラスの丘美術館

設計施工　大成建設九州支店



5階平面図　1：1200



4階平面図　1：1200

計画地は佐世保市中心部から車で15分、西海国立公園弓張岳の山頂近くに位置する。佐世保市街から九十九島までを、眼下に一望するパノラマビューは、佐世保観光のスポットとして特に名高い。ミュゼアリゾートと名付けられたこの建物のコンセプトは近年高まりを見せる“生活の中のアート指向”を背景に多様な楽しみ方のできるリゾートを目指すもので、採算的にも機能的にも互いに独立した美術館とリゾートホテルの総称を意味している。

計画に当たっては、この地を訪れる人々にとって最大のもてなしともいえる眺望を生かしながら、リゾートに於ける解放感や期待感を演出する事、建物のボリュームを押さえ周囲の自然環境になじんだ形態とする事、美術館とホテルの独立性を確保しながら一体化する事などを主要なテーマとしている。　（古川公昭／大成建設）

所 在 地　長崎県佐世保市鵜渡越町510
敷地面積　11,688.30㎡
建築面積　2,645.28㎡
延床面積　8,034.13㎡
構造規模　RC、B1F、5F
工　　期　1995年2月～1996年3月
最 寄 駅　JR佐世保線・佐世保駅
撮　　影　豊田敏哉



プールサイド中庭



エントランスホール

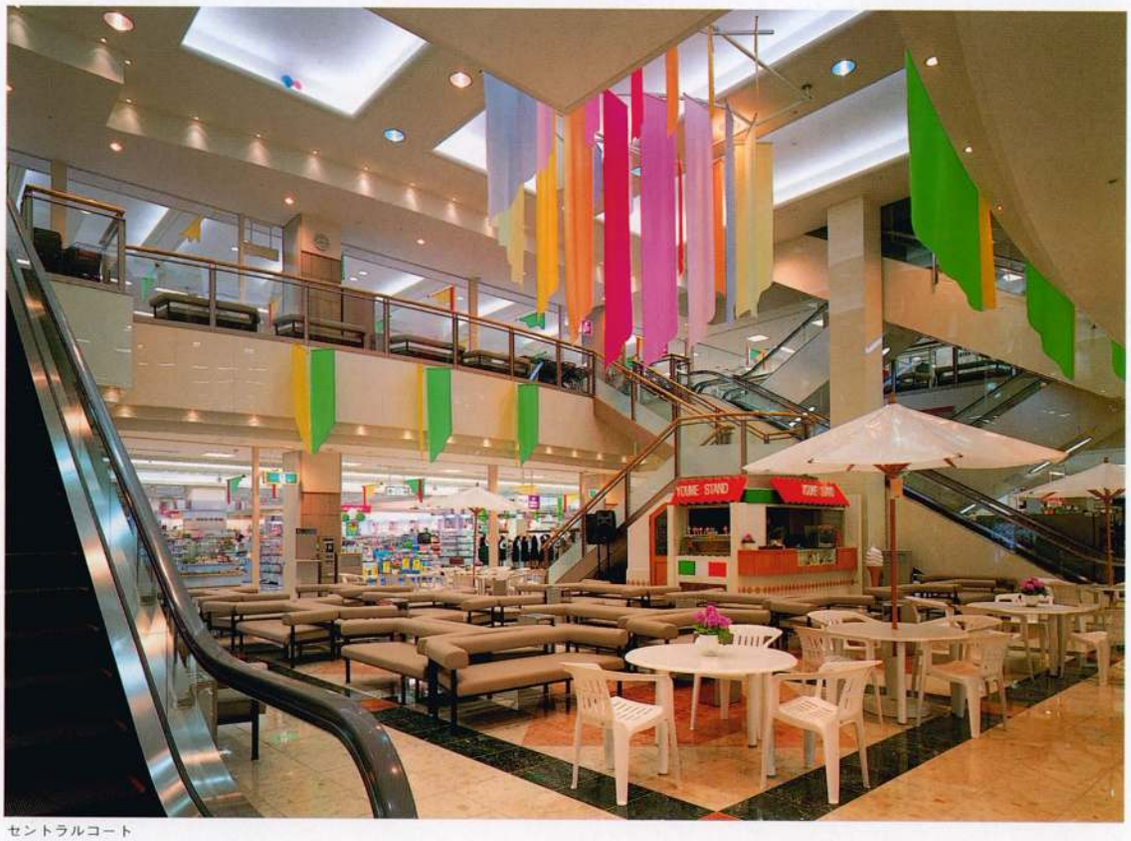


海側全景



プールサイド夜景

外観



セントラルコート

ゆめタウン筑紫野

設計施工　鹿島建設九州支店



夜景

近年、郊外型のショッピングセンター（SC）の計画・建設が目ざましい。それらSCの建築計画上での特徴は、①店舗の大型化②大規模駐車場の付加③売場の低層化④ローコスト⑤短工期が当建物を含め挙げられよう。当建物は広島に本社を置く㈱イズミの九州の核店舗として位置づけられ、計画の上では、「お客様の利用し易さ」、生産の上では、「最適構工法の追及」を主眼とした。

外観は、ハイグレード・高品質をねらった外壁としてタイル打込みPC版を採用し、ラウンドエッジで柔らかな印象を与えている。

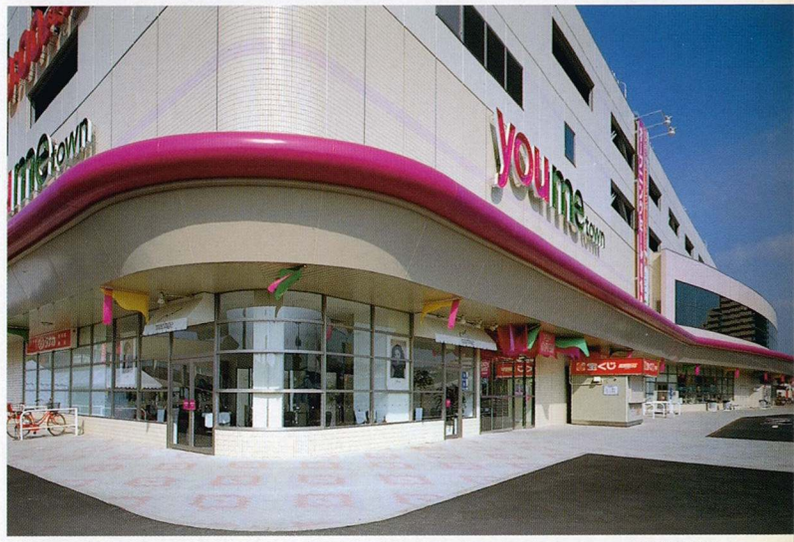
又、孤を描いたミラーガラス、イズミレッドの大庇は正面性を強調するとともに、建物のアクセントとなっている。

内部は、「清潔さ」「ここち良さ」をテーマとしたセントラルコートを中心に配置し、広めのメインモールがそれを貫くプランとした。

又、通路部分の間接照明の多用、一部スケルトン天井部分の売場の採用に依り、ややもすれば広すぎて単調になりがちなスペースを、変化に富む賑わいのある空間とした。

全体の色彩としては内外共に「清潔さ」をアピールする白色系とし、ラインやサイン等で建物を引き締めることを意図した。

（渕上紀生／鹿島建設）

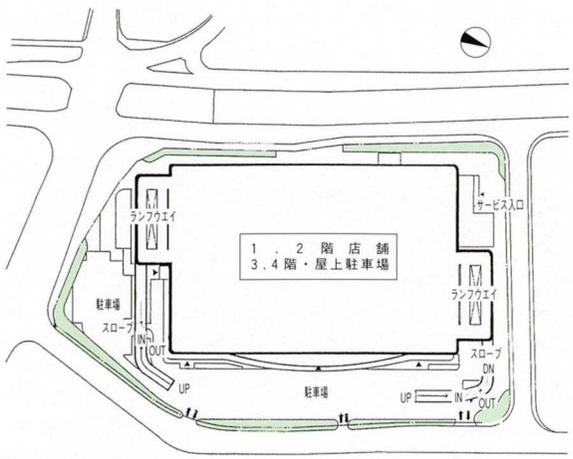


低層部外観

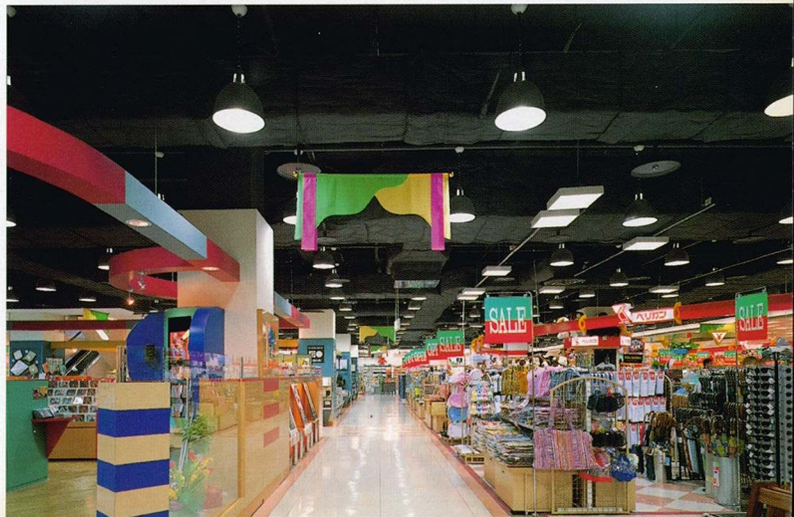


売場

▼売場（スケルトン天井）



配置図　1：4000



所 在 地　福岡県筑紫野市大字針摺30-10
敷地面積　33,383.56㎡
建築面積　18,797.98㎡
延床面積　72,036.56㎡
構造規模　1,2F SRC、3,4F S
工　　期　1995年３月～1996年３月
最 寄 駅　JR鹿児島本線・天拝山駅
撮　　影　西日本写房福岡

大野城まどかぴあ

設計監理　大野城市建設部建築課・東畑建築事務所
施　　工　銭高・松井・松本共同企業体

所 在 地　福岡県大野城市曙町
敷地面積　25,152㎡
建築面積　6,401㎡
延床面積　12,894㎡
構造規模　RC、SRC、B1F、4F
工　　期　1994年2月～1996年2月
最 寄 駅　JR鹿児島本線・南福岡駅
撮　　影　河野博之・エスエス九州



福岡都市圏にあって急速な発展を遂げている大野城市に、今年完成した大野城まどかぴあは、市制二十周年を記念して“心と文化のある都市づくり”をテーマに、隣接する市庁舎と一体的整備を図った文化・芸術・情報の交流拠点です。
私たちは、この発展する街の上に古代の歴史と自然が重なり合い不思議なシルエットを写し出している姿を見た時、ここに個性的な都市文化を育む街空間を創りたいと考えました。都市の中の都市をキーワードに街の表情を思わせる多要素の景観や、市庁舎と関係性を求めた回廊など、創造性豊かで刺激的な文化育成の場となることを意図して設計はまとめられました。
この施設にはホール、図書館、生涯学習センター、女性センター等、複数の機能が相乗的な形で配置されており、特にホールは最大990人収容できる多目的ホールとして、アダプタブルステージや残響可変装置などを備え、市民のニーズに広く応えられるホールとなっています。
大野城市の一角に位置するこの新しい小さな街、大野城まどかぴあは、市民の力強い文化意識を内在するシンボル的存在であると共に人々に愛され親しまれる潤いの「街」として末永く生き続けてほしいと私たちは期待しています。

（三浦義行・豊澤　篤／東畑建築事務所）



1F多目的ホール



大ホール

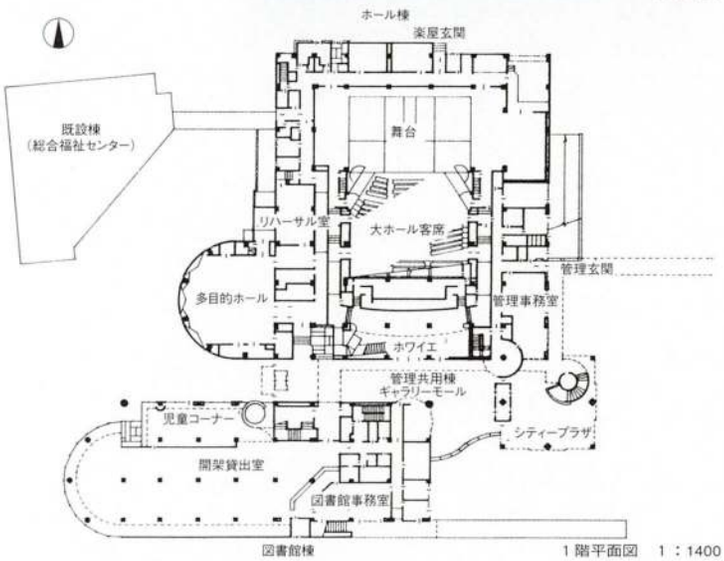




1F開架貸出室



2F喫茶室



1階平面図　1：1400



1Fギャラリーモール

外観北東面



オブジェ「オプティカルタワー」（川上喜三郎氏作）

日立九州ビル

設計監理　日建設計・日立建設設計
施　　工　大成建設・竹中工務店・鹿島建設・清水建設
　　建設共同企業体

所 在 地　福岡市早良区百道浜2-1-1
敷地面積　9,960.08㎡
建築面積　2,406.19㎡
延床面積　27,312.86㎡
構造規模　SRC、S、B1F、14F、P2F
工　　期　1993年12月～1996年２月
最 寄 駅　福岡市営地下鉄・西新駅
撮　　影　岡本公二

日立製作所の九州支社を始め、営業部門や研究開発部門も入居する九州地区の中核となるオフィスビルである。敷地は福岡市のシーサイドももちのソフトリサーチパークに位置する。周辺は国内外の有数の情報系企業が進出し、ビジネスパークを形成している。

敷地の北側には美しい博多湾が広がり、北及び東面の眺望が優れているため、オフィスゾーンを北と東にL字平面にまとめ、西側にコアを配した。周辺の街角から北側への眺望を阻害しないようコアは三角に絞り塔状のシルエットとして、アーバンリゾートに建つオフィスらしく、少しの遊びとゆとり、そしてくつろぎのある次世代オフィスを目指している。

建物は全館ショールームというコンセプトで中央監視室等も1Fショールームの一部になっている。

この地区にエネルギーを供給する福岡エネルギーサービスの施設が敷地西側の地下にあり、そのクーリングタワーは本ビルの屋上に設置されている。

（遠松展弘／日建設計）



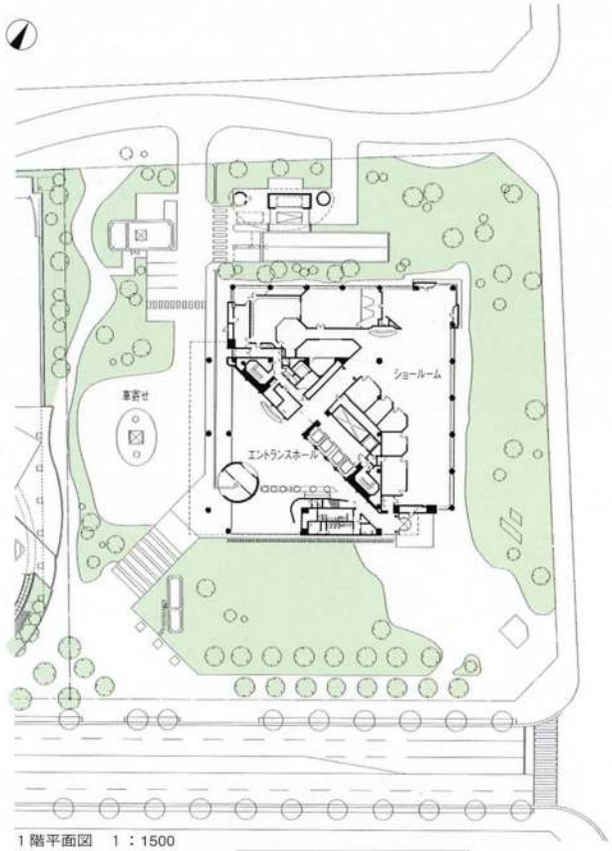
エントランスホール



基準階エレベーターホール



中央監視室



1階平面図　1：1500



東西断面図　1：1500



北九州テクノセンター

設計監理　東畑建築事務所
施　　工　竹中工務店・新日鐵・山九共同企業体

所 在 地　北九州市戸畑区大字中原114-7
敷地面積　9,883㎡
建築面積　1,355㎡
延床面積　7,176㎡
構造規模　S、11F、P1F
工　　期　1991年12月～1993年１月
最 寄 駅　JR鹿児島本線・九州工大前駅
撮　　影　河野博之



1階平面図　1：600



北九州テクノセンターは、新日本製鐵戸畑の旧工場跡地を再開発して整備された北九州テクノパークの中に位置し、21世紀の高度技術都市を目指して企業の育成と技術の高度化を支援するため平成５年に完成しました。

当施設は電子技術を核とする研究開発、人材育成、交流促進、情報提供などの事業を通じて、地域の技術的なポテンシャルを活かした新製品・新技術の開発、新分野への進出などを積極的にサポートするテクノパークの中核施設として位置付けられ計画されました。

施設の特徴は、広大な敷地の中にありながら地域のランドマークになることを意図してシステマティックなパネルとガラスで構成された高層の建築とし、多様な研究開発に対して高度なサービスが受けられるようLANの構築、OA・BAシステムの導入、レストランやリフレッシュコーナーなどのクリエイティブスペースの充実など、可能な限りのインテリジェント化が図られ研究者にとって快適な研究空間であるようさまざまな配慮がなされています。

今後、この北九州テクノセンターから新しい技術や企業が生まれ育ち、北九州市が増々発展して行くことを心より願います。

（重松雄二・三浦義行／東畑建築事務所）



玄関ポーチより見上げ



１Fエントランスホール



１Fエントランスホール



４F　EWS研修室



１Fレストラン

宮崎市葬祭センター

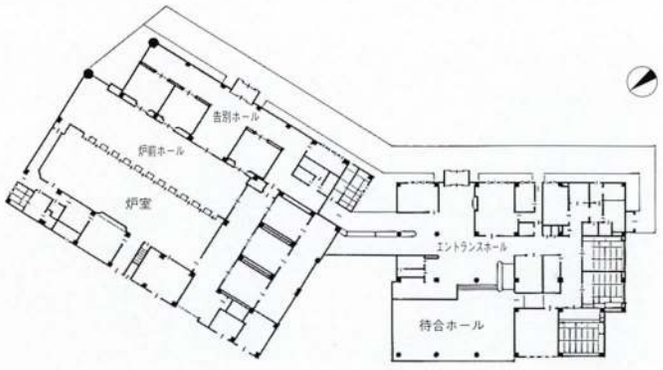
設計監理　宮崎市建設部住宅建築課・東畑建築事務所
施　　工　増田工務店



火葬棟　外観正面



遠景



1F平面図　1：1200

宮崎市の南方約５kmの閑静な田園地帯に位置する宮崎市葬祭センターは、旧施設の老朽化と対象人口の増加によって新たな施設の建設が必要となり、同一敷地内での建替えが企画されました。
対象地域は１市３町にわたり、想定46万人の人口に対して人体炉12基、汚物炉１基で計画条件が設定され、設計にあたっては複数の案を元に現状の自然を最大限残して如何に旧施設規模以上のものが配置できるか、また既設の葬祭センターを稼動させながら建設するためにはどのようにしたら良いか等、市当局と幾度もの協議が重ねられて設計は進められました。
施設には荘厳な雰囲気の中にも宮崎らしい明るさや風土が感じられることが求められ、中でも炉前ホールは死者の魂が昇天して行く光り輝く宮崎の空がイメージされ、外壁は、宮崎の土色を炻器質タイルによって表わし、死して灰となり、土へ帰る無限の哲理をイメージして全体がデザインされました。また平面計画は火葬と待合の２つの要素を明確にブロック化して、会葬者の意識の切換えがはっきりでき、動線的にも単純化が図れるよう利用者に十分配慮されたプランとなっています。
この新しく生れ変った終焉の場の周りでは、今年も大地の恵みが収穫され、生ける物への糧となって、現世の私達にそっと語りかけているようなそんな気がします。　　（三浦義行／東畑建築事務所）


待合ホール


告別ホール


告別室


炉前ホール

所 在 地　宮崎市大字郡司分乙2356
敷地面積　21,551㎡
建築面積　 3,241㎡
延床面積　 3,111㎡
構造規模　RC、2F
工　　期　1994年２月～1996年２月
最 寄 駅　JR日豊本線・清武駅
撮　　影　エスエス九州

九州の元気の源を探る

桂　英昭
熊本大学工学部講師

ボーダレスで不確定な時代を実感する。政治、経済、産業、思想、そして情報等々、人々は全てにおいて座標やベクトルの方向の多さに戸惑っている。戸惑いながらも、日々の生活や仕事は、これまでの慣性に頼らざるを得ないというのが正直なところであろう。時代に遅れまいとインターネットを駆使し、ネットサーフィンしたところで行き着く先は情報の波まかせである。このような状況下で、建築や都市などを従来の切り口やスタイルで語り合っても意味がない。

さて、九州特集である。平均年齢50才に近い編集会議をスタートさせる前に、フレッシュな大学院生16名に「九州を切る」というテーマで、A4数枚程度の短期レポートを提出させ、新感覚に探りをいれておくことにした。



レポートを大まかに分析すると12/16が九州というエリアを限定して、残り４名は日本全体やアジアというスケールでの考察であった。

まず、この結果が興味深い。レポートを提出した学生が熊本大学の学生であるからだ。九州における北部九州、特に福岡への一極集中が歴然とする中で、各地域の特色を明らかにし、住み分けを探るという意識が根底にある。

他方、アジアに対する認識も漠然としている。最近の福岡では、九州各地からＪＲで遊びにきた若者と同様に、韓国をはじめとするアジアの若者が街を闊歩している。他県においては、観光バスに乗ったアジアを見るのがせいぜいである。日常生活におけるアジアのリアリティがない。福岡の大学生に同様のレポートを提出させたなら、他県との比較は少なく、アジア・スケールの話題が８割は占めていたのではなかろうか。

次にテーマの項目チェックである。主なテーマは、情報発信、交通、イベント、学術機関、気候、食文化、勢力エリア、言語、地理、そして建築や都市にかかわるものに分類される。建築・都市に直接関係ないテーマでよいという課題指示でなかったら、もう少し専門的なテーマに集中していたかも知れない。結果的にはバラエティ豊かで、若者の感覚を垣間みれるものであった。

これらのテーマを更に分析すると、九州をひとまとめ、或いは細分化するために歴史的な地理、気候、風土、文化を手がかりにするアナログ的なコンセプトと、最新の情報発信やイベントのデータなどを用いたデジタル的なコンセプトによる視点の２つに大別される。

このこと、つまり、これまでの九州各地域の関係性を引きずりながら今後の九州の未来像を描いていくか、過去を一応断ち切った上で新しい関係を構築できるのかという問題設定の有無こそが、実は今回のレポートで探ろうとした核心であったことは言うまでもない。

ところで、本特集の編集会議は、「九州らしさ」―九州各地に残る伝統的な技術・遺産、「九州プロデュース」―最近、九州に続々登場し始めたインパクトある建築・都市、「九州パワー」―九州は元気ですねという外部の声の３テーマに絞って、いきなりスタート。

物理的な事象を追う企画は、これまで幾度となく繰り返されてきたこと、「建築と社会」の社会という部分に迫りたいとの共通認識から、「九州は元気である」の九州外部の声に何らかのかたちで答えようというテーマに決定する。

いざ「九州の元気」という話題になると、

「今、九州は元気である」

「まだ、九州は元気である」

「まだまだ、九州は元気である」

という！、？や？？が入り乱れる論議の展開となった。

言うまでもなく、九州は昨年の九州縦貫自動車道の開通に続き、今年の３月には福岡日田 ― 大分湯布院を結ぶ九州横断自動車道が完成した。福岡ドーム、キャナルシティ博多、北九州スペースワールド、長崎ハウステンボス、宮崎シーガイア、熊本アートポリスなどなど、情報発信には事欠かない。九州新国際空港、九州新幹線、長崎―熊本―鹿児島を結ぶ３県架橋などの構想、九州西回りバイパスの建設、大分でのサッカーW杯開催等々。

さらには、世界が経済成長軸をアジアへシフトしている状況が、東シナ海に位置する九州を否応なしに注目させるダメ押しになっている。当然、外部の声が「九州は元気である」となることはわかっている。バブル時代以降は、そう言い切れないのが、先の論議の元である。デジタル―不連続な時代の自信（予測）は頼りない。

そこで、である。このままアナログ的に、或いは予測のつかないデジタル的な展開を問うことなしに、九州パワーが将来にわたって発揮されることを確信する！？編集者一同は、九州の秘めたるパワーの「源」を各自が持ち寄って紹介する本特集を企てた次第である。

世界に開かれた九州

杉岡 洋一
九州大学総長・医学博士

九州の活力は九州人の持つ世界に開かれた心と、創意と先見性に裏打ちされた冒険心、そして協調性にあると思う。決して排他的でなく、広く異文化を受け入れ、これを醸成し新しい文化を形成するという、九州人の習性が古代からその地理的条件と相俟って形作られたと考える。

九州大学の所在地である福岡市（博多）では、縄文前期の古代より、朝鮮南部との地域交流があったとされ、弥生時代から約2000年以上に亘って東アジアを通じ、日本の顔として世界への交易が行われていた。すなわち出土した多くの遺跡や「漢委奴王国」の金印、鴻臚館跡など、他に類をみない大量の埋蔵文化財が古代から活発な外交・交易が福岡を通して、東アジアと行われていたことを雄弁に物語っている。また、交易のみならず、奴国、伊都国など大和朝廷以前の古代日本の国家形態が存在した福岡地域は、当時の日本にとって重要な役割を担っていたと思われる。


九州大学本部第一庁舎（大正14年３月竣工）

このアジアと近接した地理的条件は、時として他国からの脅威に晒されることとなる。その最大のものは元のフビライによる元冠であり1274（文永11）年と1281（弘安４）年の２度にわたる博多湾への襲来となった。
文永の役では軍船900、28000人の軍勢が襲来し、その一部は上陸を果たしたが交戦の結果一夜で撃退されたといわれる。弘安の役では14万の軍勢の襲撃を受けているが、後に神風と呼ばれた台風と、元寇防塁によりこれを阻んだ。

この防塁は文永の役後、再度の元の襲来に備えて博多湾の濱に高さ３米、20キロにわたって構築されているが、当時の鎌倉幕府の指令があったとはいえ、九州各国の協力、分担作業により完成した訳で、国難における九州各地の協力による防備と迎撃が効を奏し、この大軍を撃退し国を救ったといえる。正に九州は一つの協調の賜と思われる。九州男子の活躍は明治維新へと連なってゆく。

この他、九州を中心とした世界との交流は各地にみられる陶芸や、長崎の蘭医学、種子島にポルトガルよりもたらされた火縄銃など枚挙にいとまがない。いずれも独自性をもったものに作りあげられ日本全国に広がった。陶芸品にあっては自国に留まらず欧州にもゆき渡った。

九州大学は東京・京都帝国大学に次ぐ第３の帝国大学を九州に設置することが議会に建議され、福岡県・市の積極的な誘致運動により、県立福岡病院のあった現医学部所在地に1903年、福岡医科大学が設立された。当時の国家財政上の理由でまず医科大学の誕生となり、法令上単科大学が認められなかったため、京都帝国大学福岡医科大学とされたが、設立当初より九州帝国大学として第１高等学校を始め全国の俊才が集まり、初期より橋本病の発見など世界に冠たる業績が挙げられた。1911年工科大学の新設と合わせ総合大学として九州帝国大学と称されるようになったが、東アジアと近接した地理的条件と、古代からの博多の歴史に育まれて、アジアを通した世界に開かれた大学としての特色ある伝統を維持し続けている。すなわち多数の学者がアジア大陸でのさまざまな分野での研究活動に従事し、膨大な研究学術資料・標本が蓄積されている。また、医学を手始めに教育にも大いに貢献したため、東アジアの大学の中には未だに日本語の教科書を用い日本語での教育が行われているところもある程である。世界に業績を問う姿勢は現在も変わらず、これが研究者一人あたりの欧文論文作成係数でオックスフォード大に次ぐ世界第２位の実績となっている。また、現在816名以上のアジア地域を中心とした留学生を受け入れ、その数は年々増加し続けている、また、アジアのみならず、米国の有名校学生を一年間の短期留学生として受け入れたのも我が国最初で「Japan in Today's World」プログラムとして３年目となり、好評を得ている。すなわち、九州大学は設立当初より、アジアの頭脳、知的拠点として存在し、その成果を誇ってきた。21世紀を目前に、このボーダレスの時代を迎えて国際化の先駆的大学として過去の業績をふまえ世界に開かれた大学としての一層の活躍と貢献が期待される。

九州帝国大学の設立により、福岡市は発展したが、九州大学は福岡に設立されたことにより、アジアを通じて世界に開かれた大学としての特色を備えることが出来た。

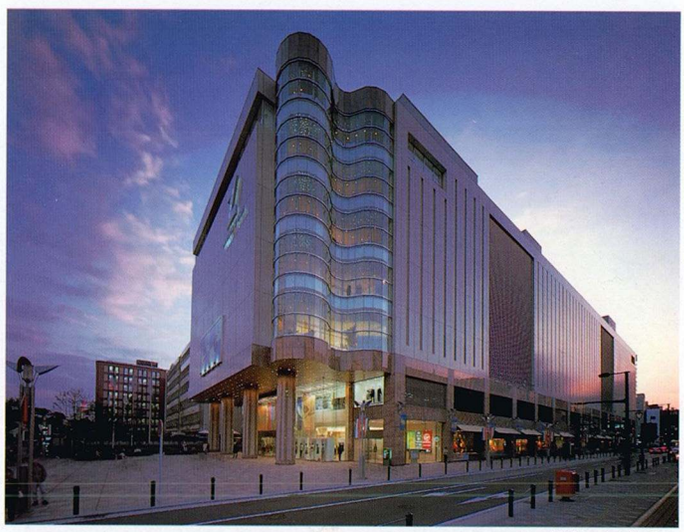
昭和30年、1955年12月、中国の指導者郭沫若先生が母校九州大学医学部を卒業後32年ぶりに訪れ、講演した折の一節を紹介し稿を終える。「大正７年九州帝国大学医学部に入学した。なぜ、東京へも京都へも行かずに福岡へ来たかというと、私は福岡が好きなのです。昔から博多は中日両国の文化・経済交流の重要な場所だったから、九州帝国大学を選んだのです。母校から、母校の先生方から沢山よいものを学んだ。それは祖国を愛し、人類を愛し、真理を愛し、平和を愛することである。母校の教育理念は変わらないと信ずる。」と。種子島宇宙センターでは純国産大型ロケット「H2」が打ち上げられ、九州は世界のみならず、宇宙への日本の玄関でもある。

岩田屋Zサイドのデザイン

菊畑 茂久馬
画家

本年９月22日に開店した岩田屋百貨店Ｚ（ジー）サイドの外観及び外周のデザインを担当したが、その完成までの経過をたどってみよう。1993年の初秋、突然岩田屋百貨店の副社長石井康夫氏より、お会いしたいとの電話を受けた。出掛けていくと、会議室におびただしい建築パースのパネルがずらりと並べてあった。

これは、今計画している岩田屋新館Ｚサイドの外観デザインのパースだが、どれもこれも全部気に入らない。諸手続の期限はぎりぎりで、事態は切迫し、一刻も猶予がない。ここに至って、あえて建築家ではない画家の貴方に白羽の矢を立てた。一つ外観デザインを思い切りやってくれないか、というお話しだった。岩田屋の命運を賭けた気迫のこもるご要請だった。詳細な計画をお聞きする内に、すごいスケールと、今までどこも試みたことのない未来志向の冒険心に、聞いていて総身が粟立ったのを覚えている。



撮影：岡本公二

その時以来丸三年、完全にこの仕事に没頭することになった。まず岩田屋百貨店の開発担当スタッフが私に張りつき、そしてNTT九州不動産設計部及び竹中工務店設計部が、バックアップする体制が整えられた。すぐさまアトリエにこもり、外観デザインの基本的構想を練り上げるために、来る日も来る日も、デザインのラフスケッチを描きまくった。岩田屋百貨店は、長い歴史と伝統を持つ九州第一の百貨店の地位を常に保持し続けて来た。この岩田屋が、21世紀に向って、生死を賭けて更なる飛躍を計ろうとしている。デザインはこのような岩田屋百貨店の積極果敢な意志を表わし、厳しい物販業界の現実や流動する時代に微動だにしない堂々たるものにしなければならない。加えて今日まで幾世代にわたって地元の人たちに支えられて来た信頼と愛顧に応え得る親近感のあるものにしなければならない。敷地8,777㎡、７階建て、総床面積64,018㎡にも及ぶ。このようなスケールの大きな、単体の百貨店建造物は、九州にはほとんど例がない。

まず第一に、力強く、そして建築本体そのものが、夢を抱きしめた美しい容器であること。次に何よりも百貨店としてのあるべきデザインを踏みはずさないこと。すなわち膨大な商業空間を内蔵し、それがさまざまに複合、集積しては拡散を繰り返す密度の濃い内部を、いかにデザイン的にシンボライズさせ得るか、この要件をきちんと踏まえた容器の外観でなくてはならない。スタンスの短かい流行性や、珍奇な前衛性は、ことごとく排除した。デザインが長い風雪に耐え、いつまでも風化せず、落ち付いた美しさをたたえていなければならない。そこで私は三つの基本的なデザインの柱を立てた。第一に岩田屋百貨店としての気品を漂わすこと。第二に限りなく優美でファンタジックであること。第三に躍動的であること。この三つの要素を、調和のとれた美しい音色で謳い上げることを常に心掛けた。更に岩田屋Ｚサイドの立地は、天神西地区の都市再開発の拠点の位置にあり、岩田屋Ｚサイド館完成を機に、この周辺一帯の環境は一気に変貌する。Ｚサイド館は、その意味で、街と共に、美しい潤いのある都市空間を作り上げる重大な責務を担わされてもいたのである。建物と東西二つの広場、137mに及ぶ北側壁面に沿う道路、どこも周辺環境におよぼす影響ははなはだ大きい。

私の基本的な構想が決まってからは、連日全スタッフが集まって、朝から晩までぶっ通しの会議が始まった。細部にわたるディテールのスケッチを次々に提示し、これを設計の専門スタッフが受けて、一つ一つ検討作業に入る。設計に素人の画家が、次々にイメージデッサンを提示し、それを専門スタッフが建築的に分析解読していく。想像と建築、夢想と現実、異質な文脈が火花を散らし、合体して、新しい未知の回路に新鮮な血液を流していく。こういう建築における設計システムは、国内外でもめずらしいのではなかろうか。

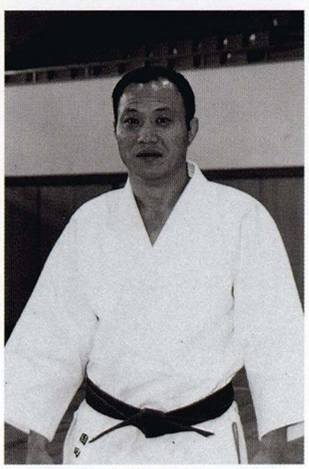
実にドラマチックな芸術と建築の総合的なシステムが見事に稼働した。

画家に外観デザインをまかせて、最後まで一言も口をはさまなかった岩田屋百貨店の中牟田健一社長の英断と勇気には、まかされた私が驚いている。こういった思い切った冒険を堂々と実行するところにも、福博の都市の活力の源があるのであろう。Ｚサイドの建物の三方の角に設置した巨大なガラスのオブジェには、総数75,000本に及ぶ光ファイバーが埋め込まれ、さまざまな光の演出を展開する。この夢のような構想を、ものの見事に実現させたのも、専門のスタッフたちがエンジニアとしての誇りを発揮して取組んだ成果である。このＺサイド館は、一人の画家と多勢の建築プロ集団が一体になって作り上げた文字通り夢の建築物である。

元気・さわやか・笑顔



西日本新聞社提供



田村亮子選手とは、彼女が小学校４年生のとき出会い、中、高校合わせて９年間指導してきた。その間、福岡国際大会初出場で優勝という輝かしいデビューであった。この福岡国際大会で６連覇を達成。高校時代は世界選手権優勝（バルセロナ）、バルセロナオリンピック銀メダル、アトランタオリンピックでは優勝は逸したが、銀メダルの成績を残してくれた。

亮子は勝って当たり前の選手であり、日本国民の声援が他の選手以上の負担であったが、それにもかかわらずよく頑張った。
来年のパリ世界選手権に向けて、もっともっと体を痛めて頑張っていただきたい。その結果がシドニーオリンピックに結びつくと思って、１年１年を大切にしていただきたい。

園田　勇

モントリオールオリンピック金メダリスト（中量級）
福岡県警察柔道師範・八段

福岡の「元気」エネルギー事情

脇山　真治
㈱博報室九州支社プロモーション部部長

都市のエネルギー

もし住民一人当たりの〈都市の元気度〉を測定すると福岡は間違いなく全国一だろう。いわゆる民力でも経済指数や総生産量でもない、私たちの生活実感としてこのエネルギッシュな印象は、多くの訪問者も認めるところだ。巷にいう九州の元気は、やはりこの街をはずしては語れない。平均的九州ではなく九州のイメージリーディング都市として福岡に注目した。多少の偏見はあるにしても、東京での仕事が長く、地方出張（東京から見た遠隔地。他意はなし）も多く、いま福岡に住むひとりの生活者の視点でこの元気現象を見てみよう。

自己主張のエネルギー

福岡はタレントの宝庫として全国有数である。人気の芸能人を上げればキリがない。もともと川上音二郎以来、芸能志向の強さはあるが、私はそれは伝統的自己主張の強さの現れと見る。福岡はいま百貨店の新規出店や売り場増床による〈第３次流通戦争〉の真っ只中にある。各社とも最も力を入れるのは日本初、九州初のファッションブランド導入である。クランショップやＡ･Ｐ･Ｃなど書き綴ってもご存じない方が多いだろう。希少ブランドを求めそれを身につけ、自分らしさを主張する。女性のなんでもないこの志向もここ福岡では、私には異常な強さをもって映る。

市中には、デザイン賞を受賞した独特の案内・誘導サインが設置され、辰野金吾に始まりマイケル・グレーブスやアルド・ロッシの手による建築が点在して〈空間のファッション〉を見せつけている。さらにドーム球場でのプロ野球、Ｊリーグ、大相撲など〈自己主張スポーツ〉に接する機会も多い。一方ではデザイン系の大学や専門学校も多く畢意、〈目立つ〉ことを容認し、そのための多大なエネルギーを投入する素地を育てているということになる。福岡は単位人口当たりの大学生や専門学校生の数が非常に多い街だが、若さとはそれ自体が自己主張であり、その主張を通して街の元気が伝わってくるようだ。

イベントのエネルギー

ことイベントに関しては人並み以上のエネルギーが注がれる。毎年の恒例とはいえ、１カ月もの準備期間をかけるどんたくや山笠の持続的なエネルギーは、同様にアジアをテーマにしたイベント月間である「アジアマンス」の精神と併走しているようだ。アジアマンスは今では１カ月に56もの関連事業をこなす大型イベントに成長した。対アジアを標榜する都市は国内にも数多いが、新しい〈アジアの祭り〉を立ち上げ、一気に完成度を高めながらしかも市民の支持を得続けている例も珍しい。月単位にはそのほかアートイベント、サイエンスイベントなどがある。イベントの数を勘定したことはないが、年中何かしらの催しがある。コンサートでも国際会議でもスポーツイベントでも、覚悟を決めて遠出することなく気軽に参加できる。そんな適度な街のスケールもこれらの賑わいを高める大きな要因だろう。福岡の気質として、熱しやすく冷めやすいともいわれてるが、地域のイベントを網羅した隔週雑誌「シティ情報ふくおか」が10万部を超えて売れ続ける現象を見るかぎりは、福岡のイベントの熱が決して一時的なものではないように思える。

アフターファイブのエネルギー

豚骨ラーメンで名高い長浜。近くにその名を冠した長浜公園がある。先頃この公園が閉鎖されてしまった。理由は新宿のようなホームレ



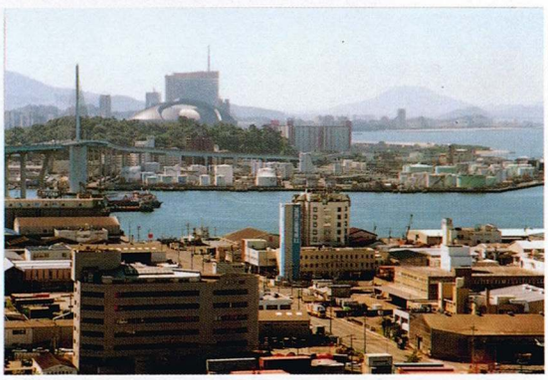


スの追い出しでも工事のための安全管理でもなく、若者の締め出しである。夜な夜な集まる連中が騒ぎ立て、飲み食い後を放置し続けたため、近隣の住民の我慢が限界にきたらしい。実は学生や若い人を相手にした飲食街（予備校に至る道なので「親不孝通り」と呼ぶ）が近くにあるため、この公園は夜の絶好のたまり場として若者の支持を得ていた。都会のポケットパークが〈人を拒絶する空間〉として批判されることもある中で、ここの稼働率はその意味では非常に高く、実にエネルギッシュな時間をつくっていると思う。住民の迷惑は計り知れないものがあるが、24時間型の若者のライフスタイルと整合した空間が、市内に点在していることは広義の生活空間としては健全ではなかろうか。個人的には一日も早い〈バリケード〉の

の撤去を願いたいところである。

こ存じ中洲。全国有数の歓楽街である。ＪＲも私鉄も市営地下鉄の駅にも歩いていける〈幸せな〉位置にある。市の中心部から断続的に名物の屋台が続き、この中洲で堅牢なビルと華奢な屋台がもたれ合う。屋台でひっかけてスナックを１～２軒、腹が減って仕上げはまた屋台。そんな凄まじい〈ハシゴの経済活動〉が連日続いている。夜の中洲を通り抜けても、酔い客の仲間入りをしても、昼の疲れをものともしない活気に脱帽してしまう。胃と肝臓の丈夫さと街の元気とは、きっと高い相関関係があるだろう。





印象のエネルギー

福岡空港に降り立つと、年間1450万人利用の活気に迎えられる。ナショナルスポンサーの巨大看板群を見ながら地下鉄へ流れると、市の中心部までわずか10分。空港と都心とのこの距離は街へ期待と印象を漸増的に高めていく絶妙の時間だと思う。車に乗っても、飛行機進入路下の一瞬の空地を抜けると、短時間のうちに都市高速網やビジネス街やウォーターフロント、繁華街に到着する。〈時間当たりの視覚的変化〉は非常に大きく、初めての訪問者であれ頻繁に出張するビジネス客であれ、いつでも街並みは福岡の新しい発見の対象となっている。

「第一印象」とは万事へ普遍するものだが、福岡は違う。空港から一気に東へ行けば博多湾の港湾事業としてアイランドシティーと香椎パークポートという二つの埋め立て開発事業が進行中である。クレーンとブルがひしめく合計535haに及ぶ広大な開発は、バブル経済の浮沈をものともしない底力を象徴しているようだ。北へ向かえば博多港。1999年には開港100周年を迎える。ウッドデッキのベイサイド遊歩道は演歌だけではなくポップスの似合う新しい情緒と集いの場をつくりあげた。都市高速を西へ、一路福岡タワーを目指す。夕日を真正面に浴びる時間が特にいい。高速の終着は天気予報の背景映像に使われる「シーサイドももち」である。1989年に開催されたアジア太平洋博覧会はここの埋め立て竣工の事業として開かれた。823万人を集めた当時のパワーはその後、福岡ドームの建設をはじめ、情報関連企業の誘致や近未来的なマンション群の建設へと続き、建設へ注がれたハードなエネルギーはいま、住民やビジネスマンなどの社会生活のソフトエネルギーへと見事に変質していったようにみえる。

情報拡散のエネルギー

ことし４月に福岡市内に開業した複合商業施設にキャナルシティー博多がある。建築関係の方なら既にご存じだろう。建築の魅力やコンセプトやジョン・ジャーディーの手腕もさることながら、むしろ私はアミューズメント、映画、演劇、ファッション、流通、ホテル、飲食などの要素機能が本来の単独のパワーを越えて、その組み合わせと人々の感性とが〈新たな魅力の概念〉をつくり続けていることに注目したい。奇異な空間と人のうごめきや滞留、さらに博多弁の〈黄色い〉叫びが、言葉では表現できない不思議な世界、ある種の〈超日本の異国情緒〉をつくっているのではないかと感じる。舶来コンプレックスの日本人としては、ましてやいまだに東京へのあこがれの強い九州にとっては、強烈な吸引力をもった空間である。この引きの強さがまた評判をよび、マスコミと口コミがさらに善循環をもたらしている。情報発信力とは話題として語られる〈素材の強さ〉をいうのだろう。発信のエネルギーはとりもなおさず吸引のエネルギー源だ。

福岡の元気は九州全体のエネルギーを象徴していると思う。それは最終的には経済活動に帰結するにしても、街並みの印象や喧噪、交通混雑〈アムラー〉の群れ、学生のコンパ、イベントの誘致、声高な呼び込み…そういった私たちの精神を煽るような全感覚的な刺激が街の元気の証しである。長崎や宮崎から福岡に集まる若者を「かもめ族」、「フェニックス族」と呼ぶが、いまはエネルギーの一極集中を懸念するよりも、むしろ彼らが持ち帰る〈体感情報〉の九州全体への拡散と影響力に期待したいと思う。

基盤は森林を守ること

杉谷 麗子
球磨村森林組合参事

桂：日本の林業全体が低迷する中、九州の中央部に位置する球磨村森林組合は様々な事業展開を図り、がんばっているという声をあちこちで耳にするのですが。今回のインタビューでは、その活力の源などについてお聞かせ願いたいと思います。

杉谷：林業全体の低迷に対する危機感は常にあります。私達が常に新しいことにチャレンジしてきたのには、その時々に転機があったといってよいでしょう。まず、今の組合体制になってからの歩を簡単にお話いたします。現在の大岩組合長体制が始まったのは昭和30年頃です。球磨村で森林は村の90％を占めますが、30年代中頃までは薪炭林の時代でした。この頃までは林産物も豊富で、木の再生も自然任せでした。その内に石炭などのエネルギー革命が起こり、構造材を生産する林業に転換しなければならなくなりました。

桂：その時期が第一の転機ですね。

杉谷：はい、そのとおりです。秋田や吉野などの先進地と違い知識がありませんでしたので、県庁などに尋ね、九州大学、宮崎大学、そして鹿児島大学などの林学の先生方の指導を受けました。現在の杉・檜はその頃植樹したものですが、林業は長い年月かかり、やり直しがきかないものですから、とにかくお金がかかっても良い苗を植えることを考えました。今になってその成果が現れています。


森林館前に立つ杉谷参事

桂：第二の転機はいつ頃でしょうか。

杉谷：林野庁の第二次構造改善事業のメニューに新しく森林総合利用というのがあることを知って、25年程前にセンター（研修宿泊施設）を建設した頃でしょうか。本格的な杉・檜の伐採には40年から50年かかるわけですから、その間にはチップや足場丸太の生産で少しづつ蓄財し、そのお金で森林景観をいかした観光施設や林業生産物販売所をつくることで多くの組合員が出稼ぎなしで生活できることを考えておりました。センターの建設では土地の取得から資金繰りまで大変苦労しました。センター前に観光鍾乳洞「球泉洞」が見つかったのは偶然に近い幸運と言った方がよいかも知れません。この球泉洞が、後に爆発的な人気で驚くべき観光客を呼ぶことになるのです。観光客の対応も素人集団ですから一から勉強しました。

桂：センターや球泉洞一帯には他の民間観光施設はありませんね。

杉谷：センターをつくるときに大岩組合長などと相談の上、周辺に変な民間施設ができるといけないというので少し無理して広範囲の土地を取得しました。球泉洞が発見される前ですが、今になって本当によかったと思っています。この時に、九大の黒田先生などにお願いして周辺整備のマスタープランを描いて頂いております。

桂：私も幾つか組合の設計をさせて頂いておりますが、そのマスタープランはバイブルになっています。今だに大学とも定期的に懇談会をもってますし、マスタープランを踏襲している。このような森林組合は珍しいでしょうね。その後の展開についてお願いします。

杉谷：球泉洞開発の成功で少し余裕らしきものが出来ましたので、第一、第二製材工場、選木機工場や林道整備などを進めてきました。おかげで、小径木製品でも球磨村のは品質が良いと評価を受けています。そして、林業のことを一般の人々にも知って頂きたいとの想いから、また一頑張りして建設したのが、日本建築学会作品賞を頂いた木島安史先生の「森林館」なのです。昨年、この森林館のリニューアルということで、森林情報の展示に加え、「エジソン・ミュージアム」をオープンさせました。エジソンと森林とはどうして関係があるのかという意見がありますが、エジソンの発明に代表される科学と林業が依拠してきた自然との共存こそがこれからのテーマだと考えているのです。

「バイオ館」、「森の香房」そして山楽工房」も周辺に整備して、更に色々なかたちで森林にかかわることを広めていくことが私達の使命だと思っております。また、子供達には森林教室などを毎年開いています。

桂：色々な事業展開の中でデザインがキーワードになっているようですが。何かきっかけでもおありになったのでしょうか。

杉谷：センター建設時に、九大の加藤先生から景観とデザインについてお叱りを受けてから、環境とデザインには気を付けています。

桂：このような事業展開を意欲的にされている原動力は何ですか。

杉谷：色々な事業展開と思われるでしょうが、私達の基盤はあくまで森林を自らの手で守り続けるということなのです。観光事業などは、森林に対する理解を深めるためと今後の林業活性化のためです。

桂：短いインタビューで苦労された内容などが詳しく紹介できなくて申し訳ありません。球磨村森林組合に代表されるこの理念が、気の元―九州の森林を守っていてくれることを実感いたしました。

●聞き手：桂 英昭氏（熊本大学工学部講師）

敷地の公開とパブリックアート

永島　潮
建設省九州地方建設局営繕部計画課長

多くの人々が利用する市民会館や図書館などの公共施設については、既に敷地の公開が当然となっていますが、特定の職業にかかわる限られた人々が行政事務手続きのために訪れるような公共施設については、それはまだまだほど遠い状況と言わざるを得ません。

もちろん、休日や夜間等の管理者がいない時はもとより、業務時間内でも管理地内での事故や不法行為の可能性には神経質にならざるを得ないのは当然です。また、おそらくは、昭和30年代の学生運動時に霞ヶ関地域での大規模なデモに関連した官庁施設への侵入や投石に閉口し、敷地の境界で侵入を制御することとしたことがその後の外構計画に影響を及ぼしたと思われますが、本来的には、公共の施設である役所も土地については、我田的な所有意識がないとは言えないようです。

昨今の行政情報の閉鎖性に対する批判からか、国民に開かれた行政をめざすのは、どこの官署においても共通する目的のようです。その点においてハード面からは、敷地の公開に対する容認も広まりつつあるようです。

近年、建設省九州地方建設局の整備する施設については、一般の行政庁舎についても敷地の公開に取り組んでいます。入居官署の理解が不可欠ですが、昨今の市民サービスに対する意識の変化からか、おおむね理解を得ています。

さて、その場合単純に柵を取り除いてしまうだけではなく、利用者にとってそこが公開であることを示すための何か仕掛けを施す必要がでてきます。そのひとつの方法としてパブリックアートを活用しています。パブリックアートはバブル期に多くのプロジェクトにおいて差異化のために用いられ始めたのが端緒となったようですが、人々のゆとりや豊かさへの希求からか、その後においても支持されつづけているようです。



写真 1



写真 2



写真 3

写真 1　福岡市西区の住宅や商業施設が混在した地域にある法務局の前面をオープンとして設置したもので、「雲の上の町Ⅰ」と題された中村保彦氏の制作によるものです。庁舎玄関ホールに設置された「雲の上の町Ⅱ」とともに楽しげな演出を行っています。

写真 2　鹿児島県徳之島に完成した合同庁舎の前面に設置されたもので「ほしをながめるひと」と題された高さ５メートルに及ぶ大きな鋼製のアートで、鎌田恵務氏の作品です。島の亜熱帯気候にビビットな色合いが映え、新たな島のシンボルとして注目されています。

写真 3　宮崎県延岡市に完成した合同庁舎に設置されたもので「星の穂」と題された佐藤弘徳氏の作品です。もうひとつの「降りて来た星」とともに郷土と市民との関わりと今後の発展を願った作品となっています。

パブリックアートには敷地の公開化のほかに果たすことのできる役割があります。地元で産出する材料を活用したり、郷土をよく知る地元の芸術家に作成してもらうことによって地域性を演出することができます。また、意欲ある芸術家のために小さいながらも発表の場を提供できます。絵画と異なり、パブリックアートは制作費や設置場所等で制約が大きく、経験の少ない人たちにとっては、機会に恵まれぬようです。ささやかながらも我々の提供する機会が才能ある方々の発表の手助けになれれば意義も大きいと思います。

以上のような理由から制作者の選定においては、

①耐久性のある材料を活用して製作を行う人。
②見るよりもむしろ触ることを目的とするような作品を手がけている人。
③その地域で活躍している人。
④これからの活躍が期待される若手の人。

等を念頭において行っています。

•

とかく、近づきがたいイメージのある国の庁舎に対して、このパブリックアートが触媒となり、身近な庁舎となれることを期待しています。

まちづくりのベクトル「海」と「アジア」

鹿野　至
福岡市総務局企画調整部長

昭和62年、福岡市は、新たな４つの都市像を掲げた基本構想（まちづくりの最上位計画）を策定した。その都市像は、１、自律し優しさを共有する市民の都市　２、自然を生かす快適な生活の都市　３、海と歴史を抱いた文化の都市　４、活力あるアジアの拠点都市である。ここで示された福岡市の固有のキーワードは、「海」と「アジア」である。当時の状況では、市民にとって海は遠い存在であったし、アジアも一部の地域に成長がみられたものの、鮮明には意識されてはいなかったようである。このキーワードは、或る意図をもったシステムによって生み出された。えてして行政の計画が行政の内部だけのものになりがちであったことから、市民と行政が、目標なり計画を共有し、まちづくりを協働して進めていくためには、計画づくりへの各界各層の大幅な市民参加の必要性が強く認識されていた。実際に、１年以上をかけ、延べ６千人以上の参加を得て、抽出されたのが「海」と「アジア」であった。ここでは福岡の歴史の対外交流史を詳述することはできないが、我々も含め、市民にとっても、ある必然性を感じとれるものとして受け止められた。

その後、平成元年に、このキーワードを具現化する壮大な実験が行なわれた。都心に近く、人工海浜を持つ埋立地「シーサイドももち」で開催された「アジア太平洋博覧会」である。37カ国・地域、２国際機関の参加を得、入場者も目標(700万人)を大幅に上廻る823万人となった。この博覧会はその後、福岡市のまちづくりに大きな二つのベクトルを与えることとなる。

一つのベクトルは、都心部の埠頭の再開発（ベイサイドプレイスなどの商業機能の導入やマリンメッセなどのコンベンション機能の強化）をもたらし、博覧会会場であったシーサイドももちの、福岡ドームやホテル、ソフトリサーチパーク等に代表される開発、いわゆるウォーターフロント開発である。そして、これは、九州内の高速道路網の整備などによる若者を中心にした交流人口の増加とあいまって、キャナルシティ博多、天神における、さらなる商業機能の集積へと引き継がれている。

二つめのベクトルは、アジアの多様性を知り、アジアの人々との交流を深めようというものである。その代表的なものを幾つかご紹介したい。

まず、アジア太平洋博覧会の翌年から始まったアジアマンスである。これは、「アジアを深める30日」というコンセプトのもとに、アジアの生活、文化、芸術、歴史など様々なイベントが毎年９月を中心に50以上も開催されている。

因みに８年度の内容を見てみると行政が行なったものが23、民間等が33である。

「アジアマンス」の一連の事業のうち、特徴的な事例を幾つか紹介する。最初に、博覧会に合わせて始った「アジア太平洋こども会議」である。これは、青年会議所が中心になって、アジア太平洋の子供達を招待、一般家庭でのホームステイを通して、市民との交流を重ねている。その規模は、初年度は1,000人、その後も300から400人の子供達を集めて継続しており、その評価は海外の諸国でも定着しつつある。

次にアジア地域の学術研究、芸術文化部門の顕彰を行う「アジア文化賞」がある。今年で第７回を迎えたが、市民への認知度については未だ努力を必要としているが、受賞国の反響は思いのほか大きいようである。例えば、今回、芸術・文化賞は、パキスタンのイスラーム宗教歌謡の第一人者が受賞したが、本国での記者発表には、文化担当省の次官も出席するなど、国として様々なバックアップをしてくれたという。その他「アジアフォーカス映画祭」が毎年、「アジア美術展」が５年に１回、海外12都市を含む21都市による「アジア太平洋都市サミット」が平成６年以降２年に１回開催されている。これらの一連の事業の継続により、昨年のユニバーシアード大会の成功、特に各小学校区がそれぞれ参加国を担当し、応援、交流事業を行った校区ふれあい事業や、約12,500人の市民ボランティアの参加などへと結実していった。

一方、その間の目覚しいアジアの経済成長や福岡空港の国際線の充実（平成８年10月現在、24都市へ28路線、週262便）とあいまって、着実にアジア太平洋地域を中心として、交流人口が増加している。これらを背景に同地域を中心に、外国公館、貿易事務所等が14館あり、海外の政府機関の立地も進んでいる。

そして、来年、福岡市にとって初めての本格的な国際コンベンション「アジア開発銀行総会」（56カ国・地域の大蔵大臣など3千人が参加予定）が開催される。このように、二つ目のベクトルも着実に成長し、成果をもたらしつつある。福岡市は、本年８月、第７次の基本計画を策定した。そのサブタイトルは、「人・交流の都～共生と創造をめざして」である。述べてきた二つのベクトルをさらに太く、たくましく育てていくことになる。

福岡市は、「くらす」「働く」「学ぶ」などの市民生活のあらゆる局面で多様性を持つ都市であり、また、そのことで発展してきた。今後は、更に高度な質を持った多様性を創造していく必要がある。そのことによって、九州全体に、より良い機能と利便性を提供するとともに、さらにはアジアとの経済関係も含めた交流人口の増加を図り、九州全体にその波及効果をもたらしていくことが福岡市の使命であろうと考えている。

地域活性化へのインパクト

—キャナルシティ博多—

津田　佳志
福岡地所㈱企画開発部部長

「福岡の街をもっと楽しくしたい」、当社ではこんなことをテーマに、グループ事業の展開を行っています。これは、テーマとしては大きすぎるけれど、開発事業をやっていくなかで少しでもそういうことに貢献できればという思いからです。

当社の事業用地は、基本的に一等地ではなく、新しく埋め立てた土地であるとか、都心から中途半端に離れているとか、例えば今回のキャナルシティのように相対的に沈滞化傾向にあるとか、どちらかといえば土地自体の立地の価値の低いものが主体です。その立地ポテンシャルの低い土地に建物を建て、事業を展開していくことを付加価値として土地の利用価値を大きく向上させること、いうならば「立地創造」—自ら開発事業をおこすことによって立地自体を創り出していくこと—が我々の開発事業であるといっていいと思います。

このようなことから私たちは、早くから海外の建築家に目を向け、そのデザインを大きな差別化戦略としてきました。大きく分ければ、東部地区での集合住宅開発ネクサスワールド、マイケル・グレイヴス氏の一連のプロジェクト展開、そして今回のジョン・ジャーディ氏のデザインチームによるキャナルシティ博多、ということになるでしょう。

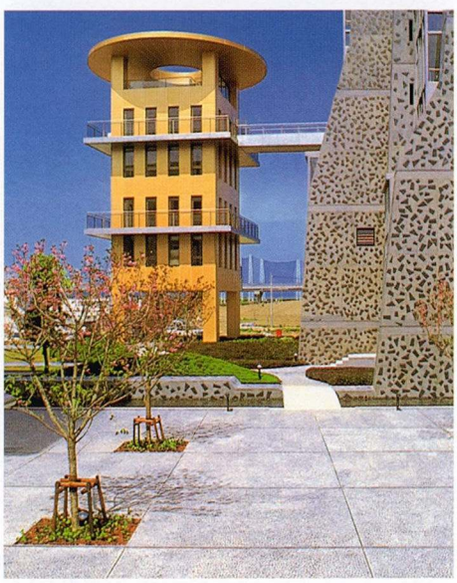
1991年のネクサスワールドは、国内外を問わずかなり建築雑誌にも取り上げられ、レム・クールハースが日本建築学会賞を、スティーブンホールとマーク・マックは米国のPA賞を受賞し、この年は建築デザイン界においてFUKUOKA·JAPANを世界に知らせることができました。

また、マイケル·グレイヴス氏のプロジェクトも、ハイアットリージェンシーやネクサス百道レジデンシャルタワー等、それぞれの地区でのランドマークとなっています。





キャナルシティ博多



ネクサスワールド

しかし、一般市民レベルではやはり、沈滞ぎみの地域の奥まった場所にこつ然と現れた全く新しい街「キャナルシティ博多」、このプロジェクトが一番インパクトがあったと思われます。このことは、一年間の来場者予測1300万人に対して、開業後半年で1000万人を超えたという集客力がその証明となるでしょうし、地元商店街から期待されていた地域活性化の起爆インパクトとしての役割も果たすことができたと自負しています。

この地元商店街もキャナルシティ開業にあわせて集客イベントを行い、店舗を改装する等、より魅力ある街へ生まれ変わろうとしています。つまり、街ぐるみで、開発インパクトをきっかけに人が集まる→街が魅力的になる→人がさらに集まる、といった「善循環」を生みだしつつあることになり、これがまさに地域活性化に繋がっていくと思われます。

また一方、JR九州でも、キャナルシティを背景にした九州各地から福岡行きのCMを流して、実際にこれが他県からの集客に効果を上げているようです。

もちろんこれがJR九州自体の売上増というだけでなく、各々の地域での宿泊や料飲等の消費、またさらに広告やイベントにも繋がっていく、ということも「善循環」といえると考えられます。

こういう、福岡ドームやキャナルシティ博多の開発インパクトを、また、長崎のハウステンボスや宮崎のシーガイアも好調と聞いていますし、いい意味で、各々の地域や企業が各々の事業を進める中で相乗効果を創り出しえているのが、日本列島の端にあっても何か気になるという、—私たち民間ディベロッパーの台詞でいえば「立地創造」しつつある—九州の元気の理由なのではないでしょうか。

劇的都市・福岡の秘密

大野　誠
西日本新聞編集局次長兼地域報道部長

30年ぶりに故郷・福岡に帰ってきた友人が「盛り場の中洲を歩いてみたい」と言うので案内した。「これはすごい。新宿並みのにぎわいだね」と驚いている。「今夜は少ないほうだよ」と説明したが、察するにそれほどに福岡の元気度は他都市に比べてズバ抜けていることか、と改めて思う。

バブル崩壊後、東京をはじめとして日本列島全体がなんとなく沈滞している中で、ひとり福岡だけは「別世界」の雰囲気を醸し出している。初めはたまにやってきた外来者のリップサービスと思っていたところ、いやいや、どうもそうではないらしい。木村尚三郎・東大名誉教授（西洋史）あたりもよほど玄界灘の魚のうまさと博多っ子の人情にほだされたか「いま日本で一番元気がいいのは福岡」と盛んに宣伝するし、どうやらこれは正真正銘、時代の追い風に乗った本物の元気のよさと判断してよさそうである。



福岡市博多区にお目見えした大型複合商業施設のキャナルシティ博多
（延べ床面積は23万５千平方メートル）

それを証明する数字がある。平成７年国勢調査の福岡市人口は128万人で５年前の3.9%増。春日市、太宰府市など周辺市町を含めての福岡都市圏でみると221万人で、なんと6.3%という伸び率を示している。

他都市に比べての際立った特色と言えば若さであろうか。65歳以上の高齢化率は全国平均14.8%であるのに対し福岡は11.6%。それは九大、福大、西南大など大学が11（短大を含む）と学生の多いことにも因り、街の活性化にひと役買っている。

今年６月、福岡空港で起きたインドネシア国籍ガルーダ旅客機の炎上事故もはしなくも福岡空港の発展、国際化を垣間見せるものであった。同空港の旅客数は昨年１年間で1,652万人となり、１位の羽田、２位の成田に次ぎ、あの関西国際空港をわずかながら１万人抜いて堂々３位の座を占めた。いまや国際線は韓国、中国などアジア、豪州を主に25路線と広がり、また国内線も東京、大阪など基幹路線だけでなく、ローカル線も増えるいっぽう。今年６月には山形、秋田、青森の東北３県、次いで７月には北海道の旭川からも乗り込んできた。観光宣伝体は一様に「元気な福岡からやってきてほしいが、こちらも福岡経由で韓国、台湾など外国に行くのを楽しみにしている」とアジアの時代の拠点都市・福岡を十分に意識している。

つい10年ほど前までは札幌と並ぶ「典型的な支店経済都市」で〝博チョン族〟の別天地という見方をされていた福岡だが、ここ近年はそのイメージが「アジアに開かれた拠点都市」へと変わった。その起爆剤となった端的な例が人工海浜地区「シーサイドももち」や今春オープンになった都市再開発「キャナルシティ博多」の登場である。

シーサイドももちは、昔は白砂青松の博多湾を埋め立てて出現した近未来都市。プロ野球ダイエーの本拠地・福岡ドームをはじめ、地上35階のホテルを主体としたシーホーク・タウン、高さ123メートルの福岡タワーなど遊びとソフトパークの機能とが複合して、しかも内外の有名建築家のマンションなどが立ち並び、さながら外国の街を思わすムードとなっている。週末となると、野球やさまざまなイベントを楽しむために、九州一円、四国、中国地方や韓国、台湾などの観光客が引きも切らない。対して中洲に隣接する那珂川沿いの紡績工場跡地に生まれたのがキャナルシティ博多。物珍しさもあって４月のオープン初日に20万人の入場客を記録したこの新名所はホテル、ショッピング、グルメをはじめ、ハイテクゲームセンター、13の映画館などのアミューズメント機能を堪能できる。それになんといっても超目玉なのが劇団四季の専用劇場で、目下、公演中の「オペラ座の怪人」は来年１月半ばまでのロングランが約束されている。'98年に完成する博多区の下川端再開発ビルには演劇専用の「博多座」「アジア美術館」が生まれるなど、これまで物足りなかった文化的機能も徐々に充実してきた。

「元気の秘密は何か？」。各地からの経済視察団からよく聞かれる。私の答えはこうだ。①ボーダーレス、国際化の時代にあって進取の気性に富んだ福岡の時代がやってきた②韓国、中国など成長著しいアジアと近い距離的条件が有利に働いている③東京一極集中から地方分散へ、時代の潮流が変わり、中央資本だけでなく、近隣各国も福岡を意識し始めた―などである。

他にも①空港が地下鉄で都心まで５～10分と便利②海、山の自然に恵まれ、住環境が快適③流通戦争が激しく、消費者として選択肢が幅広い―など、いろいろある。

いま一番の劇的都市・福岡は「一見の価値があるけん、ぜひ、来て見んしゃい」と推奨したい。

第三発展軸（国際軸）の起点・福岡

―新・全国総合開発計画「21世紀の国土のグランドデザイン」と九州―

長谷川 裕一
九州経済フォーラム会長・㈱はせがわ社長

経済の発展は国土軸に沿う、明治以来のキャッチアップの過程では太平洋ベルト地帯（第一国土軸）に人口・諸機能が集中した。
近年においては、東北軸（第二国土軸：仮称）に移行し仙台都市圏の人口増加率がトップになった。
また、アジア地域の経済成長は中国をはじめ二桁の伸びを持続し、世界の成長センターと位置づけられている。

福岡市はアジア太平洋博覧会を機にアジアにむけての第三国土軸（国際軸）の起点を宣言し、着々と戦略を展開しつつある。
これには、民間も呼応しており、博覧会跡地の再開発、アクロス、地下鉄空港線、空港ビル、マリンメッセ等の公共投資、福岡ドーム、シーホーク、百道のテクノリサーチパーク、キャナルシティ博多、天神Zサイド、西鉄ターミナル駅、三越、下川端再開発等の民間投資も活発で、バブル崩壊後の現在も活気に満ちている。

さらには、地方の自立に国家計画が呼応する形ができつつあり、すなわち「21世紀の国土グランドデザイン」の姿で具体化されることにより、本格的な発展へとつながる期待が待たれている。
いま、北部九州は天の時、地の利、人の和の好機を迎えた。

最新の国土計画では、従来の延長線上の発想をすて「これまでの全総計画の単なる継続ではない、新しい理念に基ずいた国土計画の策定が必要である」と。1994年6月の国土審議会において提言がなされ、21世紀の時代認識を次の三つに示した。
これからの50年――

1．地球時代
2．人口減少・高齢化時代
3．高度情報化時代

●地球時代

中国、アセアン等の急速な経済発展により、遠からず東アジアの経済規模は我が国を大きく上回るであろう、これによりアジア発着の人・物の動きが世界の過半を占めるとともに、我が国との交流も飛躍的に拡大すると思われる。

●高度情報化時代

国際社会のボーダレス化にともない、経済活動の分野でも国を越えた地域間競争が一層の厳しさを増す一方で、我が国においても国内にとどまらず、広く世界を舞台に活動の場を求めて飛躍する人・企業が増加の一途をたどり、最適な環境を求めて国を選択するという傾向がより強まる状況が想定される。

全国総合開発計画の今日的意義と役割についても、国土開発理念の変化にともない、開発視点の重点課題のなかでも、まず、これからの国土づくりにおいては、国内的視点にとどまらず、地球的視点が求められており、我が国の発展のみを目指すのみでなく、地球環境問題を踏まえた上で、特にアジアとの交流・連携を通じて世界との共生に資する国土づくりを行うことが重要であると位置づけられ、アジア時代を明確に捉え我が国の役割と対応を明示している。

このような背景の中で、第三発展軸（国際軸）の起点構想をいちはやく打ち出した福岡市の決断は評価されるであろう。
この国際軸の特徴は、従来の経済一辺倒型とは異なり、アジア文化賞、アジア映画祭、アジア美術館、アジアマンス、国立アジア九州博物館、アジア各都市との友好都市、民間友好団体、アジア諸大学との友好大学、共同研究等、新しい「全総」が目指す文化的アイデンティティが先行していることである。

国際軸のゲートウエイとして24時間型国際空港の建設運動も根気良く続けられ、官・民あげてその機運も高まりつつあり、港湾施設についても、国際競争力の強化とあわせて、地域のみならず国家的戦略の視点からも早期着工が求められている。

新しい「全総」のもう一つの特徴は「生活の豊かさと自然環境の豊かさが両立する世界に開かれた活力ある国土の構築」を掲げ、第一国土軸構想から首都機能移転を含む複数の国土軸（四軸）を示した。九州は北東国土軸を除く全ての国土軸の起点となり、更なる発展への相乗効果が期待される。

・西日本国土軸（仮称）：いわゆる第一国土軸とその周辺地域
・日本海国土軸（仮称）：九州北部から北海道の日本海側
・太平洋国土軸（仮称）：沖縄から九州中南部、四国、紀伊半島、中部に到る。

新しい「全総」における主要計画課題に対応するための重点課題としては、国際交流基盤の整備・推進にともなうゲートウエイとしての、空港・港湾等の整備促進、アクセス網（高規格幹線道路・高速鉄道等）の一体的整備、ソフト面の世界標準化をすすめ、トータルな面で海外へのアクセシビリティを確保する。とされており、九州各県との連携はもちろんのこと、わけても福岡のリーダーシップが期待される。

九州は潜在力をもちながらも、域内交通体系が長らく未整備であったがために、域内経済の相乗効果が得られず、人材についても大都市への流出が続いてきたが、高速道の整備、高速鉄道の着工等により域内経済の更なる活性化が計られるであろう。
また、九州に国際競争力のある魅力ある都市の誕生が望まれるが、その可能性の第一は福岡であろう、中枢都市広島との連携も深め21世紀へむかって、新しい「全総」の理念実現の最右翼は福岡・北部九州ではある。魅力それは、アジアと博多屋台。

大きな一つのテーマをもって特集を編集することは、皆が共通のユートピアを夢みたり、大きな物語をつくりあげるようなものである。現在、建築をはじめ、様々な分野においてこのことに疑問が抱かれている。

この企画では「九州の元気」をとりあげることにしたが、最初の編集会議の討論から、「元気」に対する編集委員の意見が微妙に差異を生じていたので、色々な元気が集まることを期待していた。

がしかし、結果的には九州の福岡一極集中の元気版の感は否めない編集となった。福岡の委員で構成された編集会議で、しかも九州全体の地域バランスをとるようなことはしない方針が合意されていたので当然の結果かもしれない。

九州には南北問題、東西問題がある。沖縄問題もある。それを乗り越えた企画でありたいということで「赤い色」や「自然」が組み込まれている。九州の特集は今後も何らかのかたちで継続されることが前提となっていたので、おおらかな視点でこの特集をお読み頂きたいものである。

外部から見て現在、福岡が元気であるのは事実である。そして、九州が元気であるのは歴史である。内部で、それを意識しないのが九州の元気なのであろう。　(桂　記)

仕事上、沖縄を含め九州各地を廻り人・その地方の文化・風習に出会うことが多い。そこには感動、時として驚きがある。文化なのか風習かは別として「元気」でなければ相手ができないこともある。

数年前のこと、沖縄から空路30分の宮古島へ設計の打合せで出張の折、地元の人々との懇親の場、当然その場には酒がつきものとなる。沖縄の酒といえばキツーイ泡盛（年代物をクースという）である。ここ宮古島での飲み方、驚くことにまわし飲みのイッキ飲みといった具合である。地元の人はこれを「おとおり」といい、人が集まれば必ずこの「おとおり」になる。

飲み方を説明すると、まずＡグループの長が挨拶して飲む、つぎにＡ１が自己紹介をして飲む、その後Ａ２、Ａ３……と順に回る、当然その都度全員で乾杯する、そしてつぎはＢグループというように、最低でもその集まりの人数の倍は飲む羽目になる。

地元の人の「元気」さもさることながら、つきあわされる方もよほど「元気」でないとついていけないとつくづく痛感させられた次第である。　(境　記)

赤であるから元気なのである。九州が元気とすれば赤が多いはずであり、また、赤が多いから九州が元気なのダ……ということになった。短絡的ではあるが考えてみると当たっているようでもある。

自然界の赤は火山であろう。阿蘇、桜島、雲仙は赤く燃えて元気である。花の色も南にいくほど赤が多い。

人工物ではＪＲ九州が目を引く。赤く飾った特急のみならず、通勤列車も赤一色である。ＪＲ九州のバスも赤一色が多い、赤をもとめてＪＲ博多駅を歩く、なんと赤の多いことか、博多名物「めんたい」の看板も目につくが、駅のホームの案内板も赤と元気がいい。

多分赤い物をもとめる場、赤いものを自然にゆるす土壌というものがあるのだろう。

カラ元気でなく、本当に元気な九州でありたいものだ……、

博多駅を歩きながらふとそう思った。　(重松記)

『怒濤の譜』　広島大学体育会ヨット部第二部歌

一、時代の潮　荒れ狂い
　猛き嵐に　育ちたる
　歴史も若し　十有余年
　理想かざせる　姿なれ
　聞け轟きを　怒濤の譜を
　おおお怒濤　怒濤　怒濤

二、朝の栄華　夕べ無き
　玄界灘の　木葉舟
　その人生を　疾駆する
　吾等怒濤の人生ぞ
　熱と意気との荒波ぞ
　おおお怒濤　怒濤　怒濤

学生時代、逆巻く海峡を我が人生にダブらせ、ノドの潰れるまで、叫ぶように唄った海峡がそこに横たわっている。

太古の昔より変わらぬ偏西風と対馬海流は、大陸の文明と文化を運びつづけ、今なお膨大な物・情報をこの海峡経由で往来している。

「玄界灘」こそ九州のエネルギーである。　(杉本記)

元気とは「天地間に広がり、万物生成の根本となる気力」。

九州のど真ん中に阿蘇山、北には宗像神社、それらを結ぶ南北軸上の北端に沖の島。東の宇佐市と西の武雄市を結ぶ東西軸、及びそれらを対角線とする四辺形の各線上の地域に「神籠石（こうごういし）」と呼ばれる遺跡が点在している。1300年前のもので城壁状に2000個もの切石が積まれたり、山を囲んで２kmも続いたり、用途は解明されていない。阿蘇山は「火の神」、沖の島は「水の神」、陰陽五行説もからみ、広大な地域を結ぶ古代史のロマンが九州生成の気力の源なのでは。　(室川記)

福岡から宮崎へ飛行機で向かう時、晴れていれば雲仙普賢岳、阿蘇山、そして桜島の煙が同じ方向にたなびくさまを眺めることができる。橋本総理が南米訪問の折、世界３大瀑布のひとつであるイグアスの滝を見てその国の底力と将来性を語ったように、私も３つの火山の噴煙を見て九州の大きなエネルギーを底に感じることがある。

また、周知のように九州は、その地理的優位性から東アジアや欧州と古くより交流を行ってきた。鎖国の時代においても長崎・出島や九州西南諸藩を窓口にした交易がありこれらの地は、海外情報ネットワークの拠点となった。

これからの「九州の元気」を考えれば、それは上に述べた九州の自然・地理・歴史等の持つポテンシャルを生かして福岡・北九州をはじめ九州諸都市が、アジアのネットワーク拠点都市群としてさらにどういう役割を果たしていくか――にかかっているように思う。

今回の九州特集は、九州（特に福岡）で活躍されている各界の人達に「九州の元気」の一端を内なる眼から語ってもらった。次回また数年後九州特集をするとすれば、東京・大阪だけでなくアジア諸国の人達も加えて九州以外の外なる眼からみた「九州の元気？」を語ってもらえたらと考えている。　(森　記)



撮影：樋口尚俊

りんくうゲートタワービル北棟

設計監理　ゲートタワービル日建・安井設計共同企業体
施　　工　大林・竹中・鹿島・シャール・奥村・鴻池・戸田
　　長谷工・淺沼・村本・大末・森本・南海辰村ＪＶ

りんくうエルガビルディング

設計監理　日建設計
施　　工　大林・竹中・淺沼・奥村・鴻池・錢高ＪＶ

りんくう国際物流センター

設計監理　日建設計
施　　工　大林・鹿島・前田建設工業・淺沼ＪＶ

都市機能とアメニティが支えるまち

りんくうタウン

“りんくうタウン”は、わが国初の24時間空港である関西国際空港の対岸に位置しており、空港と地域がともに繁栄することを目指し関西国際空港と一体となって計画されたまちである。

大阪市内から大阪湾岸沿いに約35km南下した泉佐野市、田尻町、泉南市にまたがる約320haの敷地は、空・海・陸路ともに絶好のアクセスを備えている。この地に大阪府は空港支援や物流施設を含む数々の施設整備を計画した。都市機能を幹線道路で結ばれる９つのゾーンに分けて、商業・業務、流通・製造・加工、空港関連産業、住宅関連、工場団地の５ゾーンを中心に、約７kmにわたって広がる海岸線に夕日の見える丘や白砂青松の美しい公園・緑地を配し、環境にやさしいまちづくりが進んでいる。

なかでも、りんくうタウンの中核である「商業業務ゾーン」では、人、モノ、情報の国際的な交流拠点の形成を目指して「パシフィックシティ」のコンセプトのもと、外国政府機関や海外企業の誘致が積極的に進められており、本年10月から11月にかけて「りんくうゲートタワービル北棟」「りんくうエルガビルディング」「りんくう国際物流センター」がつぎつぎと開業した。

街のランドマーク

●りんくうゲートタワービル北棟　商業業務ゾーンの中心部「りんくうタウン駅」北側に立地し、インテリジェント機能を備え、国際会議場からホテル、オフィスやフィットネスクラブなどを取り込んだ次代にふさわしい複合ビルとして、空を突くその姿とともに、りんくうタウンのシンボルとなり、ランドマークとなっている。西日本一の高さを誇る256mのこのビルの最上階スカイレストランからは、関西国際空港はもとより、大阪湾、六甲の山並みを遠望でき、その広大な眺めが楽しめる。

機能と景観のバランス

「21世紀の街を支えるインフラ」という基本コンセプトのもと、りんくうタウンでは、空港支援都市としての機能、玄関都市としての景観、それらを地域と連携させるシステマティックなインフラ整備を推進している。

●共同溝システム　水道管、ガス管、電力ケーブル、電話ケーブル、地域冷暖房管、廃棄物輸送管、情報通信ケーブルなどをまとめて地下に埋設し、「共同溝」化した。これによって、クリアな景観を創出するだけでなく、効率的で安定した供給処理システムでこのまちを支えている。

●地域冷暖房システム　商業業務ゾーン全域に導入された「地域冷暖房システム」は、安全さとクリーンさに加え、エネルギーの有効利用を図るものである。

●下水処理システム　全域において、汚水や雨水の排水を円滑に処理する下水道整備を実施した。内陸部の雨水排水についても地域と連携し、ポンプ場などの施設整備を行っている。

オフィスビルとエネルギー・情報施設の共存

●りんくうエルガビルディング　インテリジェントオフィスのほか、地域冷暖房を供給するエネルギープラントや高度情報システムを支える情報センターを備えている。

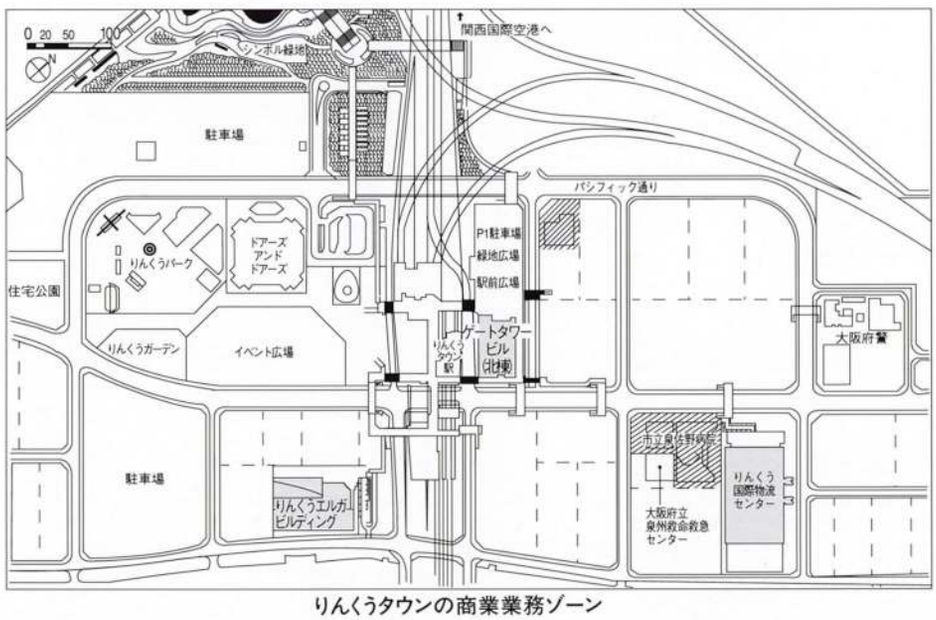
高まるFAZ機能

●りんくう国際物流センター　FAZ（輸入促進地域）の中核施設として、24時間空港をフルサポートする物流ゾーンの中枢機能を構築するとともに、FAZ機能を高める総合保税地域に指定されている。

撮影　東出清彦



りんくうタウンのランドマーク「りんくうゲートタワービル北棟」



りんくうタウンの商業業務ゾーン


りんくうゲートタワービル（北棟）



撮影：東出清彦（91頁共）
：内田写真・エスエス大阪（93頁）



国際会議場



ホテルエントランスロビー



テラスレストラン



客室



スカイラウンジ

りんくうゲートタワービル北棟

設計

ゲートタワービル 日建・安井設計共同企業体

わが国で初めての24時間運用の関西国際空港が開港して、２年余りが経過した。国際化、情報化の時代にあって、新空港は関西のみならず、今や日本の新しい空の玄関として期待を上回る役割を果たしており、その社会的、経済的波及効果は計り知れないものがある。

この新空港の対岸に位置する地域では、「りんくうタウン」の新しい街づくりが始まっている。「交流とハイアメニティ」を基本コンセプトに、日本の新しい玄関口にふさわしい、21世紀の街となることが期待されている。

りんくうゲートタワービル北棟は、りんくうタウンのシンボルとなる中核施設として計画されたもので、新空港への鉄道、道路をはさむ２つの敷地に迎え合うように計画された、超高層ツインビルの第１期工事として建設されたものである。

このビルは、周辺の街づくりのリーダーとしても位置づけられ、また、海外をはじめとして、たくさんのお客様をお迎えするにふさわしい、ウエルカムゲートの役目を果たすこと、さらには新空港から、また遠く大阪や和歌山方面からも特徴ある、新しいランドマークとなることが期待された。

建築計画

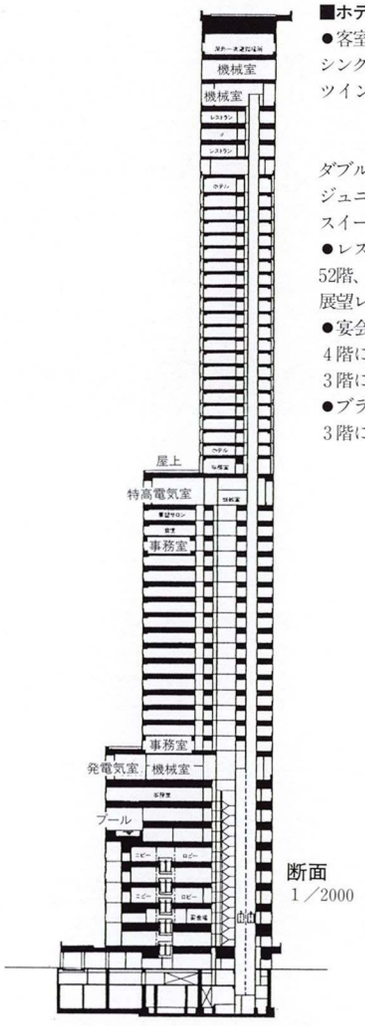
●天を貫く３段構成の外観フォルム　ビルの外観は施設内容から、大きく低層、高層、超高層の３段構成となっている。つまり①国際会議場、宴会場、フィットネスクラブなどの大きな空間が必要な低層部、②オフィススペースとしての高層部、③効率のよい、やや小さなスパンが必要なホテル客室やスカイレストランが入る超高層部、によって構成されている。外壁の材料も、低層部はどっしりと安定感のある花崗石を、高層部はハイテク技術のアルミスーパーハニカムパネルを、そして超高層部は夜も光が華やかなガラスを多用し、それぞれの施設内容をイメージするにふさわしいものを採用した。

これらにより、地上56階、256m、多機能な複合施設の超高層ビルとして高さをより強調し、特徴ある外観を表現することになった。

●眺望優先のオフィスプラン　オフィス階の平面計画は、眺望を最大限に活かせるよう雁行型のプランとし、コーナーウインドウのある明るいオープンオフィスとした。ＯＡ床＋2.7mの天井高、自然光の入る明るいトイレ、眺めのよいリフレッシュスペース、フロア４分割個別空調など、アメニティの高いオフィスとなるよう心がけた。

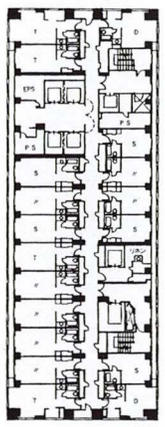
●「和今洋彩」のホテルインテリア　インターナショナルでありながら日本らしさもさりげなく感じられる「日本の玄関」にふさわしい高品位なホテル空間をめざし、「和今洋彩」をデザインコンセプトに華やぎとくつろぎ、洗練と品格を備えたインテリア空間とした。

●ハイグレードなサポート機能をもつコンベンション施設　４カ国同時通訳設備を備えた国際会議場のほか、大小10室の会議室をもち、ホテルや宴会場、レストランとの機能的な連携によって大規模なコンベンションの開催も可能である。内装は木、クロス、カーペットを主体に、ナチュラルで落ち着いた空間となるよう心がけた。

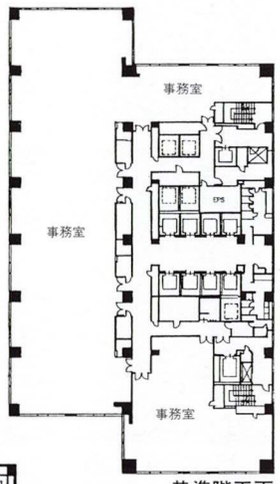


断面
1／2000

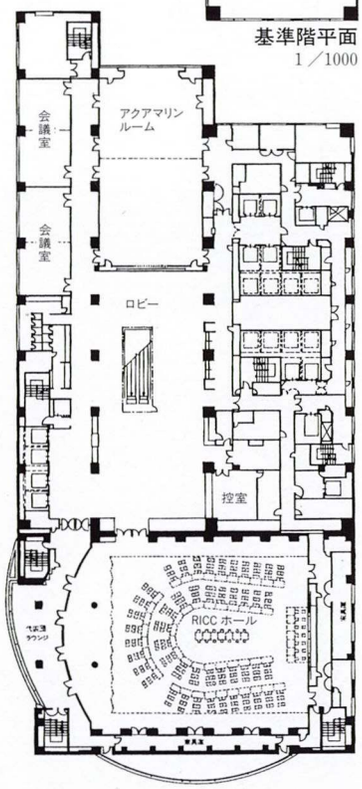
■ホテル概要
●客室（総数361室）
シングル／109室
ツイン／162室（ハンディキャップルーム１室、和室１室）
ダブル／82室
ジュニアスイート／４室
スイート／２室
●レストラン
52階、53階、54階に展望レストラン
●宴会場
４階に大、中、小宴会場
３階に小宴会場
●ブライダル
３階にチャペル、神殿



ホテル階



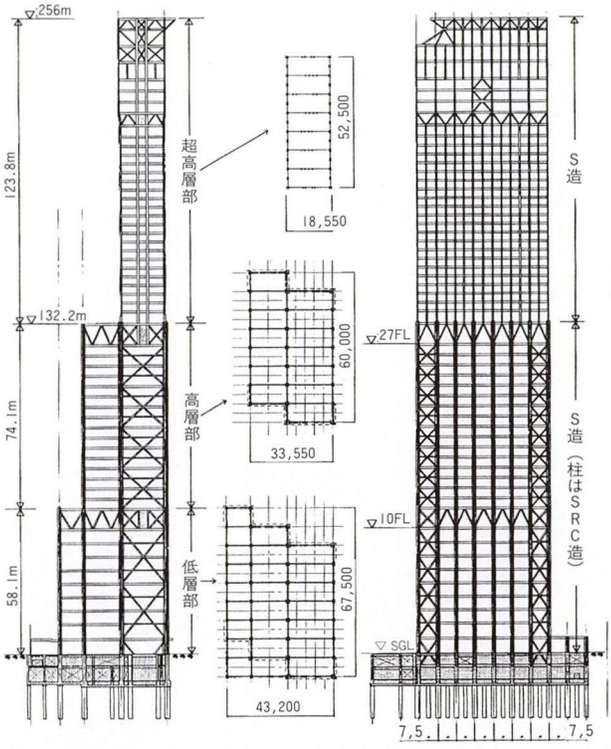
基準階平面
1／1000



6階

■りんくうゲートタワービル北棟

所在地	大阪府泉佐野市りんくう往来北１番
主要用途	事務所・ホテル・国際会議場・スポーツ施設・クリニック
建築主	りんくうゲートタワービル㈱
設計監理	ゲートタワービル日建・安井設計共同企業体
施工	大林・竹中・鹿島・シャール・奥村・鴻池・戸田・長谷工・淺沼・村本・大末・森本・南海辰村共同企業体
工期	1992年８月28日～1996年８月27日
地域地区	商業地域、防火地区、地区計画、りんくうタウン商業業務ゾーン―容積率600%、建ぺい率80%（耐火建築物等100%）
敷地面積	16,870.09m²
建築面積	14,100.11m²
延床面積	118,046.88m²
最高高さ	ＧＬ＋256m（ＧＬ＝ＯＰ＋5.0m）
基準階高	4.1m、3.5m
構造規模	Ｓ造・SRC造（一部ＲＣ造）、Ｂ２、56F



架構図

構造計画

250mを超えるビルであるとともに、臨海地という立地条件から、耐震設計もさることながら耐風設計に重点を置いた構造計画とした。

高さ／幅比が大きいため、台風時や地震時に水平力を受けると柱の軸伸縮による曲げ変形が大きくなることから、架構の水平剛性およびねじれ剛性をどのように高めるかが最大の課題であった。

●架構計画　短辺方向は、高層階からの柱軸力を10階および27階のトラス階（設備階）によって外周柱に伝達させることにより、転倒モーメントに対するアームを広くとるとともに、1階から27階までの柱をSRCとして柱の軸方向剛性を高くし、曲げ変形が小さくなるような架構計画とした。長辺方向は10階および27階の設備階をトラス階とする大架構計画としている。ねじれ方向については、ブレースを妻面等の外周に配することにより、剛性を確保した。28階以上の超高層部については、短辺方向を耐震性を用いたラーメン構造、長辺方向をベアリングウォール構造とした。

●基礎構造　建設地は埋立地盤であるが、建物の基礎底は旧海底より深いレベルに位置し、このレベル以深は大阪層群と呼ばれる洪積層で比較的、堅固な地盤である。しかし、この建物は柱軸力が大きくまた、高さ／幅比も大きいため、GL－70m付近の砂質土層を支持層とする杭基礎としている。杭は最大径、軸部2500ϕ、拡底部4000ϕの場所打ちコンクリート拡底杭とした。

●制振装置　台風や季節風による揺れや地震の後揺れをできるかぎり小さくし、居住性を良くするため、55階の両端部にアクティブ制振装置を2台設置している。

受変電・配電計画

りんくうタウン地域での電力供給は、地域内のエネルギーセンターから、共同溝により各建物に供給されている。

●信頼性の高い電源供給　B2階、10階、27階に特高電気室を分散配置し、各電気室へB2階で分岐した22kV 3回線スポットネットワーク方式で配電し、信頼性の高い電源供給方式とした。主要機器はオイルレスとし、モールド機器を採用している。

●二次側配電電圧　特高変圧器で22kVから415Vに降圧し、主たる動力へは3ϕ3W415Vで供給。電灯・コンセントについては1ϕ3W210-105V、小口動力用として3ϕ3W210Vでも供給している。

熱源計画

りんくうタウン地域では地域冷暖房供給（DHC）が行われており、本計画においても空調・給湯熱源として受け入れを行っている。DHCからの供給熱源は、冷水・温水・蒸気の3種類であり、冷水・温水は空調熱源、蒸気は給湯・加湿熱源として利用している。

● DHC受け入れの方式　256mの超高層へのDHC受け入れについては、①配管系圧力の安定化、②搬送動力の低減、③往還温度差の保持、④適正な用途系統区分に重点をおいて計画した。

具体的には、受け入れ供給系統として低層（B2～7階）、高層（8～27階）、超高層（28～56階）の3系統とし、DHC自然上昇水頭範囲である低層系統はブリードイン方式、高層・超高層系統は熱交換器による間接受け入れ方式により二次側管路の密閉化を図った。

蒸気は、受け入れ圧力8Kから2.5Kに減圧供給し給湯加熱源とするとともに、間接蒸気発生器により1K加湿蒸気を発生している。

●二次側配管系　二次側配管系は全系統4管供給方式とし、多用途にわたる負荷変動への対策とした。

防災設備計画

超高層建物であるため、1階防災センターに設置した防災監視盤を中心とし、火災覚知から避難誘導までの迅速性、確実性の確保を目的とした総合防災システムを計画した。

●火災早期発見、出火点確認の迅速化　感知器にアナログ式煙感知器を採用し、設置場所の用途に応じて感度設定を行い誤報をへらすとともに、基準階オフィスにおいては錠管理システムと連動して、不在時は感度レベルを高感度に変更できるシステムとした。

また、防災要員が確実に感知器発報場所へ到着するため、非常用エレベーター内にファイヤーガイドパネル（出火階表示）、及び非常用エレベーター付室にコミュニケーションパネル（出火位置表示）を設置し、消火活動支援システムを充実した。

●避難誘導　非常放送を火災レベルと連動させて自動放送を行うことにより、避難誘導放送の均一化を図った。また、2カ国語（日本語と英語）での放送を行うシステムとした。

オフィス階は火災レベルと連動させ避難を助けるため、共用部の照明が消されていても強制的に点灯制御を行う。

ヘリコプターの緊急離発着場からの防災活動拠点として、56階に防災監視盤室を設置し、1階防災センター内の監視盤と同等の機能を有した副CRTを設置し、火災状況が把握できるようにしている。さらに、ビルの中央部にあたる27階にも副CRTを設置し、救助活動時に利用できるようにしている。

りんくうゲートタワービル北棟

施工

大林・竹中・鹿島・シャール・奥村・鴻池・戸田・長谷工・淺沼・村本・大末・森本・南海辰村共同企業体

工事工程

関西国際空港の対岸に位置するりんくうタウン埋立地内の建設工事であり、着工当初は道路、電気、水などの生活基盤が整備されてない中でのスタートだった。着工より1年7カ月の長期にわたり、海上輸送による通勤、及び資材の搬入を余儀なくされた。空港の開港、高速道路・りんくうタウン駅の開業等、目まぐるしく周辺環境が変化していった。掘削工事、地下躯体完了、鉄骨建方完了、外装パネル取り付け完了に「マイルストーン」を設定し、工事密度の平均化を計り、工事量の多い高層部を先行し、その後外周低層部を施工する計画とした。内装工事工程はタクト工程で管理した。

総合仮設計画

仮設計画を**図1**に示す。**図2**、**3**のように、超高層部にタワークレーンJCC-400Hを2基、高層部にタワークレーンJCC-200Hを2基設置し、鉄骨工事、外装カーテンウォール取り付けを主体とした揚重機とした。地上の荷捌き機としてはクローラクレーン100t 2機を主体とした。

工事計画

最上部の南側と西側がオーバーハングした建物で、高層部は、11階から26階までが事務所基準階、28階から49階までがホテル基準階である。事務所基準階は外周部にブレースが設置され、クロスストラクチャーを形成している。

風の影響を排除し、安全に施工するため、各工事計画を立案した。

1）南側最上部が4.5mオーバーハングしており、下部には高速道路オフランプ、りんくうタウン駅舎があるためオーバーハング部作業用大型足場を先行設置し、鉄骨、コンクリート、外部パネル取り付け作業を行った。その結果、安全かつ能率の良い作業ができた。

2）当建物の27階まで、外周及び各コーナーに鉄骨（H形鋼）のブレースが配置されている。建方時、本締め時に使用できる大型連層足場を設置し、建方の前にクライミングを繰り返すことで外周養生の徹底と端部作業の危険性を排除した。連層足場により、安全でかつ精度の高い作業ができた。

3）外装は下部がGPEカーテンウォール、高層部がスーパーハニカ

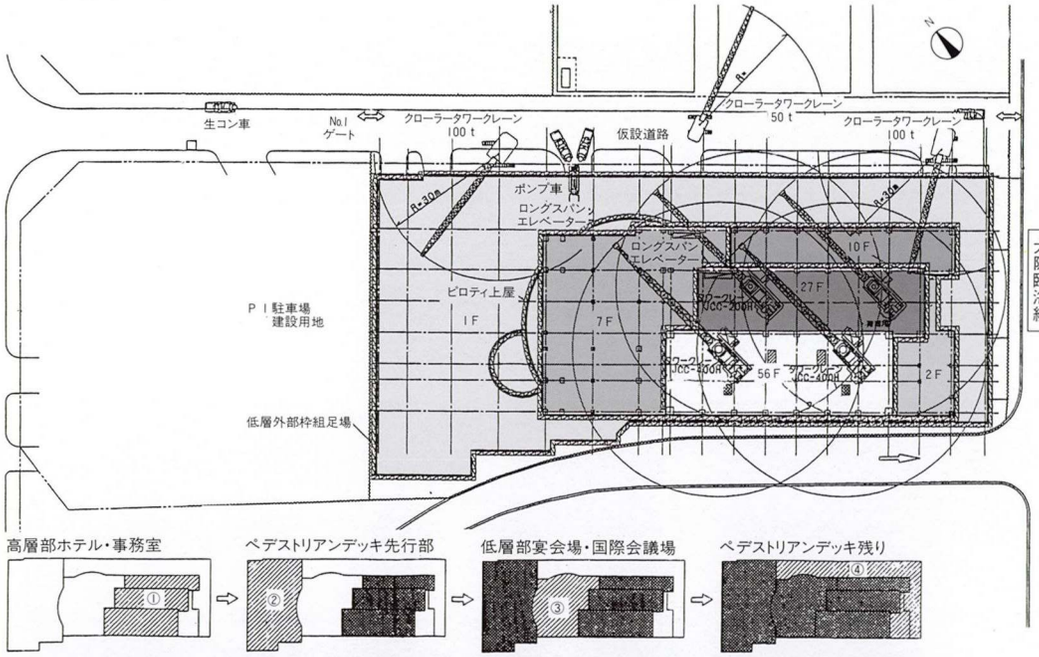
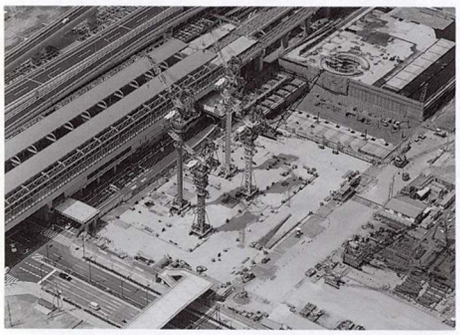


図1　仮設計画



平成6年4月10日撮影



平成6年10月24日撮影

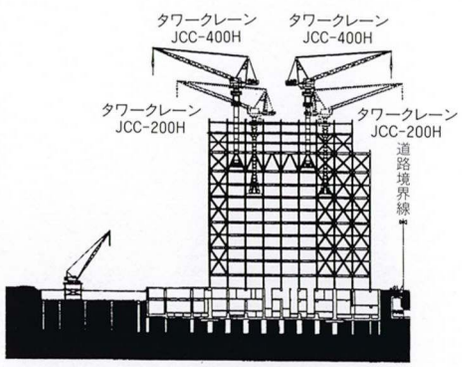


図2　着工後24カ月

ムカーテンウォールで構成されており、当初より風による作業能率の低減が危惧された。このため下記の３点で新しい試みを行った結果、風による工程の遅延を防止できた。

a）旋回規制装置の採用／吊り荷の回転を人為的に停止させるのは非常に危険であり、また停止するまでの時間的ロスをなくすため、在来の装置ではなく、技術研究所で開発中であったジャイロ式の旋回規制装置「ジャピタス」を採用した。

b）吊り治具の製作／吊り荷の重量に左右されず、かつ外周養生ネットに吊りフックが接触せず、上記の旋回規制装置が組み込めてなお吊り能力以内に収まるような吊り治具を製作した。

c）移動台車の製作／カーテンウォールが2.8m×6.2mと大型のため、場内ストックの状況により工程に大きな影響を及ぼすことが懸念された。このため工場出荷時から使用でき、かつそのままパネルを揚重できる移動台車を製作した。

4）高層の建物では作業員、仕上材料等の揚重を円滑に進めなければ、工程の管理さえもできない。搬送システムを確立し、１階でコントロールするように立案した。また揚重専従チームを構成し荷下ろし、荷捌き、揚重を一元化したことで時間的ロスを低減できた。フォークリフトを主体に荷下ろし、荷捌きを行うようにし、そのため、資材の荷姿をフォークリフトで揚重できるように各業者に指示を徹底した。

作業員の搬送用にジャンプアップエレベータを本設のシャフト内に設置し、躯体が上部に行くに従いエレベータもアップさせていったため、上部作業床のすぐ近くまで作業員が到達することができた。

安全管理

「言い訳なしの先取り安全」を合言葉に各工事着手前に作業方法、作業手順の周知徹底を図り、各作業グループごとに、作業指揮者、有資格者、監視人をボードに明示し、作業方法、作業行動、安全帯の使用状況等の監視を徹底した。職長会を主体にしたパトロールを頻繁に行い、指摘注意、是正指示、是正確認を繰り返し行い、災害発生要因の除去に努めた。

職員、作業員全員の長期にわたる努力により、工期４年間48カ月（**図４**）、延べ労働時間数約460万時間無災害を記録した。

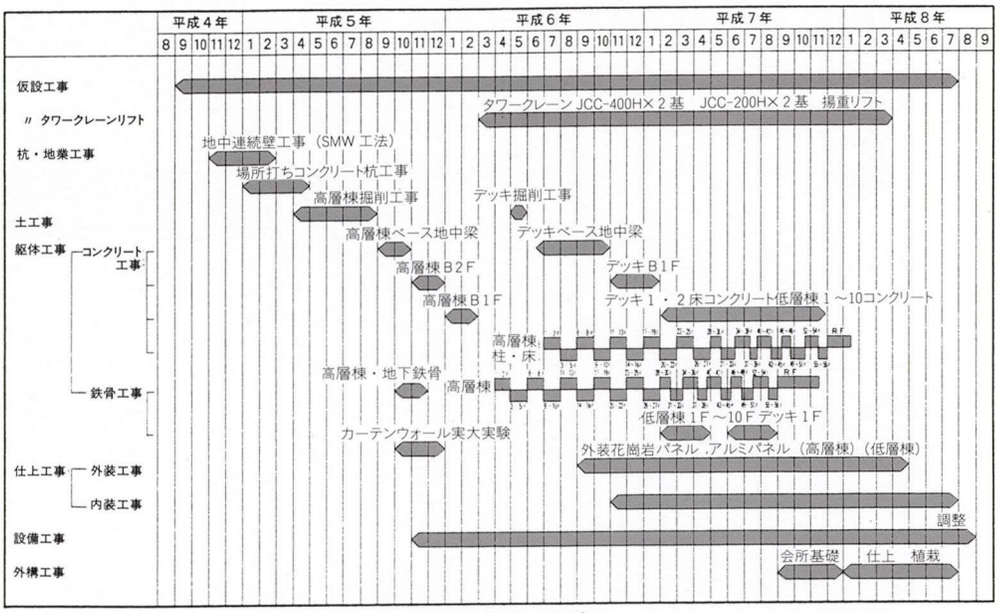


図４　総合工程表

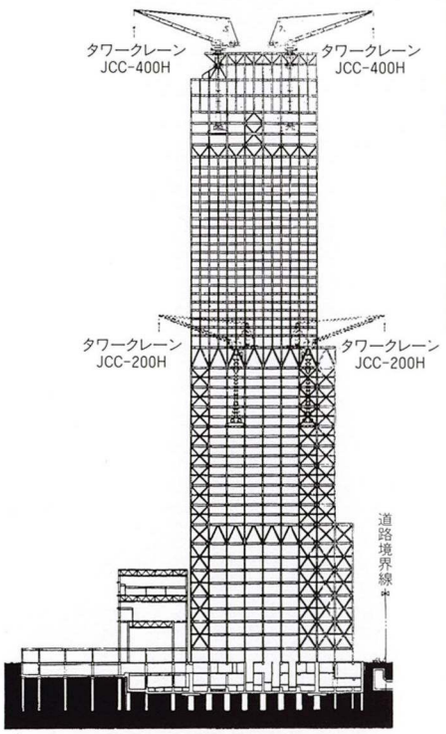


図３　着工後36カ月

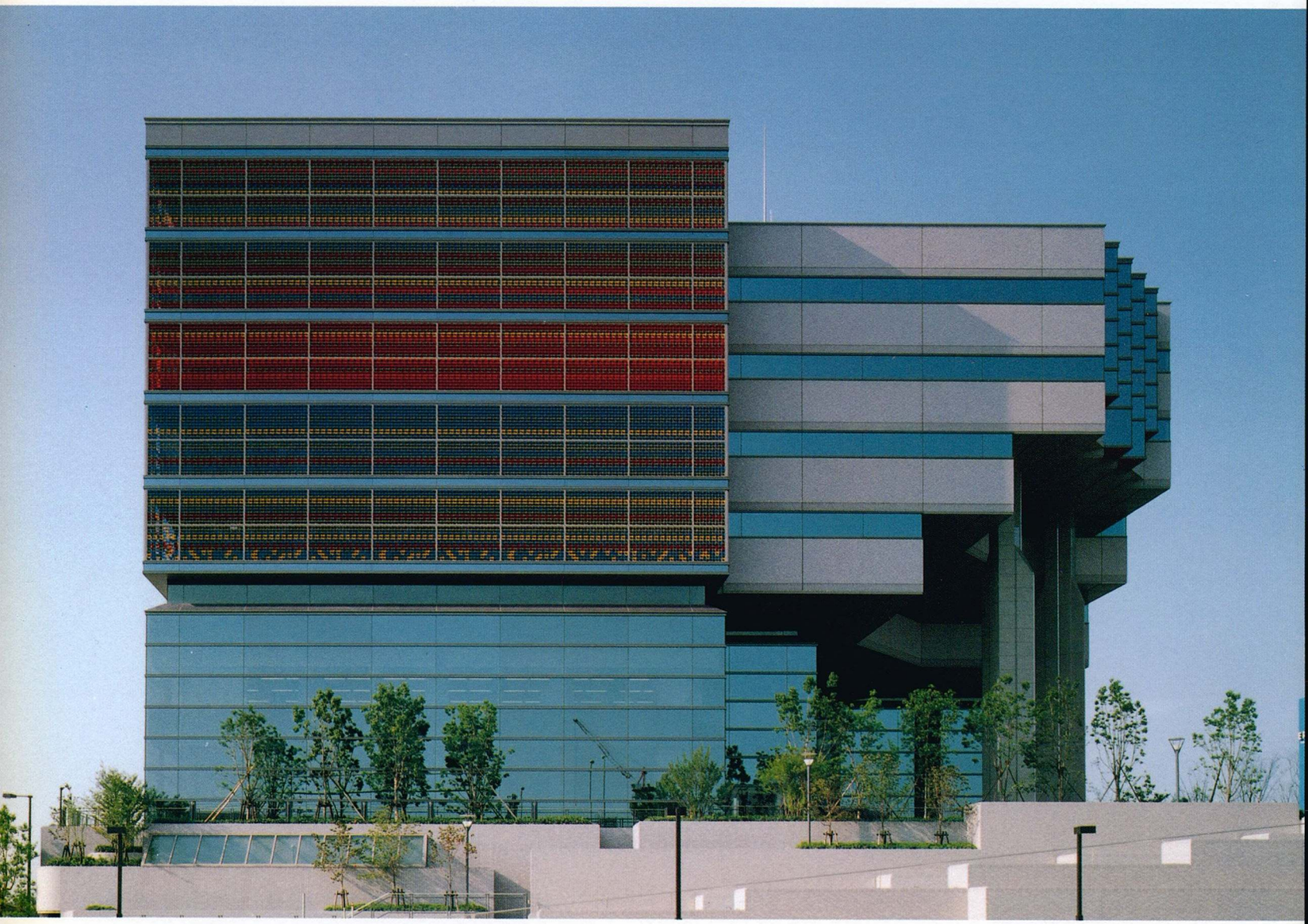


平成７年７月23日撮影



建ち上がったりんくうゲートタワービル

りんくうエルガビルディング



撮影：稲住泰広・川元　斉・黒田青巌







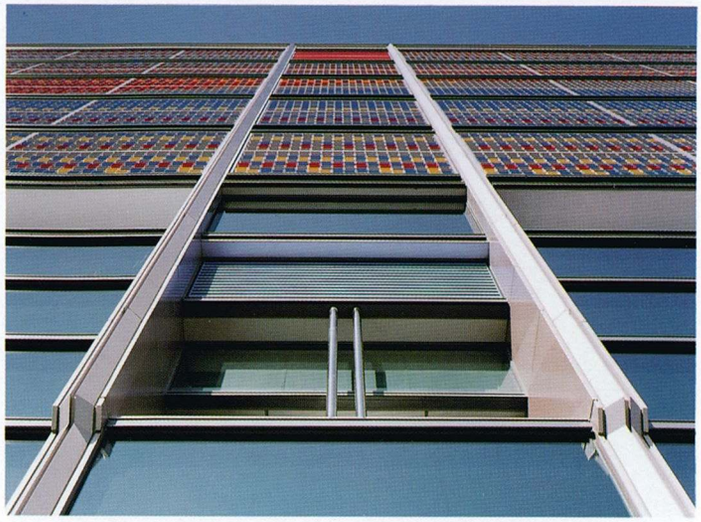
メインエントランスホール



モール

クーリングタワーの外部





りんくうエルガビルディング電気設備工事

Kinden 株式会社きんでん

りんくうエルガビルディング機械設備共同企業体

ダイダン 大気社 三機工業株式会社 Kinden 株式会社きんでん

りんくうタウン熱供給設備Ⅰ期プラント建設工事

Kinden 株式会社きんでん 大阪ガスエンジニアリング株式会社

りんくうエルガビルディング

設計

日建設計

空港連絡道路の南側に位置する「りんくうエルガビルディング」は、りんくうタウンのエネルギー・情報の中枢施設（地域冷暖房施設・変電所・ガスガバナーステーション・情報通信施設）と貸オフィス、店舗等で構成される第１期の施設である。

このプロジェクトでは、“りんくうタウン”の基本コンセプト「交流とアメニティ」を念頭に置き、美しい都市景観をつくり出すこと、オフィスビルとエネルギー・情報施設が共存しながらアメニティの高い環境を実現し、両者が調和したアイデンティティのある外観をつくり出すことをテーマとした。

配置においては、“りんくうタウン”の都市景観に配慮した美しい構成となることを意図した。具体的には、エネルギー施設をすべて地下部分に設け、空港連絡道路に近い位置に、高さを抑えた１期オフィス棟と地域冷暖房施設のクーリングタワーのある低層棟を、そして第２期に予定されている高層のオフィス棟を敷地南側に据え、空港連絡道路を中心軸にして、裾野の広がりが感じられる都市景観となるようにした。

建物の外観は、風を受けたヨットの“帆”をデザインモチーフに用い、躍動感のあるシルエットとした。また、クーリングタワーの外装として用いたグリルは、５色のカラーリングを施し、波（ウエーブ）をテーマに、織物のような変化のある壁面をつくり出すことにより、“夕陽の美しいりんくうタウン”に映え、建物の外観と調和した立面構成となることをねらった。

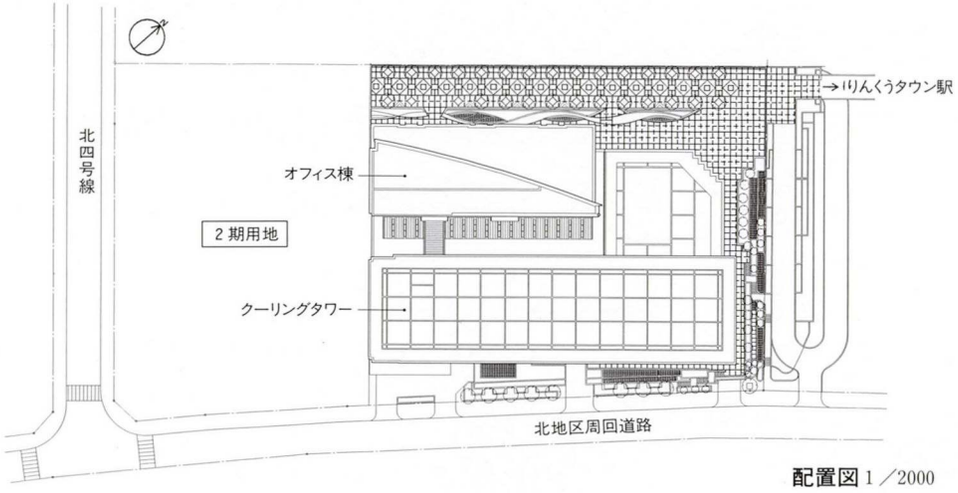
りんくうタウン駅と歩道橋で連絡される歩行者デッキは、街路樹が立ち並び、見晴らしの良い外部空間となっている。今後建設される建物のデッキと連続し、りんくうタウン特有の快適な歩行者空間が形づくられていくことを期待している。

この歩行者デッキレベルに建物の玄関、自然光の降り注ぐ３層吹き抜けのメインエントランスを構えている。当該フロアーを人の交流ゾーンと位置づけ、階高を十分に確保し、自由な空間演出ができるようにしており、ショールーム機能を備えたメッセージオフィス、店舗を設けている。

そしてオフィスフロアーでは、眺望の良い大阪湾に面して奥行き15mの広がりのあるオフィススペースを、クーリングタワー側には遮音壁としてのコアを配することにより、静かでアメニティの高いオフィス空間が実現されている。

＊

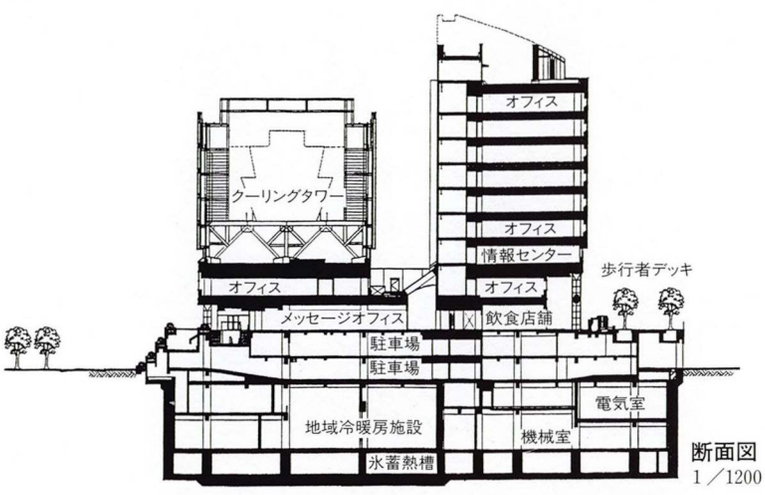
今後、この施設がりんくうタウンの成長と発展に寄与するとともに、多くの人々に愛され、親しまれることを願っている。



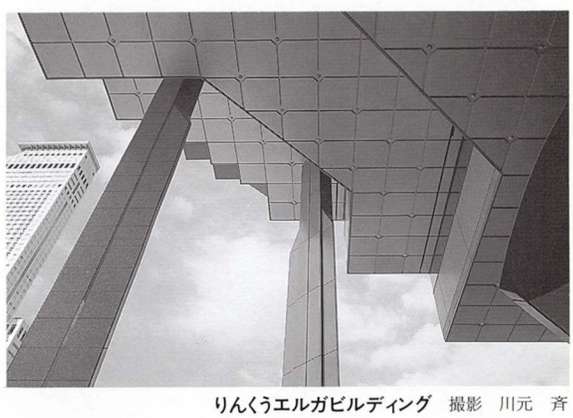
配置図 1／2000

■りんくうエルガビルディング

建築主	㈱りんくうエネルギーセンタービルディング ㈱テレコムりんくう
設計監理	日建設計
施工	大林・竹中・淺沼・奥村・鴻池・錢高共同企業体
電気設備	きんでん
機械設備	ダイダン、大気社、三機工業、きんでん共同企業体
地冷工事	きんでん、大阪ガスエンジニアリング
所在地	大阪府泉佐野市りんくう往来南
敷地面積	15,116㎡
延床面積	42,018㎡
構造規模	S、SRC、RC、B4F、10F、P1
工期	1992年11月～1996年９月
軒高	GL＋42,525m
最高高さ	GL＋57,070m
階高	2F5.5m／3F5.2m 基準階4.0m



断面図 1／1200



りんくうエルガビルディング　撮影　川元　斉

りんくうエルガビルディング

施工

大林・竹中・淺沼・奥村・鴻池・錢高共同企業体

工程計画

「りんくうエルガビルディング」は、関西国際空港の対岸に埋め立てられた南大阪の新しい街、りんくうタウンの北地区商業業務ゾーンの中央部に、第一期工事で低層棟、第二期工事で高層棟として計画された。貸事務所・店舗、情報通信サービス、地域冷暖房施設、変電所、ガスガバナーステーション等、多業種の複合ビルで、地下部分に地冷、変電、ガスガバナー等の大型機械室を持っている。

工事は、関西国際空港と同じく海上ルートによる施工が義務づけられており、資材、工事機械、作業員等はすべて海上よりフェリー、通船にて搬入するため、事前の工程検討によって山積された工程が基本となっている。

地下工事計画

ビルの敷地は深さ７～８ｍの埋立地で、基礎下までＧＬ－18ｍと深く、土留はφ800㎜の鋼管矢板２本を継ぎ、27～31ｍまで打設し、遮水工法とした。ジョイント部分には薬注を行い、掘削を行った。

１）建物敷地の東面は、泉佐野市の雨水排水のための30ｍ幅の水路をやむなく旧海岸線に残して埋め立てられた土地で、潮の干満を有し、水位の上下が土留矢板に影響する状況である。

２）建物地下部分は地冷の機械室で、Ｂ４階～Ｂ１階は高さ11.5ｍの吹抜けで大型機械が入るため、躯体の水平梁がない構造である。

３）地中梁と二重スラブのピットも、地冷の氷蓄熱槽として利用する。また、基礎下端の地盤状態は良好で、杭なしベタ基礎で設計されている。

以上の条件で、４段の切梁工法で掘削を進めた。土圧に対し矢板、腹起、水平切梁、支柱等の変形は自動集中管理計測を行い、次工程の予測解析を行い、安全確認して施工に当たった。

地下室の大空間の対応では、１、２段水平切梁を解体せずＢ１階床梁スラブの躯体コンクリートを完成させ、強度確認を行い、１、２段の切梁解体を行った。またベタ基礎で杭がないため、ディープウエルを場内外に19本打ち込み、各地層の揚水によって盤ぶくれを防止し、掘削土量と躯体重量のバランスを確認し、地下躯体工事を完成させた。

地上工事計画

地上部分はＡ、Ｂ２棟に分かれ、Ａ棟は４階床より26.5ｍのクーリングタワーの大空間が設けられ、Ｂ棟は２階人工地盤が、りんくうタウン駅とのアプローチで接続され、２階～10階まで貸室で構成され、Ｂ１階、１階は駐車場である。３階まではSRC造、４階よりＳ造で、計５基のタワークレーンを設置し、施工した。

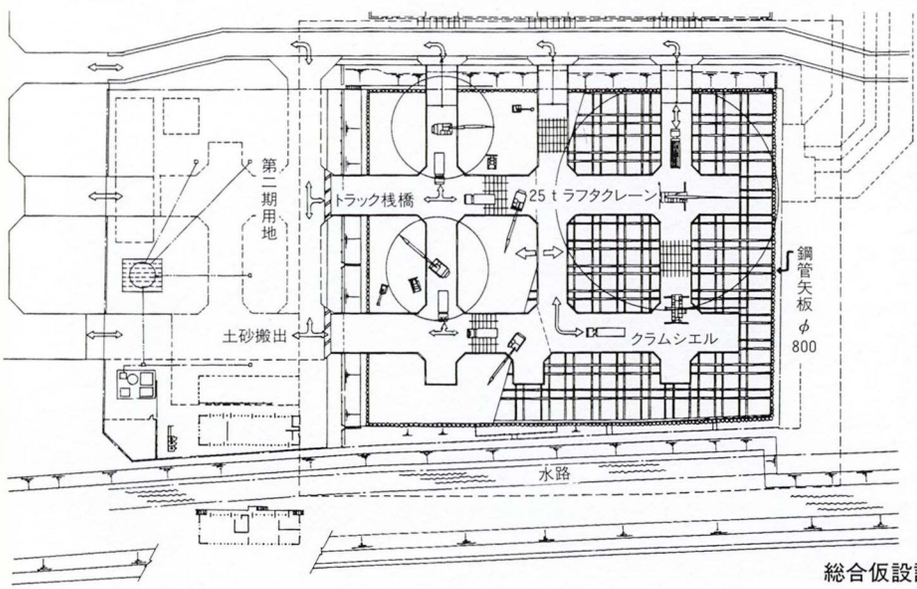
地冷の機械据え付け工事のため、平成７年７月31日引き渡しの中間工期が設定され、施工計画が立てられた。

地上躯体工事は、中間工期を目標に鉄骨の搬入建方計画、その後の躯体コンクリート工事等、綿密な施工手順を基に工事を進め、無事鉄骨工事を完了することができた。

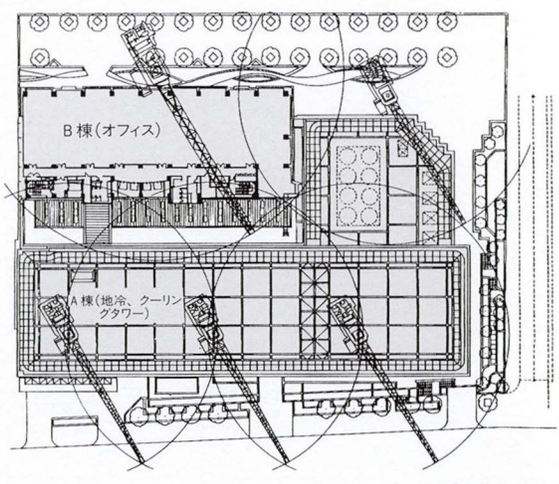
外装仕上げはカーテンウォールの横連窓とタイル打込ＰＣ版によって構成され、貸室とヒーティングタワー部分は二重硝子構造で遮音と気密性の向上を図った。またクーリングタワー側の外装は、グリルを５色のカラーによるアルミ型材を組み合わせ、織物風の美しい大型壁面を構成させ、美しい外観を楽しむことができる。

安全管理

埋立地に大規模地下工事を施工することから、「墜落及び機械災害の防止」を重点管理目標とし、特にヒューマンエラーをカバーするため、安全設備の先行と、安全衛生協議会、職長会の組織をフルに活用し作業員のコミュニケーションを図り、安全管理を全員の力で向上させ、長期間の工事を無事竣工させることができた。



総合仮設計画図1／2500



揚重機配置図
1／1500

りんくう国際物流センター





撮影：川元　斉

りんくう国際物流センター

設計

日建設計

「りんくう国際物流センター」は関西国際空港周辺地域のFAZ（輸入促進地域）推進の中核施設であり、りんくうタウン流通・製造・加工ゾーンの先導的役割を担う西日本最大規模の複合物流施設である。建物は、輸入航空貨物のデポ、共同上屋、物流関連企業のりんくうタウンへの進出を支援する物流センターなど多様なニーズに24時間対応できる機能を有する物流棟と、情報化オフィスからなる。

施設計画

3面が道路に面して東西に長い敷地形状であることとりんくうタウン駅からの動線を考慮して、大阪臨海線に面した西側に情報化オフィスを配置して顔となるファサードを形成。物流棟は北側道路沿いに長く配置した。それぞれはエキスパンションで明確に分けるとともに、軒高を揃えた水平ライン強調の壁面構成で、全体の調和に配慮する構成とした。物流棟は、ランプウエーを全体架構に組み込み、一体構成として統一感のある外観形成を図った。

建物は周辺道路からできる限りセットバックさせ、建物周囲に緑豊かな植栽を施し巨大さと圧迫感を和らげるとともに、地域の良好な環境形成づくりを目指した。また、建物の中央付近に設けたツインコアは本施設のシンボルタワーとして位置づけた。

物流棟は4階建てで、プラットホーム形式とフラットバース形式を併用して、利用形態の違いに柔軟に対応できる施設とした。各階車路、ランプウエーは11トン車が対面通行できる幅員を確保、車両管制システムの採用で安全かつ円滑な物流が図れる計画とした。屋上には乗用車220台、4トン空車30台の駐車場を設けた。

情報化オフィスは、テナントオフィスのほか展示場、会議室、レストラン、および物流棟テナントの仮眠室とで構成。2階は歩行者デッキに接続、人と車の動線分離を図った。

人と車への安全性を追求

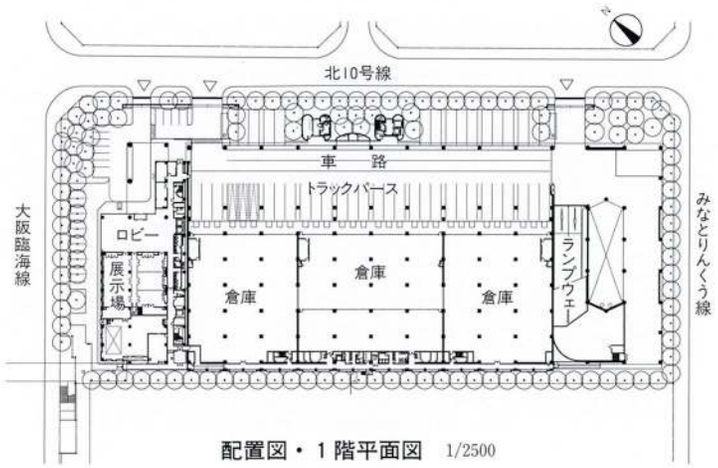
物流棟は積載荷重1.8トン/m²～2.5トン/m²、11トン車走行の条件を考慮して、耐震壁を併用した鉄骨鉄筋コンクリート造ラーメン構造、20mスパンの車路はプレストレストコンクリートのST合成床版を採用して耐震性、耐久性を追求した。

情報化オフィスには地域冷暖房の供給システムを引き込み熱源として、オフィスは薄型空調機を廊下沿いに設けて各スパンごとに個別対応が可能とした。

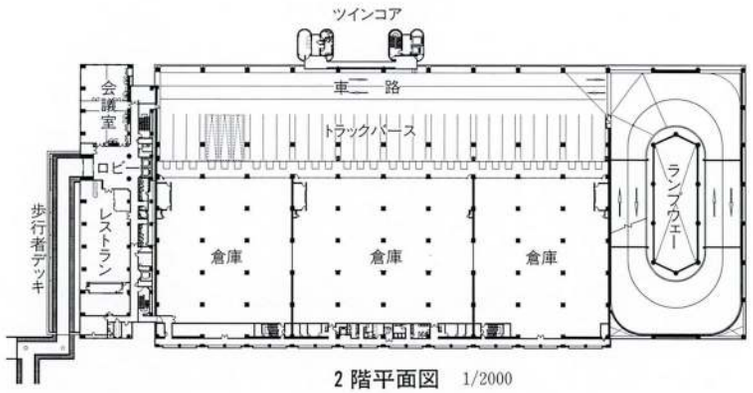
建物全体は、セキュリティシステム、鍵管理システム、ITV設備、車両管制システムの採用と防災センターの機能により、安全性の高い物流センターを実現した

*

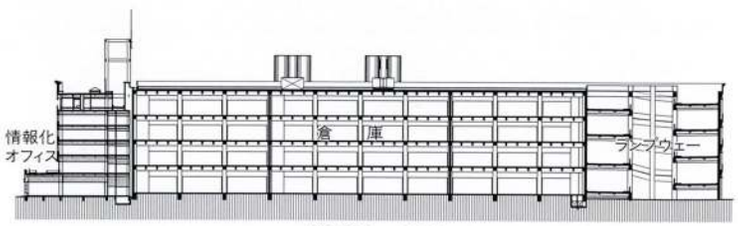
関西国際空港が開港して1年余り、りんくうタウンの重要性が高まっており、この施設がその機能をフルに発揮し地域の発展に寄与するものと確信している。



配置図・1階平面図 1/2500



2階平面図 1/2000



断面図 1/2000

■りんくう国際物流センター

所在地　大阪府泉佐野市りんくう往来北2－21
地域・地区　準工業地域、準防火地域
建築主　りんくう国際物流㈱
設計監理　日建設計
施工　大林・鹿島・前田・淺沼共同企業体
敷地面積　19,007.97m²
建築面積　13,138.96m²
延床面積　52,843.88m²
構造規模　SRC造一部プレストレストコンクリート造
6F・P2（物流棟―4F、事務所棟―6F）
軒高　GL＋28.35m
最高高さ　GL＋30.70m
階高　物流棟　1F7.25m／2-4F6.65m
事務所棟　1F6.0m／2F4.8m／3-4F3.95m／5F4.55m／6F3.35m
工期　1995年1月～1996年10月

りんくう国際物流センター

施工

大林・鹿島・前田・淺沼共同企業体

りんくう国際物流センターの事務所棟はＳ造（柱はSRC造）、物流棟はSRC造である。延床面積は５万３千㎡、型枠総面積は14万５千㎡と、労務量の大きな工事を実質工期18カ月で完成させることが大きなテーマであった。

工期短縮のための工夫

施工に先立ち、工期の短縮・資機材運搬の動線の確保・仮設材の転用計画・揚重機の配置計画の検討を入念に行い、次の２点を主な施策とした。

(1) 倉庫小梁のＰＣ化／倉庫の階高は約６～７ｍと高く、型枠支保工用ステージの仮設材も膨大になり、施工上も危険を伴うため、小梁をＰＣ化し、工期の短縮および施工安全性の確保を図った。

(2) ＳＴ版（プレストレストコンクリートシングルＴ合成梁）工事をマイルストーンに／本工事の建物は敷地いっぱいに建ち、物流棟内には12×34mのクレーン開口を２カ所確保したので、場内のストックヤード・運搬動線の確保に多くの制約があった。このため、工事は、ランプウェーを先行、クレーン開口を閉鎖し、ＳＴ版をなるべく早期に完了し、場内でのストックヤード・スムーズな動線の確保を図るため、ＳＴ版工事を中間工期として取り組んだ。

おおむね工程は予定通りであったが、物流棟は実質、倉庫・ランプウェー・ツインコアの３棟および事務所棟と４棟を同時に施工することになり、日々の工程調整が厳しく、全体工程に影響を与えた。

杭工事とＳＴ版架設工事

次に、本工事の工程上、品質管理上の要点となる工事の概要を述べる。

●杭工事

杭　　JIS-A-5337による PHC杭（一部 PRC杭）
　　先端形状は開放型　全数1,822セット
杭打工法　プレボーリング拡大根固め工法　RODEX 工法
支持層　　GL－20～24m付近の洪積砂礫層

本建物の立地地盤は、いずれの層も北東にむかって傾斜しており、敷地内で５m程度のレベル差がある。そのため、各杭の施工にあたっては掘削深度・掘削機への負荷を測定するとともに、プレボーリング時に先端の土を採取し、支持層の土質サンプルと対比し、支持層の確認を行った。また工期短縮のため、敷地（184×94m）を７工区に分け、杭打機７台でほぼ同時に施工した。

●ＳＴ版架設工事

物流棟の車路は、19.8mスパンのプレストレストコンクリートのＳＴ版単純床に、トップコンクリートで本体と一体化する構造である。ＳＴ版は幅１m、全長約19m、部材重量20ｔであり、396ピースを14ピース/日で施工した。ＳＴ版裏は天井はなく、設備用スリーブも多数あり、またＰＣ鋼線をそう入するため、ＳＴ版はＸＹ方向とも±５㎜以内で架設した。

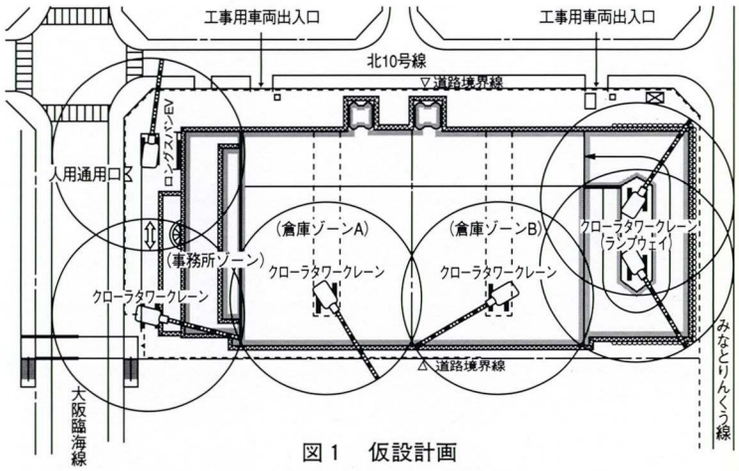


図１　仮設計画

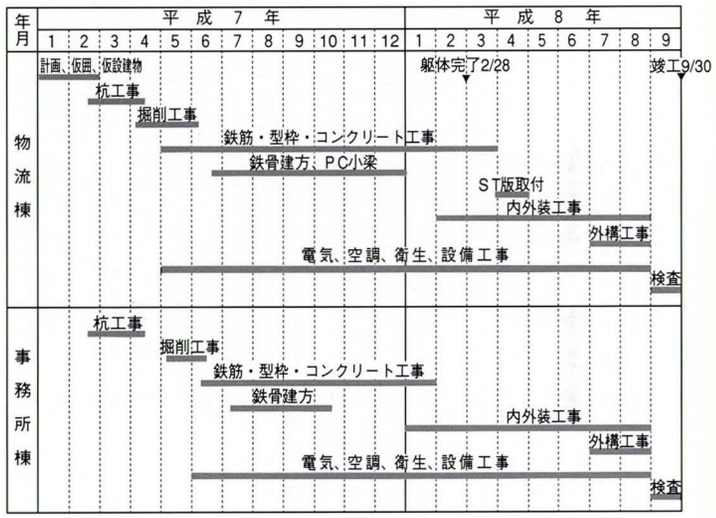


図２　工事工程

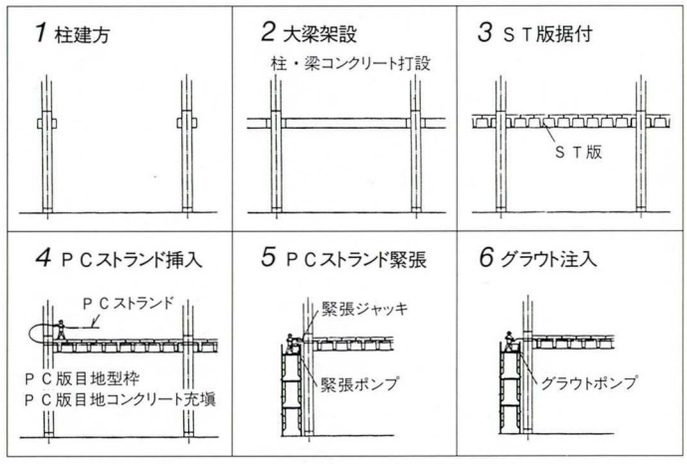


図３　プレキャストＳＴ合成床版工法

*

短い工期に労務を集約する工事で、非常に慌ただしい毎日だったが、施主・設計事務所・ＪＶのチームワークも良く、予定工期・無災害で、建物を完成することができた。

りんくう作品1 りんくうゲートタワービル北棟

■構造概要■

●構造種別　鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄筋コンクリート造）
●基礎形式　場所打鉄筋コンクリート拡底杭（一部直杭）

■設備概要■

■電気設備
●受変電設備
受電方式　特別高圧３回線スポットネットワーク、22kV受電
設備容量　11250kVA
●発電機設備　ガスタービン（10階）３相４線　415V　2,000kVA
●中央監視設備　CRTによる電気、空調、衛生設備一括監視制御
●幹線設備
電気方式　電灯、ＯＡ　単相３線　210V−105V（オフィス、ホテル、店舗）
動力　３相３線　415V
配線方式　ケーブルラック方式（ＣＶケーブル、ＦＰケーブル）
●照明設備
照明制御システム　汎用２線式リモコンシステム
照明器具　FLR40W×２灯システム天井（オフィスゾーン）700lx
コンセント　基準容量　50VA/m²（オフィスゾーン）
●弱電設備　インターホン設備、放送設備（非常用兼用）、CCTV設備、ITV設備、駐車場管制設備、警察無線通信補助設備
●防災設備　CRTによる防災一括監視制御、自火報・誘導灯・非常照明・非常放送、ヘリポート照明・避雷針設備
●情報通信設備　カードシステム、D-PBX、鍵管理システム、構内コードレスホンシステム、ビル運用管理システム

■空調設備
●熱源設備
熱源　地域冷暖房システム（冷水、温水、蒸気）
熱源容量　冷房負荷　3,000USRT　暖房負荷　6,000Mcal/日
●空調設備　オフィス／コンパクト型空調機＋四管式ファンコイル
パブリック／高温度差給気誘引ユニットシステム
ホテル／外調機＋四管式ファンコイル
自動制御　チャンネルコントローラーによる空調設備全体管理
DDCによる分散制御方式
●換気設備　給排気ファンによる一種及び三種換気
●排煙設備　機械排煙設備

■給排水衛生設備
●給水設備
給水方式　飲用上水、雑用水（工業用水）２系統100A引込
地下２階受水槽設置（270m³）
●給湯設備　地域熱源の蒸気を熱源とする中央給湯及び電気湯沸器による個別給湯
●排水設備　汚水・雨水分流方式
排水処理設備　地下２階に排水処理施設を設置し、処理水を便所洗浄水に利用。処理水量240m³/日、油水分離＋活性汚泥＋ＵＦ膜処理方式
●ガス設備　都市ガス（13A）200A号引込（厨房用）
●消火設備　スプリンクラー設備、炭酸ガス消火設備
●遮介処理設備　処理能力50m³/日
ロータリードラム＋地域真空収集管接続方式

■昇降機設備
オフィス用　乗用　240m/分×８台
ホテル用　乗用　420m/分×４台
パブリック用　乗用　120m/分×４台
人荷　180〜90m/分×４台、非常 180m/分×２台
エスカレーター　1200型×10台
デッキ用　乗用　45m/分×１台（油圧式）
エスカレーター　1200型×２台（屋外型、自動運転）

■機械駐車設備
循環式　48台１基、44台１基
水平循環式　48台１基、46台１基
昇降横行二段式　５台３基、７台10基、14台２基

●執筆者
ゲートタワービル日建・安井設計共同企業体
野田　泰弘　のだやすひろ　日建設計設計部長
原　克巳　はらかつみ　日建設計構造部長
日根　東治　ひねとうじ　安井建築設計事務所設備部長
真崎南海男　まさきなみお　日建設計監理主管
菊田　靖久　きくたやすひさ　日建設計設計主管
緑川　功　みどりかわいさお　日建設計構造設計主管
藤井　之寛　ふじいゆきひろ　安井建築設計事務所設備部副部長
山田　祐三　やまだゆうぞう　安井建築設計事務所設備部副部長
増田　宗忠　ますだむねただ　大林組ゲートタワー北棟ＪＶ工事事務所総合所長

りんくう作品2 りんくうエルガビルディング

■構造概要■

●構造種別　Ｂ4〜10Ｆ／鉄骨造
Ｂ2〜 3Ｆ／鉄骨鉄筋コンクリート造
Ｂ3、4Ｆ／鉄筋コンクリート造
●基礎形式　直接基礎（基礎底盤 ＧＬ−17.8m）

■設備概要■

■電気設備
●受変電設備
受電方式　高圧（6.6kVA）本線、予備線２回線受電
設備容量　4050kVA
発電機設備　ディーゼル発電機　定格容量：1500kVA
相数：３相３線、電圧：6600V
●中央監視設備　統合ビル監視システム（電気、空調、衛生、防災、防犯設備等を集中監視制御）
●幹線設備
配電電圧　電灯コンセント：単相３線210/105V
一般動力：３相３線210V（防災動力は415V）
非常用照明：ＤＣ100V
●照明コンセント設備（５〜10Ｆ）
照明　システム天井　平均照度500lx
（750lxまで対応可能）
照明制御　電力線伝送式リモコンシステム（現地及び中央）
コンセント　基準容量：30VA/m²（60VA/m²まで対応可能）
●弱電設備　電話、放送（非常用含む）、ＴＶ共聴、ＴＶ監視
●防災設備　自火報、防排煙、誘導灯、非常用照明、避雷針
（各防災設備をCRTにより集中監視制御）
●その他の設備　駐車場管制システム、セキュリティーシステム等

■空調設備
●熱源設備　地域冷暖房システム（冷水、温水）
●空調設備　５〜10Ｆ：インテリア、ペリメーターの２系統
外気処理空調機＋分散式ターミナル空調機
４Ｆ：外気処理空調機＋各室個別空調機
２、３Ｆ：熱源供給まで。他はテナント工事
各階共用部：単一ダクト＋ファンコイルユニット
●換気設備　第一種及び第三種換気方式
●排煙設備　機械排煙方式
●自動制御設備　分散型統合制御システム

■給排水衛生設備
●給水設備　飲料（市水）、雑用（工業用水及び中水を利用）
●排水設備　汚水、雑排水、厨房排水分流方式
雑排水処理設備、厨房排水処理設備
●給湯設備　地冷熱源の蒸気利用によるセントラル給湯方式
飲料用は電気、ガス併用（フロア別利用）
●消火設備　スプリンクラー、屋内外消火栓、連結送水管、二酸化炭素ガス消火、泡消火、消防用水

■昇降機設備
●エレベーター　乗　用：定員13名　定格速度105m/分
４台　群管理方式
非常用：定員33名　定格速度105m/分
１台　積載容量　2200kg
●エスカレーター　定格速度30m/分　公称幅800mm　２台

■廃棄物輸送設備
地下１階ローカル施設より、りんくうタウン内収集センターへ輸送（貯留ドラム容量：10m³）

■駐車場
自走式131台

●執筆者
猪子　順　いのこじゅん　日建設計設計部長
藤田　稔　ふじたみのる　日建設計設計部主任部員
峯下　俊郎　みねしたとしろう　りんくう情報エネルギーセンタービル新築工事　大林・竹中・淺沼・奥村・鴻池・錢高・りんくうエネセン建築ＪＶ工事事務所総合所長

りんくう作品3 りんくう国際物流センター

■構造概要■

●構造種別　鉄骨鉄筋コンクリート造
●架構形式　倉庫棟：ラーメン＋耐震壁架構
事務棟：純ラーメン架構
●基礎形式　PHC杭　RODEX工法　杭径600φ
長さ19m〜21m　数量1822本
耐力95〜110トン/本

■設備概要■

■電気設備
●受電　6.6kV高圧２回線引込
●設備容量　事務所棟：900kVA　物流棟：3,000kVA
●発電機設備　ディーゼルエンジンパッケージ型　3φ3W210V　250kVA
●中央監視設備　マイクロコンピュータ搭載分散処理方式
●電気方式　電灯：1φ3W　210−105V　動力：3φ3W　210V
非常照明：ＤＣ2W　100V
●配線方式　ＣＶケーブル＋ケーブルラック
防災電話は耐火ケーブル
●照明設備　事務所棟：事務室　基準照度　700lx
システム天井＋ＯＡコンフォート器具
物流棟：倉庫　基準照度300lx　直付 HID器具
●コンセント　事務所棟：事務室　ＯＡフロア＋ＯＡタップ
（30VA/m²）
物流棟：倉庫　フォークリフト電源盤（14kW/１面）
●弱電設備　電話配管設備、ＴＶ共聴設備、インターホン設備
非常放送設備、ITV設備、車両管制設備
●防災設備　非常照明設備、誘導灯設備
自動火災報知・防排煙設備

■空調設備
●熱源設備　事務所棟：地域冷暖房システム（冷水、温水）
その他：空冷パッケージ
●空調設備　事務所棟：テナントごとの個別空調機
＋（一部）ファンコイルユニット
その他：個別空冷パッケージエアコン方式
●換気設備　給排気ファンまたは換気扇による一種及び三種換気
●排煙設備　自然排煙＋機械排煙設備

■衛生設備
●給水設備　受水槽（１階）、高架水槽（Ｐ2階）による動力供給方式、給水量210m³/日　引込み給水管100φ
●給湯設備　個別方式
事務所棟／厨房、仮眠室にはガス瞬間湯沸器
物流棟／シャワー室には電気貯湯式温水器を設置
●排水設備　屋内分流（汚水、雑排水）方式
●消火設備　屋内消火栓、屋外消火栓、連結送水管、固定式泡消火、移動式粉末消火、フード消火設備
●ごみ貯留設備　ロータリードラム５m³　１基

■昇降機設備
事務所棟　乗用　15人乗−1,000kg　90m/分（障害者仕様）１基
乗用　15人乗−1,000kg　90m/分　１基
人荷用　17人乗−1,150kg　90m/分　１基
物流棟　人荷用　24人乗−1,600kg　90m/分　１基
乗用　15人乗−1,000kg　90m/分　１基
乗用　９人乗−600kg　90m/分　１基

■駐車場
287台（地上37台、屋上250台）

●執筆者
降井　繁蔵　ふるいしげぞう　日建設計設計部長
竹原　秀樹　たけはらひでき　日建設計設計主管
北村　秀光　きたむらひでみつ　大林・鹿島・前田・淺沼建設工事共同企業体りんくう国際物流工事事務所副所長
岩元庄太郎　いわもとしょうたろう　同上　工事長

「建築と社会」誌

特集一覧● 1975～1995

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。昭和42年からは体裁をA4変形判に変え、特集と作品作風頁を二本柱に、シリーズものの頁を織り込み、その時々の社会を反映したテーマを選んで掲載してきた。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-348-0635, FAX 06-348-0634）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。なお、「建築と社会」創刊号～昭和30年12月号まで全87巻の復刻版が、1991年10月から順次発行（不二出版）・配本されているので、詳細は日本建築協会事務局へお問い合わせ願いたい。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1975 Vol. 56	●図書館	●東海の新建築*	●インテリア*	●PC板を使用した工業化住宅	●社会・建築・法*	●都市の景観と施設	●建築とプレストレストコンクリート構造	●生活排水処理施設のあり方	●人間環境としてのターミナル*	●騒音対策と防音材料	●第22回青年技術者*	●集合住宅の設備*
1976 Vol. 57	●証言'76—建築デザインの動向*	●建築基礎構造の問題点*	●医療施設*	●床工法と材料*	●建築防災と法*	●市街地整備*	●工場建築の設備*	●鉄骨構造のジョイント	●集住体のハードとソフト*	●結露防止対策と断熱材料*	●第23回青年技術者*	●設備からみた建築の問題点
1977 Vol. 58	●デザインの動向—部分と全体*	●兵庫県—その風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号 ●ニュータウンの管理	●コンクリートの品質管理と行政指導の方向	●日影規制と法*	●身障者施設*	●照明設備*	●埋立地における構造問題—大阪南港と芦屋浜を例として	●日本住宅公団と建築作品	●ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ*	●建築における省エネルギー化	●第24回青年技術者*
1978 Vol. 59	●デザインの動向—新旧のコントラスト	●水*	●医療施設—病院建築と情報システム	●外壁塗装材料*	●電波障害と建築*	●組合方式による集合住宅計画	●住宅設備	●新しい耐震設計	●CAD—設計とコンピュータ	●一般号*	●第25回青年技術者*	●ビル環境
1979 Vol. 60	●転換期の再開発*	●大阪南港ポートタウン	●商業空間	●コンクリートのひびわれ	●日影規制*	●ホテル建築と情報システム	●農村施設の変貌*	●建物の終局強度の検討*	●庄内のまちづくり*	●80年代のインテリア*	●第26回青年技術者*	●建設業の労務事情*
1980 Vol. 61	●80年代の都市と建築—まちづくりの歴史と展望*	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物*	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集*	●住宅の耐久性*	●建築行政と法規*	●最近の防水工法*	●都市景観とアメニティ*	●屋内体育施設の設備*	●水ぎわのまちづくり	●今後の外装吹付仕上材*	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション集合住宅*	●これからの建築設計と新耐震設計法*
1981 Vol. 62	●職能論*	●中国の論文—北京の都市計画*	●ポートピア'81*	●台所まわりの計画と設備*	●シーリング材の知識*	●災害と法—安全な環境をめざして*	●都市住宅—住まい手からの発想*	●建築物と風—デザイナーのために ●日建設計作品集*	●住宅・都市整備公団—関西における都市整備を中心とした新公団の役割*	●間仕切壁の性能評価*	●第28回青年技術者*	●障害者の暮らしやすい環境と設備
1982 Vol. 63	●新たな商業空間の展開*	●省エネルギーと開口部*	●医療施設—地域医療と設備計画*	●近畿の地盤と地質*	●都市景観—まちなみ美観への誘い*	●大阪市庁舎（第一期）*	●ホール建築と音*	●大スパン構造*	●昭和設計作品集*	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル 日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築*	●風土・空気と人間*
1983 Vol. 64	●関西の建築文化を考える	●マイコンの建築への利用	●多様化する運動施設*	●建築と品質管理	●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	●大阪駅とターミナルビル	●維持管理と設備更新	●東海の将来と文化を考える	●オフィス・インテリアの変革	●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール*	●集合住宅と生活音
1984 Vol. 65	●21世紀への関西—魅力あるまちづくりを問う	●関西の超高層ビル	●ビルのリフレッシュー内外装補修技術の現状と発展—	●建設産業とロボット開発*	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル*	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 Vol. 66	●大阪湾物語*	●東海の現在と近未来	●自由様式への道—建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホール—それが生みだす文化—	●建物の表情—最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合—人体と建築にみる— ●日建設計作品	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 Vol. 67	●これからの住空間—都市型集合住宅にみる	●屋根—そのデザインと素材	●現代デザインーポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住居と設備	●開発—その創造的仕掛けの鍵をもとめて— ●ツイン21	●CAD—その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 Vol. 68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚のまちづくり	●建物と街並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 Vol. 69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統—東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ*	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明	●制振	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ* ●大阪府営繕	●第35回青年技術者 ●800号記念*	●讀賣テレビ
1989 Vol. 70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術*	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備I	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備II ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 Vol. 71	●商品化住宅のデザイン*	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識—中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化—設計の多様化をめざして—*	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者和歌山県の展望と景観*	●高級感—建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 Vol. 72	●新しい都市空間づくり—I—	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくり—II— ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識—複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木—構造技術の世界— ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 Vol. 73	●夢物語—人がかわる、まちがかわる—	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン—東海支部—	●建築家のための設備知識—集合高層住宅の設備システム—	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り—住宅・都市整備公団関西支社10周年—	●木構造を使ってみませんか—集成材による構造—	●接着—建築分野への限りなき可能性	●中国地方の街並みと建築家の「語り、夢、作品」	●星合一振設の魅力に学ぶーハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているのか	●京のかたちと色
1993 Vol. 74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営繕	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境—限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生—構造技術の役割— ●大阪市営繕	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境—人にやさしい空間創造をめざして
1994 Vol. 75	●コピー文化の新時代 ●広島の街造りとアジア競技大会	●九州のインスタレーションと我	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かって—会員作品	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美—建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 Vol. 76	●光がつくる風合の世界*	●音—騒音から操音／創音へ	●飛騨・美濃—まちの活性化と地方文化	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法—会員作品	●新しい「都市・建築」の視点	●建築構造と社会の接点 ●日建設計	●ライフラインと建築設備	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課

*印は欠号

構造の頁　257

粘弾性ダンパーを用いたCFT超高層住宅

黒木安男（くろき　やすお）　森　裕重（もり　ひろしげ）
㈱鴻池組大阪本店設計部設計課長　同課主任

大阪市此花区の西島地区では、住宅棟7棟、駐車場棟1棟、総住宅戸数973戸の建設計画が進行中である。そのうちの2期工事に含まれ、地区全体のシンボルタワーとなる超高層住宅の建設が始まろうとしている。柱をCFT構造とした鉄骨造40階の当建物においては、台風や季節風時の風揺れに対する居住性能の改善及び地震時での余力確保のため、粘弾性ダンパーを架構に組み込んで建物の減衰性能の向上を図っている。

粘弾性ダンパーの概要

粘弾性ダンパーの設置場所は、共用部分及び住居戸境壁部とし、1～19階までは計8カ所、20階～38階までは計4カ所、合計228カ所をX、Y両方向に対称形で配置している（**図1**）。

採用する粘弾性ダンパーは、数枚の鋼板の間隙に高分子材料を主体とした粘弾性体を充填したもので、ブレース形式で主架構に接合されている（**図2、3**）。粘弾性体は低振幅でも安定した楕円ループの履歴特性を持つことが実験的に示されており、解析に際して履歴特性のモデル化は、**図4**に示すような多要素モデルで置換が可能である[1]。粘弾性ダンパーの取り付け部材については十分な剛性を持つものとし、降伏荷重は接合ボルトの摩擦接合耐力で決定するものとした。

粘弾性ダンパーの減衰性能を把握するために、粘弾性ダンパーを装着していないモデルにおいて建物の構造減衰を変化させてレベルIでの地震応答解析を行い、ダンパーを装着したモデルの解析結果と比較を行った。建物の構造減衰は、内部粘性減衰とし、減衰定数（h）は1次振動数に対して2％とした。EL CENTRO、TAFT、HACHINOHE、TKMF061[2]の4波の応答結果について、例えば各階変位の応答値に着目すると、ダンパー設置のモデルの応答は、建物構造減衰$h=2.5\sim3.5\%$の範囲の応答に相当するものと考えられ、線形補間によって求めれば、減衰定数hは約3％となった。

風に対する居住性能

日本建築学会「建築物荷重指針・同解説」により、40階床レベルでの1年再現期間の風速による応答加速度を求め、日本建築学会「建築物の振動に関する居住性能評価指針・同解説」により居住性能評価を行った。建物近傍の河川水面よりの高さを基準高さとして、表面粗度区分II、頂部風速26.0m/secとした。減衰については、建物の構造減衰を1％と設定し、それに粘弾性ダンパーの減衰を付加するものとして$h=2\%$とした。

図5に、40階床レベルでの居住性能評価を示す。建物の振動数は固有値解析結果より0.29Hzとしている。風向方向、風直交方向ともにダンパーの効果が顕著に表れ、ダンパーを装着したモデルでは、ランクIIもしくはランクIIIを満足し、風に対する居住性能を改善することが分かる。

地震時の応答性状

地震応答解析として、TKMF061[2]波でのレベルI（25cm/s）応答結果を**図6**に示す。TKMF061波は、地震応答解析での結果が他の波に比べて卓越していたこと、当該敷地が同波を観測した場所から約2kmの位置であること、当該地盤と地盤構成がよく似ているなどの点で、検討用地震波としては最適なものと考えられる。解析結果において、ダンパーを装着していないモデルに対するダンパーを装着したモデルの応答値の比は、R階での変位では約80%、1階でのせん断力では約84%に低減する効果がある。

さらにダンパー効果としては、地震終了時の揺れを早期に収束させ、居住性能を高める効果もあるが、このように微小振幅から大振幅まで振幅範囲を選ばず、また建物の固有周期によらず減衰効果を高める当工法は、これからの有用なディバイスになり得ると思われる。

＊

当建物（**図8**）は、建築センターの高層建築物構造評定を完了し、本年11月より本格的な建設工事が始まる。地盤、建物内には地震計、風力計およびダンパーの挙動を測定する機器を設置し、ダンパーの効果を実証していく予定である。



建築場所／大阪市此花区西島4-1-1
用途／共同住宅（賃貸）
延床面積／44,096m²
階数／地上40階、地下1階、塔屋2階
軒の高さ／122.20m
構造種別
地上階／S造（柱：CFT造）
地下階／SRC、RC、S造
工事期間／1996年11月～1999年6月

図8　建物完成予想図

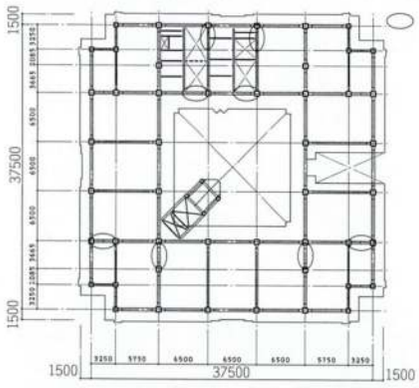


図1　粘弾性ダンパー配置図（1～19階）

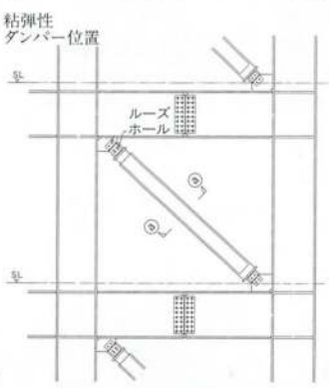


図2　粘弾性ダンパー図

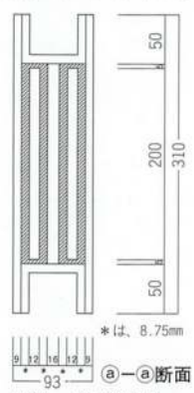


図3　粘弾性ダンパー断面図

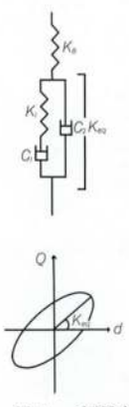


図4　多要素モデル

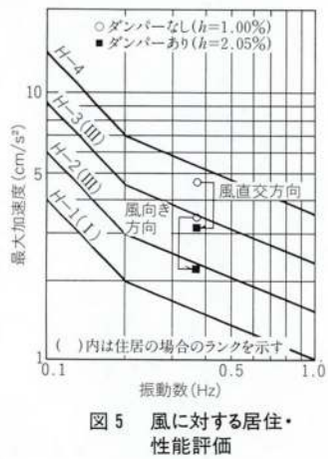


図5　風に対する居住・性能評価

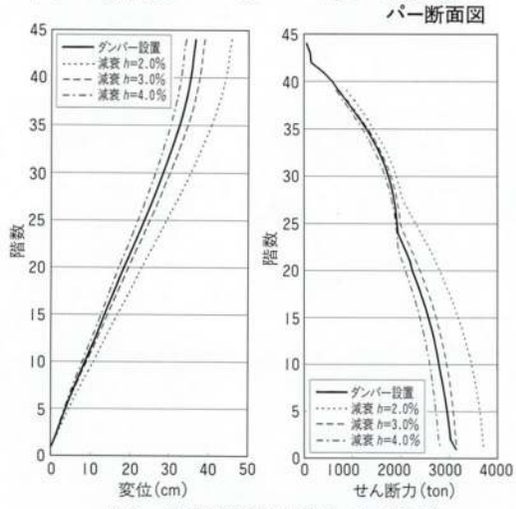


図6　地震応答結果（変位・せん断力）

文献

1）曽田、和田他「繰返加力実験にもとづく粘弾性ダンパーの力学モデルの構築」
日本建築学会構造系論文集第457号　1994. 3.
2）TKMF061　1995　EW波：当該地の東方約2kmに位置する高見フローラルタウン（RC造地上31階、地下1階；BCJ-62-H510）で採取された兵庫県南部地震における地震動記録のうちの地表面波
3）「建築物の耐震設計資料」日本建築学会　1981. 4.

設備の頁　258

LAN(Local Area Network)の用語解説

大野博文　おおの　ひろふみ
㈱大塚商会トータルネットワークサポートセンター主任

LANは一般に、企業などの同一ビルや構内に散在するコンピュータを専用のケーブルで接続し、高速な通信を実現するネットワークを言う。最近のダウンサイジングやパソコンの普及に伴いパソコンLANが急成長を遂げ、LANは今や企業の情報システムの中核を担う存在となっている（図1）。

このLANを構築することによって、ディスク(データ)資源やプリンタ、FAXの周辺機器を共有したり、電子メール、情報伝達ソフトを利用して、社内通知の配布等のデータのやり取りを効率的に行い、また大容量のデータを短時間で、エラーの少ない高品質で転送したりすることが可能となる。またLAN構築では、パソコンやUNIXワークステーションなど異機種間接続での構築が可能である。

LAN構成要素

サーバ／クライアント　サーバとは、ネットワーク上のディスクやプリンタ等の資源を提供するコンピュータで、一般利用者はクライアントであるパソコンを使ってサーバが提供する資源を利用する。

ネットワークインターフェース機器　コンピュータにネットワークケーブルを接続するインターフェースカード(NIC)である。UNIXワークステーションでは標準に搭載されており、パソコンでも最近は標準に搭載されているものが増えてきている。

ネットワークケーブル　最も一般的に利用されているネットワークケーブルの種類には、同軸ケーブル(10base5、10base2)、ツイストペアケーブル(10baseT)、光ファイバケーブルがある。最近では、10baseTが主流となっており、HUB(ハブ)と呼ばれる集線装置とコンピュータ(のNIC)をつなぐケーブルである。伝送速度は、10base5、10base2、10baseTともにEthernetの規格であり、どれも10Mbpsである。

ネットワーク機器　コンピュータを接続する。

①HUB　10baseTケーブルを利用した環境には必ず必要な集線装置であり、おのおののコンピュータは10baseTケーブルを用いてHUBに接続する。HUBには8ポート用、12ポート用、24ポート用等の製品があり、これ以上のコンピュータを接続する場合や、HUBとコンピュータ間で100m以上の距離がある場合等には、HUBとHUBを10baseTケーブルでつないでカスケードさせたり、10base5や光ファイバケーブル等のバックボーンに接続する方法がある。

②スイッチングHUB　HUBの一種であるが、各ノード（コンピュータ）から送信されたデータは、ポートに接続されたノードのアドレス対応表に従ってスイッチングされ、宛先アドレスのポートにのみ送信される。そして複数のポート間で同時にデータを送信することによって、各ポートが10Mbpsのデータ伝送速度をフルに得られ、全体としての高速化が実現される装置である。

インターネットワーク機器　LANとLANを結ぶ。

①リピータ　10base5、光ファイバケーブル等のケーブル上を流れる信号を、電気的なレベルで再生し、別のLANに中継する装置である。ケーブル長の上限であるセグメント距離（10base5であれば500m）を超えて離れたLANを単純に一つのLANとして扱うことができる。

②ブリッジ　受信した信号をフレームとして認識し、フレームの宛先アドレスから、そのフレームをもう一方のLANに再生するか破棄するかを判断し、不要なフレームがもう一方のLANに流れるのを防ぐ装置であり、トラフィック(LANの負荷)を分散させることが可能である。

③ルータ　最適ルートを探し出すルーティング機能や、論理的なネットワークアドレスによるフィルタリング機能により、ブリッジより高度なトラフィック分散を実現する装置であり、外部(WAN)との接続に利用されることが多い。

ネットワークOS　上記構成要素によってハード的に接続されたコンピュータ間でサーバが提供するデータやプリンタの共有を実現するソフトウェアである。

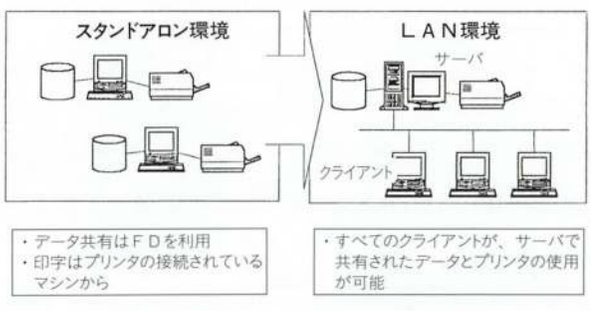


図1　LANのメリット

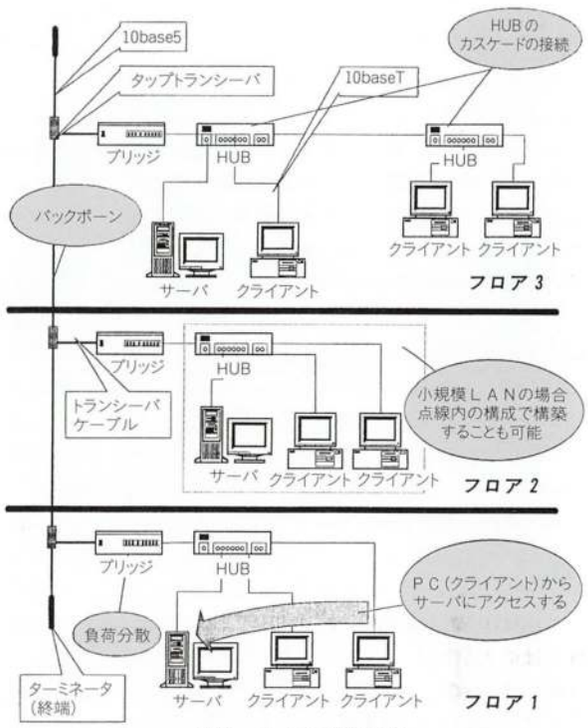


図2　LANの構築例

LAN構築例

以上のLAN構成要素を組み合わせて、LANを構築する。図2のフロア2の点線内から考えると、これだけで一つの小規模なLANとしても成り立つ形態である。LANの中には、HUBに10baseTで接続された最低1台のサーバとクライアントがそれぞれある。

この小規模なLANを他のLANと接続するためには、インターネットワーク機器を介さずに10base5等のバックボーンに接続することも可能であるが、図2のように、負荷分散のためにブリッジなどを設置することも多い。この場合、フロア2のクライアントより他のフロアのサーバに対してアクセスする場合のみバックボーンに送信が行われる。

高速化の時代へ

近年パソコンの処理速度の高速化、LANに接続するパソコンの増加、またマルチメディア化による大量な画像データ伝送に伴い、10Mbps程度が主流であるLANの伝送性能がボトルネックとなってきている。そこで最近では100Mbps以上の伝送速度を実現するLANが登場し、10MbpsのLANと組み合わせて、トラフィックの集中する伝送路の高速化や、バックボーンとして導入されるケースが増えている。

参考文献
・NEC　LANガイド
・オーム社　異機種接続とPC NET絵とき読本

施工材料の頁　196

長尺金属屋根

河野重治　かわの　しげはる
㈱淀川製鋼所建材開発部建材開発課課長代理

はじめに

薄板金属屋根が日射を受けると、表面材の温度が急激に上昇するのに対して、屋根下地の温度は緩やかにしか変化しない。そのため、表面材と屋根下地との間で温度差が生じ、各材料の伸縮量の差で温度応力が発生し、屋根材の変形などの実害となって現れる。特に工場や体育館などに用いられる長尺金属屋根では、表面材自身の伸縮量も大きくなり、表面材の凹凸や歪となって変形し、外観上も好ましくなく、また、耐久的にも問題となる。

そこで、この表面材に発生する変形を防ぐ目的で、長尺金属平滑縦葺屋根「ヨドルーフ　タイラ400」を開発した。

以下にその概要を紹介する。

概要

表面材は、働き幅400㎜のフラットな形状で、裏面にはポリエチレンフォームを裏貼りし、雨音を大幅に減少すると共に、結露を防止できる。接合方法は通し吊子による嵌合式とした。また、この嵌合部には樋機能を併せ持たせ、雨水の侵入を防いでいる。新機能として、軒先唐草が表面材の伸縮によりスライドできる機構を開発し、表面材自身の長さ方向の伸びを拘束せずに軒先端部で吸収できる構造とした。これにより、長尺金属屋根で問題となる表面材の凹凸や歪がほとんど発生しなくなった。

特徴

①高い意匠性

パネルのようなフラットな仕上げとなる。また、日射による表面材の伸縮を軒先端部で吸収できるため、表面材の凹凸や歪が生じないため、フラットな形状が維持でき、非常に美観的である。検証のため、実際の現場施工に基づいて製作した屋根（長さ10m）について、自然条件下で軒先端部における表面材の伸縮量を測定した。

その結果、表面材の伸縮量は温度変化と線膨張率から計算した値の約80%が実測され、また、目視により表面材の凹凸や歪は観察されず、軒先端部のスライド機構が有効に働いていることが実証できた。

②アーチ形屋根にも対応

ストレート屋根はもちろんアーチ形屋根（曲率半径10m以上）にも対応できる。

③高い水密性

キャップ部の止水ゴムで雨水の浸入を防ぐが、万一入っても、表面材本体、キャップ及び通し吊子の３つが樋機能を持ち合わせ、軒先まで排水する構造であり、優れた水密性を発揮する。

④施工性の向上

左右対称な形状のため、どこからでも葺き始めができる。また、嵌合式なので特殊な工具が不要であり、作業時間の短縮が図れる。

⑤強度性の向上

通し吊子の採用により負圧強度が向上し、実験の結果1000kgf/㎡でも異常は認められなかった。

おわりに

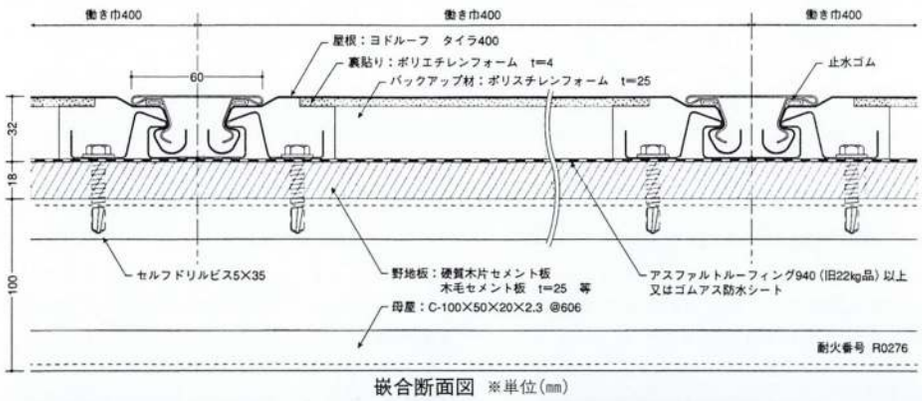
今回の測定では、実施工にもとづく金属屋根板の伸縮量を現実的に測定できた。また、施工時の金属屋根板の表面温度を測定することにより、軒先部のスライド量を適切に管理することが可能となった。

使用材料・板厚・曲率半径

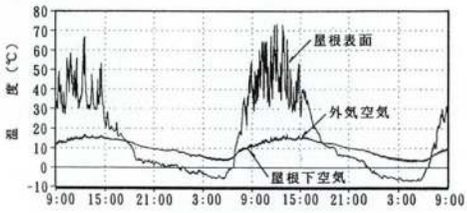
素材 / 板厚	鋼板系 カラー鋼板	鋼板系 塩ビ鋼板	ステンレス系 カラーステンレス	曲率半径 R(m)
0.4㎜	○	○	○	10m 以上
0.5㎜	○	○	—	
0.6㎜	○	—	—	

性能試験　＊母屋ピッチ：606㎜

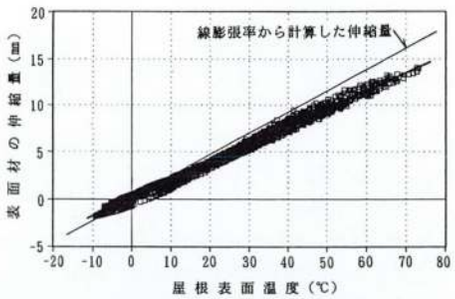
強度性能（負圧）	1,000kgf/㎡　異常なし（最大荷重）
水密性	平均圧力200kgf/㎡ 異常なし（風速60m/s 降水量360㎜/HR）（上限275kgf/㎡・下限125kgf/㎡・噴霧量６ℓ/㎡ min）
耐火性	屋根30分耐火構造　R0276（下地材：硬質木片セメント板　厚さ18㎜ ポリエチレンフォーム４㎜裏貼り）



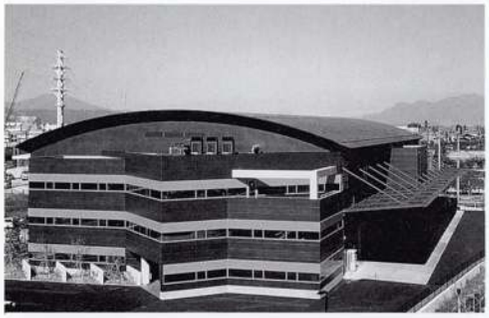
嵌合断面図　※単位(㎜)



自然条件下での温度変化



屋根表面温度と伸縮量の関係





Report

パブリックアート・フォーラム全国シンポジウム

都市の中のアート
～市民との対話の可能性～

森山貴之

もりやま　たかゆき
パブリックアート・フォーラム事務局



1日目―開会挨拶



2日目―分科会



2日目―市民フォーラム

パブリックアート・フォーラム第3回全国シンポジウムは、福岡市との共催の下、10月4日、5日に開催され、自治体関係者・美術の専門家・作家・一般市民・学生など参加者が270人を超える大変盛況な会となった。

都市の中のアート

初日第1部は福岡市美術館にて、東京大学生産技術研究所教授の藤森照信氏による基調講演「街でアートに出会うとき」が行われた。藤森氏は明治以降の建築の研究において先駆的な業績を上げているが、ここでは、彼のもう一つの顔である路上観察学での視点によるパブリックアート論が展開された。

それは、「街には、アートでも実際に機能する街具でもない『路上の物件』が存在し、普段は人々が気づかない中で埋もれている。それらは生活していく上での必然性によって生まれたモノであるが、時がたつにつれて、他の人々からみればなぜと思うような滑稽なモノとして映る。別の角度から街を眺めると、そのような驚きと新鮮さに満ちたモノがあふれている。パブリックアートにしても、街を楽しくさせるモノとして期待できるのではないか」というユニークなものであった。

続いて行われた事例報告では福岡市から彫刻のある街づくり事業の報告が行われ、福岡市に設置されている斬新な作品群が紹介された。

次に、この時期福岡市天神地区を舞台に開催されている野外アート展「ミュージアム・シティ・天神96」の事例報告が行われた。「ミュージアム・シティ・天神96」は、隔年で開催されている国内外のコンテンポラリーアートを街中に取り込んだアートイベントで、福岡の文化として定着してゆくことが期待されているプロジェクトである。

第2部では「市民と対話するパブリックアートとは」と題したパネルディスカッションを行い、パブリックアートがいかに市民を巻き込みながらその地域の独自性を生み出していくのかについて、各パネラーの熱い議論が交わされた。

初日終了後の懇親会では、シンポジウム参加者が多数出席し、パブリックアートの今後について報告者を囲んでざっくばらんに意見が交換され、終始華やかで楽しい一時を過ごした。

パブリックアートの存在理由を問う

2日目は福岡市健康づくりセンター「あいれふ」にて、今パブリックアートの課題となっている4つのテーマに沿って分科会が行われた。

第1分科会では1日目の議論の延長とも言うべき「パブリックアートの展開における市民参加」、第2分科会ではパブリックアートによっていかに「健康な」都市・市民が生まれるかについての「市民と都市の健康づくり～アートの視点から」、第3分科会では、建築とアートのよりよい協働関係について語り合う「創造としてのコラボレーション」、第4分科会では、イベントや祭りとしてのパブリックアートの可能性を考える「テンポラリーパブリックアートの可能性」が行われた。各分科会とも、それぞれのテーマに関連する事例報告を基にして、より専門的な議論が行われた。

その後、この4分科会の議論を受けて、シンポジウムの総括討論「パブリックアートは豊かな公共空間を作りうるか」が行われた。地方都市の彫刻設置事業から、大都市における再開発を絡めた大規模パブリックアートプロジェクトまで、国内で飽和状態に達しつつあるパブリックアートの根本的な存在理由を問うこのテーマに、聴衆からも鋭い指摘が飛び交う、まさに白熱した議論となり、会を締めくくるにふさわしい内容となった。

パブリックアートと市民

全国シンポジウムの付随行事として、パブリックアート市民フォーラム「パブリックアートと対話する街づくり」も開かれた。

実は、この全国シンポジウムに先駆けて市民による街角彫刻ウォッチングを行い、福岡市内の彫刻を見て歩いたのだが、これが今回の市民フォーラムを楽しいものにした。参加した約100名がグループに分かれて、市民が考えるパブリックアートプランニングを発表したり、彫刻そのものの気持ちになって設置環境を考えたり、また、街づくりにおけるパブリックアートの意義を論じたりして、その新鮮な意見は専門家たちにも刺激となったようだ。

パブリックアート・フォーラムは、街づくりにおけるパブリックアートのあり方を議論する場として精力的な活動を行い、今年で3年目を迎えたが、パブリックアートにはまだまだ論じきれない、解決のつかない問題が山積みである。市民とどのように、そして何を対話するのか、市民に期待される役割とは何なのか、パブリックアートに限らず、都市空間における市民社会の形成の中で、市民自身が果たすべき役割とは一体何なのかなど、今回のテーマにある「市民との対話」にしてみても、その多様なテーマをわずか2日間のシンポジウムでは論じきれないし、さらに根本的な問題として、パブリックアートそのものの概念がまだ未完なままにとどまっている現状である。

パブリックアートと「アート」

美術作品そのものを日常世界から切り放して体験する一般的な「アート」と、人々が生活する公共の場に恒久的／仮設的に展開する「パブリックアート」は、それぞれ別な価値基準を持っている。また、パブリックアートを「アート」のジャンルの一つと考えてみても、無数のスタイル、役割、意義が存在し、一つの安定した概念として定義づけることが非常に難しい。ましてやそこへ「パブリック」の概念や市民社会の概念が絡み合ってくると、パブリックアートという語彙そのものの妥当性も考えてみる必要があるかも知れない。

「パブリックアート・フォーラム」のように都市空間とアートの接点を探るシンポジウムは他にも存在するが、その実践的な内容について考える一方で、パブリックアートの成立を支えているこうした価値を体系づけること、そしてそれらを相対的に考えてゆく必要性をあらためて感じた「全国シンポジウム」となった。

関西パブリックアート・フォーラム開催

期間を限ってその場にインパクトを与える一過性のパブリックアート「テンポラリーアート」、この意義およびこれからの可能性を検討することによってパブリックアートの役割を考えるフォーラムが開催される。

日時　1996年12月13日(金)　18：00〜20：30
会場　神戸市勤労会館・3階・講習室
　　神戸市中央区雲井通5-1-2（三宮駅徒歩5分）
会費　2000円（フォーラム会員は無料）

●プログラム「テンポラリー・パブリックアートの可能性―神戸ルミナリエをもとに考える―」

(1) 解説「神戸ルミナリエ*について」
――アートディレクターのヴァレリオ・フェスティ氏（建築家・イタリア）に交渉中
(2) パネルディスカッション「テンポラリー・パブリックアートの展開と可能性」
パネラ　建畠　晳氏（多摩美術大学教授）
　　川田都樹子氏（京都芸術短期大学講師）

コーディネータは田中直人氏（神戸芸術工科大学教授）。詳しくは、主催者パブリックアート・フォーラム関西事務局（TEL06-300-4839）へ。

＊「ルミナリエ」とは…
イタリア語「ILLUMINAZIONE PER FESTE」（祝祭のためのイルミネーション）が語源。
＊「神戸ルミナリエ」とは…
昨年12月にヴァレリオ・フェスティ氏が「Dei sogni e della Luce（夢と光）」をテーマにデザインし、12人のイタリア人スタッフが25日をかけて約15万個の電球を使い、旧外国人居留地に総延長790mの「ルミナリエ」を完成。

「震災復興と設計技術」報告会

震災復興に携わる設計技術者（建設会社5社、建築設計事務所7社）が、建築の構成材の被害について検討した成果を、阪神・淡路大震災2周年を機に報告する。調査は、構成材とその組み立てに関する技術的検討に加えて、建築の全体構成・システムのあり方に及ぶものであり、これによって、設計技術の向上、建物の性能や安全性に関する独自の課題提起がなされる。

日　時　1997年1月22日(水)　14：30〜17：30
　　報告会に先立ち、13時30分から大阪市立大学学術情報総合センターの見学会を予定。
会　場　大阪市立大学学術情報総合センター・学術交流ゾーン会議室L（10階）
　　大阪市住吉区杉本3-3-138
定　員　150名（定員になり次第締め切り）
参加費　3000円（報告書2500円含む）
申　込　ハガキに、①氏名、②勤務先・住所・電話とFAX番号、③見学会参加希望の有無を記入し、大阪市立大学工学部建築学科建築計画・建築史研究室（〒558 大阪市住吉区杉本3-3-138、TEL06-605-2713）へ。
主　催　日本建築学会近畿支部設計計画部会

建築Next Phase研究会セミナー

第21回建築 Next Phase 研究会公開セミナーは、大型国際公開コンペといわれた「国立国会図書館関西館コンペ」で全493作品の中から最優秀案に選ばれた建築家・陶器二三雄氏を招き、コンペ案の詳細、および氏のコンセプトである「静かな建築」論を展開する。

テーマ　国立国会図書館関西館コンペ最優秀案を語る―「穏やかで、新鮮な空間表現」を生み出したもの
日　時　1996年12月4日(水)　18：30〜20：30
講演者　陶器二三雄氏（陶器二三雄建築研究所）
会　場　東京デザインセンター
　　東京都品川区東五反田5-25-19
参加費　2000円（学生1500円）
応　募　氏名・勤務先・住所・電話番号・FAX番号を記入し、FAXで東京デザインセンター建築Next Phase研究会「公開セミナー」係（FAX 03-3445-1125、TEL03-3445-1121）へ。

報告会「欧州の保健医療福祉施設」

㈳日本医療福祉建築協会は6月にヨーロッパへ「海外医療福祉建築視察団'96」を派遣したが、その報告会をスライドを中心にして公開する。

日　時　1996年12月17日(火)　13：30〜16：30
会　場　建築会館ホール
　　東京都港区芝5-26-20
講　師　長澤　泰氏（東京大学教授）ほか
内　容　イタリア、チェコ、ハンガリー、オーストリア、フィンランドの病院―ピサ総合病院／モトル・プラハ教育病院／シエケスヘルバー病院／ウイーン大学総合病院／サボンリンナ中央病院／クオピオ大学中央病院ほか
定　員　150名
参加費　4000円（報告書とも／当日会場受け付け）
申　込　事前申し込みを、㈳日本医療福祉建築協会（〒108 東京都港区芝5-26-20 TEL03-3453-9904、FAX03-3453-7573）へ。

シンポジウム「温暖地における高機密・高断熱住宅のあり方」

日　時　1996年12月6日(金)　13：30〜17：30
会　場　アルカディア市ケ谷（私学会館）・富士の間
　　東京都千代田区九段北4-2-25
　　TEL03-3261-9921
定　員　150名（定員になり次第、締め切り）
参加費　4000円（テキスト代・税込み。当日払い）
申　込　所要事項を記入し、FAXまたは郵送で主催者空気調和・衛生工学会学術運営委員会（〒169 東京都新宿区北新宿1-8-1　FAX03-3363-8266）まで。ただし受講券の発行はなし。

プログラム

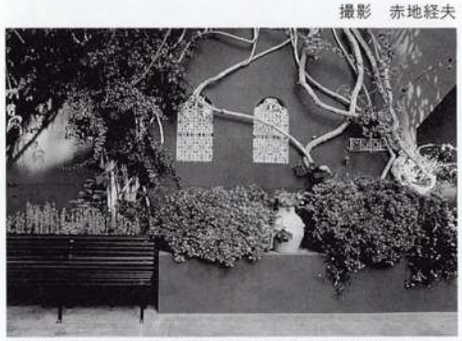
・モデル住宅における熱負荷実測／小峯裕巳氏（千葉工業大学教授）
・シミュレーションによる冷房負荷の検討／宇田川光弘氏（工学院大学教授）
・シミュレーションによる熱性能評価／坂本雄三氏（東京大学大学院助教授）
・換気性状の評価法の検討と適用例／倉渕　隆氏（東京理科大学助教授）
・換気システムの換気性能評価法／澤地孝男氏（建設省建築研究所室長）
・換気システム設置工法の検討／安孫子義彦氏（ジェス）

「色彩建築」展―INAXギャラリー大阪企画展―

「色彩建築―モダニズムとフォークロアー」と題し、INAXギャラリー大阪企画展では建築の色彩をいろんな角度から考察・検証する。

色彩が人間にどのような影響を与え続けてきたか、近代建築における色の役割、現代建築家の考える色など、今世紀の建築を振り返ると同時に、宗教や風土に根ざす民俗的建築群の双方からアプローチする展覧会となる。入場無料。

撮影　赤地経夫



イヴ・サンローランの別荘「マラケシの家」（モロッコ）――外観は地中海ブルー。モード界のトップ、サンローランはなぜあの「青」にこだわったのか……。

会　期　1996年12月9日(月)〜1997年2月22日(土)
　　10：00〜18：00
　　休館日／12月28日〜1月5日と毎週水曜日
会　場　INAX大阪ショールーム2F
　　大阪市西区新町1-7-1　TEL06-539-3518

■講演会「鉱物の色と建築の色、土の中に建築の色がある」石田秀輝氏（山口大学客員教授、工学博士）
――建物を彩る色をはじめ、数えきれない色は鉱石のかたちとして地中深く眠っていることを科学的に解き明かす試み。

日　時　1997年1月27日(月)　18：00〜19：30
会　場　INAX大阪ショールーム8階・会議室
定　員　先着順100名（入場無料）

大阪まちなみ賞巡回展

第16回大阪まちなみ賞（大阪都市景観建築賞）は、大阪府知事賞に熊取町立熊取図書館（設計：鬼頭梓建築設計事務所）、大阪市長賞に大阪ワールドトレードセンタービルディング（設計：日建設計、マンシーニ ダッフィ アソシエイツ）、大阪府建築士会長賞にサントリーミュージアム「天保山」（設計：安藤忠雄建築研究所）、特別賞1点、奨励賞5点が決まった。

この16回まちなみ賞入賞建物のパネル写真を中心に、過去の入賞建物のパネル写真が巡回展示されている。

期間　1996年11月1日～1997年3月26日

場所　大阪市内――中央区役所区民ロビー、北区役所区民ロビー、大阪府庁本館・別館
大阪府内――府民センタービル7カ所

スペースデザインゼミ「光と空間」

講　師　田村利夫氏（ＡＺ設計工房代表／照明デザイナー）ほか

講　義　照明と自然光の効果や、空間とのかかわりによる「光の魅力」を、講義だけでなく見学等の実体験を通じて、様々な角度から発見する。

日　時　1997年1月17日㈮、1月24日㈮、1月31日㈮、2月7日㈮の全4回。18：30～20：50

会　場　大阪ガスインテリアデザインスクール
大阪市中央区備後町3-6-14　備後町オークビル6F、最寄駅／地下鉄御堂筋線本町駅

受講料　3万円（税込み）

問合先　大阪ガスインテリアデザインスクール事務局
TEL06-262-4089

平成8年度ひろしま街づくりデザイン賞決まる

市民参加型の表彰制度として平成6年度に広島市が創設した「ひろしま街づくりデザイン賞」の、今年度の受賞作品が決まり、10月4日に広島県民文化センターで表彰式を終えた。

5月10日～6月20日に公募し、応募156件の中から、①建築物・工作物部門2件、②街並み部門1件、③サイン・アート部門2件、④まちづくり活動部門2件を選考（選考委員長：杉本俊多広島大学助教授）した。なお、平成8年度は、大賞および緑化推進部門賞に該当する物件はなかった。


建築物・工作物部門――NHK 広島放送センタービル


街並み部門――エリザベト音楽大学2号館


サイン・アート部門――アストラムラインのサイン


サイン・アート部門――赤い電車（みんなおいで）


建築物・工作物部門――市営江波沖住宅特別養護老人ホーム悠悠タウン江波


まちづくり活動部門――宇品臨港線周辺を美しくする会


まちづくり活動部門――ホタルの里おくはた

'97建築・建材展を東京国際展示場「東京ビッグサイト」（有明）で

建築・建設の内装材、外装材、景観材料などのハードや、各種建築エンジニアリングなどのソフトを一堂に集めて、情報交換・取引拡大の場をめざす展示会が、「街づくり・流通ルネサンス」のテーマのもとに開催される。主催は日本経済新聞社。

会　期　1997年3月4日㈫～7日㈮ 10：00～17：00

入場料　1500円（同時開催の「JAPAN SHOP」「SECURITY SHOW」ほかと共通券）

●投稿

御堂筋の歴史的景観を守って

柴田正己

10月24日朝日新聞夕刊トップに、御堂筋沿いのビルの建て替えや改築のニュースが紹介されていた。'95年1月に御堂筋の規制緩和による指導要綱が変更され、従来の美しいスカイラインが新築のために破壊されることを心配していたが、今度、大阪明治生命館（大阪市中央区伏見町　昭和40年竣工）の建て替えでそれが始まろうとしている。

以前にも新しい要綱による新築計画が出たが、われわれ市民グループ「歴史的景観研究会」は大阪のシンボルとも言うべき御堂筋のすぐれた都市景観の保全のために所有者に協力をお願いしてきた。都心の一等地で景観保全は難しい面はあるものの、大正9年以来、大阪が守り育ててきた美しい御堂筋のスカイラインをなんとしても後世に継承してほしいと思う気持ちから、平成4年以降、関係方面に御堂筋の観景保全の要望を続けてきた。

せっかく先人たちの努力で残されてきたかけがえのない歴史的な景観を、本町までの1キロぐらいは今のままで残してほしい。土地の高度利用もよいが、それは他で実施し、今となっては歴史的にも重要な価値をもつ御堂筋の美しい都市景観を大切に残すために、大阪明治生命館は企業の社会的な使命から再検討をしてほしいのである。後世に悔いを残さぬためにも、関係者の英知を結集することを強く訴えたい。

歴史的景観研究会代表者


御堂筋 ホンマに建つで50メートルビル

明治生命館 改築計画 市民「デコボコ」心配

ビルの高さ規制が三十一メートルから五十メートルに緩和されたことを受け、明治生命グループが「大阪・御堂筋の中心部で、明治生命館（中央区伏見町）を五十メートルに建て替える計画を進めていることが二十九日、明らかになった。

市などによると、同グループは「入居者の使い勝手の悪さや、〝歴史的景観の形成〟に協力してきた」などとして、昨年から「御堂筋にふさわしいまちづくりを」と、観光協会や観光研究会の委員らでつくる「歴史的景観研究会」の提出した代表は「きれいにそろったビルの屋上のラインがない、いよいよ他都市のビル群のようにデコボコになる」と懸念。市側は「高さ五十メートルに統一し、美観を損なわないよう指導していくとしている。

高さ50メートルに建て直される明治生命館

月間の動き

【平成8年9月分】

理事会

第2回常任理事会
25日・4時～4時半・於本会会議室
出席者　岡本、金多、錢高（代塩脇）、三品副会長ほか11名
議　事　(1)国の建築審議会「建築行政部会」に関する件
(2)入退会者承認の件
(3)後援等名義使用承認の件
(4)事業報告

正副会長会議

17日・11時～12時半・於本会会議室
出席者　市川会長ほか4名
議　事　建築審議会建築行政部会基本問題分科会

企画委員会

第1回企画委員会
10日・3時～5時・於本会会議室
出席者　片倉委員長ほか6名、オブザーバー 市川会長
議　事　協会80年史の編纂について

編集委員会

第1回80周年記念特集編集幹事会
3日・7時半～9時半・於本会会議室
出席者　富田副委員長ほか4名
議　事　80周年記念特集の企画
第6回会員企画小委員会
3日・6時半～8時・於本会会議室
出席者　高橋委員ほか2名
議　事　(1)「シリーズ頁」の報告
(2)新しい企画案について
第6回構造分科会
4日・6時～8時・於本会会議室
出席者　長瀬幹事、岸本委員
議　事　(1)1997年2月号「鉄ものがたり」特集具体化
(2)「構造の頁」の企画
第4回法令分科会
12日・2時～3時半・於本会会議室
出席者　城戸幹事ほか3名
議　事　(1)「法令コーナー」の企画
(2)法令特集の企画
第7回広告企画小委員会
12日・4時半～5時40分・於本会会議室
出席者　河原副委員長ほか3名
議　事　(1)独自特集企画経過報告
(2)作品作風関係報告
(3)収支状況報告
第6回編集委員会
12日・6時～9時半・於本会会議室
出席者　與謝野委員長ほか9名
議　事　(1)9年1月号「合同分科会」特集案検討
(2)9年2月号「鉄ものがたり」特集案検討
(3)9年3月号「東海支部」特集案検討
(4)9年4月号「80周年記念」特集案検討
(5)平成9年1月号からの会誌体裁の検討
第6回設備分科会
20日・6時～8時半・於本会会議室
出席者　西岡幹事ほか9名
議　事　(1)「最新の大規模スポーツ競技施設の設備」
(2)「設備の頁」の企画
(3)設備の新シリーズ頁の検討
第6回施工材料分科会
25日・4時～6時・於本会会議室
出席者　植田幹事ほか4名
議　事　(1)合同分科会企画「建築寿命」案検討
(2)「施工材料の頁」
平成9年1月号合同分科会
25日・7時～10時・於本会会議室
出席者　江副幹事ほか7名
議　事　平成9年1月号合同特集の内容について
第6回作品作風小委員会
26日・6時半～8時・於本会会議室
出席者　富田副委員長ほか8名
議　事　(1)作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
(2)作品の選定
(3)「シリーズ頁」掲載報告・予定
(4)会員作品特集号について
第2回80周年記念特集編集幹事会
30日・6時半～9時・於本会会議室
出席者　富田副委員長ほか4名
議　事　80周年記念特集の企画

事業委員会

第5回若い会員の集い小委員会
10日・7時～8時半・於本会会議室
出席者　阪田幹事ほか4名
議　事　(1)前回事業委員会の報告
(2)実施報告
(3)今後の予定について
第4回広報小委員会
11日・6時～8時・於本会会議室
出席者　南、原見、川村各副委員長ほか13名
議　事　(1)前回事業委員会の報告
(2)今後の予定
第4回見学会小委員会
12日・6時～7時40分・於本会会議室
出席者　南、福島副委員長ほか7名
議　事　(1)前回事業委員会の報告
(2)実施報告
(3)今後の予定及び候補について
第4回事業委員会
18日・4時～5時半・於本会会議室
出席者　多井委員長ほか6名
議　事　各小委員会からの報告と検討

建材委員会

建材委員会見学会
富士昭フェローＮＣデッキ製造工場
13日・参加者・和田委員長ほか15名

出版委員会

第6回出版委員会
19日・5時半～7時・於本会会議室
出席者　山田委員長ほか10名
議　事　(1)<プロのノウハウ>と特装本の経過報告
(2)今後のテーマと執筆者選定
(3)第16回「プロのノウハウ」講座企画経過報告
(4)特別出版企画の経過報告並びに出版工程

30's EYE—21世紀へのエスキス

山内靖朗／藤の家建築設計事務所代表
「手探りの建築」
27日・6時半～9時・参加者14名

建築工事実務講習会

■施工計画
12日・9時～5時・於大阪府建築健保会館
講師　関川詞之氏（大成建設㈱建築部管理室次長）
佐貫　久氏（鹿島建設㈱建築部生産計画室長）
受講者109名
■積算・仮設見積
19日・時間、会場同上
講師　吉田　豊氏（㈱竹中工務店見積部見積課長）
藤井孝晏氏（㈱大林組工務部副部長）
受講者82名

建築クラブ

第3回建築クラブ役員会
10日・9時半～10時半・於大阪グランドホテル
出席者　佐野代表ほか7名
議　事　(1)速記録集編纂発行について
第293回朝食会
10日・8時～9時半・於大阪グランドホテル
演題　「冒険家植村直己の十三回忌を迎えて」
講師　辻　一郎氏（毎日 EVR システム常務取締役）
参加者　50名

入会者（敬称略）

〔団体会員1社〕
松下電工㈱リファイン推進部
〔個人会員18名〕

石川　貴之（日建設計）	白沢　吉衛（日建設計）	中田　茂郎（日建設計）
八幡　健志（日建設計）	井潤　修司（昭和設計）	大西　晃（昭和設計）
山田　俊紀（昭和設計）	伊坂　大（鹿島建設）	大氏　正嗣（近畿地方建設局）
大沢　唯史（住友建設）	桐田　周三（錢高組）	佐渡　政勝（大林組名古屋支店）
野村　浩之（大林組）	津田　和征（安井建築設計事務所）	小林　浩（海王商事）
澤　良雄（アトリエ　サワ）	三原　猛（川崎製鉄）	夜船　康司（竹中工務店広島支店）

〔準会員3名〕

田中　由香（近畿大学）	塚越　由紀（近畿大学）	山口　繁雄（大阪大学大学院）

〔訂正〕
平成8年10月号作品作風頁（11頁）に掲載の「大阪府立中央図書館」作品の設計・監理名称をつぎのように訂正し、謹んでお詫びいたします。
設計■
大阪府建築部営繕室・日建設計
監理■
大阪府建築部営繕室・大阪府建設監理協会・日建設計
施工■
鹿島・熊谷・前田建設・森組ＪＶ

OM

テトカッパー防水層

カッパー防水帯――――――コーパータイト／オクロン防水帯

資料をご請求下さい。

奥山化工業株式会社

本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル　TEL03(3571)2703㈹ FAX03(3571)0264

大阪事務所TEL06(391)1081～2FAX 06(395)2109　名古屋出張所TEL052(811)3660

横浜営業所TEL045(320)4832　FAX045(320)4765　厚木出張所TEL0462(21)1761FAX0462(23)1341

埼玉営業所TEL048(774)2845　茨城出張所TEL0292(28)0878FAX0292(28)2614

新しい時代の、新しい扉をひらきたい。

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社

本　社　〒540 大阪市中央区南新町1－2－10(TSビル)

TEL(06)943－6571(代)

■東京/横浜/盛岡/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/大津/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市

［プロのノウハウ］

2色刷

経験に基づいて
施工現場管理の
ノウハウを結集

鉄筋工事・本音（ホンネ）の現場学

工事の約束事を示し，合理化を図り，
生産性向上へのチェックポイントを解説。

▶目次

1 鉄筋とコンクリート

2 鉄筋の約束事……概要／外力と応力のはなし／建築基準法・日本建築学会標準仕様書の鉄筋に関する定め

3 鉄筋工事の問題点……台直し／かぶり厚さ不足／鉄筋の材質／鉄筋の重なり，その他

4 鉄筋工事の管理ポイント……概要／材料の発注／施工図／施工要領書／コンクリートのひび割れと鉄筋／工事のチェックポイント

5 鉄筋工事の将来……鉄でない鉄筋／鉄筋の替わりに繊維を使う／錆びない鉄筋／鉄筋継手の多様化／鉄筋先組み／鉄筋の結束／鉄筋とPC／プレストレス／梁貫通補強

6 鉄筋工事の歴史

荒川治徳■著

四六判■208頁

定価■2266円

企画■日本建築協会

学芸出版社

〒600 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入

TEL075-343-0811　FAX075-343-0810

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59 電話 06(302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社

大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－3344－1851(大代)　大阪本社☎06－448－3603(代)
大阪支社 ☎06－448－5851(代)　名古屋支店 ☎052－211－1535(代)　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550 大阪市西区江戸堀１丁目９番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102 東京都千代田区富士見２丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号　電 06－466－2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町９－３　電0720－49－2128

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　大島　剛
取締役大阪支店長　琴浦　健

大阪支店　大阪市中央区北浜２－２－21　電話 06(202) 3071（代表）
本社・東京本店　東京都千代田区有楽町１－４－１　電話 03(3502)6111（大代）
支　　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・横浜・東関東・北関東・神戸・四国

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津６丁目８番４号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和設備
衛生設備設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町３番５号　電話（352）１１３１代
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町２－22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

OKUJU
スペース クリエイター

建築に革命をもたらした技術がある

「大規模天井無足場工法」

内外装創作パネル・システム天井・間仕切

株式会社 オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530
TEL(06)312-4131　FAX(06)312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・仙台・宮崎・京都

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市中央区城見２丁目１番61号ツイン21MIDタワー　電話 06-949-1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満３丁目13番20号　電話 06-363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡
営業所　札幌・茨城・大宮・千葉・山梨・静岡・福井・滋賀・和歌山・松江・長崎・沖縄
出張所　青森・秋田・盛岡・川崎・富山・岐阜・三重・鳥取・岡山・高松・下関・大分・熊本・宮崎・鹿児島

Digital Pri-Press

AOBA PRINTING CO.,LTD.

代表取締役社長 依藤孝行

青葉印刷株式会社

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-351-5428 Fax.06-351-5299

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町２丁目11番16号(オートセンタービル１・２階)
郵便番号542 電話 大阪（06）768－５０３１ 代表
メンテナンス部　電　話　大阪（０６）７６８－１６５１ 代表
東京支店　東京都文京区小石川１丁目12番14号（日本生命小石川ビル７階）
郵便番号112　電話（03）5689－２３５１ 代表

夢×技=∞ 無限大
何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術



電気・計装・空調・土木
K栗原工業株式会社
本社/〒530 大阪市北区角田町1-1(東阪急ビル)
TEL 06(313)1101
創業1919

Carrier 冷暖房は CARRIER キャリア
東洋キャリア工業㈱デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所 吹田市豊津町40番38号
電話 大阪 (384) 1201～7

電気工事設計施工
株式会社 三興社
代表取締役社長 上田正雄
本社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル5階)
電話 06(361)3671(代)
支店 東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電話 03(3666)1478(代)
営業所 堺・泉州・泉南・滋賀

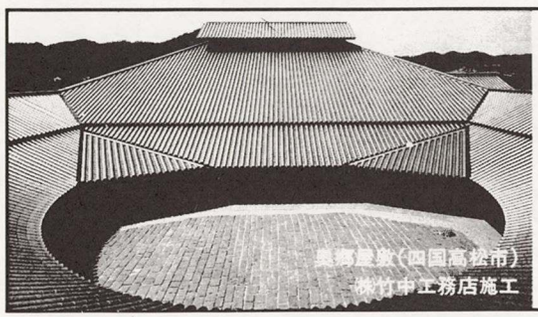
電気設備 ε 設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役 山本貴士
本社 〒530 大阪市北区中之島三丁目2－4(朝日ビル) 電話06(385)1361(代)
大阪営業所 〒564 吹田市垂水町3丁目34－6 電話06(385)1361(代)
京都営業所 〒615 京都市右京区西京極葛野町21 電話075(311)1185(代)
神戸営業所 〒650 神戸市中央区浪花町59(神戸朝日ビル) 電話078(333)7756(代)

人と都市の快適な環境をつくります
営業種目 設計・施工・監理
●電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
●空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
●プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
●情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
●電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電
あたと電力にあふれるクリエイティブカンパニーをめざす。
住友電設株式会社 大阪本社 〒550 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06) 537-3400
東京本社 〒105 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
常務取締役支社長 馬田栄
大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号 電話 大阪(202)0325～9番
本社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支社 北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・中部・九州

＊奉仕感謝の店
タイル及び規格石一式施工
株式会社 川岸窯業商店
本社 大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06－532－0461(代表)
FAX.06－535－5181
天理営業所 天理市丹波市新町49

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工
SANPO
三宝電機株式会社
取締役社長 嘉納秀一
本社 〒530 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル) TEL 06(364)1471・FAX 06(364)5533
東京支社 〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル) TEL.03(3504)0231・FAX 03(504)0268
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城3-12-14 TEL.052(991)5131・FAX052(914)7535
神戸支店 〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル) TEL.078(881)5571・FAX078(871)6261
堺研究所 〒590 大阪府堺市三宝町七丁369 TEL.0722(27)8408・FAX0722(27)1424



屋根屋葺(四国高松市)
株竹中工務店施工

〒556 大阪市浪速区塩草二丁目二番三号
ファックス 五六一～七四五四
五六一～七四一六
あらゆる屋根工事の相談は、
ナニワ瓦株式会社

学校建築のトータルアドバイザー
二葉工業株式会社
黒板・掲示板・家具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547 大阪市平野区加美北3－4－5
TEL.06(792)5858 FAX.06(792)2810

新鮮
情報処理／編集・企画／印刷・製本
ハード&ソフト…プリンティングの先端を拓きます。
ND
日本電植株式会社
〒530 大阪市北区天満2丁目5番15号 TEL.06(352)7502(代)
FAX.2F事務所 06(355)2714 3F制作 06(357)7250

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙 ●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－１
TEL(０７２９)３９－３６１０
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町２７４４
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
株式会社 エヌエムビー
株式会社 ポゾリス物産
本　社：東京都港区六本木３－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-202-3294

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)



デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充塡モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート軀体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

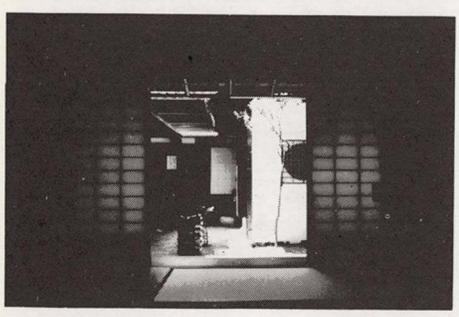
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（０７７２７）２－２２２０
舞鶴（０７７３）７６－０１３３

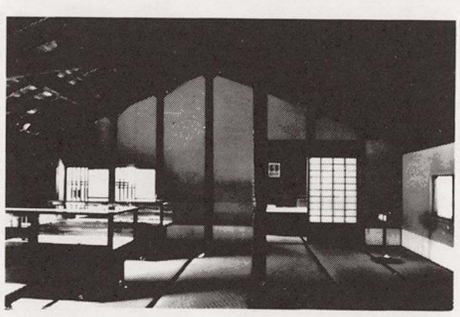
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（０６）３３２－６８６１
TEL 東京（０３）３２７２－８５０１

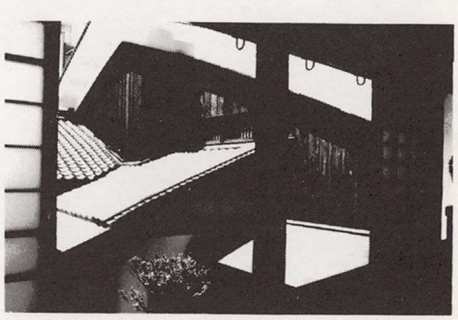
小浦産業株式会社
TEL 大阪（０６）４４３－６１８１

光洋物産株式会社
TEL 大阪（０６）２５２－６０００

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（０７７５）８３－２３８１
TEL 大阪（０６）８７７－１５８１





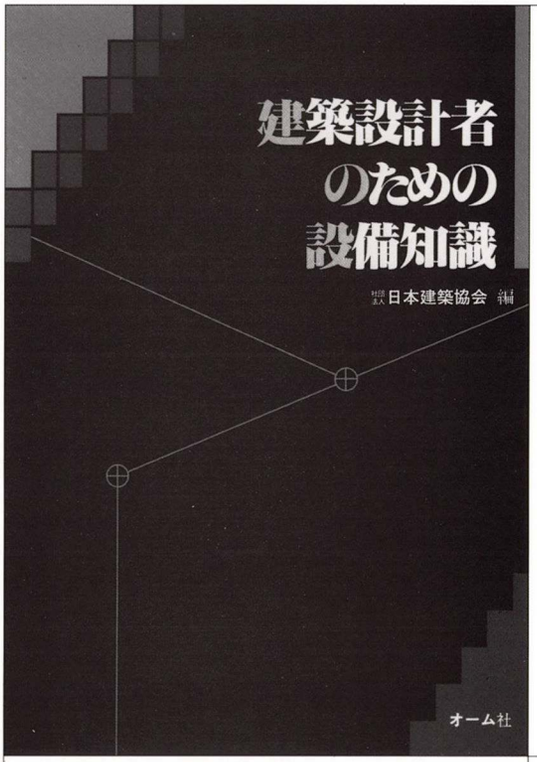


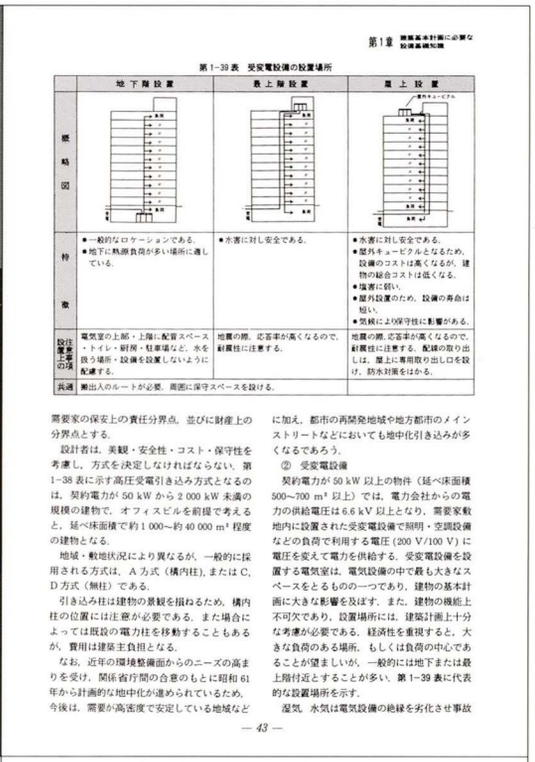
㈳日本建築協会編／オーム社発行

建築設計者のための設備知識

——増刷しました！——

B5判　220頁　上製本　定価5000円（本体4854円）'95・6月30日 第2刷刊行




第1章 建築基本計画に必要な設備基礎知識

第1-39表 受変電設備の設置場所

	地下階設置	最上階設置	屋上設置
概略図			屋外キュービクル
特徴	●一般的なロケーションである。 ●地下に熱源負荷が多い場所に適している。	●水害に対し安全である。	●水害に対し安全である。 ●屋外キュービクルとなるため、設備のコストは高くなるが、建物の総合コストは低くなる。 ●騒音に弱い。 ●屋外設置のため、設備の寿命は短い。 ●気候により保守性に影響がある。
設計上要注意の項	電気室の上部・上階に配置スペース・トイレ・厨房・駐車場など、水を扱う場所・設備を設置しないように配慮する。	地震の際、応答率が高くなるので、耐震性に注意する。	地震の際、応答率が高くなるので、耐震性に注意する。配線の取り出しは、屋上に専用取り出し口を設け、防水対策をはかる。
共通	搬出入のルートが必要。周囲に保守スペースを設ける。		

需要家の保安上の責任分界点、並びに財産上の分界点とする。

設計者は、美観・安全性・コスト・保守性を考慮し、方式を決定しなければならない。第1-38表に示す高圧受電引き込み方式となるのは、契約電力が50 kWから2 000 kW未満の規模の建物で、オフィスビルを前提で考えると、延べ床面積で約1 000～約40 000 m²程度の建物となる。

地域・敷地状況により異なるが、一般的に採用される方式は、A方式（構内柱）、またはC、D方式（無柱）である。

引き込み柱は建物の景観を損ねるため、構内柱の位置には注意が必要である。また場合によっては既設の電力柱を移動することもあるが、費用は建築主負担となる。

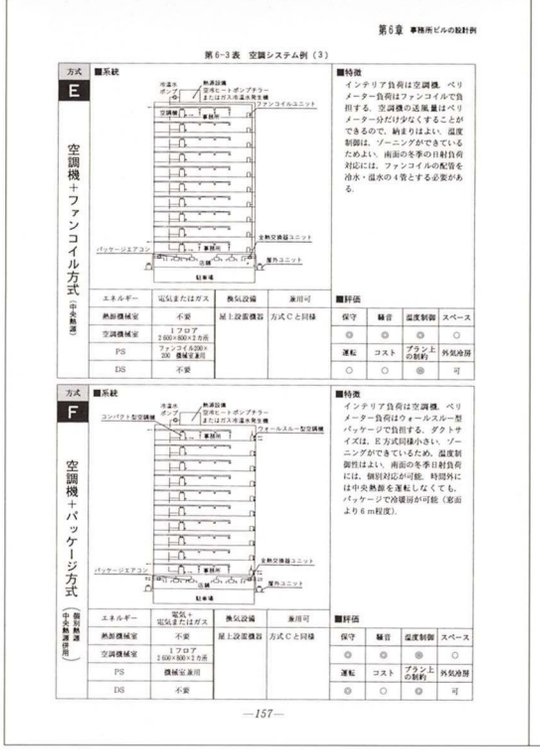
なお、近年の環境整備面からのニーズの高まりを受け、関係省庁間の合意のもとに昭和61年から計画的な地中化が進められているため、今後は、需要が高密度で安定している地域などに加え、都市の再開発地域や地方都市のメインストリートなどにおいても地中化引き込みが多くなるであろう。

② 受変電設備

契約電力が50 kW以上の物件（延べ床面積500～700 m²以上）では、電力会社からの電力の供給電圧は6.6 kV以上となり、需要家敷地内に設置された受変電設備で照明・空調設備などの負荷で利用する電圧（200 V/100 V）に電圧を変えて電力を供給する。受変電設備を設置する電気室は、電気設備の中で最も大きなスペースをとるものの一つであり、建物の基本計画に大きな影響を及ぼす。また、建物の機能上不可欠であり、設置場所には、建築計画上十分な考慮が必要である。経済性を重視すると、大きな負荷のある場所、もしくは負荷の中心であることが望ましいが、一般的には地下または最上階付近とすることが多い。第1-39表に代表的な設置場所を示す。

湿気、水気は電気設備の絶縁を劣化させ事故

— 43 —


第6章 事務所ビルの設計例

第6-3表 空調システム例（3）

方式	系統	特徴	エネルギー	電気またはガス	換気設備	兼用可	評価	保守	騒音	温度制御	スペース
E 空調機＋ファンコイル方式（中央熱源）		インテリア負荷は空調機、ペリメーター負荷はファンコイルで負担する。空調機の送風量はペリメーター分だけ少なくすることができるので、納まりがよい。温度制御は、ゾーニングができているためよい。南面の冬季の日射負荷対応には、ファンコイルの配管を冷水・温水の4管とする必要がある。	熱源機械室	不要	屋上設置機器	方式Cと同様		◎	◎	◎	○
			空調機械室	1フロア 2 000×800×2カ所			運転	コスト	プランとの制約	外気冷房
			PS	ファンコイル200×200 機械室兼用			○	○	◎	可
			DS	不要						
F 空調機＋パッケージ方式（個別熱源 中央熱源併用）		インテリア負荷は空調機、ペリメーター負荷はウォールスルー型パッケージで負担する。ダクトサイズは、E方式同様小さい。ゾーニングができているため、温度制御性はよい。南面の冬季日射負荷には、個別対応が可能。時間外には中央熱源を運転しなくても、パッケージで冷暖房が可能（窓面より6 m程度）。	熱源機械室	不要	屋上設置機器	方式Cと同様		◎	◎	◎	○
			空調機械室	1フロア 2 000×800×2.5カ所			運転	コスト	プランとの制約	外気冷房
			PS	機械室兼用			◎	○	◎	可
			DS	不要						

—157—

■目次

序　論　建築設計のための設備

第1章　建築基本計画に必要な設備基礎知識
給排水衛生設備／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／ごみ処理設備

第2章　事務所ビルの設備基礎知識
給排水衛生設備（＋ごみ処理）／空気調和設備／電気設備／昇降機設備

第3章　商業ビルの設備基礎知識
給排水衛生設備（＋ごみ処理）／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／貸方基準

第4章　集合住宅の設備基礎知識
給排水衛生設備（＋ごみ処理）／電気設備／昇降機設備／電気エネルギー設備／ガスエネルギー設備

第5章　意匠設計者による設備の打ち合わせ
現地調査／官庁打ち合わせ事項／建築主打ち合わせ事項／法規チェックリスト

第6章　事務所ビルの設計例
給排水衛生設備／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／モデルビル設備概要

第7章　商業ビルの設計例
給排水衛生設備／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／ごみ処理設備／モデルビル設備概要

第8章　建築と設備の接点
外壁，屋根／ドアガラリー／機械室／屋上，屋外／天井／DS，PS／EPS／フロアダクト／設備更新／騒音・振動の防止／住宅用メーターボックス／各種機器の納まり／配管スペース

本著書は、㈳日本建築協会機関誌「建築と社会」に3回にわたり特集した内容をベースに、環境問題にゆれる現在の社会状況を織り込み、最新の技術情報を盛り込むべく新たに書き起こしたもので、執筆には、東畑建築事務所、日建設計、安井建築設計事務所、大阪ガス、関西電力の設備設計者が当たり、編集委員会で推敲を重ねました。

第一線で活躍する設備設計者が、実務において、建築と設備のかかわりあう場で直面した問題を掘り起こしその解決を選択肢で示した本書は、意匠設計者のみならず、初歩の設備設計者にも好個の資料になるものと思います。

本書のお求めは、全国の書店で!!

㈳日本建築協会（〒530大阪市北区梅田1-1-3-2100TEL06-348-0635、FAX06-348-0634）では、割引価格（＋送料実費）で販売しますので、本会までご注文下さい。

おかげさまで 40周年 三和シャッター

地震は玄関ドアを直撃する。



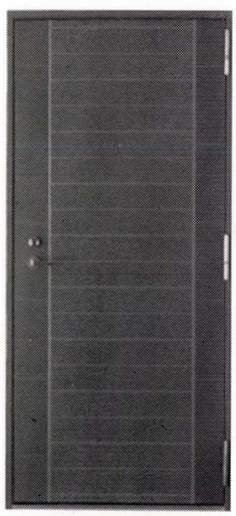
（突然おそう地震）

中高層集合住宅等では、地震は玄関ドア枠にゆがみを与えます。枠の変形や傾きが生じると、開閉に必要な扉とのクリアランスがなくなり、緊急時の迅速な避難に支障をきたします。建築基準法施行令第82条2項では、地震力によって各階に生ずる水平方向の層間変位の高さに対する割合が、間仕切りやドアなど非構造部材に関しては120分の1以内と規定されています。つまり、それだけの変異が生じても開閉のできることが、ドアにも要求されているのです。三和の耐震ドア「フレキード」は、地震に対する機能を備え、毎日の生活に安心をお届けします。

三和の耐震ドア

フレキード

鋼製軽量ドア・鋼製重量ドア



●詳しくはカタログをご参照ください。

三和シヤッター工業株式会社

本社 〒163-04 東京都新宿区西新宿2-1-1新宿ビル44階 ☎03(3346)3011(代表)
関西ビル建材事業部 〒532 大阪市淀川区宮原4-4-50 真和ビル8階 ☎06(396)6811(代表)

建築と社会 第77輯11号

社団法人 日本建築協会 〒530 大阪市北区梅田1の1の3の2100 電話大阪06(348)0635 FAX06(348)0634 振替口座 〇〇九一〇一九一三九九七五

定価1,200円（●本体1,165円●消費税35円●送料共） 正会員の購読料は会費に含めて徴収

雑誌 03379-11